

人文社会学科 人間論コース

| | | | | | |
|------|-------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 人間論入門 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | アラム、脇條、古莊、高木、林(文)、豊澤、柏木 | | | | |

授業の概要 この講義では、人間論コースの教員全員が交代で2回ずつ授業を担当します。それぞれの教員が専門とする学問分野が扱う実際の内容に接することが、人間論への最良の案内となると考えます。 / 検索キーワード 人間論、哲学、倫理学、宗教学、中国哲学、日本思想

授業の一般目標 人間論コースの各分野(哲学、倫理学、宗教学、中国哲学、日本思想)が扱うテーマとそれに対するアプローチの方法の概要を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 各分野の扱うテーマとそれに対するアプローチの方法の概要を理解する。 思考・判断の観点: 各分野にふさわしい思考、判断ができるようになる。

授業の計画(全体) 哲学(脇條)、倫理学(古莊)、宗教学(アラム)、中国哲学(高木、林)、日本思想(豊澤、柏木)の各教員がそれぞれ2回の授業担当の予定。各教員の専門分野から入門に適した内容を取りあげて講義を行う。

成績評価方法(総合) 各教員ごとにレポート(あるいは試験)を課し、合計点を100点に換算する。出席80%程度必要。

メッセージ 人間論ってどんな勉強をするんだろう、と思っている皆さんにより導入となる授業にしたいと思います。

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 哲学概論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 脇條靖弘 | | | | |

授業の概要 この講義では西洋哲学の基本問題のいくつかを取り上げ、それぞれの問題において一体何が問われているのか、それに対して哲学者たちがどのような答えをしてきたのかを学びます。 / 検索キーワード 哲学、必然的真理、科学、自由、心と身体、神

授業の一般目標 最終的には受講生が各自でそれぞれの問題に関心を持ち、それに解決を与えようと努力すること、つまり「哲学すること」に向けての基盤作りができればと考えています。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：西洋哲学の基本問題を理解する。 思考・判断の観点：哲学的な思考ができるようになる。

授業の計画（全体） 「必然的真理」、「科学的知識」、「因果と自由」、「心身問題」、「神の問題」などの基本的な哲学の問題を取り上げ、それに対する諸哲学者の試みを概観する。

成績評価方法（総合） 試験による。出席 80 % 程度必要。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 月曜 2:30-4:00

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋哲学史 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 脇條靖弘 | | | | |

授業の概要 西洋哲学の歴史を学習します。

授業の一般目標 西洋哲学の歴史について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：西洋哲学の歴史を知り、それについて理解する。

授業の計画（全体） 西洋哲学の歴史上の重要な哲学者を何人かとりあげ、その哲学者の思想を検討する。

成績評価方法（総合） 試験による。

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋哲学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 脇條靖弘 | | | | |

授業の概要 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を 探究する。 /
 検索キーワード 哲学

授業の一般目標 一つの哲学的問題について深く探究する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： とりあげた問題とその解決の試みを理解する。 思考・判断の観
 点： その問題について哲学的考察を加える。

授業の計画（全体） 内容は未定であるが、取り上げた問題について、掘り下げた哲学的考察を加える。

成績評価方法（総合） レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋哲学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 木下 昌巳 | | | | |

授業の概要 この授業では、古代ギリシアにおける哲学とレトリック（弁論術）の抗争をテーマとして、哲学の意義とその果たすべき役割について講義する。 / 検索キーワード 哲学、弁論術、レトリック、プラトン、ソフィスト、民主主義

授業の一般目標 1, 民主制におけるレトリックの役割を理解する。 2, レトリックの実例に触れる。 3, プラトンのレトリック批判の意味を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1, 民主制国家においてレトリックがどのような役割を果たしているかを理解する。 2, プラトンのレトリック批判の意図を理解する。 思考・判断の観点: 1, レトリックの実例に触れ、その問題点を読み取る。 2, 論理と言語との関係に関する理解を深める。

授業の計画(全体) 1, 民主制国家とレトリック 2, レトリックとソフィスト 3, ソクラテス裁判 4, プラトンのレトリック批判

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 古代アテナイの民主制
- 第 2 回 項目 民主制におけるレトリックの役割
- 第 3 回 項目 ソフィストと呼ばれる人々
- 第 4 回 項目 ソフィストとレトリック
- 第 5 回 項目 レトリックの実例 (1)
- 第 6 回 項目 レトリックの実例 (2)
- 第 7 回 項目 レトリックの実例 (3)
- 第 8 回 項目 ソクラテス裁判 (1)
- 第 9 回 項目 ソクラテス裁判 (2)
- 第 10 回 項目 ソクラテスとプラトン
- 第 11 回 項目 プラトンのレトリック批判 (1)
- 第 12 回 項目 プラトンのレトリック批判 (2)
- 第 13 回 項目 プラトンのレトリック批判 (3)
- 第 14 回 項目 プラトンのレトリック批判 (4)
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) 授業終了後のレポートによる。

教科書・参考書 教科書: 授業に必要な資料は、授業時にプリントで配布する。 / 参考書: 世界の名著 6 プラトン I, 田中美知太郎編, 中央公論新社, 1978 年; 世界の名著 7 プラトン II, 田中美知太郎編, 中央公論新社, 1978 年; ソクラテス以前哲学者断片集 第 III 分冊, 内山勝利編, 岩波書店, 1997 年

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋哲学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 脇條靖弘 | | | | |

授業の概要 この授業では、英語で書かれた現代の哲学の文献を読みます。 / 検索キーワード 哲学

授業の一般目標 英語圏の哲学の文献を読むのに慣れる。哲学用語やそれが表現する哲学に特有の概念を理解し、議論の展開を追うことができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 哲学用語や概念を理解する。 思考・判断の観点： 哲学的議論の展開を追うことができる。

授業の計画（全体） 何を取り上げるかは未定ですが、評価の高い基本的な論文を取り上げたいと思います。

成績評価方法（総合） レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋哲学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 脇條靖弘 | | | | |

授業の概要 この授業では、英語で書かれた現代の哲学の文献を読みます。 / 検索キーワード 哲学

授業の一般目標 英語圏の哲学の文献を読むのに慣れる。哲学用語やそれが表現する哲学に特有の概念を理解し、議論の展開を追うことができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 哲学用語や概念を理解する。 思考・判断の観点： 哲学的議論の展開を追うことができる。

授業の計画（全体） 何を取り上げるかは未定ですが、評価の高い基本的な論文を取り上げたいと思います。

成績評価方法（総合） レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋哲学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 脇條靖弘 | | | | |

授業の概要 プラトン、アリストテレスなど、古代ギリシア哲学の主要な文献を読みます。 / 検索キーワード 古代ギリシア哲学

授業の一般目標 古代ギリシアの哲学者の議論を綿密に追うことで、その思索の筋道を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 取り上げた哲学的議論を理解する。 思考・判断の観点： 取り上げた問題について哲学的考察を加える。

授業の計画（全体） 前期は、主に日本語訳をもちいて学生がテキストを分担してレジюмеを作成、発表した後、ディスカッションを行います。

成績評価方法（総合） 授業中の発表、あるいは、レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋哲学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 脇條靖弘 | | | | |

授業の概要 前期に取り上げた古代ギリシアのテキストに関連する二次文献を読む。 / 検索キーワード 古代ギリシア哲学

授業の一般目標 古代の文献に関して現在なされている哲学的議論を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：取り上げた二次文献の議論を理解する。 思考・判断の観点：取り上げた文献について哲学的考察を加える。

授業の計画（全体）各自が二次文献を一つ（ないし複数）担当し、要約を作成して授業中に発表する。

成績評価方法（総合）授業中の発表、あるいは、レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 倫理学概論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 古荘真敬 | | | | |

授業の概要 「善と悪」「正義」「幸福」「社会契約」「自由」等に関する西洋倫理思想史上の諸見解を批判的に検討しつつ、「倫理」をめぐる私たちの思考の隘路からの脱出口を探る。

授業の一般目標 「善悪」「幸福」「自由」をめぐる私たちの理解の根本前提をあらためて問いなおす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 西洋倫理思想史に関する基礎的知識を獲得する。 思考・判断の観点： 「倫理」の基礎に関する原理的な思考をみずから展開する。

授業の計画（全体） 教科書を批判的に読解していく。

成績評価方法（総合） 期末試験および授業内レポートで評価する。

教科書・参考書 教科書： 倫理とは何か 猫のインジヒトの挑戦, 永井 均, 産業図書, 2003 年

メッセージ 教科書の予習が必須です。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 毎週水曜日 12:50 ~ 14:20

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋倫理学史 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 古荘真敬 | | | | |

授業の概要 人間として生まれ、生き、死に逝く…とは、いったいどういうことなのだろうか。この単純な問いに応答するための手がかりを、西洋倫理学史上の諸学説のうちを探り、また、我々独自の視点から、それらの諸学説の批判的な解釈を試みる。

授業の一般目標 人間が「生きてある現実」をめぐる西洋倫理学史上で展開された問いの数々を吟味する。

授業の計画(全体) 「行為」「存在」「原因/理由」「自己と他者」「自由」「生と死」等々の基本的諸概念をめぐる西洋哲学・倫理思想史上の考察を、体系的に整理しつつ紹介しながら、人間が「生きてある現実」をめぐる我々自身の考察を練り上げる。

成績評価方法(総合) 期末レポートで評価する。

メッセージ 教科書は用いないが、授業中に指示する参考書を各自積極的に読解することが望ましい。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 倫理学原理論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 古荘真敬 | | | | |

授業の概要 人間として生まれ、生き、死に逝く…とは、いったいどういうことなのだろうか。幾人かの論者たちによる問題提起を検討しながら、私たちの「生/死」と「行為」をめぐる若干の原理的考察を試みたい。

授業の一般目標 「行為」という概念と「生/死」という観念のうちに映る、私たちが「生きてあること」の現実を、哲学的に掘り下げる。

授業の計画(全体) 「行為」という概念と「生/死」の観念をめぐる展開された幾つかの論考を紹介し、批判的に検討していく。

成績評価方法(総合) 期末レポートで評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は用いないが、授業中に指示する参考書を各自積極的に読解することが望ましい。/ 参考書：『無為の共同体』, J.-L. ナンシー, 以文社, 2001 年; 『ホモ・サケル』, G. アガンベン, 以文社, 2003 年; ニコマコス倫理学(上), アリストテレス, 岩波文庫, 1971 年; ニコマコス倫理学(下), アリストテレス, 岩波文庫, 1973 年; インテンション, G.E.M. アンスコム, 産業図書, 1984 年; 行為と出来事, デイヴィッドソン, 勁草書房, 1990 年; 開かれ, アガンベン, 平凡社, 2004 年; その他、適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 倫理学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 古荘真敬 | | | | |

授業の概要 ハンナ・アレント『人間の条件』の後半を読む。テキスト前半部についての知識は全く前提しない。初めてこのテキストに触れる学生でも、何の心配も要りません。

授業の一般目標 ハンナ・アレント『人間の条件』の精密な読解を通じて、人間存在の本質をめぐり考察を深める。

授業の計画(全体) 毎回、テキストの担当箇所(あるいは課題)についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。なお、昨年度の授業で読了したテキスト前半部の内容については、初回および第2回目の授業時に詳細に解説し、初めてこのテキストに触れる学生も、何らの遠慮も心配もなく参加できるよう配慮する。

成績評価方法(総合) 授業内での発表報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書：人間の条件, H. アーレント, ちくま学芸文庫, 1994 年

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 倫理学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 古荘真敬 | | | | |

授業の概要 前期に引き続き、ハンナ・アレント『人間の条件』の後半を読む。後期のこの授業からの参加も歓迎します。

授業の一般目標 ハンナ・アレント『人間の条件』の精密な読解を通じて、人間存在の本質をめぐる考察を深める。

授業の計画(全体) 毎回、テキストの担当箇所(あるいは課題)についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。なお、前期の授業で読了したテキストの内容については、初回の授業時に詳細に解説し、初めてこのテキストに触れる学生も、何らの遠慮も心配もなく参加できるよう配慮する。

成績評価方法(総合) 授業内での発表報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書：人間の条件, H. アーレント, ちくま学芸文庫, 1994 年

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋倫理学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 古荘真敬 | | | | |

授業の概要 ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』の後半を読む。テキスト前半部についての知識は全く前提しない。初めてこのテキストに触れる学生でも、何の心配も要りません。

授業の一般目標 「時間」と「自由」についての哲学的考察を深める。

授業の計画(全体) 毎回、レポーターを決め、テキストの担当箇所(あるいは課題)についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。なお、昨年度の授業で読了したテキスト前半部の内容については、初回および第2回目の授業時に詳細に解説し、初めてこのテキストに触れる学生も、何らの遠慮も心配もなく参加できるよう配慮する。

成績評価方法(総合) 授業内での発表報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書：『意識に直接与えられたものについての試論』, ベルクソン, ちくま学芸文庫, 2002年; 原書(フランス語)のコピーを適宜配布する。

メッセージ 教科書の予習が必須です。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋倫理学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 古荘真敬 | | | | |

授業の概要 前期に引き続き、ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』の後半を読む。後期のこの授業からの参加も歓迎します。

授業の一般目標 「時間」と「自由」についての哲学的考察を深める。

授業の計画(全体) 毎回、レポーターを決め、テキストの担当箇所(あるいは課題)についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。なお、前期の授業で読了したテキストの内容については、初回の授業時に詳細に解説し、初めてこのテキストに触れる学生も参加できるよう配慮する。

成績評価方法(総合) 授業内での発表報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書: 『意識に直接与えられたものについての試論』, ベルクソン, ちくま学芸文庫, 2002年; 原書(フランス語)のコピーを適宜配布する。

メッセージ 教科書の予習が必須です。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国哲学史 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 高木 智見 | | | | |

授業の概要 まず古代中国を学ぶ目的や意義を明示し、さらに中国の新石器時代から漢代にかけての 歴史・文化を、最新の出土資料ならびに伝来文献を用いて概観したうえで、諸子百家の 思想を理解することにつとめる。中国の学問は、哲学、歴史、文学というように明確に 区分できず、全てが渾然一体となっている。この授業では、将来どの専門に進む場合にも必要な中国文化の本質に関する基本的知識を提供する。 / 検索キーワード 古代中国、考古学、神話学、甲骨文、金文、木簡、四書五経、諸子百家

授業の一般目標 中国文化が形成された先秦時代の各段階、すなわち原始村落（新石器時代）、邑制国家（夏殷周）、領域国家（春秋戦国）、統一帝国（秦漢以降）について明確なイメージを描き出し、中国古代の思想や文化を歴史的文脈に即して理解できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国古代について全般的な知識を獲得する。漢文や中国語の原初の段階にさかのぼって、それらに慣れ親しむ、思考・判断の観点：中国古代の理解を例として、他者理解の前提は、自己の価値観から自由になるということであるという異文化理解の観点を学ぶ 関心・意欲の観点：いま盛んに持て囃されているのは、アメリカと現代であるが、中国、古代という対極にある世界にも、豊かで、深く、すばらしい文化が有ったことを感じ取り、人間の文化・社会全体に対する見方を広げる。

授業の計画（全体）新石器時代に関しては神話ならびに考古学、夏殷周については甲骨金文、春秋戦国については木竹簡、秦漢以降については帛書といった新出土史料を詳しく解説して時代状況を明らかにしたうえで、経書や諸子などの文献史料の内容を解釈・説明する。

成績評価方法（総合）基本的にレポートによる。講義の内容を咀嚼したうえで、論理力および構想力により、どれほど自らの意見を表現し得ているかによって評価する。

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：先秦の社会と思想, 高木智見, 創文社, 2001 年；中国考古の重要発見, 高木智見訳, 日本エディタースクール, 2003 年；伝統中国の歴史人類学, 高木智見訳, 知泉書館, 2005 年；講義の中で指示

メッセージ 原史料に直接触れて、古代中国の世界を身近に感じられる講義を目指す。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 5 階 火曜日 16 時から 17 時

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国哲学史 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 林 文孝 | | | | |

授業の概要 中国伝統思想を構成するものとして儒教・道教・仏教・民間信仰という四つの枠組みを提起し、その相互関係において思想史を概観する。

授業の一般目標 1. 儒教・道教・仏教・民間信仰について、それぞれの内容上の特徴と共通性について理解する。2. 中国伝統思想の歴史的区分とそれぞれの時代の特徴を理解する。3. 異文化の思想伝統に触れることをつうじて、人間にとって知的営為が持ちうる意味と可能性を考える姿勢を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 儒教・道教・仏教・民間信仰の内容上の特徴を説明できる。 2. 中国思想史の通説的時期区分とそれぞれの時期の特徴を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 中国伝統思想における各種の教説について、相互の対立点と共通性を歴史に即して指摘できる。 2. 異文化の思想をつうじて、自分の思考の暗黙の前提を自覚し、相対化できる。 関心・意欲の観点： 1. 異文化の思想伝統に関心をもつ。

授業の計画(全体) 儒教・道教・仏教・民間信仰という枠組みごとにそれぞれの内容を概説した後、漢代以後の歴史的展開について概観する。知識・理解の確認と出席確認を兼ねた授業内レポートを課する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方、序論
- 第 2 回 項目 儒教(1)
- 第 3 回 項目 儒教(2)
- 第 4 回 項目 道教(1)
- 第 5 回 項目 道教(2)
- 第 6 回 項目 仏教(1)
- 第 7 回 項目 仏教(2)
- 第 8 回 項目 民間信仰、共通するモチーフ
- 第 9 回 項目 中世の思想状況(1)
- 第 10 回 項目 中世の思想状況(2)
- 第 11 回 項目 近世の思想状況(1)
- 第 12 回 項目 近世の思想状況(2)
- 第 13 回 項目 近代における伝統思想
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 1. 復習のため授業内レポートを実施し、計 30% で評価する。2. 期末試験を行い、70% で評価する。3. 欠席回数が 5 回以上の者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：なし。適宜コピーを配付する。 / 参考書：中国の宗教, ジョセフ・A・アドラー, 春秋社, 2005 年; 中国思想史(下), 森三樹三郎, 第三文明社, 1978 年; 中国思想を学ぶ人のために, 森三樹三郎編, 世界思想社, 1985 年; その他は授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 5 階 オフィスアワー火曜日 12:00 ~ 13:30

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国思想史論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 高木智見 | | | | |

授業の概要 先秦時代の様々な個別の事象を、大きな歴史的背景の中に位置づけて理解する。言うまでもなく、先秦時代は、時代・地域・民族という三重の意味で異文化世界に属する。そのような世界の人々の行動や言説を理解するには、一旦、現代人としての価値観を棚上げにして、当時の人々の論理に即して理解する必要がある。本講義は、このような意味において、異文化理解の一つの試みである。本年度は、前年に引き続き、当時の祭祀、戦争などの具体的な状況を明らかにすることにより、国家ならびに支配者と民衆の関係を、その親和的側面に着目して考察する予定である。この講義は、私の日々の研究の内容をそのまま提示して、研究論文の作成の一例としても見てもらいたい。/ 検索キーワード 古代中国、国家共同体、君主、民衆、

授業の一般目標 講義を通じて、つまり史料の解説を通じて、先秦時代というはるか彼方の世界の人々が作りあげていた社会に入り込み、実際に体験して、再び現代世界に戻ってくるといった実感を持つことが出来るようにしたい。先秦時代は、中国文化の「核心」が形成された時期であり、この時代に対する十全な理解がなければ、真の意味での中国理解はできない、というのが私の考えである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 左伝や国語などの伝来文献、金文や木竹簡などの出土文献を日常的に読むことによって、史料から何をどのように汲み取るのかということを理解する。 思考・判断の観点： 構想に基づき史料を読み込み、立論していく過程を示し、研究論文作成に必要な一連の事柄を理解する。 関心・意欲の観点： 思想史学、歴史学、文学、考古学のいずれの分野であろうと、古代中国の様々な事象に対して、興味を感じることができるようになる。

授業の計画（全体） 当時の人々の観念の中における社会のイメージを明らかにし、特に君主の役割、民衆との関係などに焦点を当てて、中国における国家共同体の原初的なあり方について考える。この問題についても、春秋時代以前と戦国時代以降において、その性格や様相が全く異なっていたことを確認することになると思われる。今年度は、とくに中国の研究者 晁福林氏の研究を意識して授業を進める。

成績評価方法（総合） レポートにおけるテーマの選択、構想力、論理力などを見て、総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書： 特になし / 参考書： 先秦の社会と思想, 高木智見, 創文社, 2001 年 ; 授業の中で指示する

メッセージ 何を語っているのかではなく、史料をどのように読み、そこから何を語ろうとしているのか、その過程を見ていただきたい。

連絡先・オフィスアワー 人文5階 火曜日16時から17時

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国思想史論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 高木智見 | | | | |

授業の概要 前期に同じ / 検索キーワード 前期に同じ

授業の一般目標 前期に同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：前期に同じ 関心・意欲の観点：前期に同じ

授業の計画（全体） 前期に同じ

成績評価方法（総合） 前期に同じ

教科書・参考書 教科書：前期に同じ / 参考書：前期に同じ

メッセージ 前期に同じ

連絡先・オフィスアワー 前期に同じ

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国思想史論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 齋木 哲郎 | | | | |

授業の概要 先秦から漢代にかけての思想展開の状況を儒家・道家・司馬遷と司馬遷以前の歴史意識に即して講ずる一般的領域と、唐・宋新春秋学の展開を講ずる特殊領域からなる。一般的領域では、孔子・孟子・荀子の儒家思想、老子・荘子の道家思想、司馬遷と『史記』等が取り扱われ、特殊領域ではタン助・趙匡・陸淳等の新春秋学の状況とその展開が、扱われる。

授業の一般目標 中国思想の基本的な事項に関わる知識の点検とその拡充、及び唐代の新春秋学がその後の社会にもたらしている影響の発見とその状況の確認、そこに見出される新知見の獲得をめざす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国思想史に生起する様々な思想やその概念を把握して、それらがいかに現実と相即した概念であったか、またそれらが中国人のエートスの形成にどのように作用したか、を理解できる。 思考・判断の観点：中国人にとっては緊密な概念であっても、それが漢字に表されると、それが無機質な印象に止まってしまうのが、中国思想の表面的な特質なのかもしれない。漢字の一つ一つが思想の全体を形成する上で緊密に関わって固有の概念をきづき上げている様を理解できる。 関心・意欲の観点：中国の思想に関し、学生が問題を発見し、それを調査し、提示して、自己の解決法や新しい説明ができるようになる。

授業の計画（全体） 授業の概要にも述べたように、先秦から漢代に至る思想展開の一般的領域と唐・宋新春秋学に関する特殊領域からなる。先秦から漢代に至る思想の展開では、通説的な内容に止まらず今日の研究成果に関しても十分に反映させたい（通説的な内容に関しては、森三樹三郎氏の『中国思想史（上・下）』によるところが多い）。また、唐・宋新春秋学の展開に関する特殊領域では、資料を読みながらそれが及ぼしている影響を、状況ごとに確認してゆく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入 天の思想と中国人の倫理観
- 第 2 回 項目 孔子の思想 - 仁
- 第 3 回 項目 孟子の思想 - 民本思想と四端説
- 第 4 回 項目 荀子の思想 - 儒教の法思想化
- 第 5 回 項目 老子の道
- 第 6 回 項目 荘子の万物斉同の思想
- 第 7 回 項目 司馬遷以前の歴史観
- 第 8 回 項目 司馬遷と『史記』
- 第 9 回 項目 タン助・趙匡・陸淳の新春秋学 (1)
- 第 10 回 項目 タン助・趙匡・陸淳の新春秋学 (2)
- 第 11 回 項目 陸淳と呂温
- 第 12 回 項目 永貞革新と新春秋学
- 第 13 回 項目 孫復の春秋学
- 第 14 回 項目 程伊川の春秋学
- 第 15 回 項目 欧陽脩と『新五代史』

成績評価方法（総合） レポート 80 %、授業態度 10 %、出席 10 %

教科書・参考書 教科書： 毎回プリントを配布する。 / 参考書： 中国思想史（上・下）、森三樹三郎、第三文明社レグルス文庫、1978 年； 秦漢儒教の研究、齋木哲郎、汲古書院、2003 年

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|--------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 儒・仏・道三教比較交渉論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 林文孝 | | | | |

授業の概要 儒・仏・道三教の優劣を論じた代表的なテキストを選読しながら、異なる思想どうしがいかなる論理によって相互に排除し、あるいは融合するのかを考察する。

授業の一般目標 1. 中国思想の問題を考えるに際して儒・仏・道三教のにわたる基礎知識と広い視野を獲得する。 2. さまざまな問題をめぐる思想間の異同をふまえて、問題の多面的な考察ができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 儒・仏・道三教あるいはそれらを捉える理論的枠組みについて、論題に必要な限りでの基礎的事項を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 特定の問題をめぐる思想間の異同を、自分なりの観点から指摘できる。 2. 思想間の異同をふまえながら、自分なりの批判的考察を行うことができる。 関心・意欲の観点： 1. 一つの問題をめぐる多様な考え方の存在に関心をもつ。

授業の計画（全体） 概要に掲げたテーマに従って、重要な原典資料を読解しながら進行する。

成績評価方法（総合） 期末レポート 80 %、質疑応答・討論への参加 20 %。

教科書・参考書 教科書： なし。資料を適宜配布する。 / 参考書： 適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 5 階

| | | | | | |
|------|--------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 儒・仏・道三教比較交渉論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 林文孝 | | | | |

授業の概要 儒・仏・道三教の優劣を論じた代表的なテキストを選読しながら、異なる思想どうしがいかなる論理によって相互に排除し、あるいは融合するのかを考察する。

授業の一般目標 1. 中国思想の問題を考えるに際して儒・仏・道三教のにわたる基礎知識と広い視野を獲得する。 2. さまざまな問題をめぐる思想間の異同をふまえて、問題の多面的な考察ができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 儒・仏・道三教あるいはそれらを捉える理論的枠組みについて、論題に必要な限りでの基礎的事項を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 特定の問題をめぐる思想間の異同を、自分なりの観点から指摘できる。 2. 思想間の異同をふまえながら、自分なりの批判的考察を行うことができる。 関心・意欲の観点： 1. 一つの問題をめぐる多様な考え方の存在に関心をもつ。

授業の計画（全体） 概要に掲げたテーマに従って、重要な原典資料を読解しながら進行する。

成績評価方法（総合） 期末レポート 80 %、質疑応答・討論への参加 20 %。

教科書・参考書 教科書： なし。資料を適宜配布する。 / 参考書： 適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 5 階

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国思想史料講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 高木智見 | | | | |

授業の概要 司馬遷の史記を精読する。昨年に引き続き、仲尼弟子列伝を読む。テキストは瀧川亀太郎の史記会注考証を使用し、当然のことながら、史記集解、史記索隱、史記正義、さらに考証の見解と論理をその引用書物にわたって詳しく検討する。中国古来のいわゆる注疏の学を、史部の書の読解を通じて学ぶ。 / 検索キーワード 史記、孔子の弟子 春秋時代 歴史、思想 人物

授業の一般目標 自分の力で古代中国の資料を読み進める様々な能力ならびに意欲を獲得する。一見難しい漢文史料には、歴代学者達の真理の追求に対するすざましいエネルギーが、充ち満ちている。それを感じ取ることも重要な目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 古代中国語の文法、語彙の理解の方法、調べ方など古典理解の一般的方法を身に付けて、他の分野や時代の書物に臨んでも、自分なりの対処が出来るような力を獲得したい。 思考・判断の観点： 一つの文字や単語の理解の仕方如何で、全文の解釈が変わってしまうといった古代中国語理解の困難さを面白いと感じられるような思考力を養う。 関心・意欲の観点： いわゆる漢文史料を見ても、調べれば理解できるという自信をつける

授業の計画(全体) 史記の原文、歴代の注釈を順に読み進めていく。史記の原史料とかつての日本人が行った訓読読みの資料を配布して、毎週、議論しながら少しずつ読み進めていく。進度は、原史料に応じて、また学生の能力に応じて、当然一定ではない。一字の解釈で2時間使うことも考えられる。

成績評価方法(総合) 日常的な授業への取り組み姿勢、ならびにレポートによって、古代世界を理解しようとする積極性を基準にする

教科書・参考書 教科書： テキストはプリントを配布します / 参考書： 授業の中で指示

メッセージ 古典は、帰納的な意味解釈を重ねていけば、誰でも理解できます。難しくはありません。要するに、自分の頭で自分の読み方をすれば良いのであって、やる気と根性のみが問題です。

連絡先・オフィスアワー 人文学部5階510研究室 火曜15時から16時

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国思想史料講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 高木智見 | | | | |

授業の概要 前期に同じ / 検索キーワード 前期に同じ

授業の一般目標 前期に同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：前期に同じ 関心・意欲の観点：前期に同じ

授業の計画（全体） 前期に同じ

成績評価方法（総合） 前期に同じ

教科書・参考書 教科書：前期に同じ / 参考書：前期に同じ

メッセージ 前期に同じ

連絡先・オフィスアワー 人文学部5階510研究室 火曜日15時から16時

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国思想史料講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 林文孝 | | | | |

授業の概要 中国の代表的もしくは特色ある思想文献を読解し、その内容を理解するとともに、解説・研究の文献をも参照することで理解を深めていく。 前年度に引き続き黄宗羲『明文授読』所収の議論文を読む予定。

授業の一般目標 1. 高校漢文もしくは初級中国語の知識を前提に、構文の把握、語義の調査などをつうじて中国語史料を現代日本語に訳出するための基礎力を養う。 2. 原典とその著者の思想について、解説・研究の文献を検討することで理解を深め、かつ批判的考察の端緒を得る。 3. 原典読解、文献検索、報告やレポート作成などの各段階で必要な、パソコンや目録・索引類といった工具書の利用法を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 中国の思想文献の読解に必要な語学的知識を身につける。 2. 読解対象の文献と著者について基本的事項を理解できる。 3. 文献史料に語られた思想内容を理解できる。 4. 辞書、目録、索引などの工具書の使い方を理解できる。 思考・判断の観点： 1. 史料に語られた思想内容について、自分なりの視角から批判的に吟味できる。 関心・意欲の観点： 1. 異文化の発想法、思考法に関心をもつ。 態度の観点： 1. 読解作業にまじめに取り組むことができる。 技能・表現の観点： 1. 語学知識や文脈の把握をつうじて古代漢語の文章を読解できる。 2. 読解の結果を現代日本語の文章に定着させることができる。 3. 工具書を活用できる。

授業の計画（全体） 第1回で参加者の顔合わせ、使用するテキストの説明、進め方の説明、当面の分担の割り当てなどを行う。第2回から講読を進めていく。

成績評価方法（総合） 発表 40 %、授業への参加度 20 %、授業外レポート 40 %。

教科書・参考書 教科書：コピーを配布する。 / 参考書：適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 5 階

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国思想史料講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 林文孝 | | | | |

授業の概要 中国の代表的もしくは特色ある思想文献を読解し、その内容を理解するとともに、解説・研究の文献をも参照することで理解を深めていく。 黄宗羲『明文授読』所収の議論文を中心に読む予定。

授業の一般目標 1. 高校漢文もしくは初級中国語の知識を前提に、構文の把握、語義の調査などをつうじて中国語史料を現代日本語に訳出するための基礎力を養う。 2. 原典とその著者の思想について、解説・研究の文献を検討することで理解を深め、かつ批判的考察の端緒を得る。 3. 原典読解、文献検索、報告やレポート作成などの各段階で必要な、パソコンや目録・索引類といった工具書の利用法を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 中国の思想文献の読解に必要な語学的知識を身につける。 2. 読解対象の文献と著者について基本的事項を理解できる。 3. 文献史料に語られた思想内容を理解できる。 4. 辞書、目録、索引などの工具書の使い方を理解できる。 思考・判断の観点： 1. 史料に語られた思想内容について、自分なりの視角から批判的に吟味できる。 関心・意欲の観点： 1. 異文化の発想法、思考法に関心をもつ。 態度の観点： 1. 読解作業にまじめに取り組むことができる。 技能・表現の観点： 1. 語学知識や文脈の把握をつうじて古代漢語の文章を読解できる。 2. 読解の結果を現代日本語の文章に定着させることができる。 3. 工具書を活用できる。

授業の計画（全体） 第1回で参加者の顔合わせ、使用するテキストの説明、進め方の説明、当面の分担の割り当てなどを行う。第2回から講読を進めていく。

成績評価方法（総合） 発表 40 %、授業への参加度 20 %、授業外レポート 40 %。

教科書・参考書 教科書：コピーを配布する。 / 参考書：適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 5 階

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国思想演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 高木智見 | | | | |

授業の概要 中国語によって書かれた論文を読み進め、中国語の語学的能力を向上させるとともに、引用されている古代漢文をも丁寧に読み、その読解能力をも養う。 / 検索キーワード 中国語、思想、身体、気功

授業の一般目標 中国語の論文に対する抵抗感を少なくする。ある程度難しい論文でも、最後まで読み切る能力と意欲を作り出す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代中国語の文法、語彙の理解の方法、調べ方などに加えて、古代漢語理解の一般的方法を身に付けて、他の分野や時代の書物に臨んでも、自分なりの対処が出来るような力を獲得する 思考・判断の観点：中国語の文章の論理展開に慣れ、自分で読みとることが可能になるようにする。 関心・意欲の観点：中国語の文章や漢文史料を見ても、調べれば理解できるという自信をつける

授業の計画（全体） 中国語の論文を順に読み進めていく。資料を配布して、毎週、議論しながら、なるべく多くの文章を丁寧に読み進めていく。ただし進度は、文章に応じて、また学生の能力に応じて、当然一定ではない。

成績評価方法（総合） 日常的な授業への取り組み姿勢、ならびにレポートによって、受講生の学問に対する積極性を判断して、評価する

教科書・参考書 教科書：プリント配布

メッセージ 読む文章は、受講生と話し合っ決めてつもりですが、第一候補は気功・養生法に関する文章を考えています。

連絡先・オフィスアワー 人文5階 高木研究室 火曜日15時から16時

| | | | | | |
|------|---------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 中国思想演習(3・4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 高木智見 | | | | |

授業の概要 中国哲学の論文作成を目指す学生が、具体的なテーマの決定、先行研究の有無の確認ならびに検索方法、関連史・資料の収集、論文の構想ならびに論理構成などについて、それぞれの段階において報告し、参加者全員で討論しつつ授業を進めていく。/検索キーワード 卒論、資料収集、構想、討論

授業の一般目標 与えられたものを型どおりに消化する姿勢ではなく、各自が何を知りたいのか自分自身に問いかけ、求める物を明確にした上で、自らの力でそれを追求するという積極的な姿勢が望まれる。卒論の完成度は、この授業への取り組み方によって大きく異なるはずである。3年生は、先輩の論文作成作業の進め方を間近で観察し、様々な教訓を得て、実際の作成作業に生かす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らのテーマを確定することが出来る。史料状況を明確に把握する。過去の研究の蓄積を把握、消化する。 思考・判断の観点：自分の考えを明確にして、論理的に文章表現できるようにする。 関心・意欲の観点：自らが問題を発見し、自らの力で解決していく積極的な姿勢をもてるようにする。

授業の計画(全体) 学生諸君の様々な条件により、授業の進め方は様々に変わってくる。しかし、5月中には、テーマを具体化して、論文の骨組みを作り、夏休みにそれについて各自が研究する。10月には論文の構想を明確化して、それ以降、軌道修正などを行い、12月半ばで9割の完成度を目指す。

成績評価方法(総合) 日常的な授業における姿勢、ならびにレポートの完成度により、判断する。

教科書・参考書 教科書：特になし / 参考書：授業の中で指示

メッセージ 研究は、積極性とねばり強さだけでほとんどが決まる。

連絡先・オフィスアワー 5階 火曜日15時から16時

| | | | | | |
|------|---------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 中国思想演習(3・4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 高木智見 | | | | |

授業の概要 前期と同じ / 検索キーワード 前期と同じ

授業の一般目標 前期と同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期と同じ 思考・判断の観点：前期と同じ 関心・意欲の観点：前期と同じ

授業の計画(全体) 前期と同じ

成績評価方法(総合) 前期と同じ

教科書・参考書 教科書：特になし / 参考書：授業中に指示

メッセージ 前期と同じ

連絡先・オフィスアワー 5階 火曜日15時から16時

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国思想演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 林文孝 | | | | |

授業の概要 現代中国語で書かれた中国思想関係の入門書や論文から、比較的平易なものを選んで読んでいく。余力があれば、そのテーマに関連してどのようなことが研究されており、どのようなことが問題となるのかについて発表と討論を行う。

授業の一般目標 1. 論文調の現代中国語の読解力をつける。 2. 多様な論文テーマに触れることにより、自らの研究テーマ選択へのヒントを得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・現代中国語の中でも論文で頻用される表現を理解する。 思考・判断の観点： ・テキストの内容について、自分なりの観点から吟味できる。 関心・意欲の観点： ・多様な研究テーマに関心をもつ。 ・自分なりの問題意識に即して先行研究を探索する意欲をもつ。 態度の観点： ・発表や討議に積極的に参加できる。 技能・表現の観点： ・論文調の現代中国語について、日本語の訳文を作成できる。

授業の計画（全体） 第1回に進め方の説明、当面使用するテキストの配付と担当の割り当てなど、導入を行い、翌週から演習に入る。

成績評価方法（総合） 発表 40 %、授業への参加度 20 %、授業外レポート 40 %。

教科書・参考書 教科書： 担当教員が用意し、プリントを配付する。受講者が自分で見つけてもよい。 / 参考書： なし

| | | | | | |
|------|---------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 中国思想演習(3・4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 林文孝 | | | | |

授業の概要 中国哲学をテーマとして卒業論文を書こうとする学生のための卒論演習である。受講者は、テーマ決定、論文検索、資料収集、構想、論理構成などの各段階において報告し、それについて参加者全員で討論する。

授業の一般目標 ・4年生：卒業論文題目を確定し、初歩的な構想を立てる。 ・3年生：4年生の報告に触れ、討論に参加することを通じて、自らの問題意識を明確化する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・自分の研究テーマについて必要な事項を調査・理解できる。 思考・判断の観点： ・自分の研究テーマを適切に意味づけることができる。 ・テーマにふさわしい構想を立てることができる。 関心・意欲の観点： ・自分の問題意識を洗練し、問いとして定式化できる。 ・他の参加者のテーマにも広く興味をもつ。 態度の観点： ・口頭発表や討議に積極的に参加できる。 技能・表現の観点： ・口頭報告、レポートにおいて適切な表現ができる。

授業の計画(全体) 第1回で顔合わせを行う。参加者がそれぞれの問題関心を簡潔に述べた後、発表予定などを決める。第2回以降、演習に入る。

成績評価方法(総合) 発表、参加度、授業外レポートを総合評価する。観点別割合は目安である。

教科書・参考書 教科書：なし。 / 参考書：なし。

| | | | | | |
|------|---------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 中国思想演習(3・4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 林文孝 | | | | |

授業の概要 中国哲学をテーマとして卒業論文を書こうとする学生のための卒論演習である。受講者は、テーマ決定、論文検索、資料収集、構想、論理構成などの各段階において報告し、それについて参加者全員で討論する。

授業の一般目標 ・4年生：卒論執筆過程の各段階で問題点を克服しながら論文を完成させる。執筆後においては自らの到達点と不十分だった点を明確に把握する。 ・3年生：論文執筆過程での必要事項を認識する。自らの問題に関連した資料収集などを進め、おおよそのテーマを決定する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・自分の研究テーマについて必要な事項を調査・理解できる。 思考・判断の観点： ・自分の研究テーマを適切に意味づけることができる。 ・テーマにふさわしい構想を立てることができる。 関心・意欲の観点： ・自分の問題意識を洗練し、問いとして定式化できる。 ・他の参加者のテーマにも広く興味をもつ。 態度の観点： ・口頭発表や討議に積極的に参加できる。 技能・表現の観点： ・口頭報告、レポートにおいて適切な表現ができる。

授業の計画(全体) 第1回で、それぞれの卒業論文に関する進捗状況を報告した後、発表予定を決める。第2回以降、演習に入る。

成績評価方法(総合) 発表、参加度、授業外レポートを総合評価する。観点別割合は目安である。

教科書・参考書 教科書：なし。 / 参考書：なし。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本倫理思想史 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 柏木寧子 | | | | |

授業の概要 - 古代・中世日本仏教思想史 - 古代・中世日本の仏教思想史を概観します。昨年度は神道思想入門を試み、そのなかで神仏習合についてもごく簡単に触れました。今年度はより詳しく仏教伝来・土着・成熟の諸相を追います。伝来以前に関する基礎知識も補いながら、仏をめぐる思索・実践の展開を見、仏教の浸透が人々にもたらした効果を考えます。 / 検索キーワード 日本仏教史

授業の一般目標 仏教史の流れに即して、古代・中世日本倫理思想の一端に触れること。

授業の計画(全体) 基本的にテキストの叙述に沿って進みます。受講者には、あらかじめテキストの該当箇所に目を通して授業に臨むこと、授業の終わりに小レポートを書いて提出することが課せられます。なお、毎回の授業内容については初回授業時に予定をお知らせします。

成績評価方法(総合) (1) 授業内の小レポート(論理的な思考と文章表現、および自発的に問いを見出し追求する姿勢を求めます)。(2) 期末試験(基本的なことがらについての知識と理解を求めます)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。

教科書・参考書 教科書: 『日本倫理思想史』, 佐藤正英, 東京大学出版会, 2003年; 文栄堂にて販売。定価 2,730 円。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本倫理思想史 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 豊澤 一 | | | | |

授業の概要 近世の倫理思想 近世日本の倫理思想の諸相を概観します。指定教科書にしたがって、「儒学の思想」「国学の思想」「庶民の思想」等を対象とします。/ 検索キーワード 日本近世の倫理思想

授業の一般目標 日本の過去の倫理思想を理解します。そのことによって自己の考え方、ものの感じ方をとらえかえし、自己認識を深めます。

授業の計画(全体) 指定教科書の叙述にしたがって進めます。受講者は、予め、該当箇所を読んでください。内容は、「朱子学の移入」「陽明学派」「古学の勃興」「国学の成立」「本居宣長」「近松門左衛門」「西川如見」「石田梅岩」等です。

成績評価方法(総合) 各授業時間の最後に 10 分程度を費やして、授業内レポートを課します(40 点)、期末試験を実施します(60 点)。

教科書・参考書 教科書：『日本倫理思想史』, 佐藤正英, 東京大学出版会, 2003 年 / 参考書：適宜、複写資料を配付します。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：木曜日 12:50~14:20

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 比較思想論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 上原 雅文 | | | | |

授業の概要 主にインド・中国・日本における仏教思想を比較検討する。仏教の基礎から解説を行い、特に戒律思想がどのように展開していったのかを軸に比較し、日本仏教の特徴を明らかにする。またそれぞれの国における民間信仰と仏教が習合するありように着目し、日本においては神祇信仰と結びついた神仏習合思想や山岳仏教の思想を原理的に考察する。

授業の一般目標 仏教思想(思想の原理・戒律・修行など)および在来の民間信仰を、哲学・倫理学の観点から理解できるようになること。そして、インド・中国・日本のそれぞれの仏教思想が、民間信仰と結びついて展開するありようを知り、そこに見られる哲学的な思索を理解する。そしてまた、現代まで存続している日本仏教の特色についての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・ 仏教思想における原理、戒律、修行について理解できる。 ・ 大乘仏教の諸特徴、諸概念について説明できる。 ・ インド・中国・日本の在来信仰の相違が指摘できる。 ・ インド・中国・日本の仏教思想の特徴が説明できる。 思考・判断の観点： ・ 仏教思想を哲学的・倫理学的な観点から思索することができる。 ・ ひとつの思想が各国で個別に展開する際の要因について判断できる。 関心・意欲の観点： ・ 仏教について、哲学・倫理学的な関心をもつ。 ・ 神祇信仰などの民俗宗教について、哲学・倫理学的な関心をもつ。 態度の観点： ・ 単に授業を聞くのみではなく、みずから思索する態度をもつ。

授業の計画(全体) 仏教思想の基礎、仏という目標について、それに至る方法について、大乘仏教思想について概説する。そして、インドにおける展開、中国における展開、日本における展開の詳細を、戒律思想を軸にして解説する。日本における展開においては、仏教伝来から最澄の前後までを中心に詳説し、神仏関係思想や山岳仏教についても詳説する。

成績評価方法(総合) レポート評価が中心。その際、出席評価を3割、レポート評価を7割とする。

教科書・参考書 教科書：最澄再考 日本仏教の光源, 上原雅文, ペリかん社, 2004年

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 豊澤 一 | | | | |

授業の概要 近世国学の思想 近世の儒家神道から国学への移り行きを考察します。そして早めに本居宣長(1730-1801)に到達し、そのすぐれた文芸理論である「もののあはれ」論や、厳密な文献学的手法が、何故に「国粹的」になってしまうのか、という課題を、改めて眺めまわす予定です。 / 検索キーワード 儒家神道、契沖、荷田春満、賀茂真淵、本居宣長

授業の一般目標 国学思想を扱う場合、どうしてもイデオロギー的に捉えがちです。それはまったく容易なことです。しかし、それでは対象を理解したことにはなりません。正義感と後知恵とを抑制しつつ、過去の人々の考えたことを内在的に理解しようと試みます。

授業の計画(全体) 国学思想には、現代でも耳にする、きわめて卑俗で身近な発想が多く見られます。その意味を汲み取ることによって、自らの日常を自覚にもたらすことができるでしょう。儒家神道、契沖、荷田春満、賀茂真淵、本居宣長等を考察します。

成績評価方法(総合) 学期末にレポートを課します(100%)。

教科書・参考書 教科書：使用しません(適宜、複写資料を配付します) / 参考書：授業の際に紹介します。

メッセージ 余談ですが 金子みすゞに「こよみと時計」という詩(童謡)がありますね。それと同じことを、宣長は「真暦考」で論じています。

連絡先・オフィスアワー 研究室:人文学部棟 409号研究室 オフィスアワー：木曜日 12:50～14:20

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 柏木寧子 | | | | |

授業の概要 - 浦島説話を考える - 浦島説話の思想を探究します。昨年度は 物語 とは何かという大きな問いを意識し、とくに超越的存在と人間との交渉に着目しつつ、毎回さまざまな説話・物語を読み解きました。その際ごくかるく扱った浦島説話を、今年度はより詳しく見ていきます。多様な変容に即した考察から、できれば、物語る行為や物語を享受する経験の意味そのものを問うところまで至りたいと思います。 / 検索キーワード 浦島説話 物語

授業の一般目標 浦島説話に即し、物語 の世界観・人間観の一端に触れること。

授業の計画(全体) 浦島説話の諸テクストを読み解きます。受講者には、授業の終わりの10分程度で小レポートを書いて提出することが課せられます。なお、毎回の授業内容については初回授業時に予定をお知らせします。

成績評価方法(総合) (1) 授業内の小レポート(論理的な思考と文章表現、および自発的に問いを見出し追求する姿勢を求めます)。(2) 期末試験(基本的な知識と理解を求めます)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。

教科書・参考書 教科書：プリントを配付します。 / 参考書：参考文献は随時授業中に紹介します。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想文献講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 豊澤 一 | | | | |

授業の概要 日本思想研究入門書を読む 日本思想研究の入門的な文献(現代文)を何冊か読みます。はじめに、比較的入りやすい仏教解説書として、柳宗悦『南無阿弥陀仏』(岩波文庫)を読みます。テキストの選択については、受講者からの希望も考慮に入れます。

授業の一般目標 テキストを内在的に読む姿勢を養います。相手の見解が自らの見解と異なるとき、ともかく、先ず、相手が何を言おうとしているかを考える態度を身につけることが目標です。

授業の計画(全体) 柳宗悦『南無阿弥陀仏』(岩波文庫)を5、6回で読みます。他の候補文献は、授業開始時に発表します。

成績評価方法(総合) 期末レポートを課します。また、レポーター、司会の任を課します。

教科書・参考書 教科書:『南無阿弥陀仏』,柳宗悦,岩波文庫,1986年/参考書:講義の際に,適宜,紹介します。

連絡先・オフィスアワー 研究室:人文学部棟 409号研究室 オフィスアワー:木曜日 12:50~14:20

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想文献講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 豊澤 一 | | | | |

授業の概要 日本思想研究入門書を読む 前期から引き続き日本思想研究の入門的な文献（現代文）を読みます。前期を参照してください。後期からの参加でも、すこしも差し支えはありません。

授業の一般目標 前期を参照してください。

授業の計画（全体） 前期を参照してください。

成績評価方法（総合） 期末レポートを課します。また、レポーター、司会の任を課します。

教科書・参考書 参考書：講義の際に、適宜、紹介します。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：金曜日 12:50～14:20

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想文献講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 柏木寧子 | | | | |

授業の概要 『室町物語草子集』を読む 昨年度まで『源氏物語』を読んでいましたが、今年度は室町物語草子(室町時代物語・御伽草子)を採り上げます。『源氏物語』に比べると同じ物語でも大きく性格が異なり、分量は短く、素材は多様で、表現はしばしば類型的です。しかし、そのような形態を通じて、何かしら全体的なもの、ものの見方の大きな枠組を表し得ているようにも見えます。ともすれば「お話」として筋を追うだけで終わってしまいそうな対象に対し、どのように接近していけば思想的読み解きが可能になるのか、参加者一同で知恵をしまりたいと思います。 / 検索キーワード 室町物語草子 御伽草子

授業の一般目標 恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。

授業の計画(全体) 全員があらかじめテキストを読み、問題点を考えて授業に臨みます。受講者は当番制で報告者となり、読解上の要点や疑問点を示し、それをめぐる自分の考えも述べます。その後全員で議論をしながら読解を深めます。なお、予習時点で考えたことを用紙に記し、授業後に提出することとします。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 「文正草子」
- 第 3 回 項目 「御曹司島渡」
- 第 4 回 項目 「猿源氏草紙」
- 第 5 回 項目 「ものくさ太郎」
- 第 6 回 項目 「橋立の本地」
- 第 7 回 項目 「和泉式部」
- 第 8 回 項目 「一寸法師」「浦島の太郎」
- 第 9 回 項目 「酒伝童子絵」
- 第 10 回 項目 「磯崎」
- 第 11 回 項目 「熊野本地絵巻」
- 第 12 回 項目 「中将姫本地」
- 第 13 回 項目 「長宝寺よみがへりの草紙」
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法(総合) (1) 授業内の報告(テキストの精読、自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢、および論理的な思考と文章表現を求めます)。(2) 宿題とそれをふまえての授業参加。(3) 期末レポート(ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。

教科書・参考書 教科書：文栄堂にて販売。定価 4,480 円。

メッセージ 初回授業には必ず出席して下さい。報告者の順番を割り振ります。やむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に受講意思を告げに来て下さい(テキストを入手し、予習の上授業に臨んで下さい)。無断欠席はしないで下さい。進度など、授業計画にかかわる要望・意見はいつでも遠慮なくお寄せください。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想文献講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 柏木寧子 | | | | |

授業の概要 『御伽草子集』を読む 前期に引き続き、室町物語草子（室町時代物語・御伽草子）を読み進めます。前期シラバスを参照してください。/ 検索キーワード 御伽草子 室町物語草子

授業の一般目標 恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。

授業の計画（全体） 全員があらかじめテキストを読み、問題点を考えて授業に臨みます。受講者は当番制で報告者となり、読解上の要点や疑問点を示し、それをめぐる自分の考えも述べます。その後全員で議論をしながら読解を深めます。なお、予習時点で考えたことを用紙に記し、授業後に提出することとします。場合によっては、途中で関連論文を読む回を設けることもあります。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 「浄瑠璃十二段草子」その 1
- 第 3 回 項目 「浄瑠璃十二段草子」その 2
- 第 4 回 項目 「天稚彦草子」
- 第 5 回 項目 「依藤太物語」その 1
- 第 6 回 項目 「依藤太物語」その 2
- 第 7 回 項目 「岩屋」その 1
- 第 8 回 項目 「岩屋」その 2
- 第 9 回 項目 「明石物語」
- 第 10 回 項目 「諏訪の本地 - 甲賀三郎物語」
- 第 11 回 項目 「小男の草子」
- 第 12 回 項目 「小敦盛絵巻」
- 第 13 回 項目 「弥兵衛鼠絵巻」
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合）(1) 授業内の報告（テキストの精読，自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢，および論理的な思考と文章表現を求めます）。(2) 宿題とそれをふまえての授業参加。(3) 期末レポート（ただし，授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません）。なお，出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。

教科書・参考書 教科書：『御伽草子集』（新潮日本古典集成），松本隆信校注，新潮社，1980 年；文栄堂にて販売。定価 3,675 円。

メッセージ 初回授業には必ず出席して下さい。報告者の順番を割り振ります。やむを得ず欠席した場合は，二回目の授業以前に受講意思を告げに来て下さい（テキストを入手し，予習の上授業に臨んで下さい）。無断欠席はしないで下さい。進度など，授業計画にかかわる要望・意見はいつでも遠慮なくお寄せください。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 豊澤一 | | | | |

授業の概要 『現代文訳 正法眼蔵』を読む 道元の主著『正法眼蔵』を現代語訳で読みます。原文を読むことが研究の大原則です。しかし、原文の難解さに一歩でも近づくために現代語訳から取りかかるとも一法でしょう。『正法眼蔵』は難解でわたくしには歯が立たないと思ってきました。しかし、一緒に読んで、ああでもない、こうでもないと考えているうちに、何となく何かが見えてくる感触が生ずることでしょう。やがて、いまひとつ手応えがはっきりしないもどかしさを感じたり、もっとじっくり考えてみたい箇所が出てきたりすることがあるかもしれません。そのような場合は、ぜひ原文・注釈・辞書類にあたって熟読玩味してみてください。／検索キーワード 『正法眼蔵』

授業の一般目標 先入見を超え、テキストに内在的に読む姿勢を養います。

授業の計画(全体) 一回一巻のペースで読んでいく予定です。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 古鏡 (1)
- 第 2 回 項目 古鏡 (2)
- 第 3 回 項目 有時
- 第 4 回 項目 授記
- 第 5 回 項目 全機
- 第 6 回 項目 都機
- 第 7 回 項目 画餅
- 第 8 回 項目 溪声山色
- 第 9 回 項目 予備
- 第 10 回 項目 仏向上事
- 第 11 回 項目 夢中説夢
- 第 12 回 項目 礼拝得髓
- 第 13 回 項目 山水経
- 第 14 回 項目 看経
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法(総合) 期末レポートを課します。また、レポーター、司会の任を課します。

教科書・参考書 教科書：『現代文訳 正法眼蔵 2』、道元著、石井恭二訳、河出文庫、2004年；販売店：文栄堂。¥1,000- / 参考書：『正法眼蔵 2』、道元著、石井恭二注釈・現代語訳、河出書房新社、1996年；『仏教学辞典』、多屋 頼俊ほか編、法蔵館、1995年；『岩波仏教辞典 第2版』、中村元ほか編、岩波書店、2002年；『禅語辞典』、入矢義高監修、思文閣出版、1991年；『禅学大辞典』、大修館書店、1985年；他に寺田・水野校注『道元 上』(日本思想大系 12)。これらはすべて研究室架蔵。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部棟 409号研究室 オフィスアワー：木曜日 12:50～14:20

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 豊澤 一 | | | | |

授業の概要 「卒業論文執筆のための演習」 日本思想を卒業論文のテーマとする3、4年生を対象として、研究を具体的に指導します。受講生は、各自のテーマについて定期的に発表します。他の受講生は、その発表を聴いて知見を共有するとともに、そのテーマについて討論します。また、期末レポート相互に批評します。

授業の一般目標 論文執筆の作法を身につけることを目指します。日本思想に関する知見を広め、幅広い考え方ができることを目指します。学友の前で研究の成果を発表し、質疑応答の場を経験することによって、他者に開かれたより柔軟な態度を涵養することを目指します。

授業の計画(全体) 論文執筆作法、また研究作法の書物を数冊読みます。受講生は、自らのテーマについての研究成果を発表します。他の受講生は、その成果発表に質問をします。

成績評価方法(総合) 各自のテーマに応じた研究成果発表を課します。その成果を文章化する期末レポートを課します。

教科書・参考書 教科書：未定 / 参考書：参考文献リストを配付します。

連絡先・オフィスアワー 大抵の時間は研究室にいますので、いつでもどうぞ。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 豊澤 一 | | | | |

授業の概要 前期を参照

授業の一般目標 前期を参照

授業の計画(全体) 前期を参照

成績評価方法(総合) 前期を参照

教科書・参考書 教科書：前期を参照 / 参考書：前期を参照

連絡先・オフィスアワー 前期を参照

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 柏木寧子 | | | | |

授業の概要 - 『現代文訳 正法眼蔵』を読む テキストは受講生の希望も聞いた上で決定したいと考えますが、目下(2005年12月現在)の予定では昨年度に続き、道元『正法眼蔵』を現代文訳で読みます。原文を読むことが思想史研究の基本であることはいうまでもありません。しかし、原文の近寄りかたさのために一巻もひもとかずに終わるくらいなら、いささか邪道であっても、訳本を用い、ある程度の巻数を読んでみてはいかがかと考えます。あるいは、読み進めるうちに、いまひとつ手応えがはっきりしないもどかしさを感じたり、気になる箇所でもっとじっくり考えてみたくなる方もかもしれません。そのような場合は、ぜひ原文・注釈・辞書類にあたって味読することに挑戦してみてください。 / 検索キーワード 『正法眼蔵』

授業の一般目標 恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。

授業の計画(全体) 全員があらかじめテキストを読み、問題点を考えて授業に臨みます。受講者は当番制で報告者となり、読解上の要点や疑問点を示し、それをめぐる自分の考えも述べます。その後全員で議論をしながら読解を深めます。なお、予習時点で考えたことを用紙に記し、授業後に提出することとします。基本的に一回一巻のペースで読み進めます。毎回の授業内容については初回授業時に予定をお知らせします。

成績評価方法(総合) (1) 授業内の報告(テキストの精読、自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢、および論理的な思考と文章表現を求めます)。(2) 宿題とそれをふまえての授業参加。(3) 期末レポート(ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。

教科書・参考書 教科書: 『現代文訳 正法眼蔵 2』, 道元著, 石井恭二訳, 河出文庫, 2004年; 『現代文訳 正法眼蔵 3』, 道元著, 石井恭二訳, 河出文庫, 2004年; 定価各1,050円。 / 参考書: 『正法眼蔵2』, 道元著, 石井恭二注釈・現代訳, 河出書房新社, 1996年; 『正法眼蔵3』, 道元著, 石井恭二注釈・現代訳, 河出書房新社, 1996年; 『岩波仏教辞典』, 中村元ほか編, 岩波書店, 2002年; 『仏教学辞典』, 多屋頼俊ほか編, 法蔵館, 1995年; 『禅語辞典』, 古賀英彦編著, 入矢義高監修, 思文閣出版, 1991年; 他の参考文献は随時授業中に紹介します。

メッセージ 初回授業には必ず出席して下さい。テキストを確定し、報告者の順番を割り振ります。初回にやむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に一言知らせに来て下さい(テキストについて確認し、予習用紙等を受け取り、予習をして授業に臨んで下さい)。無断欠席はしないで下さい。進度など、授業計画にかかわる要望・意見はいつでも遠慮なくお寄せください。なお、昨年度の授業、および今年度前期豊澤先生の授業のあとを承ける形で進みますが、今期からの参加も可能です。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 柏木寧子 | | | | |

授業の概要 卒業論文演習 日本思想に関わるテーマで卒業論文を執筆する3, 4年次生を対象として、各自の研究を具体的に指導します。受講生には、数週間毎に研究の途中経過を口頭報告すること、当番の回以外にも出席して議論に参加すること、を義務として課します。時には受講生同士、互いの期末レポートを読み合い、質疑応答を行う機会も設けます。 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 2年間で各自の卒業論文を仕上げるために必要・十分なもろもろの過程を積み重ねること。柔軟な発想、精密な推論、広い視野、有機的な関心、明晰な文章、等々を獲得すること。

授業の計画(全体) 受講生各自が数週間に一度ずつ当番となり、卒論研究の途中経過を口頭報告します。受講生からの希望があれば、何らかの論文作法の本も併行して読み進めます。

成績評価方法(総合) (1) 授業中の口頭発表。(2) 期末レポート(3000字程度)。

教科書・参考書 教科書: 受講者からの希望があれば、論文作法について何らかの本を読み進めます。書名等は授業中に知らせます。 / 参考書: 参考文献リストは授業中に配付します。

メッセージ 無断欠席はしないで下さい。研究上の疑問等は授業時間外でも随時相談に来て下さい。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 柏木寧子 | | | | |

授業の概要 卒業論文演習 日本思想に関わるテーマで卒業論文を執筆する3, 4年次生を対象として、各自の研究を具体的に指導します。受講生には、数週間毎に研究の途中経過を口頭報告すること、当番の回以外にも出席して議論に参加すること、を義務として課します。時には受講生同士、期末レポートを読み合い質疑応答を行う機会も設けます。 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 2年間で各自の卒業論文を仕上げるために必要・十分なもろもろの過程を積み重ねること。柔軟な発想, 精密な推論, 広い視野, 有機的な関心, 明晰な文章, 等々を獲得すること。

授業の計画(全体) 受講生各自が数週間に一度ずつ当番となり、卒論研究の途中経過を口頭報告します。受講生からの希望があれば、何らかの論文作法の本も併行して読み進めます。

成績評価方法(総合) (1) 授業中の口頭発表。(2) 期末レポート(3000字程度)。

教科書・参考書 教科書: 受講者からの希望があれば、論文作法について何らかの本を読み進めます。書名等は授業中に知らせます。 / 参考書: 参考文献リストは授業中に配付します。

メッセージ 無断欠席はしないで下さい。研究上の疑問等は授業時間外でも随時相談に来て下さい。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 宗教学概論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 岡村康夫 | | | | |

授業の概要 「宗教とは何か」について、主に世界宗教を紹介しつつ、考究する。 / 検索キーワード アッラー、最後の審判、神の御心、覚、縁起、空

授業の一般目標 今年度は主としてイスラームと仏教との比較検討を中心に「宗教とは何か」を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：世界宗教の基本的知識を獲得する。 思考・判断の観点：「宗教とは何か」を主体的に考える力を育成する。 関心・意欲の観点：宗教への関心を喚起する。 態度の観点：生と死に対する真摯な態度を涵養する。

授業の計画（全体） イスラームと仏教の歴史、教義等を中心に「宗教とは何か」を考える機会を提供する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 テキストおよび評価の仕方
- 第 2 回 項目 イスラーム文化 1 内容 イスラームの国際性
- 第 3 回 項目 イスラーム文化 2 内容 アッラーについて
- 第 4 回 項目 イスラーム文化 3 内容 最後の審判について
- 第 5 回 項目 イスラーム文化 4 内容 ウンマについて
- 第 6 回 項目 イスラーム文化 5 内容 イスラーム法について 1
- 第 7 回 項目 イスラーム文化 6 内容 イスラーム法について 2
- 第 8 回 項目 まとめ
- 第 9 回 項目 仏教の源流 1 内容 仏教とは何か
- 第 10 回 項目 仏教の源流 2 内容 釈尊の生涯について
- 第 11 回 項目 仏教の源流 3 内容 『仏伝』について
- 第 12 回 項目 仏教の源流 4 内容 釈尊の人間像
- 第 13 回 項目 仏教の源流 5 内容 根本仏教の教理
- 第 14 回 項目 仏教の源流 6 内容 空について
- 第 15 回 項目 総まとめ

成績評価方法（総合） 毎時間のレポートおよび最終試験に拠って評価する。

教科書・参考書 教科書：イスラーム文化, 井筒俊彦, 岩波文庫, 1994 年 ; 仏教の源流, 長尾雅人, 中公文庫, 2001 年

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 宗教学概論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | ジュマリ・アラム | | | | |

授業の概要 宗教学における基礎理論と主要なテーマを知ることからはじめ、宗教的な現象と表象の「理解」とそのための「方法」について考察する。宗教に特有かつ普遍的な事象を、宗教学および関連領域（宗教社会学、宗教心理学、宗教人類学など）の古典的な理論と方法論の視点から分析し、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教の様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて包括的・体系的に考察する。 / 検索キーワード 宗教、宗教学、宗教社会学、宗教心理学、宗教人類学、民族宗教、民間信仰・民俗宗教、国教、世界宗教、シャーマニズム、呪術、アニミズム、自然崇拜、トーテミズム

授業の一般目標 宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。

関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性と印象の面を重視する。毎回の授業は、レジュメと映像的な資料に沿って進める。

成績評価方法（総合） 1．出席は10回を単位取得の条件とする。出欠は主に以下の小テストでとる。 2．小テストは13回（ほぼ毎回）行うが、10回の参加を単位取得の条件とする。小テストは毎回採点し、翌週に返す。 3．筆記試験を学期末の試験期間中に行う。

教科書・参考書 教科書：授業のレジュメを毎回配布する / 参考書：参考書は授業中に適宜案内する

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 比較宗教論特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | ジュマリ・アラム | | | | |

授業の概要 今年度前期の特殊講義は「宗教と女性」をテーマとする。次のような問いを扱う。シャーマン（巫女など）や呪術師・妖術師（魔女など）の担い手とされるのはなぜ女性が多いのか？なぜ「母なる大地」と呼ばれるのか？男神にはなぜ、その力を上回る神妃や女神が常につくのか？性差と宗教的な表現には、何か相関関係があるのか？男性は、女性に何の宗教的・神秘的な力を見るのか？彼らは何を恐れて女性を支配したがるのか？ / 検索キーワード 宗教、女性、シャーマン、巫女、呪術、妖術、魔女、女神、神秘、性差

授業の一般目標 「宗教と女性」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性と印象の面を重視する。毎回の授業は、およそ以下三つのパートからなる。・映像（VHS / DVD）・解説・講義またはフリーディスカッション

成績評価方法（総合） 1．出席は10回を単位取得の条件とする。 2．毎回、宿題/レポートを課す。 3．学期末の試験期間中に最終レポートを課す。

教科書・参考書 教科書：授業のレジメを毎回配布する / 参考書：参考書は授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部413号室

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 比較宗教論特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | ジュマリ・アラム | | | | |

授業の概要 今年度後期の特殊講義は「宗教とアート」をテーマとする。次のような問いを出発点とする。およそすべての宗教的現象にはアートの要素が含まれ、またおよそすべてのアートには宗教的な要素が含まれるのはなぜなのか？宗教もアートも人間の心に内在する本性として、何か隠れた共通点をもっているのではないのか？それは機能なのか、実体なのか？各地の宗教とアートはどのように、なぜ、何のために結びついているのか？宗教とアートはどこへ、どのように、なぜ変容するのか？ / 検索キーワード 宗教、アート、芸術、美術、芸能、舞踊、舞踏、絵画、彫刻、シャーマニズム、呪術、観光、放浪芸

授業の一般目標 「宗教とアート」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性と印象の面を重視する。毎回の授業は、およそ以下三つのパートからなる。・映像（VHS / DVD）・解説・講義またはフリーディスカッション

成績評価方法（総合） 1．出席は10回を単位取得の条件とする。 2．毎回、宿題/レポートを課す。 3．学期末の試験期間中に最終レポートを課す。

教科書・参考書 教科書：授業のレジメを毎回配布する / 参考書：参考書は授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部413号室

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 宗教学文献講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | ジュマリ・アラム | | | | |

授業の概要 宗教学の基本文献を講読し、理解し、個々の研究への適用を試みる。今回は、エリアーデの著作を読みながら、いくつかの宗教現象について映像を見ながら分析する。/ 検索キーワード 宗教、宗教学、エリアーデ、聖性、ヒエロファニー、聖俗、民間信仰

授業の一般目標 宗教学の理論と方法論について学び、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学の主要な理論と方法論を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 講読箇所は主に日本語訳を扱うが、英語の場合もある。講読範囲は、和文の場合は毎回20～30ページ、英文の場合は4～5ページとする。順番方式のレポートは行わない。毎回、次週のための講読箇所を指定し、それに対するいくつかの問い/課題を設定する。当日の授業では、そうした問い/課題を中心にディスカッションと解説を行う。

成績評価方法（総合） 1．出席は10回を単位取得の条件とする。 2．筆記試験を学期末の試験期間中に一回行う。

教科書・参考書 教科書：教科書（エリアーデの著作）は比較的入手が困難で値段が高いため、該当箇所のコピーを毎回配布する。

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 宗教学文献講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | ジュマリ・アラム | | | | |

授業の概要 宗教学の基本文献を講読し、理解し、個々の研究への適用を試みる。今回は、エリアーデの著作を読みながら、いくつかの宗教現象について映像を見ながら分析する。/ 検索キーワード 宗教、宗教学、エリアーデ、聖性、ヒエロファニー、聖俗、民間信仰

授業の一般目標 宗教学の理論と方法論について学び、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学の主要な理論と方法論を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 講読箇所は主に日本語訳を扱うが、英語の場合もある。講読範囲は、和文の場合は毎回20～30ページ、英文の場合は4～5ページとする。順番方式のレポートは行わない。毎回、次週のための講読箇所を指定し、それに対するいくつかの問い/課題を設定する。当日の授業では、そうした問い/課題を中心にディスカッションと解説を行う。

成績評価方法（総合） 1．出席は10回を単位取得の条件とする。 2．筆記試験を学期末の試験期間中に一回行う。

教科書・参考書 教科書：教科書（エリアーデの著作）は比較的入手が困難で値段が高いため、該当箇所のコピーを毎回配布する。

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 宗教学研究実習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | ジュマリ・アラム | | | | |

授業の概要 基本的には、参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。ただし研究実習として、個別テーマのほか、全員の共通テーマを定める。個別テーマは共通テーマの一環となってもよい。共通テーマは参加者と相談して決めるが、およそ山口県内の宗教現象や信仰文化・伝統に関することを取りあげる。調査の実施方法に関しても、参加者と相談して決める。一つの選択は、各自が独自で行う方式である。もう一つの選択は、夏休み期間中に参加者全員が県内の一定の地域を拠点とする場所に調査に出向き、周辺地域で行われるさまざまな宗教現象（祭り、神楽、放浪芸、年間行事、例祭、個々の宗教意識等）を観察・記録する、という方式である。個別テーマにしても共通テーマにしても、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、調査の準備段階からデータ収集とプレゼンテーションの段階まで、教員が関わって指導する。 / 検索キーワード 宗教、宗教学

授業の一般目標 宗教という単純なカテゴリーや固定観念にとらわれず、宗教のもっとも自然なかたちを、その本質と表象の両面から捉える、宗教学的な枠組みと視点を身につけた上で、それを実際の研究に応用できるようにすることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。

関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 態度の観点：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 技能・表現の観点：宗教現象を研究・調査するスキルを身につけ、それを記述・表現する力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は全14回行う。方式は参加者と個別テーマ・共通テーマを話し合ってから決める。

成績評価方法（総合） 1．出席は10回を単位取得の条件とする。 2．プレゼンテーションは各参加者に2回行ってもらう予定である（初回と2回目の間に1ヶ月以上の期間をあける）。 3．プレゼンテーションの順番でないセッションには、できるだけディスカッションに積極的に参加する（毎回発言がなくてもよいが、2・3回に一度の発言を期待する）。 4．学期末の試験期間中にレポートを一回課す。

教科書・参考書 参考書：各テーマに対し、必要に応じて適宜案内する

メッセージ 授業・演習に参加することによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収したり新たな視点や情報を身につけたりすることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回出席し、演習に積極的に参加する必要がある。宗教学研究室や人間論コース以外の学生も、広い意味での宗教に関心があれば参加できる（大歓迎）。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部413号室

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 宗教学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | ジュマリ・アラム | | | | |

授業の概要 参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。宗教学の領域範囲内の自由発表形式となるが、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、プレゼンテーションの準備段階または初回のプレゼンテーションで、個別的な指導やアドバイスをを行い、実際のプレゼンテーションや次回のプレゼンテーションにおいて反映されるようにする。 / 検索キーワード 宗教、宗教学

授業の一般目標 宗教という単純なカテゴリーや固定観念にとらわれず、宗教のもっとも自然なかたちを、その本質と表象の両面から捉える、宗教学的な枠組みと視点を身につけた上で、それを実際の研究に応用できるようにすることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。

関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 態度の観点：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は全 14 回行い、毎回の授業では、二つのプレゼンテーションを行う。

成績評価方法（総合） 1．出席は 10 回を単位取得の条件とする。 2．プレゼンテーションは各参加者に 2 回行ってもらう予定である（初回と 2 回目の間に一ヶ月以上の期間をあける）。 3．プレゼンテーションの順番でないセッションには、できるだけディスカッションに積極的に参加する（毎回発言がなくてもよいが、2・3 回に一度の発言を期待する）。 4．学期末の試験期間中にレポートを一回課す。

教科書・参考書 参考書：各テーマに対し、必要に応じて適宜案内する

メッセージ 授業・演習に参加することによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収したり新たな視点や情報を身につけたりすることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回出席し、演習に積極的に参加する必要がある。宗教学研究室や人間論コース以外の学生も、広い意味での宗教に関心があれば参加できる（大歓迎）

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

人文社会学科 地域歴史文化論コース

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 史学概論 III | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 田中誠二 | | | | |

授業の概要 私の史学研究法を、私の執筆した論文を例に具体的に解説する。 / 検索キーワード 歴史学、日本史

授業の一般目標 1. 歴史学の方法の定石を理解する。 2. 史学論文の書き方の概要を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 歴史学とはどういう学問であるかの概要を説明できる。 2. 史学論文の書き方のポイントを説明できる。 思考・判断の観点： 1. 歴史の流れをマクロ的に把握する力を培う。 2. ものごとを批判的に見る眼を養う。 技能・表現の観点： 1. 自分の見解を論理的に分掌に表現できる。

授業の計画（全体） 私の史学研究法を、私の執筆した2本の論文を例に、具体的に解説する。同時に史学論文の書き方の例としても解説する。

成績評価方法（総合） 定期試験によって成績評価を行う。試験は論述問題である。

教科書・参考書 教科書：プリントを適宜配布する。

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 史学概論 VII | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 藤永康政 | | | | |

授業の概要 西洋近代社会の歴史学をめぐる諸問題について考えていくことを通じ、近代以後の歴史学がたどってきた歩みと、今後の歴史学のあるべき姿や可能性について講義する。戦後の日本における西洋史研究は、「比較経済史学派」を中心に行われてきた。この講義では、ポスト構造主義や構築主義の挑戦を受け、変容をしてきた西洋史研究の歴史を講義する。それを通じ、「社会経済史学派」の遺産と「現代知における歴史学」について、講義参加者とともに考えていく。

授業の一般目標 歴史学は「暗記力」の問題ではなく、深く事象を理解し、解釈していく学問である。そして複数の解釈がかならず同時に存在し、どれが「真実」なのかを決めるのは、極めて難しい作業となる。この授業では、自らの「史観」を批判的に思考し、学問的で建設的な史学理解ができるようになることを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：西洋歴史学がたどってきた歩みについて理解を深める 思考・判断の観点：事実を多面的に理解する能力を養う 技能・表現の観点：説得力があるレポート作成のスキルを身につける。

授業の計画（全体） 予習課題としてテキストの読解を課す。学生は、授業でその課題の箇所をもとに報告を行い、その後、テキストに書かれてあったことを補足解説する。毎回、課題の箇所に関し、ディスカッションを行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進行方法に関するガイダンス
- 第 2 回 項目 労働社会民衆史の世界 (1) 内容 マルクス主義を考える 授業外指示 配布文献の読書
- 第 3 回 項目 労働社会民衆史の世界 (2) 内容 ポスト構造主義の影響 授業外指示 配布文献の読書
- 第 4 回 項目 比較経済史学派の歴史 授業外指示 教科書第 1 章の読書
- 第 5 回 項目 歴史学の社会的価値 内容 諸学のなかにおける歴史学の存在位置について考える 授業外指示 教科書第 2 章の読書
- 第 6 回 項目 言語論的転回 内容 ポスト構造主義の影響に関する具体的論考 授業外指示 教科書第 3 章の読書
- 第 7 回 項目 ヨーロッパ近代社会史像の変遷 内容 歴史解釈の変化が何をもたらしたか？ 授業外指示 教科書第 4 章の読書
- 第 8 回 項目 小レポート批評会 授業外指示 小レポート提出
- 第 9 回 項目 今日の歴史学 内容 その概論 授業外指示 教科書第 5 章の読書
- 第 10 回 項目 今日の歴史学 内容 その方法論 授業外指示 教科書第 6 章の読書
- 第 11 回 項目 ヨーロッパ社会像の再構築 内容 これからの歴史学について考える 授業外指示 教科書第 7 章の読書
- 第 12 回 項目 歴史構築主義と实在論 内容 事実確定の諸問題 授業外指示 配布文献の読書
- 第 13 回 項目 歴史相対主義 内容 現代知における歴史学 授業外指示 配布文献の読書
- 第 14 回 項目 小レポート批評会 授業外指示 小レポート提出
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法（総合）・授業での発言・小レポートの内容

教科書・参考書 教科書：歴史学のアポリア，小田中直樹，山川出版社，2002 年；教科書販売場所：大学生協 / 参考書：民のモラル，近藤和彦，山川出版社，1993 年；構築主義とは何か，上野千鶴子，勁草書房，2001 年

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfuji@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本史概論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 橋本義則 | | | | |

授業の概要 日本の古代宮都（宮殿と都城）は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしてその構造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできうる限り明らかにするとともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に平城宮と平城京を中心に奈良時代の宮都について述べることとする。/ 検索キーワード 日本古代史、宮都、複都制、平城宮、平城京、恭仁宮、難波宮、甲賀宮、保良宮、由義宮、文献史料、遺跡、遺構

授業の一般目標 宮都の歴史的展開過程を理解することを通じて、日本古代の歴史を再確認するとともに、研究上の常識や通説を疑い学問・研究する姿勢を養う。

授業の到達目標 / **知識・理解の観点**： 授業で講じられた、奈良時代の宮都個々について正確に説明できる。
思考・判断の観点： 授業で講じられた、奈良時代の宮都の変遷について歴史的観点から論理的に説明できる。
関心・意欲の観点： 歴史及び歴史学への興味・関心をいただく。
態度の観点： 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。
技能・表現の観点： 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 日本の古代宮都（宮殿と都城）は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしてその構造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできうる限り明らかにするとともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に平城宮と平城京を中心に奈良時代の宮都について述べることとする。

教科書・参考書 教科書： 指定されたホームページにアクセスして講義レジュメをダウンロードする必要がある。/ 参考書： 授業中に適宜指摘する。

メッセージ 高等学校で日本史の授業を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代について高等学校修了程度の予備知識をもっていることが望ましい。また講義レジュメのダウンロードと受講のためにノートパソコンを携帯することが望ましい。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本史概論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 真木隆行 | | | | |

授業の概要 日本中世の国家・社会・宗教をめぐる諸問題についてお話しする。

授業の一般目標 ・歴史学の研究方法の一端を理解する。 ・日本中世の全体史像の捉え方をめぐって考究する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本中世に関する基本的な事実関係について説明できる。日本中世史の捉え方をめぐる諸論点について理解する。 思考・判断の観点：史料・先行研究・通説を独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 関心・意欲の観点：関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。 技能・表現の観点：自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。

成績評価方法 (総合) 出席点、授業内レポートの内容、定期試験、それらから総合的見地に立って評価する。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 古文書・古記録 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 田中誠二 | | | | |

授業の概要 1. 近世のくずし字で書かれた史料を読解する能力を養う授業である。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明する。 / 検索キーワード 古文書、くずし字、史料

授業の一般目標 1. 1年間で、近世史料の簡単なくずし字であれば、読解できる。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 近世史料の簡単なくずし字を読解できる。 2. 近世史料の基本的用語の読み・意味を説明できる。 関心・意欲の観点: 1. 近世史料を原本で読解する醍醐味を味わう。

授業の計画(全体) 最初の3コマくらいは、平仮名のくずし字に慣れる。4コマ目から毛利家文庫史料の写真版を用いて、くずし字の読解能力を養う。担当箇所を当てるので、当たった学生はパソコンで積文を作成し、読みかつ現代語訳を行う。これを訂正しつつ授業を進める。

成績評価方法(総合) 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり(41箇所間違いがあれば不可とする)がある。

教科書・参考書 教科書: なし。適宜プリントを配布する。 / 参考書: くずし字解読辞典(新装;普及版), 児玉幸多編, 東京堂出版, 1993年; くずし字解読辞典(毛筆版), 児玉幸多編, 東京堂出版, 1999年; くずし字用例辞典(新装;普及版), 児玉幸多編, 東京堂出版, 1993年; 古文書解読辞典を各自持つこと。例えば、児玉幸多編『くずし字解読辞典』(東京堂出版) 同編『くずし字用例辞典』など。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 古文書・古記録 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 田中誠二 | | | | |

授業の概要 1. 近世のくずし字で書かれた史料を読解する能力を養う授業である。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明する。 / 検索キーワード 古文書、くずし字、史料

授業の一般目標 1. 1年間で、近世史料の簡単なくずし字であれば読解できる。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 近世史料の簡単なくずし字を読解できる。 2. 近世史料の基本的用語の読み・意味を説明できる。

授業の計画(全体) 毛利家文庫史料の写真版を用いて、くずし字の読解能力を養う。前期よりも少し難度の高い史料の写真版を用いる。担当箇所を当てるので、当たった学生はパソコンで釈文を作成し、読みかつ現代語訳を行う。これを訂正しつつ授業を進める。

成績評価方法(総合) 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり(41箇所間違いがあれば不可とする)がある。

教科書・参考書 教科書: なし。適宜プリントを配布する。 / 参考書: 古文書読解辞典を各自持つこと。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜の昼休み。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 古文書・古記録 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 橋本義則 | | | | |

授業の概要 この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。 / 検索キーワード 日本古代史、平安時代、文献史料、漢文史料、日記、古記録、貴族、小右記

授業の一般目標 平安時代の標準的史料である貴族の日記を読解する力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 平安時代の貴族の日記を読みこなすための基礎的知識を獲得する。

思考・判断の観点: 様々な史料を用いて日記の内容を論理的に解釈する力を身につける。 **関心・意欲の観点:** 古代貴族の日常生活に関心・興味を抱く。 **態度の観点:** 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 **技能・表現の観点:** 1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。 2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画(全体) この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。

成績評価方法(総合) 1, 学期末試験期間に試験を実施する。 2, 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。

教科書・参考書 教科書: なし。最初の授業で指示する。 / 参考書: なし。

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 人文学部3階 オフィスアワー: 一応、月・火の5時40分~6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 古文書・古記録 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 橋本義則 | | | | |

授業の概要 この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。 / 検索キーワード 日本古代史、平安時代、文献史料、漢文史料、日記、古記録、貴族、小右記

授業の一般目標 平安時代の標準的史料である貴族の日記を読解する力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 平安時代の貴族の日記を読みこなすための基礎的知識を獲得する。

思考・判断の観点： 様々な史料を用いて日記の内容を論理的に解釈する力を身につける。 **関心・意欲の観点：** 古代貴族の日常生活に関心・興味を抱く。 **態度の観点：** 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 **技能・表現の観点：** 1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。 2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画(全体) この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。

成績評価方法(総合) 1 , 学期末試験期間に試験を実施する。 2 . 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。

教科書・参考書 教科書：なし。最初の授業で指示する。 / 参考書：なし

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 古文書・古記録 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 真木隆行 | | | | |

授業の概要 題目：中世の古文書（前期） 概要：中世文書の写真コピーを使い、文書様式の基礎も踏まえながら読解を行う。

授業の一般目標 ・中世の古文書について、くずし字判読能力を養う。 ・中世の古文書について、内容解読力を養う。 ・中世の文書様式の基礎を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・中世のくずし字をある程度判読できる。 ・中世の古文書を読解するために必要な知識を得る。 思考・判断の観点： ・より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。 技能・表現の観点： 古文書の釈文を正確に記し、読点・返り点・送り仮名を適切に付すことができる。

授業の計画（全体） 受講生が読解を分担して原稿を作成し、それに基づいて検討し、復習を重ねる。

成績評価方法（総合） 定期試験において、3通の古文書を出題する。 そのうち2通は、授業時間内に検討済みのものからそのまま出題。 片方は、くずし字を楷書体に改めるのみ、もう片方は、楷書体に改めた上で、それに読点・返り点・送り仮名をつける。 残り1通は、未検討の古文書から出題し、楷書体に改める。 採点は減点方式とし、80点以上を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とする。

教科書・参考書 教科書：写真コピーを配布する。 / 参考書：(1) くずし字用例辞典, 児玉幸多, 東京堂出版 (2) くずし字解読辞典, 児玉幸多, 東京堂出版 (1)(2) の購入はいずれかでよい。(1)(¥5,800) のひき方は、漢和辞書に近い。(2)(¥2,200) は、一筆目の形からひくことができる。私は(1)を薦めたい。この他、漢和辞書（例えば『角川新字源』など）や日本史事典（『角川日本史辞典』など）・日本史年表（歴史学研究会編『新版日本史年表』岩波書店など）を持っておくと便利。

メッセージ はじめは慣れないかもしれませんが、復習を繰り返せば、確実に読めるようになります。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 古文書・古記録 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 真木隆行 | | | | |

授業の概要 題目：中世の古文書（後期） 概要：中世文書の写真コピーを使い、文書様式の基礎も踏まえながら読解を行う。

授業の一般目標 ・中世の古文書について、くずし字判読能力を養う。 ・中世の古文書について、内容解読力を養う。 ・中世の文書様式の基礎を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・中世のくずし字をある程度判読できる。 ・中世の古文書を読解するために必要な知識を得る。 思考・判断の観点： ・より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。 技能・表現の観点： 古文書の釈文を正確に記し、読点・返り点・送り仮名を適切に付すことができる。

授業の計画（全体） 受講生が読解を分担して原稿を作成し、それに基づいて検討し、復習を重ねる。

成績評価方法（総合） 定期試験において、3通の古文書を出題する。 そのうち2通は、授業時間内に検討済みのものからそのまま出題。 片方は、くずし字を楷書体に改めるのみ、もう片方は、楷書体に改めた上で、それに読点・返り点・送り仮名をつける。 残り1通は、未検討の古文書から出題し、楷書体に改める。 採点は減点方式とし、80点以上を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とする。

教科書・参考書 教科書：写真コピーを配布する。 / 参考書：(1) くずし字用例辞典, 児玉幸多, 東京堂出版 (2) くずし字解読辞典, 児玉幸多, 東京堂出版 (1)(2) の購入はいずれかでよい。(1)(¥5,800) のひき方は、漢和辞書に近い。(2)(¥2,200) は、一筆目の形からひくことができる。私は(1)を薦めたい。この他、漢和辞書（例えば『角川新字源』など）や日本史事典（『角川日本史辞典』など）・日本史年表（歴史学研究会編『新版日本史年表』岩波書店など）を持っておくと便利。

メッセージ はじめは慣れないかもしれませんが、復習を繰り返せば、確実に読めるようになります。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本政治・社会史論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 田中誠二 | | | | |

授業の概要 「長府藩の政治と経済」という主題で講義を行う。長府藩は、萩藩の支藩の一つである。その長府藩から見た近世初期の本・支藩関係、長府藩の石高と年貢を、史料に即しながら解説していく。 / 検索キーワード 長府藩、本・支藩関係、石高、年貢

授業の一般目標 1. 藩という存在について、概要を理解する。 2. 17世紀前半の時代相と政治・経済を知る。 3. 幕府・藩・支藩の関係を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世の政治・経済について基本的知識を得る。 2. 時期的な特徴を理解する。 思考・判断の観点： 1. 重要要素の連関を把握する。 2. 自分の見解を論理的に述べる力を培う。 技能・表現の観点： 1. 理解したことを文章で適切に表現できる。

授業の計画(全体) 「長府藩の政治と経済」という主題について、(1) 近世初期の幕府・藩・支藩の関係を具体的に解明する。(2) 長府藩の石高と年貢を、具体的に解明する。

成績評価方法(総合) 定期試験をレポートにかえ、その内容によって成績評価を行う。レポートは、400字詰10枚以上。

教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本政治・社会史論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 橋本義則 | | | | |

授業の概要 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した 8 世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず 8 世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。昨年度は喪葬のうち「喪」について話しました。本年度は引き続き「葬」について話し、まとめに入る予定です。 / 検索キーワード 日本古代史、貴族社会、喪葬、墳墓

授業の一般目標 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度とその成立の経緯を理解することを通じて、日本古代の貴族社会について理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 古代の喪葬制度とその背景にある政治・社会状況を説明できる。

思考・判断の観点： 史料や資料を用いて、古代貴族社会の実態を論理的に解釈する能力を身につける。

関心・意欲の観点： 古代貴族社会に関心・興味を抱く。 **態度の観点：** 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 **技能・表現の観点：** 1, 古代の史料・資料を博捜し、正しく解釈できる。2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画(全体) 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した 8 世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず 8 世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。

成績評価方法(総合) 1 . 学期末にレポートを提出する。 2 . レポートの分量と内容については別途指示する。

教科書・参考書 教科書： 指定されたホームページにアクセスして講義レジュメをダウンロードする必要がある。 / 参考書： 授業中に適宜指摘する。

メッセージ 日本史概説を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代についてやや詳しい知識をもっていることが望ましい。また講義レジュメのダウンロードと受講のためにノートパソコンが必携である。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー：一応、月・木の 5 時 40 分～ 6 時 40 分、しかし時間のあるときはいつでも

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本政治・社会史論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 真木隆行 | | | | |

授業の概要 中世寺社勢力と強訴

授業の一般目標 ・当該問題について理解を深める。 ・歴史学の研究方法の一端を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的な事実関係について説明できる。 諸論点について理解する。

思考・判断の観点： 史料・先行研究・通説を独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。

関心・意欲の観点： 関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。 技能・表現の観点： 自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。

成績評価方法 (総合) 出席点、授業内レポートの内容、定期試験、それらから総合的見地に立って評価する。

教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本政治・社会史論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 酒寄 雅志 | | | | |

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本政治・社会史論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 仁木 宏 | | | | |

授業の概要 「戦国城下町論」 15～16 世紀における地方政治都市である守護所、城下町について論じる。

授業の一般目標 完成された近世城下町とは異なる、形成途上の城下町の姿を多様な側面から見ることで、中世都市の個性、豊かな可能性についての理解を深める。

授業の計画(全体) ・1470 年ころ、1530 年ころを画期として、室町・戦国時代の守護所・城下町について解明する。 ・つづいて、織豊系城下町に注目して、都市構造が収斂してゆく方向を見定める。 ・文献史料だけでなく、考古学の成果、歴史地理学的手法ももちい、学際的な検討を加える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 守護所・城下町の研究史
- 第 2 回 項目 鎌倉と国府
- 第 3 回 項目 15 世紀前半までの守護所
- 第 4 回 項目 畿内の守護所
- 第 5 回 項目 西国の守護所
- 第 6 回 項目 東国の守護所
- 第 7 回 項目 守護所から城下町へ
- 第 8 回 項目 西国の城下町
- 第 9 回 項目 東国の城下町
- 第 10 回 項目 畿内の城下町
- 第 11 回 項目 織田城下町
- 第 12 回 項目 豊臣期城下町の類型
- 第 13 回 項目 豊臣期城下町の限界
- 第 14 回 項目 江戸時代の城下町へ
- 第 15 回 項目 新しい戦国城下町像

成績評価方法(総合) 授業内容の理解度を確認するレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：『空間・公・共同体』, 仁木宏, 青木書店, 1997 年

メッセージ 大内氏時代の都市山口を全国的な視角から位置づけることも試みたいと思います。

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本史史料講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 田中誠二 | | | | |

授業の概要 萩藩法制史料を精読する。基本的用語の読み・意味を正確に身につけさせ、時代背景・機構・変化を読み取っていく。 / 検索キーワード 史料講読、法制史料、萩藩

授業の一般目標 1．萩藩法制史料を講読し、近世法制の内容や権力機構・時代背景を理解する。 2．近世の基本的用語の読み・意味を知り、近世史料を用いて研究・考察する力を培う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．近世の基本的用語の読み・意味を正確に理解する。 2．近世の法制について理解を深める。 思考・判断の観点： 1．法制史料に現れる一定の法則性を把握し、それを論理的に説明できる力を培う。

授業の計画（全体） 授業は、史料の講読とその解釈という形で進める。担当箇所を当てるので、当たった箇所を読み上げ、解釈を加える。それを訂正し解説を加える形で授業を進める。

成績評価方法（総合） 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり（41箇所以上の間違いがあれば不可とする）がある。

教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本史史料講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 田中誠二 | | | | |

授業の概要 萩藩政治史史料を精読する。基本的用語の読み・意味を正確に身につけさせ、時代背景・権力機構の特質を読み取っていく。 / 検索キーワード 萩藩、政治史史料、史料講読

授業の一般目標 1．萩藩政治史史料を講読し、近世政治権力の機構・実態を理解する。 2．近世の基本的用語の読み・意味を知り、近世史料を用いて研究・考察する力を培う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．近世の基本的用語の読み・意味を正確に理解する。 2．近世政治史の課題について理解を深める。 思考・判断の観点： 1．近世政治史史料に現れる一定の法則性・連関を把握し、それを論理的に説明する力を養う。

授業の計画（全体） 授業は、史料の講読とその解釈という形で進める。担当箇所を当てるので、当たった箇所を読み上げ、解釈を加える。それを訂正し解説を加える形で授業を進める。

成績評価方法（総合） 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり（41箇所以上の間違いがあれば不可とする）がある。

教科書・参考書 教科書： なし。適宜プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・木曜昼休み。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本史史料講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 橋本義則 | | | | |

授業の概要 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。/ 検索キーワード 日本古代史、奈良時代、平安時代、文献史料、漢文史料、法制史料、類聚三代格

授業の一般目標 典型的な漢文史料を読解する力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：奈良時代・平安時代の法制史料（法律）を正確に解釈するための基礎的知識を獲得する。 思考・判断の観点：様々な史料を用いて法制史料（法律）の内容を論理的に解釈する力を身につける。 関心・意欲の観点：古代法制書の世界、政治制度の変遷に関心・興味を抱く。 態度の観点：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 技能・表現の観点：1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。

成績評価方法（総合） 1, 学期末試験期間に試験を実施する。 2, 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。

教科書・参考書 教科書：教科書に関する自由記述コメント： / 参考書：なし

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本史史料講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 橋本義則 | | | | |

授業の概要 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。/ 検索キーワード 日本古代史、奈良時代、平安時代、文献史料、漢文史料、法制史料、類聚三代格

授業の一般目標 典型的な漢文史料を読解する力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：奈良時代・平安時代の法制史料（法律）を正確に解釈するための基礎的知識を獲得する。 思考・判断の観点：様々な史料を用いて法制史料（法律）の内容を論理的に解釈する力を身につける。 関心・意欲の観点：古代法制書の世界、政治制度の変遷に関心・興味を抱く。 態度の観点：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 技能・表現の観点：1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。

成績評価方法（総合） 1, 学期末試験期間に試験を実施する。 2, 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本史史料講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 真木隆行 | | | | |

授業の概要 題目：貴族日記『勘仲記』を読む（10）概要：『勘仲記』は、鎌倉後期中流貴族、勘解由小路兼仲（1244～1308）の日記であり、質量共に鎌倉時代を代表する記録史料の一つである。兼仲は、撰関家の家司をつとめ、朝廷では蔵人・弁官を歴任し、やがて公卿となって権中納言まで昇進する。この史料講読では、兼仲が蔵人となる以前の段階、撰関家の家司としての活動が中心であった頃の記事を対象としてこれまで輪読してきた。今期はひきつづき弘安6（1283）条の記事を検討する予定。テキストには史料大成本を使用するとともに、兼仲の自筆本の写真版コピーで校訂を行いながら輪読する。

授業の一般目標 ・史料の読解力を養う。 ・日本中世史の研究方法の一端を学ぶ。 ・関心ある論点を見つけ、とことん問題を掘り下げる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・中世の史料を読解できる。 ・中世の史料を読解するために必要な知識を得る。 思考・判断の観点： より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。 関心・意欲の観点： 関心ある論点を見つけて十分に調査し、とことん問題を掘り下げる。 技能・表現の観点： 漢文体史料の書き下し文や内容解釈文を適切に書く。

授業の計画（全体） 受講者全員が分担して校合・読解をおこない、その報告にもとづき検討する。

成績評価方法（総合） 定期試験を実施する。 授業時間内に検討した史料を抜粋し、それに基づき出題する。

教科書・参考書 教科書：活字版・写真版のコピーを配布する。 / 参考書：人文学部所在の図書や付属図書館内の図書をはじめとし、場合によっては山口県立図書館や山口市立図書館の図書も活用しながら、十分な報告準備をおこなう必要がある。また、東京大学史料編纂所が公開しているサイトも利用させていただく必要がある。

メッセージ ゼミナール形式で行います。基本的事項の説明にとどまるのではなく、なんらかの検討課題を独自に発見し、深く掘り下げられた報告を求めます。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本史史料講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 真木隆行 | | | | |

授業の概要 題目：貴族日記『勘仲記』を読む(11) 概要：『勘仲記』は、鎌倉後期中流貴族、勘解由小路兼仲(1244～1308)の日記であり、質量共に鎌倉時代を代表する記録史料の一つである。兼仲は、撰関家の家司をつとめ、朝廷では蔵人・弁官を歴任し、やがて公卿となって権中納言まで昇進する。この史料講読では、兼仲が蔵人となる以前の段階、撰関家の家司としての活動が中心であった頃の記事を対象としてこれまで輪読してきた。今期は前期にひきつづき弘安6(1283)の記事を検討する予定。テキストには史料大成本を使用するとともに、兼仲の自筆本の写真版コピーで校訂を行いながら輪読する。

授業の一般目標 ・史料の読解力を養う。 ・日本中世史の研究方法の一端を学ぶ。 ・関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・中世の史料を読解できる。 ・中世の史料を読解するために必要な知識を得る。 思考・判断の観点： より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。 関心・意欲の観点： 関心ある論点を見つけて十分に調査し、とことん問題を掘り下げる。 技能・表現の観点： 漢文体史料の書き下し文や内容解釈文を適切に書く。

授業の計画(全体) 受講者全員が分担して校合・読解をおこない、その報告にもとづき検討する。

成績評価方法(総合) 定期試験を実施する。授業時間内に検討した史料を抜粋し、それに基づき出題する。

教科書・参考書 教科書：活字版・写真版のコピーを配布する。 / 参考書：人文学部所在の図書や付属図書館内の図書をはじめとし、場合によっては山口県立図書館や山口市立図書館の図書も活用しながら、十分な報告準備をおこなう必要がある。また、東京大学史料編纂所が公開しているサイトも利用させていただく必要がある。

メッセージ ゼミナール形式で行います。基本的事項の説明にとどまるのではなく、なんらかの検討課題を独自に発見し、深く掘り下げられた報告を求めます。

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本史演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 田中誠二 | | | | |

授業の概要 日本近世史を専攻する学生が、日本史上の諸問題について、各自の立てた主題にしたがって報告を行い、討論を行って、研究内容を深化させる授業である。/ 検索キーワード 日本近世史、歴史学、演習

授業の一般目標 1. 各自の立てた主題についての研究史を整理する。 2. 史料を提示し、正確に解釈し、立論する。 3. 自分の見解を論理的に述べる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 時代背景について理解を深める。 2. 各自の主題についての基礎知識を得る。 思考・判断の観点： 1. 各自の主題についての研究史の現状を把握し、自分の見解を論理的に述べる力を養う。 2. 史料を使って論証する力を培う。 技能・表現の観点： 1. 考察した結果を述べたり、文章で適切に表現できる。

授業の計画（全体） 各自の立てた主題について報告し、討論を行う。

成績評価方法（総合） 定期試験にかえてレポートを提出させ、その内容によって成績評価を行う。授業での報告内容も加味した評価を行う。

教科書・参考書 教科書： なし。適宜レジュメを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜の昼休み。

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本史演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 田中誠二 | | | | |

授業の概要 日本近世史を専攻する学生が、日本史上の諸問題について、各自の立てた主題にしたがって報告を行い、討論を行って、研究内容を深めていく授業である。/ 検索キーワード 日本近世史、歴史学、演習

授業の一般目標 1. 各自の立てた主題についての研究史を整理する。 2. 史料を提示し、正確に解釈し、立論する。 3. 自分の見解を論理的に述べる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 時代背景についての理解を深める。 2. 各自の主題についての基礎知識を得る。 思考・判断の観点: 1. 各自の主題についての研究史の現状を把握し、自分の見解を論理的に述べる力を培う。 2. 史料を使って論証する力を培う。 技能・表現の観点: 1. 考察した結果を述べたり、文章で適切に表現できる。

授業の計画(全体) 各自の立てた主題について報告し、討論を行う。

成績評価方法(総合) 定期試験にかえてレポートを提出させ、その内容によって成績評価を行う。授業での報告内容も加味する。

教科書・参考書 教科書: なし。適宜レジュメを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み。

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本史演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 橋本義則 | | | | |

授業の概要 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。 / 検索キーワード よりよい卒業論文の作成を目指す。

授業の一般目標 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 卒業論文作成に必要な日本古代史に関する知識を獲得する。 **思考・判断の観点：** 卒業論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。 **関心・意欲の観点：** 卒業論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。 **態度の観点：** 卒業論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決しようとする姿勢を養う。 **技能・表現の観点：** 1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。 2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

成績評価方法（総合） 1 . 学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。 2 . レポートの分量については別途指示する。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード）を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本史演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 橋本義則 | | | | |

授業の概要 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 よりよい卒業論文の作成を目指す。

授業の到達目標 / **知識・理解の観点**：卒業論文作成に必要な日本古代史に関するより高度な知識を獲得する。 **思考・判断の観点**：卒業論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。 **関心・意欲の観点**：1, 卒業論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。2, 先学の研究を十分に咀嚼して自らの問題設定との関係を明確に把握できる力をつける。 **態度の観点**：卒業論文の作成を通じて、学問上の常識や通説を疑い、かつそれを明確に指摘しうる姿勢を養う。 **技能・表現の観点**：1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

成績評価方法（総合） 1 . 学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。2 . レポートの分量については別途指示する。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード）を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本史演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 真木隆行 | | | | |

授業の概要 題目：日本中世史の諸問題 概要：日本中世史を専攻する3・4回生を対象とし、卒業論文の作成に向けた指導を行う。報告担当者は各自の関心を深めて、充実した研究報告を行う。報告担当者以外の参加者も、報告内容をめぐって活発に議論し、中世史の諸問題を掘り下げていてもらいたい。

授業の一般目標 卒業論文作成につながるような研究成果を重ねる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・関係史料や先行研究について把握する。 ・関心ある事象の時代背景を把握する。 思考・判断の観点： 史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 関心・意欲の観点： 関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。 態度の観点： 一研究者としての誇りを持つ。 技能・表現の観点： 自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。

授業の計画（全体） 各自が設定した卒業論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。

成績評価方法（総合） 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。

メッセージ いい卒業論文を読ませてください。

連絡先・オフィスアワー ご来訪ご質問は、いつでも歓迎する。いっぽう、ゼミの無断欠席は厳禁。やむを得ない欠席の場合には事前連絡（場合により事後承諾）を要する。電話・E-mailは研究室名簿参照。

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本史演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 真木隆行 | | | | |

授業の概要 題目：日本中世史の諸問題 概要：日本中世史を専攻する3・4回生を対象とし、卒業論文の作成に向けた指導を行う。報告担当者は各自の関心を深めて、充実した研究報告を行う。報告担当者以外の参加者も、報告内容をめぐって活発に議論し、中世史の諸問題を掘り下げていてもらいたい。

授業の一般目標 卒業論文作成につながるような研究成果を重ねる。とりわけ4回生は、よりよい卒業論文にしあげて提出する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：・関係史料や先行研究について把握する。・関心ある事象の時代背景を把握する。 思考・判断の観点：史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 関心・意欲の観点：関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。 態度の観点：一研究者としての誇りを持つ。 技能・表現の観点：自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。

授業の計画(全体) 各自が設定した卒業論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。

成績評価方法(総合) 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。

メッセージ いい卒業論文を読ませてください。

連絡先・オフィスアワー ご来訪ご質問は、いつでも歓迎する。いっぽう、ゼミの無断欠席は厳禁。やむを得ない欠席の場合には事前連絡(場合により事後承諾)を要する。電話・E-mailは研究室名簿参照。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 東洋史概説 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 馬彪 | | | | |

授業の概要 中国の歴史は、中国古代文明に遡る、中国古代文明は世界四大文明の中、唯一今日まで途絶えることなく継続して展開されてきたものであり、しかも中国の歴史は、古代文明以来ずっと、途絶えることなく、文献に記録され続けてきた。故に世界中の歴史の中で、「通史」と呼ぶことができるのは、中国の歴史だけである。本科目では太古～戦国末（BC221）の古代史（前半）を概説する。 / 検索キーワード 古代・王朝・戦争・祭祀

授業の一般目標 本講義は、古代中国の王朝交替や時代区分など史論問題まで明らかにすることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国古代における王朝の特徴に関する知識を取得できる。 思考・判断の観点：古代社会・人民・王朝の間を繋ぐ関係の重要性を指摘できるようにする。 関心・意欲の観点：受講生に人間の歴史への関心を一層喚起することに寄与する。 態度の観点：討論に参加でき、質疑応答を強調する。

授業の計画（全体） 本講義は中国古代王朝の時代の流れ・各王朝の史的な位置などの課題に分けて紹介していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 第 1 講 序論：内容 東アジア大陸文明の諸特徴
- 第 2 回 項目 第 2 講 内容 華夏民族の創世神話と英雄伝説（上）
- 第 3 回 項目 第 3 講 内容 華夏民族の創世神話と英雄伝説（下）
- 第 4 回 項目 第 4 講 内容 歴史の遺跡（上）
- 第 5 回 項目 第 5 講 内容 歴史の遺跡（中）
- 第 6 回 項目 第 6 講 内容 歴史の遺跡（下）
- 第 7 回 項目 第 7 講 内容 夏殷西周「三代」の初期国家（上）
- 第 8 回 項目 第 8 講 内容 夏殷西周「三代」の初期国家（中）
- 第 9 回 項目 第 9 講 内容 夏殷西周「三代」の初期国家（下）
- 第 10 回 項目 第 1 0 講 内容 春秋戦国の社会変革（上）
- 第 11 回 項目 第 1 1 講 内容 春秋戦国の社会変革（中）
- 第 12 回 項目 第 1 2 講 内容 春秋戦国の社会変革（下）
- 第 13 回 項目 第 1 3 講 内容 古代の史的な発展原理（上）
- 第 14 回 項目 第 1 4 講 内容 古代の史的な発展原理（下）
- 第 15 回 項目 第 1 5 講 内容 予備

成績評価方法（総合） 試験と宿題と出席を合わせて判断する。

教科書・参考書 教科書：特になし。 / 参考書：授業中指示する。

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 東洋史概説 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 滝野正二郎 | | | | |

授業の概要 中国明清時代の社会・経済の歴史について概説する。 / 検索キーワード 銀経済・社会の集団化・流動化

授業の一般目標 明清時代の歴史について、社会・経済的要因から理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 明清時代の歴史について、社会・経済的要因から理解する。 思考・判断の観点： 歴史の動きについて、社会・経済的要因という層位から思考する。 関心・意欲の観点： 歴史の動きの表層の奥にある要因に関心を持つ。

授業の計画（全体） 明清時代の歴史について、社会・経済的要因を中心に概説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論 アジア・東アジア・中国 内容 歴史を考える場を設定する。
- 第 2 回 項目 明清時代の政治史 内容 明清時代の大まかな政治史について講義し、大まかな時間的な流れを理解させる。
- 第 3 回 項目 明初の社会 内容 明初、里甲制が文字どおりに実施されていた「固い」社会を検討する。
- 第 4 回 項目 銀経済の発展 内容 明代発展しつつあった銀経済を検討し、「固い」社会の溶解を理解させる。
- 第 5 回 項目 賦・役銀納化の進展 1 内容 里甲制の変質から十段法・門銀・丁銀まで税役徴収・納入の銀納化について講義する
- 第 6 回 項目 賦・役銀納化の進展 2 内容 一条鞭法・地丁銀制の施行まで、税役徴収・納入の銀納化について講義する。
- 第 7 回 項目 商工業の発展 1 内容 銀経済の結果でもあり要因でもある商工業の発展、とくに手工業の発展について講義する。
- 第 8 回 項目 商工業の発展 2 内容 流通経済の発展と商人の集団化について検討する。
- 第 9 回 項目 郷紳支配の拡大 内容 流動化した新しい社会の地域エリートとしての郷紳と、それを支えた社会のあり方を検討する。
- 第 10 回 項目 予備日 内容 授業の進捗状況に応じて弾力的に（質問等も）
- 第 11 回 項目 人口の増大と開発 内容 清代の人口爆発とそれを支えた山区の開発について検討する。
- 第 12 回 項目 移住と宗族 内容 開発の結果ひきおこされる移住と、その単位となる宗族形成の活発化について検討する。
- 第 13 回 項目 民衆反乱 内容 社会的弱者の集団化と蜂起、社会の軍事化について検討する。
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 社会の流動化と集団化
- 第 15 回 項目 試験 内容 小論文形式による試験 授業外指示 手書きノート・配布プリント持ち込み可

成績評価方法（総合） 学期末に行う筆記試験で評価する。

教科書・参考書 教科書：なし。授業の都度プリントを配布する。 / 参考書：明清と李朝の時代（世界の歴史；12）、岸本美緒、宮嶋博史著、中央公論社、1998年；”中国民衆叛乱史（東洋文庫；336,351,408,419）”、谷川道雄、森正夫編、平凡社、1978年；清代社会経済史研究、重田徳著、岩波書店、1975年；明清社会経済史研究、小山正明著、東京大学出版会、1992年；中国の社会、”ロイド・E. イーストマン著；上田信、深尾葉子訳”、平凡社、1994年；明清交替と江南社会：17世紀中国の秩序問題、岸本美緒著、東京大学出版会、1999年；中国の歴史09海と帝国 明清時代、上田信、講談社、2005年；東アジアの「近世」、岸本美緒、山川出版社、1998年；清朝中期史研究、鈴木中正、愛知大学国際問題研究所、1952年；明清社会経済史研究、百瀬弘、研文出版、1980年；移住民の秩序、山田賢、名古屋大学出版会、1995年；その他、著書・論文多数。授業中に紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィス
アワー：木曜日 5/6 時限

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国社会・経済史論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 馬彪 | | | | |

授業の概要 百年前の甲骨文の発見と等しい価値を有し、20C 末～21C の初、中国古代の秦漢時代(BC.220 ~ AD.220)の出土文字資料 簡牘が大量に発見されたのは、中国歴史学上に画期的な時代をもたらしました。世界の第八大奇観と呼ばれている秦始皇帝の兵馬俑は考古学の大発見ですが、残念ながら今のところ文字史料が発見されていません。これとは違い、出土した簡牘の史料文字は、すでに百万字を超えました。この数は『史記』の 50 万字の倍以上になる貴重な史料です。本講義は秦漢時代の簡牘と伝世文献に見る「禁苑」について紹介しようとするものです。 / 検索キーワード 秦漢・簡牘・禁苑

授業の一般目標 出土文字の研究によって、21 世紀における中国史研究の先端動態を説明するという目標です。

成績評価方法 (総合) レポート + 宿題 + 出席。

教科書・参考書 教科書：睡虎地秦墓竹簡, 睡虎地秦墓整理小組, 文物出版社, 1978 年；龍崗秦簡, 中国文物研究所, 中華書局, 2001 年

メッセージ 本講義の内容は、受講生にある程度の中国語能力を要求するので、本講義において受講生の中国語の読解レベルが一層高くなることを目指しております。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国社会・経済史論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 馬彪 | | | | |

授業の概要 百年前、甲骨文の発見と同じく意味していて、20C 末～21C の初、中国古代の秦漢時代(BC.220 ~ AD.220)の出土文字資料 簡牘を大量に発見したのは、中国歴史学上に画期的な時代を迎えています。世界の第八大奇観と呼ばれている秦始皇帝の兵馬俑は考古学の大発見ですが、残念ながら今のところには文字史料が発見されていない。これと違う、出土した簡牘の史料文字は、すでに百万字を超えました。この数は『史記』の 50 万字の倍以上になる貴重な史料です。本講義は秦漢時代の簡牘と伝世文献に見る「禁苑」について紹介したいものである。 / 検索キーワード 秦漢・簡牘・禁苑

授業の一般目標 出土文字の研究によって、21 世紀における中国史研究の先端動態を説明できる目標である。

成績評価方法 (総合) レポート + 出席。

教科書・参考書 教科書：睡虎地秦墓竹簡, 睡虎地秦墓整理小組, 文物出版社, 1978 年；龍崗秦簡, 中国文物研究所, 中華書局, 2001 年

メッセージ 本講義の内容によって、受講生にはある程度の中国語能力を要求されているので、受講生の中国語の読解レベルは一層高くなることを目指しております。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国社会・経済史論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 滝野正二郎 | | | | |

授業の概要 明代の鈔関から清代の常関への変遷をたどり、それぞれの特質をさぐる。 / 検索キーワード 鈔関、常関、戸部官僚、内務府系官僚、一年任期、原額主義、請負

授業の一般目標 (1) 明清時代の内地税関について一応の知識を得る。(2) 内地税関からわかる当時の交通・商業の特質を明らかにする。(3) 内地税関にみられる当時の政府出先徴税機関の組織原理を探る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：明清時代の内地税関について一応の知識を得る。 思考・判断の観点：内地税関からわかる当時の交通・商業の特質を明らかにする。内地税関にみられる当時の政府出先徴税機関の組織原理を探る。 関心・意欲の観点：現在とはことなる組織に興味をもつ。

授業の計画(全体) 明代の鈔関の組織、徴税方式およびその時代的変遷に関してまず明らかにし、それが明末から清初にかけて他の徴税機関と統合されていくことに言及する。そして清代の常関における組織、徴税実態を明らかにし、最後に明代鈔関と清代常関を比較してその相違点を挙げる。

成績評価方法(総合) 学期末に提出するレポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書：なし。授業中にプリントを配布する。 / 参考書：明代の鈔関について：佐久間重男「明代の商税制度」、『社会経済史学』13-3, 1943 同「明代商税の本色及び折色について」、『オリエンタリカ』2, 1948 同「明代における商税と財政との関係」、『史学雑誌』65-1・2, 1956 清代の常関について：滝野正二郎および香坂昌紀の論文

メッセージ 漢文史料を紹介しつつ授業を進めるので、漢文史料に興味のある学生の聴講を望む。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | アジア文化交流史 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 滝野正二郎 | | | | |

授業の概要 長崎華商泰益号を中心として華僑による商業活動および東アジアにおける華僑ネットワークを検討する。 / 検索キーワード 華人・華僑、華商、ネットワーク、泰益号

授業の一般目標 長崎華商泰益号による商業活動等を分析し、中国人による商業経営の方式を知るとともに、東アジアにおける華僑ネットワークを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国人による商業経営に関して知識を得るとともに在外華商のネットワークを理解する。 思考・判断の観点：国民国家の枠にとらわれない人間の歴史に関して考え、「一国史観」を相対化する。 関心・意欲の観点：華僑など「マージナル・マン」ともいえる人々の活動に関心を持つ。

授業の計画（全体） 移住民社会としての中国社会から説き起こし、華僑に関する全般的な説明をしたうえで、20世紀前半長崎を拠点に活動した華商泰益号（全盛期における当主の名は陳世望）を中心として、その文書に見られる経営方式、ネットワーク形成を検討し、さらに華人の僑郷関係などにも言及する。

成績評価方法（総合） 学期末レポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書：なし。必要に応じてプリントを配布する。 / 参考書：華僑，斯波義信，岩波書店，1995年；華僑経済史，須山卓，近藤出版社，1972年；華僑社会経済論序説，市川信愛，九州大学出版会，1987年；長崎華商経営の史的研究，山岡由佳，ミネルヴァ書房，1995年；長崎華商と東アジア交易網の形成，廖赤陽，汲古書院，2000年；長崎華商貿易の史的研究，朱徳蘭，芙蓉書房，1997年 上海鼎記号と長崎泰益号，和田正広・翁其銀，中国書店，2004年

メッセージ 漢文史料、ときには漢文で書かれた文書や蘇州号碼（中国の略数字）で書かれた帳簿なども提示しつつ授業を進めるので漢文史料に興味のある学生諸君の受講を望みます。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | アジア文化交流史 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 真栄平 房昭 | | | | |

授業の概要 「東アジア海域交流史と琉球」 近年の東アジア対外関係史の動向を紹介するとともに、琉球王国をめぐる諸問題についてとりあげる。特に琉球と江戸幕府・薩摩藩との外交、明清王朝との貿易交流史をテーマとし、近世の日記・古文書・古記録類を素材として読み進めながら歴史像を解説する。 / 検索キーワード 琉球、明・清王朝、対外関係、海域史

授業の一般目標 16世紀から19世紀の東アジアの中で、近世日本の外交と貿易をめぐる諸問題について研究。日本・琉球・中国の 国境 を越えて移動するヒト、モノ、情報の交流をテーマにアジア海域ネットワークの構造的特質を明らかにし、いわゆる国民国家の枠に規定された「鎖国」史観を乗り越え、新たな歴史像の探究をめざす。

授業の計画(全体) 本講義のテーマは、「東アジア海域交流史と琉球」である。近年の歴史研究では、「海域」という広がりをもつ地域概念にもとづいて「国境」を相対化し、アジア的視野からの日本の特質を捉え直す方向にある。こうした歴史の見方をふまえ、本講義では外交・貿易・文化交流などをテーマにとりあげ、中世から近世の琉球王国に焦点をあて、学術論文や史料を適宜組み合わせながら、文献史料の読み方とその解析法などを学んでいく。

成績評価方法(総合) レポートを課す。

教科書・参考書 教科書： 図説琉球王国, 高良倉吉・田名真之, 河出書房新社, 1993 年

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 東洋史史料講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 馬彪 | | | | |

授業の概要 講義は東洋史を学びたい学生が必ず読まなければならない中国古典名著から引き取った名篇をテキストとして、担当教官の指導の下、学生たちが担当にしたがって予習し、それをレジメに書いて発表する。

授業の一般目標 学生の古代漢語を読解する能力や史料を搜集する能力を一層高めることを目標とする。

成績評価方法 (総合) 筆記試験。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 東洋史史料講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 馬彪 | | | | |

授業の概要 講義は東洋史を学びたい学生が必ず読まなければならない中国古典名著から引き取った名篇をテキストとして、担当教官の指導の下、学生たちが担当にしたがって予習し、それをレジメに書いて発表する。

授業の一般目標 学生の古代漢語を読解する能力や史料を搜集する能力を一層高めることを目標とする。

成績評価方法 (総合) 筆記試験。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 東洋史史料講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 滝野正二郎 | | | | |

授業の概要 漢口とは、明清時代、長江中流域において一大経済中心地となった大市場町である。『漢口叢談』は、塩商人であった范カイがその漢口について 1823 年ごろ著した筆記（随筆）である。この書は清朝中期における漢口という大商業都市について貴重な史料を提供している。この書を読むことによって当時の一都市における経済活動・文化活動について考察する。具体的には本書の点校本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えていくという形式で授業を進めていく。／検索キーワード 『漢口叢談』、漢口鎮、市鎮、長江中流域、士大夫と商人

授業の一般目標 (1) 漢文史料の基礎的読解力を涵養する。(2) 清代基本史料の収集・操作力を涵養する。(3) 清代地域社会の基本的な視点について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 清代の地域社会および史料読解に必要な知識をもつ。 思考・判断の観点： 史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す。 関心・意欲の観点： 原史料に関心を持つ。 態度の観点： 原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をとる。 技能・表現の観点： 漢文史料を読解する技能をもつ。

授業の計画（全体） 受講学生ごとに担当箇所を分担し、それを学生が読解し、別系統の史料と比較検討することによって分析していく。教官はそれに解説を加える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 史料解題 内容 『漢口叢談』とその著者范カイについて説明する。
- 第 2 回 項目 講読 内容 学生が史料を読み、教師が解説を加えていく。
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 試験 内容 試験

成績評価方法（総合） 期末試験と分担部分に関する発表によって評価する。

教科書・参考書 教科書：漢口叢談校釈，范カイ著・江浦ら校釈，湖北人民出版社，1990 年；テキストのコピーを配布する。／参考書：乾隆漢陽府志，陶士 等，，1747 年；同治漢陽県志，黄式度等，，1868 年；光緒漢陽県志，漢文昶等，，1884 年；民国夏口県志，侯祖ヨ等，，1920 年

メッセージ 歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業はその能力を養成する授業である。地域歴史文化論コースの東洋史分野を専攻しようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待している。上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また 予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途脱落 は厳に慎むこと。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィス
アワー：木曜日 5/6 時限

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 東洋史史料講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 滝野正二郎 | | | | |

授業の概要 漢口とは、明清時代、長江中流域において一大経済中心地となった大市場町である。『漢口叢談』は、塩商人であった范カイがその漢口について 1823 年ごろ著した筆記（随筆）である。この書は清朝中期における漢口という大商業都市について貴重な史料を提供している。この書を読むことによって当時の一都市における経済活動・文化活動について考察する。具体的には本書の点校本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えていくという形式で授業を進めていく。／検索キーワード 『漢口叢談』、漢口鎮、市鎮、長江中流域、士大夫と商人

授業の一般目標 (1) 漢文史料の基礎的読解力を涵養する。(2) 清代基本史料の収集・操作力を涵養する。(3) 清代地域社会の基本的な視点について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 清代の地域社会および史料読解に必要な知識をもつ。 思考・判断の観点： 史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す。 関心・意欲の観点： 原史料に関心を持つ。 態度の観点： 原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をとる。 技能・表現の観点： 漢文史料を読解する技能をもつ。

授業の計画（全体） 受講学生ごとに担当箇所を分担し、それを学生が読解し、別系統の史料と比較検討することによって分析していく。教員はそれに解説を加える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 前期試験の答え合わせと史料解題 内容 前期試験の答え合わせおよび解説 『漢口叢談』とその著者范カイについて説明する。
- 第 2 回 項目 講読 内容 学生が担当部分について発表し、教師が解説を加えていく。
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 試験 内容 試験

成績評価方法（総合） 期末試験と分担部分に関する発表によって評価する。

教科書・参考書 教科書： 漢口叢談校釈、范カイ著・江浦ら校釈、湖北人民出版社、1990 年；テキストのコピーを配布する。／参考書： 乾隆漢陽府志、陶士 等、, 1747 年； 同治漢陽府志、黄式度等、, 1868 年； 光緒漢陽府志、漢文昶等、, 1884 年； 民国夏口府志、侯祖ヨ等、, 1920 年

メッセージ 歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業は その能力を養成する授業である。地域歴史文化論コースの東洋史分野を専攻し ようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待している。上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また、予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途 脱落は厳に慎むこと。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィス
アワー：木曜日 5/6 時限

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国史演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 馬彪 | | | | |

授業の概要 近年来大量に出土した秦漢時代の木(竹)簡より、代表的な書類(法律文書・官署簿籍・占い書・詩賦など)を引き出して、テキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、学生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。

授業の一般目標 学生に文献史料以外出土した「第一手資料」と呼ばれる簡牘文字資料を読ませて、一層東洋史に対する研究の興味を喚起することを目標とする。

成績評価方法(総合) レポート。

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国史演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 馬彪 | | | | |

授業の概要 近年来大量に出土した秦漢時代の木(竹)簡より、代表的な書類(法律文書・官署簿籍・占い書・詩賦など)を引き出して、テキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、学生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。

授業の一般目標 学生に文献史料以外出土した「第一手資料」と呼ばれる簡牘文字資料を読ませて、一層東洋史に対する研究の興味を喚起することを目標とする。

成績評価方法(総合) レポート。

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国史演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 滝野正二郎 | | | | |

授業の概要 清代行政文書の研究。清代の行政文書「奏摺」を読み、そこから清代中期の時代像を構築する。史料のテーマは受講予定学生との相談によって決める。/ 検索キーワード 清代、奏摺、社会、行政、議論

授業の一般目標 清朝の行政文書を読み、その基礎的読解力を獲得するとともに、中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：清朝の行政文書に関する基礎的知識を獲得する。清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。 思考・判断の観点：中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について考える。 関心・意欲の観点：清代の社会、行政、社会と国家の関係に関心を持つ。 態度の観点：行政文書から社会を見通す態度をもつ。 技能・表現の観点：清朝の行政文書を扱う基礎的スキルを獲得する。

授業の計画(全体) 史料を受講生が分担して読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の社会に関する歴史像を構築する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 史料解題 内容 清代の档案、奏摺について説明する。
- 第 2 回 項目 演習 内容 担当の史料について学生が発表し、その史料に語られる問題について議論する。
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 同上 内容 同上

成績評価方法(総合) 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：宮中档雍正朝奏摺, 国立故宮博物院, 国立故宮博物院, 1977 年; 宮中档乾隆朝奏摺, 国立故宮博物院, 国立故宮博物院, 1982 年; テキストのコピーを配布する。/ 参考書：『清国行政法』, 織田萬編, 大安, 1965 年; 『清実録』, 奉勅修, 中華書局, 1985 年; 光緒欽定大清会典・会典事例, 崑岡等, 中華書局, 1963 年

メッセージ 受講生諸君の積極的な史料調査、発表、議論参加が必須である。

連絡先・オフィスアワー 研究室: 人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 木曜日 5/6 時限

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国史演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 滝野正二郎 | | | | |

授業の概要 清代行政文書の研究。清代の行政文書「奏摺」を読み、そこから清代中期の時代像を構築する。史料のテーマは受講予定学生との相談によって決める。/ 検索キーワード 清代、奏摺、社会、行政、議論

授業の一般目標 清朝の行政文書を読み、その基礎的読解力を獲得するとともに、中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：清朝の行政文書に関する基礎的知識を獲得する。清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。 思考・判断の観点：中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について考える。 関心・意欲の観点：中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について考える 態度の観点：行政文書から社会を見通す態度をもつ。 技能・表現の観点：清朝の行政文書を扱う基礎的技能を獲得する。

授業の計画（全体） 史料を受講生が分担して読み、担当者とともに議論してそこから当該時代の農業社会に関する歴史像を構築する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 史料解題 内容 清代の档案、奏摺について説明する。
- 第 2 回 項目 演習 内容 担当の史料について学生が発表し、その史料に語られる問題について議論する。
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 同上 内容 同上

成績評価方法（総合） 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：宮中档雍正朝奏摺，国立故宮博物院，国立故宮博物院，1977 年；宮中档乾隆朝奏摺，国立故宮博物院，国立故宮博物院，1982 年；テキストのコピーを配布する。/ 参考書：『清国行政法』，織田萬編，大安，1965 年；『清実録』，奉勅修，中華書局，1985 年；光緒欽定大清会典・会典事例，崑岡等，中華書局，1963 年

メッセージ 受講生諸君の積極的な史料調査、発表、議論参加が必須である。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋史概説 III | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 藤永康政 | | | | |

授業の概要 今年の西洋史概説では、黒人、インディアン、ラティーノ、女性、アジア系の歴史に重きをおきながら、1年を通して建国期からクリントン政権期までのアメリカ社会を考察する。

授業の一般目標 ・歴史学の方法論について理解を深める ・今日の歴史学が進んでいる方向への理解を深める ・アメリカ社会への理解を深める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：アメリカ史・アメリカ文化の特徴を説明できる 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく、それを理解しつつも乗り越えていく思考法を身につける 関心・意欲の観点：歴史、わけてもマイノリティの歴史に興味をもつ 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが自分の学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション 内容 授業の進行方法に関するガイダンス
- 第 2 回 項目 ヒップホップ文化とアメリカ黒人の運動 (1) 内容 ヒップホップの歴史と現代アメリカ社会
- 第 3 回 項目 ヒップホップ文化とアメリカ黒人の運動 (2) 内容 映画 Tupac Ressurrection 鑑賞
- 第 4 回 項目 ヒップホップ文化とアメリカ黒人の運動 (3) 内容 黒人社会の分極化
- 第 5 回 項目 小レポート批評会 授業外指示 小レポート提出
- 第 6 回 項目 植民地期のアメリカと独立革命 内容 アメリカ合衆国憲法の史的意義
- 第 7 回 項目 比較奴隷制史とアンテベラム南部 内容 南北戦争以前の南部社会
- 第 8 回 項目 理解度確認 授業外指示 質問ノートを提出
- 第 9 回 項目 南北戦争
- 第 10 回 項目 南部再建期 内容 南北戦争の「戦後処理」
- 第 11 回 項目 理解度確認 授業外指示 質問ノートを提出
- 第 12 回 項目 『金ぴか時代のアメリカ』 内容 東南欧系移民の歴史と労働運動
- 第 13 回 項目 デュボイス・ワシントン論争 内容 黒人運動指導者のヴィジョンとその対立
- 第 14 回 項目 デュボイス・ワシントン論争 (2) 内容 ディベート
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法 (総合) (1) 小レポートを求めるときがある (2) 授業末にレポートの提出を求める

教科書・参考書 参考書：参考文献については、授業中適宜指示する。

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfuji@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋史概説 IV | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 藤永康政 | | | | |

授業の概要 今年の西洋史概説では、黒人、インディアン、ラティーノ、女性、アジア系の歴史に重きをおきながら、1年を通して建国期からクリントン政権期までのアメリカ社会を考察する。/ 検索キーワード 奴隷制度、近代、アメリカ

授業の一般目標 ・歴史学の方法論について理解を深める ・今日の歴史学が進んでいる方向への理解を深める ・アメリカ社会への理解を深める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：アメリカ史・アメリカ文化の特徴を説明できる 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく、それを理解しつつも乗り越えていく思考法を身につける 関心・意欲の観点：歴史、わけてもマイノリティの歴史に興味をもつ 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが自分の学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進行方法に関するガイダンス
- 第 2 回 項目 前期の授業の復習
- 第 3 回 項目 革新主義の時代
- 第 4 回 項目 「帝国主義」の時代におけるアメリカ
- 第 5 回 項目 理解度確認 授業外指示 質問ノートの提出
- 第 6 回 項目 第 1 次世界大戦
- 第 7 回 項目 黒人人口の大移動 (1) 内容 人口移動の社会政治的背景
- 第 8 回 項目 黒人人口の大移動 (2) 内容 ガーヴィ主義の擡頭
- 第 9 回 項目 理解度確認 授業外指示 質問ノートの提出
- 第 10 回 項目 1920 年代のアメリカ 内容 ジャズ・エイジの諸相
- 第 11 回 項目 アメリカのナショナル・アイデンティティの変化 内容 文化多元主義の登場
- 第 12 回 項目 第 2 次世界大戦と公民権運動 内容 黒人の視点からみた国家総動員戦
- 第 13 回 項目 公民権運動 内容 公民権運動概説
- 第 14 回 項目 理解度確認 授業外指示 質問ノートの提出
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法 (総合) (1) 小レポートを求めるときがある (2) 授業末にレポートの提出を求める

教科書・参考書 参考書：参考文献は、授業中適宜指示する

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | ヨーロッパ史 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 尼川創二 | | | | |

授業の概要 【19世紀末までのロシア史の展開】9世紀のキエフ国家の成立から反体制知識人たちが「人民主義」の革命運動を開始し挫折した19世紀末のロシア帝国の状況までのロシア史を通観するが、ロシアの反体制知識人たちが常に意識した西ヨーロッパの国家・社会の歴史とロシアのそれとの対比も絶えず行うようにしたい。

授業の一般目標 専制正治と農奴制を特徴とするロシア帝国が何ゆえ、またどのようにして形成されたのか、そして19世紀末に始まりもなく挫折する人民主義者の革命運動がいかなる問題点を内包していたかについての理解を深める。西ヨーロッパとロシアでの国家・社会の形成課程および反体制運動の類似点と相違点にも留意する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：授業の一般目標の点について知識をもち、理解する。 思考・判断の観点：授業の一般目標の点について自分で深く考えて見る。 関心・意欲の観点：ロシアとヨーロッパの歴史について強い関心を持つ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 ロシアの自然環境とその影響 1
- 第 3 回 項目 ロシアの自然環境とその影響 2
- 第 4 回 項目 キエフ国家の成立
- 第 5 回 項目 キエフ国家の崩壊
- 第 6 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ 1 軍事的中央集権国家の出現
- 第 7 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ 2 農奴制の形成
- 第 8 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ 3 農奴制の確立
- 第 9 回 項目 皇帝と貴族
- 第 10 回 項目 ラジーシチェフとデカブリストたち
- 第 11 回 項目 スラブ主義者対西欧主義者の大論争
- 第 12 回 項目 ゲルツェン「ロシア社会主義」論
- 第 13 回 項目 農奴開放と人民主義運動
- 第 14 回 項目 人民主義の思想家たち
- 第 15 回 項目 人民主義運動の展開と挫折

成績評価方法 (総合) 授業外レポート 100点。無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。

教科書・参考書 教科書：用いない。適宜プリントを配布する。 / 参考書：授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | ヨーロッパ史 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 尼川創二 | | | | |

授業の概要 【ロシア革命の考察】19 世紀の末に人民主義に代わってマルクス主義がロシアの革命的 インテリゲンツィアの心を捉え始めたのはなぜなのか。1902 年にレーニンが提起した党 組織論はどのような問題点を孕んでいたか。社会主義革命が、資本主義の発達した西欧 においてではなく、発展途上国ロシアで達成されたのはなぜなのか。そもそも西欧で社 会主義革命を目指す大きな動きが生じなかったのはなぜだろう。レーニンに率いられた ボリシェヴィキ党(共産党の前身)がロシアの革命勢力の中心になりえたのはなぜか。 同党とロシアの労働者、農民、少数民族との関係はどのようであったか。同党が革 命体 制形成過程で逢着した問題はなんであったのか。その革命体制はのちに出現するスター リンの強権 的政治体制とどの点でつながり、どの点で断絶しているのか。 こうした 問題を考えてみたい。

授業の一般目標 概要に記したような諸問題の考察を通じて、ロシア革命についての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ロシア革命について知識を得、理解を深める。 思考・判断の観 点：ロシア革命の原因・経過・結果について自分で考えてみる。 関心・意欲の観点：ロシアとヨーロッ パの歴史に強い関心をもつ。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大
- 第 2 回 項目 ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大
- 第 3 回 項目 レーニンの党組 織論
- 第 4 回 項目 ボリシェヴィキ とメンシェヴィキ
- 第 5 回 項目 西欧における革 命運動の退潮
- 第 6 回 項目 1905 年革命
- 第 7 回 項目 1917 年の 2 月革命
- 第 8 回 項目 2 月革命から 10 月革命へ
- 第 9 回 項目 創建期ソヴィエ ト政府の諸政策
- 第 10 回 項目 内戦の勃発
- 第 11 回 項目 「戦時共産主 義」
- 第 12 回 項目 内戦の終結、「戦時共産主 義」の続行、農 民反乱
- 第 13 回 項目 ネット (新経済 政策) への転 換、共産党一党 独裁の完成
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法 (総合) 授業外レポート 100 点。無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。

教科書・参考書 教科書：用いない。適宜プリントを配付する。 / 参考書：授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | ヨーロッパ史 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 朝治 啓三 | | | | |

授業の概要 イングランド中世国制史 - アングロ・サクソン時代からバラ戦争まで

授業の一般目標 イングランド中世史に関する基本的歴史事実を修得すること，重要事件の歴史的意義を認識すること，イングランド史研究が我が国の歴史研究に与えた影響，などを目標とする。主として講義を聞き，ノートをとる形式で行う。時おり，資料(邦文・英文)を講読する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： イングランド政治史上の基本的事項の習得 思考・判断の観点： 国制史の方法の習得，政治史や法制史との方法上の違いの認識 関心・意欲の観点： イングランド政治史上の事件の持つ，ヨーロッパ全体の中での位置づけ，また日本の近代国制史との関連性の習得

授業の計画(全体) 1. 政治史と国制史の棲み分け，イギリス史の中のイングランド中世史の位置づけ(1回) 2. ケルト時代からアングロ・サクソン時代まで(2～3回) 3. ノルマン征服から12世紀前半まで(2回) 4. アンジュー帝国の成立からマグナ・カルタまで(2～3回) 5. マグナ・カルタからエドワード1世治世末まで(3回) 6. 百年戦争とバラ戦争期の国制(3～4回)

成績評価方法(総合) 期末レポートと，授業中に課す小レポートによって評価します。

教科書・参考書 教科書：『概説イギリス史』，青山吉信・今井宏編，有斐閣，1991年 / 参考書：『世界各国史11・イギリス史』，川北稔編，山川出版社，1998年；『シモン・ド・モンフォールの乱』，朝治啓三，京都大学学術出版会，2003年

メッセージ 西洋史の知識が無くても受講可能です。出席を重視します。

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | アメリカ史 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 藤永康政 | | | | |

授業の概要 アメリカの人種関係を根底から変化させた 1960 年代の公民権運動について、史料をもとに、考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較や、現代のアメリカ文化やアメリカ社会への理解を深めながら、「60 年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。
/ 検索キーワード アメリカ、黒人。社会運動

授業の一般目標 (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける 関心・意欲の観点：現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

授業の計画(全体) できれば前・後期通年の受講が望ましい

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進行方法に関するガイダンス
- 第 2 回 項目 今日のアメリカの人種関係 内容 戦後の黒人の歴史の概説
- 第 3 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (1) 内容 ミシシッピで行われた運動の概説
- 第 4 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 5 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 6 回 項目 ブラック・パワーと都市暴動 (1) 内容 北部における黒人の運動の概説
- 第 7 回 項目 ブラック・パワーと都市暴動 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 8 回 項目 ブラック・パワーと都市暴動 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 9 回 項目 シカゴ・フリーダム・ムーブメント (1) 内容 シカゴの黒人の運動の概説
- 第 10 回 項目 シカゴ・フリーダム・ムーブメント (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 11 回 項目 シカゴ・フリーダム・ムーブメント (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 12 回 項目 デトロイトにおける運動 (1) 内容 デトロイト都市研究史概説
- 第 13 回 項目 デトロイトにおける運動 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 14 回 項目 デトロイトにおける運動 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

教科書・参考書 教科書：Voices of Freedom, Henry Hampton and Steve Fayer, Penguin, 1990 年；教科書販売場所：大学生協

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfuji@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | アメリカ史 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 藤永康政 | | | | |

授業の概要 アメリカの人種関係を根底から変化させた1960年代の公民権運動について、史料をもとに、考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較や、現代のアメリカ文化やアメリカ社会への理解を深めながら、「60年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。
/ 検索キーワード アメリカ、黒人、社会運動

授業の一般目標 (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける 関心・意欲の観点：現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進行方法に関するガイダンス
- 第 2 回 項目 今日のアメリカの人種関係 内容 戦後の黒人の歴史の概説
- 第 3 回 項目 ブラック・パンサー党の歴史 (1) 内容 急進化した黒人の運動の概説
- 第 4 回 項目 ブラック・パンサー党の歴史 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 5 回 項目 ブラック・パンサー党の歴史 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 6 回 項目 COINTELPRO (1) 内容 黒人急進派の弾圧政策の概説
- 第 7 回 項目 COINTELPRO (2) 内容 連邦議会盗聴史料解説
- 第 8 回 項目 モハメド・アリの表象 (1) 内容 アリの人物史概説
- 第 9 回 項目 モハメド・アリの表象 (2) 内容 文字史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 10 回 項目 モハメド・アリの表象 (3) 内容 ドキュメンタリー When We Were the Kings 鑑賞
- 第 11 回 項目 ディスカッション 内容 テーマ「第3世界と黒人の運動」
- 第 12 回 項目 公民権法制定後のアメリカ黒人の政治運動 (1) 内容 今日的問題の概説
- 第 13 回 項目 公民権法制定後のアメリカ黒人の政治運動 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 14 回 項目 公民権法制定後のアメリカ黒人の政治運動 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んでくる
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法 (総合) 毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

教科書・参考書 教科書：Voices of Freedom, Henry Hampton and Steve Frayer., Penguin, 1990年；教科書販売場所：大学生協

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfuji@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

| | | | | | |
|------|------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋史学講読(英語) | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 藤永康政 | | | | |

授業の概要 アメリカ史関係の論文や学術書の書評誌 *Reviews in American History* に掲載されたものの中から、授業参加者の研究関心に適した英語論文を選択し、精読を行う。/ 検索キーワード 英語、アメリカ史

授業の一般目標 (1) 英語を英語で理解し、速読ができるようになる (2) 史料と論文の読み方の違いを体得する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 論文の主な論点を早くつかめるようになる。 思考・判断の観点: 論文の構造、論理を理解できるようになる

授業の計画(全体) できれば前期・後期通年での受講が望ましい

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODakクシヨN 内容 授業の進行方法に関するガイダンス
- 第 2 回 項目 翻訳の技法 (1)
- 第 3 回 項目 翻訳の技法 (2)
- 第 4 回 項目 論文読解 (1)
- 第 5 回 項目 論文読解 (2)
- 第 6 回 項目 論文読解 (3)
- 第 7 回 項目 論文読解 (4)
- 第 8 回 項目 論文読解 (5)
- 第 9 回 項目 論文読解 (6)
- 第 10 回 項目 論文読解 (7)
- 第 11 回 項目 論文読解 (8)
- 第 12 回 項目 論文読解 (9)
- 第 13 回 項目 史料読解 (1)
- 第 14 回 項目 史料読解 (2)
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 授業での発言を何よりも重視する。したがって、予習なしに出席し、質問・問いかけに答えられない場合、出席とはみなさないし、単なる「出席点」は与えない。

教科書・参考書 教科書: 翻訳の方法, 川本皓嗣, 東京大学出版会, 1997年; 教科書販売場所: 大学生協

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡しえください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス: yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水: 11時50分から12時50分

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋史学講読（英語） | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 藤永康政 | | | | |

授業の概要 アメリカ史関係の論文や学術書の書評誌 *Reviews in American History* に掲載されたものの中から、授業参加者の研究関心に適した英語論文を選択し、精読を行う。 / 検索キーワード 英語、アメリカ史

授業の一般目標 (1) 英語を英語で理解し、速読ができるようになる (2) 史料と論文の読み方の違いを体得する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：論文の主な論点を早くつかめるようになる。 思考・判断の観点：論文の構造、論理を理解できるようになる

授業の計画（全体） できれば前期・後期通年での受講が望ましい

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN
- 第 2 回 項目 翻訳の技法 (1)
- 第 3 回 項目 翻訳の技法 (2)
- 第 4 回 項目 論文読解 (1)
- 第 5 回 項目 論文読解 (2)
- 第 6 回 項目 論文読解 (3)
- 第 7 回 項目 論文読解 (4)
- 第 8 回 項目 論文読解 (5)
- 第 9 回 項目 論文読解 (6)
- 第 10 回 項目 論文読解 (7)
- 第 11 回 項目 論文読解 (8)
- 第 12 回 項目 論文読解 (9)
- 第 13 回 項目 史料読解 (1)
- 第 14 回 項目 史料読解 (2)
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法 (総合) 授業中の発言を最重視する。したがって、予習もせずに授業に参加しても、質問や問いかけに答えられないならば、出席とはみなさない。

教科書・参考書 教科書：翻訳の方法, 川本皓嗣, 東京大学出版会, 1997 年 ; 教科書販売場所：大学会館内ブックセンター（紀伊國屋書店）

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡しえください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス : yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水 : 11 時 50 分から 12 時 50 分

| | | | | | |
|------|--------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋史学講読(ドイツ語) | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 松永 和生 | | | | |

授業の概要 ドイツの通史を講読する。テキストとして、ヴァイマル期からナチス期にかけての通史で写真や図表が多数挿入してある Pleticha, Heinrich (hrsg.), Deutsche Geschichte の第 11 巻を使用する。授業では、単に独文和訳で終わるのではなく、歴史を研究していく上で重要と思われる事項について教員から補足説明をしたり、受講生に用語等をさらに踏み込んで調べてもらうことしたい。

授業の一般目標 講読に際しては、辞書を何度も何度も引くようになるが、まずはこの忍耐を要する作業を乗り切ることである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語の読解能力を高め、ドイツや国際関係の歴史について理解を深める。

授業の計画(全体) テキストを読んで訳していく。各自の担当箇所は必ず予習しておくこと。年間を通じての受講が望ましい。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 テキスト講読
- 第 3 回 項目 テキスト講読
- 第 4 回 項目 テキスト講読
- 第 5 回 項目 テキスト講読
- 第 6 回 項目 テキスト講読
- 第 7 回 項目 テキスト講読
- 第 8 回 項目 テキスト講読
- 第 9 回 項目 テキスト講読
- 第 10 回 項目 テキスト講読
- 第 11 回 項目 テキスト講読
- 第 12 回 項目 テキスト講読
- 第 13 回 項目 テキスト講読
- 第 14 回 項目 テキスト講読
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 出席点 50% + 期末試験 50%

教科書・参考書 教科書：テキストは上記のコピーを配布する。 / 参考書：参考書類は必要に応じて紹介する。

連絡先・オフィスアワー 質問等があれば、できるだけ授業の終了時をお願いしたい。それ以外では、地域発展計画研究者機構(Tel/Fax 083-923-6204)まで。

| | | | | | |
|------|--------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋史学講読(ドイツ語) | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 松永 和生 | | | | |

授業の概要 前期に引き続き、ヴァイマル期からナチス期にかけての通史を講読する。テキストは、Pleticha, Heinrich (hrsg.), Deutsche Geschichte の第 11 巻を使用する。

授業の一般目標 辞書を繰り返し引いて、ドイツ語に慣れる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: ドイツ語の読解能力を高め、ドイツや国際関係の歴史について理解を深める。

授業の計画(全体) 前期と同じく、テキストを読んで訳していく。各自の担当箇所は必ず予習しておくこと。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 テキスト講読
- 第 3 回 項目 テキスト講読
- 第 4 回 項目 テキスト講読
- 第 5 回 項目 テキスト講読
- 第 6 回 項目 テキスト講読
- 第 7 回 項目 テキスト講読
- 第 8 回 項目 テキスト講読
- 第 9 回 項目 テキスト講読
- 第 10 回 項目 テキスト講読
- 第 11 回 項目 テキスト講読
- 第 12 回 項目 テキスト講読
- 第 13 回 項目 テキスト講読
- 第 14 回 項目 テキスト講読
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 出席点 50% + 期末試験 50%

教科書・参考書 教科書: テキストは上記のコピーを配布する。 / 参考書: 参考書類は必要に応じて紹介する。

連絡先・オフィスアワー 質問等があれば、できるだけ授業の終了時にお願いしたい。それ以外では、地域発展計画研究者機構(Tel/Fax 083-923-6204)まで。

| | | | | | |
|------|---------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋史学講読(フランス語) | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 尼川創二 | | | | |

授業の概要 学生諸君はおそらくフランス語を学び始めたばかりであろうから、史料や研究書ではなく、比較的平易なフランスの高等学校の歴史教科書を読んでいく。テキストは Jean- Michel Lambin (dir.), Histoire Seconde, Paris, Hachette, 2001 である。

授業の一般目標 辞書を用いて初・中級程度のフランス語の文章を正確にそして早く読み取ることができるようになる。これが第1の目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: (1) フランス語の読解能力を高める。(2) ヨーロッパ史、特にフランス史の基礎知識を習得する。

授業の計画(全体) テキストのコピーを受講生に配付し、充分予習させた上で、14週にわたって読み進む。最後に期末試験(仏和辞典持込可)を行なう。

教科書・参考書 教科書: 上記のとおり。 / 参考書: 適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 4階 409、尼川研究室(TEL:933-5227;E-mail:amak@yamaguchi-ac.jp)

| | | | | | |
|------|---------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋史学講読(フランス語) | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 尼川創二 | | | | |

授業の概要 前期と同じ。

授業の一般目標 前期と同じ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 前期と同じ。

授業の計画(全体) 前期と同じ(続き)。

成績評価方法(総合) 期末試験と出席点(無断欠席1回につきマイナス5点)。

教科書・参考書 教科書： 前期と同じ(続き) / 参考書： 適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 4 階、尼川研究室(TEL:933-5227;E-mail:amak@yamaguchi-u.ac.jp)

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋史演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 尼川創二 | | | | |

授業の概要 3・4年生を対象としている。毎回各自が関心をもっているテーマについて発表してもらい、それぞれの発表ののち、研究史の把握、問題点の摘出、素材の用い方、論のはこび方、等々について出席者全員で討議し、検討する。

授業の一般目標 学生の自発的な研究意欲を高めるとともに、相互批判を通じてそれぞれの研究を改善し深化させていくこと、

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の発表テーマについての知識・理解が充分であること。 思考・判断の観点： 問題点を見出すことができ、それについて深く考え、的確な判断をくだせること。 関心・意欲の観点： 研究対象に強い関心をもっていること。 技能・表現の観点： 適切な発表の仕方を心得ていること。

授業の計画（全体） 毎回1人または2人の学生に発表してもらう。期末試験は実施しないが、最後に各自のそれまでの研究のまとめと今後の展望を記したレポートを提出してもらおう。

成績評価方法（総合） 平常点が90点。レポートが10点。無断欠席1回につきマイナス5点。

連絡先・オフィスアワー 人文学部4階、尼川研究室（TEL:933-5227;E-mail:amak@yamaguchi-u.ac.jp）

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋史演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 尼川創二 | | | | |

授業の概要 前期と同じ。

授業の一般目標 前期と同じ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の発表テーマについての知識・理解が充分であること。 思考・判断の観点： 問題点を見出すことができ、それについて深く考え、的確な判断をくだせること。
 関心・意欲の観点： 研究対象に強い関心をもっていること。 技能・表現の観点： 適切な発表の仕方を心得ていること。

授業の計画（全体） 前期と同じ。ただし、4年生については学期末のレポートを免除する。

成績評価方法（総合） 3年生：平常点 90 点。レポート 10 点。 4年生：平常点 100 点。 無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 4 階、尼川研究室（TEL:933-5227;E-mail:amak@yamaguchi-u.ac.jp）

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋史演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 藤永康政 | | | | |

授業の概要 3, 4年生を対象(それ以外の学年でも、単位は与えないが、傍聴は歓迎する)とし、米英諸地域の歴史について演習を行う。3年生は、現在最先端の歴史学認識を把握することを目的に、学术论文を精読する。4年生は、卒業論文の研究報告をお粉ル。なお講読論文は、参加者の関心にしたがって決定する / 検索キーワード ゼミ、アメリカ史

授業の一般目標 (1) 歴史学諸理論の把握 (2) 理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ (3) 時代錯誤の研究、背理の考察、イデオロギーに染まりきった設問を考察することにならないように、「問い」のたてかたを学ぶ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める 思考・判断の観点: 歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 日本語論文を読む
- 第 3 回 項目 日本語論文を読む
- 第 4 回 項目 日本語論文を読む
- 第 5 回 項目 日本語論文を読む
- 第 6 回 項目 英語論文を読む
- 第 7 回 項目 英語論文を読む
- 第 8 回 項目 英語論文を読む
- 第 9 回 項目 英語論文を読む
- 第 10 回 項目 英語論文を読む
- 第 11 回 項目 英語論文を読む
- 第 12 回 項目 英語論文を読む
- 第 13 回 項目 英語論文を読む
- 第 14 回 項目 英語論文を読む
- 第 15 回 項目 英語論文を読む

成績評価方法(総合) 授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そのみを評価基準とする。

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス: yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水: 11時50分から12時50分

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋史演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 藤永康政 | | | | |

授業の概要 3 . 4 年生を対象 (それ以外の学年でも、単位は与えないが、「傍聴」は歓迎する) とし、米英諸地域の歴史について演習を行う。3 年生は、現在最先端の歴史学理論を把握することを目的に、学術論文を読む。4 年生は、卒業論文の研究の報告を行う。なお論文は、参加者の関心にしたがって決定する。 / 検索キーワード ゼミ、アメリカ史

授業の一般目標 (1) 歴史学諸理論の把握 (2) 理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ (3) 時代錯誤の研究、背理の考察、イデオロギーに染まりきった設問を考察することにならないように、「問い」のたてかたを学ぶ (4) 4 年生は卒業論文を完成する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める 思考・判断の観点：歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 3 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 4 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 5 回 項目 英語論文を読む
- 第 6 回 項目 英語論文を読む
- 第 7 回 項目 英語論文を読む
- 第 8 回 項目 英語論文を読む
- 第 9 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 10 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 11 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 12 回 項目 英語論文を読む
- 第 13 回 項目 英語論文を読む
- 第 14 回 項目 英語論文を読む
- 第 15 回 項目 英語論文を読む

成績評価方法 (総合) 授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そのみを評価基準とする。

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス : yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水 : 11 時 50 分から 12 時 50 分

人文社会学科 社会情報論コース

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会学概論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 横田尚俊 | | | | |

授業の概要 社会学における基本概念と理論的視角、並びにそれらを通して現実の社会や具体的な社会現象がどのように分析・解明されるのかという点を学ぶ。前期には、主に現代産業社会のマクロな構造と過程について概観する。/ 検索キーワード 社会的行為、社会構造、社会変動、近代化、社会階層、官僚制、情報化・消費化社会

授業の一般目標 (1) 社会学の基本概念や理論的視角を学ぶ。(2) 社会学の概念と方法を用いて、現代社会の構造と変動を解明する。

授業の計画(全体) 社会学の歴史、基本概念、現代社会の構造と変動について学んでいく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会学の研究对象としての「社会」
- 第 2 回 項目 社会学の誕生
- 第 3 回 項目 社会学の成立と発展
- 第 4 回 項目 社会学の成立と発展(2)
- 第 5 回 項目 社会学の成立と発展(3)
- 第 6 回 項目 近代化と産業化
- 第 7 回 項目 産業社会と階級・階層
- 第 8 回 項目 産業社会と階級・階層(2)
- 第 9 回 項目 産業社会と官僚制組織
- 第 10 回 項目 高度産業化と「ゆたかな社会」
- 第 11 回 項目 産業社会における中心的価値観の変容
- 第 12 回 項目 「情報化・消費化社会」の成立
- 第 13 回 項目 高度産業社会のゆくえ
- 第 14 回 項目 高度産業社会のゆくえ(2)
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 定期試験 50% 出席 40% 小レポート・授業への参加度 10%

教科書・参考書 教科書: 教科書を使用せず、資料のプリントにそって授業を進める。/ 参考書: 社会学講義, 富永健一, 中央公論新社(中公新書), 1995年; 社会学小辞典, 浜嶋朗ほか, 有斐閣, 1997年; クロニクル社会学, 那須壽, 有斐閣, 1997年; 現代社会学講義, 佐藤慶幸, 有斐閣, 1999年; 社会学(第4版), A. ギデンズ, 而立書房, 2004年; できるだけ『社会学小辞典』を用意し、授業に出てくる用語、人名などを各自で調べてほしい。その他の参考文献は、授業のなかで適宜紹介する。

メッセージ 社会学概論の講義内容は、前期と後期で相互に関連しているので、できれば年間を通して受講することが望ましい。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3階 307 室

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会学概論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | | | | | |

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会学の方法としての社会調査
- 第 2 回 項目 社会調査の歴史
- 第 3 回 項目 中範囲理論と社会学的想像力 内容 科学的目的の社会調査
- 第 4 回 項目 量的調査と質的調査 内容 社会調査方法の選択
- 第 5 回 項目 統計調査に見る家族の変容 内容 官庁統計・統計データ
- 第 6 回 項目 現代家族の諸問題 内容 質的調査の実際
- 第 7 回 項目 統計調査にみる地域社会の変容 内容 官庁統計・統計データ
- 第 8 回 項目 都市社会のモノグラフ（シカゴ学派の事例研究） 内容 事例調査の実際
- 第 9 回 項目 スラム社会の社会構造（ストリートコーナーソサエティ） 内容 参与観察の実際
- 第 10 回 項目 現代都市の諸問題 内容 質的調査の実際
- 第 11 回 項目 社会階層と社会移動（SSM調査から） 内容 統計的調査の実際
- 第 12 回 項目 社会移動と生活構造 内容 統計的調査の実際
- 第 13 回 項目 生活意識と生活問題 内容 統計的調査の実際
- 第 14 回 項目 フィールド調査の楽しみと調査倫理 内容 社会調査の責任と貢献
- 第 15 回 項目 社会学と社会調査
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 小谷典子 | | | | |

授業の概要 産業社会の成立と変容における企業組織と企業家の関わりを、企業家の経営理念とそのよりどころに焦点をおいて、事例を紹介しながら考察する。前期は西洋社会における事例を中心に考える。

／検索キーワード 産業社会、企業フィランソロピー、企業組織、企業の社会的責任

授業の一般目標 現代社会における企業組織の社会的責任や企業の社会貢献活動の実態を理解する。その背景をなす、企業家の経営理念をさぐる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：企業組織の社会貢献活動についての理解を深める 思考・判断の観点：企業活動の光と陰について考える 関心・意欲の観点：企業の社会活動や経営理念について関心を持つ 態度の観点：身近な企業組織に目を向けるようになる

授業の計画（全体） 企業の社会的責任や企業の社会貢献活動の背後にある企業家の経営倫理の実態について紹介し、企業家のフィランソロピーの可能性を考える

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 産業社会と社会学の成立
- 第 2 回 項目 マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
- 第 3 回 項目 企業家のフィランソロピー 事例 1
- 第 4 回 項目 企業家のフィランソロピー 事例 2
- 第 5 回 項目 産業社会の変質「富裕にいたる道」
- 第 6 回 項目 ダニエル・ベル『資本主義の文化的矛盾』
- 第 7 回 項目 産業社会のゆくえ
- 第 8 回 項目 貨幣経済と都市の成長
- 第 9 回 項目 都市研究の実験室としてのシカゴ
- 第 10 回 項目 社会事業家ジェーンアダムスと「ハルハウス」
- 第 11 回 項目 シカゴにおけるロータリークラブの誕生
- 第 12 回 項目 国際的奉仕団体としてのロータリー
- 第 13 回 項目 ロータリアンの意識と行動
- 第 14 回 項目 企業家ボランティア現状
- 第 15 回 項目 企業家ボランティアの可能性を求めて

成績評価方法（総合） 出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

教科書・参考書 参考書：企業の社会貢献とコミュニティ，三浦典子，ミネルヴァ書房，2004 年；プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神，M．ヴェーバー，岩波書店，1991 年；その他適宜紹介する

メッセージ できれば前期・後期続けて受講してほしい

連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 小谷典子 | | | | |

授業の概要 日本における企業家の経営理念と企業の社会的貢献活動を中心に、企業組織とコミュニティの関わりを、具体的な事例を紹介しながら考察する / 検索キーワード 日本的経営、企業の社会貢献、企業フィランソロピー、企業市民性

授業の一般目標 現代社会における企業組織の社会的責任や企業の社会貢献活動の実態を知り、企業組織とコミュニティのかかわりを認識し、地域社会における一市民としての企業組織の可能性について考える。後期は特に日本における企業家の経営理念に注目し、前期の西洋社会との比較検討を試みる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：企業の社会貢献についての理解を深める 思考・判断の観点：企業活動の光と陰について考える 関心・意欲の観点：企業の社会貢献活動について関心を持つ 態度の観点：身近な企業の社会貢献活動に目を向けるようになる

授業の計画（全体）日本における企業家の経営理念と企業の社会貢献活動の実態を明らかにし、西洋社会における企業家のフィランソロピーとの比較検討を試みる

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本的企業フィランソロピー
- 第 2 回 項目 近江商人の家訓
- 第 3 回 項目 渋沢栄一の経済道徳合一説
- 第 4 回 項目 日本的経営理念の源流
- 第 5 回 項目 企業家の社会貢献 事例 1
- 第 6 回 項目 企業家の社会貢献 事例 2
- 第 7 回 項目 経営組織の変容『社会にやさしい企業』
- 第 8 回 項目 近代的経営における社是・社訓
- 第 9 回 項目 企業の社会的責任
- 第 10 回 項目 企業のステークホルダーとしての地域社会
- 第 11 回 項目 地域社会における企業の社会貢献活動の現状
- 第 12 回 項目 企業市民性の可能性
- 第 13 回 項目 マックスヴェーバーの比較宗教社会学
- 第 14 回 項目 経営理念にみる比較社会論
- 第 15 回 項目 まとめ「公と私」

成績評価方法（総合）出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

教科書・参考書 参考書：企業の社会貢献とコミュニティ, 三浦典子, ミネルヴァ書房, 2004 年; その他適宜紹介する

メッセージ 前期・後期続けて受講してほしい

連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 藤村 正之 | | | | |

授業の概要 「学問の1番バッター」ともいえる社会学は、当該社会の現代的特質を把握することを、その目的のひとつとしています。高度産業社会の進展は、私たちの生活や価値観を固定的なものから選択可能なものに作り替えてきました。しかし、生活を通じて社会構造の影響にさらされる私たちは、思うほど自由気ままな人生を歩めるわけではありません。資源・人間関係・規範がからまった緊張関係のただ中にあるのが、私たちの日々の生活でもあります。本講義では、現代社会の特質を日常のさまざまな視点から考察することで、社会の多様性と厚みについて皆さんと考えていきたいと思えます。

授業の一般目標 a. 社会変動の基礎理論を理解する。 b. 現代社会の特性を複数の観点から理解する。 c. 社会的現実を社会学の理論を用いて分析する事例にふれる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：歴史と社会構造を結びつけていく社会学想像力・社会学感覚の養成。社会学の基礎概念と発想について理解を深める。 思考・判断の観点：社会学の基礎概念や発想を自ら駆使して、日常現象についての思考力・分析力を養う。

授業の計画(全体) 全体を5ブロックにわけて講義していく。(1)社会変動の基礎的理解と日本への適用[1~3回](2)家族・人口・世代の変動理解[4~6回](3)人間をとりまく媒体や現象の変動理解[7~9回](4)社会の性質の変容と方向性[10~12回](5)社会学の役割の再確認[13回]。基本的には講義中心となりますが、可能な限り、ビデオ/プリント資料を使用して、皆さんにイメージをもちやすいものにしていきたいと考えています。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 社会変動の理論1 内容 基礎概念と発想について紹介。
- 第2回 項目 社会変動の理論2 内容 同上
- 第3回 項目 戦後日本の社会変動と生活変動 内容 日本の変化を簡潔に紹介。
- 第4回 項目 少子高齢化社会 内容 人口構造の変化を考察する。
- 第5回 項目 世代とライフコース 内容 時代とコーホートの関係について理解する。
- 第6回 項目 生と死の社会学 内容 人生の始まりと終わりへの関心の高まりについてふれる。
- 第7回 項目 高度消費社会と社会階層 内容 消費行動と階層化、グローバル化の影響を考察する。
- 第8回 項目 メディア社会 内容 個電化・モバイル化の生活への影響を考察する。
- 第9回 項目 ジェンダーとセクシュアリティ 内容 性現象理解の深まりと多様化する現実を理解する。
- 第10回 項目 福祉国家と福祉社会 内容 再編される福祉制度と福祉多元化の方向性を考える。
- 第11回 項目 リスク社会 内容 社会認識の現代的変化の一例として。
- 第12回 項目 市民活動・NPO・社会資本 内容 人々の日常的なつながりが作り出す社会変動の可能性を考察する。
- 第13回 項目 社会学の現代的役割 - 関係性への視点
- 第14回 項目 全体総括1
- 第15回 項目 全体総括2

成績評価方法(総合) 集中講義のため、主に最終の筆記試験によって評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する予定。 / 参考書：つながりの哲学・ジンメル, 菅野 仁, NHK 出版, 2003 年; 希望格差社会, 山田昌弘, 筑摩書房, 2004 年; ケータイ学入門, 岡田朋之・松田美佐編, 有斐閣, 2002 年; 福祉国家の再編成, 藤村正之, 東京大学出版会, 1999 年; 非日常を生み出す文化装置, 嶋根克己・藤村正之編, 北樹出版, 2001 年

メッセージ 難かしいことはわかりやすく、楽しいことは真剣に考えていく習慣を身につけたいものです。

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代政治社会論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 瀧瀬厚 | | | | |

授業の概要 戦後日本社会の急激な変容は、戦後日本人の意識構造にも決定的な影響を及ぼした。本講義では、そのなかで特に戦争観や平和観の変容に焦点を当て、考察を加えていく。それは同時に戦後日本人の政治観や国家観をも問う試みとしてもある。そのことを通して、最終的には国家と人間、市民社会と市民の相互関係の理想的かつ合理的な関係を模索していきたい。 / 検索キーワード 戦争認識 平和認識 歴史認識 意識変容

授業の一般目標 (1) 戦争観や平和観が何を媒介として形成されていくか認識を深める。(2) 国家や社会を対象化する手法を獲得していく。(3) 自らの言葉で戦争・平和・国家・社会を語れる素養を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 戦争や平和の歴史事実を再確認し、論証することができる。2. 本テーマで主体的な議論を展開できる。3. 本テーマについて、独自性ある小論文を作成できる。

思考・判断の観点: 1. 戦争や平和が国家による恣意的な判断によってのみ結果されるものではなく、そこに民衆の意識が介在していることが指摘できる。2. 戦争や平和の内実を決定するものは、民衆自身であることが自覚できる。 関心・意欲の観点: 1. 自らの社会的立場を客観的に把握する手段として、現代史への関心と社会事象への興味を持つ。2. 21世紀が再び戦争の時代であるとする認識を持つ。 態度の観点: 1. 既存の歴史認識や社会認識の有り様に疑問を持つ。2. 他者との言語や文章を媒体とするコミュニケーションに関心を持つ。

授業の計画(全体) 戦後日本に表出した戦争観や平和観の変容を具体的に例示する。それを踏まえて、より多くの文献・資料を活用しながら、そこに見出される日本人の意識構造を浮き彫りにしていく。テキストは、瀧瀬厚著『侵略戦争 歴史事実と歴史認識』(筑摩書房、1999年刊)など。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本人の戦争観の変容(1) 内容 1) 戦争観の転換を迫る者 2) 日本人の戦争観の実際 3) 時代と戦争観の変容 授業外指示 テキスト『侵略戦争』の精読と配布レジュメによる事前学習(以下、毎回同様の指示をする)
- 第 2 回 項目 日本人の戦争観の変容(2) 内容 4) 戦争観の形成と政治的文化的状況 5) 戦争認識を阻害するもの
- 第 3 回 項目 時代の変容と戦争認識の変容 内容 1) 1950年代の特色 2) 風化の政治的時代的背景と原因
- 第 4 回 項目 アジア太平洋戦争の総括をめぐって 内容 1) 「太平洋戦争の呼称をめぐって」 2) 解放戦争論の登場
- 第 5 回 項目 戦後の戦争と日本人 内容 1) 朝鮮戦争論 2) ベトナム戦争論
- 第 6 回 項目 日本再軍備をめぐる国論の動き 内容 1) 戦争アレルギーと軍隊アレルギー 2) 日米安保の受容過程
- 第 7 回 項目 戦争責任論の登場とアジア民衆からの批判 内容 1) 戦争責任論 2) 過去の克服
- 第 8 回 項目 軍隊慰安婦問題への反応 内容 1) いま、なぜ軍隊慰安婦問題か 2) アジア民衆の対日批判
- 第 9 回 項目 教科書問題に示された日本の戦争・平和観(1) 内容 1) 教科書問題 2) 歴史修正主義グループの意味
- 第 10 回 項目 教科書問題に示された日本の戦争・平和観(2) 内容 3) 歴史修正主義批判の展開 4) 教科書問題への世論の動き
- 第 11 回 項目 湾岸戦争とイラク戦争時における日本人の戦争観(1) 内容 1) 戦後日本人の戦争観の変容から現代の戦争への視点を探る

- 第12回 項目 湾岸戦争とイラク戦争時における戦争観(2) 内容 2) 現代の戦争観を通して保守化・右傾化する日本人の政治歴史意識の実際を検証する
- 第13回 項目 総括と補論(1) 内容 1) 歴史は乗り越えられないのか～歴史の克服と清算の問題に触れて～
- 第14回 項目 総括と補論(2) 内容 2) 歴史創造の主体と客体という問題
- 第15回 項目 総括と補論(3) 内容 3) 社会科学は何処まで政治から自由であるのか

成績評価方法(総合) 何よりも、自らの言葉と論理で課題の説明と展開を説得的に論述できる能力を身につけているかを重視します。そこでは、講義の理解と事前学習によって蓄積された知識や情報を消化する技量が問われます。

教科書・参考書 教科書：『侵略戦争』, 纈纈 厚, 筑摩書房, 1999年; 有事体制論, 纈纈 厚, インパクト出版会, 2004年; 現代の戦争, 纈纈厚他, 岩波書店, 2003年; 戦争と平和の政治学, 纈纈厚, 北樹出版, 2005年; 文民統制 自衛隊はどこに行くのか, 纈纈厚, 岩波書店, 2005年 / 参考書: 検証・新ガイドライン安保体制, 纈纈厚, インパクト出版会, 1998年; 周辺事態法, 纈纈厚, 社会評論社, 2000年; 現代政治の課題, 纈纈厚, 北樹出版, 2001年; 有事法制とは何か, 纈纈厚, インパクト出版会, 2002年; 有事法制の罠にだまされるな, 纈纈厚, 凱風社, 2002年

メッセージ 現代社会に内在する矛盾をどこまで指摘可能か思考せよ

連絡先・オフィスアワー 纈纈厚 koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM 1:00-2:30

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代政治社会論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 纈纈厚 | | | | |

授業の概要 現代の政治社会における人間の所在と位置について考察していく。そこでは国家と人間、社会と人間、組織と人間などを大きなテーマとして設定しつつ、現代社会における人間の営みの理想型を模索していく。 / 検索キーワード 政治的人間 政治の人間化 国家・社会と人間

授業の一般目標 「人間は政治的かつ社会的な存在」である限り、私たちは政治とは無縁で有り得ない。まらば、政治社会にあって、これと豊かにコミットしていくための処方箋が不可欠である。本講義は、言うならばその処方箋探しの場となるであろう。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：この社会に生きる全ての人間は「政治的人間」あることを理解する。すなわち、複雑化する一方の現代社会にあって、政治との正面からの向き合いなしには、自らの生存も精神も、そして、思想や行動の自由を獲得できないことを自覚することである。 思考・判断の観点：他者同調型ではなく、自立・自由・自治の観点からする思考・判断が、いまほど求められている時代はないがゆえに、そのための学習の深化を期待したい。 関心・意欲の観点：あらゆる社会事象に鋭い嗅覚を持って対峙し、的確な選択を実行するためには、あらゆる事象への関心を抱き、解析する意欲を内在化させる方法を発見することである。 態度の観点：自らが得た知識・情報の的確性を確認するためには他者との相互的交流が不可欠である。その意味で積極的に他者との関わりを持続すべきことの大切さを身につけたい。 技能・表現の観点：自ら取得した知識・情報を他者に向けて発信するための表現能力の向上が強く求められている。書く力、読む力、伝える力をあらゆる機会を通して獲得すべきである。

授業の計画（全体） 多義にわたるテーマ及び課題を提示していくので、毎回レジュメを配布していく。受講生諸君は講義に臨むにあたって事前にレジュメの精読が求められる。レジュメと講義と自らの思考という循環によって、政治社会に果敢にコミットし、豊かなコミュニケーション能力を獲得して欲しい。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 国家・社会・組織と人間の関わり方とは 内容 国家とは何かをめぐって
- 第 2 回 項目 「政治社会」とはどのような社会を言うのか 内容 国家・社会とのスタンスの取り方
- 第 3 回 項目 企業社会と人間を結ぶもの 内容 企業社会の中で
- 第 4 回 項目 企業国家と日本人 内容 日本株式会社を超えて
- 第 5 回 項目 近代化・資本主義化と人間 内容 上からの近代化と共同体秩序の形成
- 第 6 回 項目 国家主義・愛国主義・愛郷主義と人間 内容 ファシズム・イデオロギーへの取り込み
- 第 7 回 項目 戦後民主主義の変容と展望 内容 戦後民主主義は人間を解放したか
- 第 8 回 項目 自由・安全・平等の思想と観念のゆくへ 内容 動員・統制・管理の思想と観念との対抗
- 第 9 回 項目 高度経済成長と成長神話のなかで 内容 大国ナショナリズムの形成から私生活主義まで
- 第 10 回 項目 競争社会と差別社会の諸相 内容 競争と差別が生み出される戦後日本の意識
- 第 11 回 項目 学歴社会と階層社会の実態 内容 高度学歴社会化と階層社会化の帰結
- 第 12 回 項目 政治の人間化と人間の政治化との間（1） 内容 政治と人間の対抗と融合をめぐって
- 第 13 回 項目 政治の人間化と人間の政治化との間（2） 内容 政治と人間の対抗融合をめぐって
- 第 14 回 項目 全体の纏めと討論（1）
- 第 15 回 項目 全体の纏めと討論（2）

成績評価方法（総合） 何よりも、自らの言葉と論理で課題の説明と展開を説得的に論述できる能力を身につけているかを重視します。そこでは、講義の理解と事前学習によって蓄積された知識や情報を消化する技量が問われます。

教科書・参考書 教科書：戦争と平和の政治学、纈纈厚、2005年 / 参考書：『侵略戦争』、纈纈厚、筑摩書房、1999年；有事体制論、纈纈厚、インパクト出版会、2004年；現代の戦争、纈纈厚他、岩波書

店, 2003 年 ; 文民統制 自衛隊はどこに行くのか, 瀧 厚, 岩波書店, 2005 年 ; 近代日本政軍関係の研究, 瀧 厚, 岩波書店, 2005 年

メッセージ 君は、政治の解体と創造への道程をどうつけるのか

連絡先・オフィスアワー E-mail koketu@yamaguti-u.ac.jp、電話 933 - 5278、研究室 411 - 2、オフィスアワー木曜日 P M 1:00 - 2:30

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | コミュニティ論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 横田尚俊 | | | | |

授業の概要 近代以降、家族はどのような変容をとげてきたのか。晩婚化・未婚化、少子高齢化が進む中で家族はどこへ向かおうとしているのか。家族を取り巻くマクロ社会変動や、家族とコミュニティ(地域社会)との関係にも配視しながら、現代家族の諸相とそのゆくえについて検討を加えてみたい。 / 検索キーワード 家族、家、村、伝統家族、近代家族、結婚、家族の個人化

授業の一般目標 (1) 社会学の視点から、家族の特質や変容について理解を深める。(2) 現代家族の諸問題を把握するとともに、データをもとに家族のゆくえについて考える。

授業の計画(全体) 家族の特質と変容、現代家族の諸問題などについて、社会学における家族研究の成果を参照しながら考察する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション、家族とコミュニティ 内容 授業の進め方の説明
- 第 2 回 項目 家族とは何か
- 第 3 回 項目 近代家族の特質
- 第 4 回 項目 伝統家族とコミュニティ
- 第 5 回 項目 伝統家族とコミュニティ(続き)
- 第 6 回 項目 日本における近代家族の形成と発展
- 第 7 回 項目 日本における近代家族の形成と発展(続き)
- 第 8 回 項目 日本における近代家族の形成と発展(続き)
- 第 9 回 項目 結婚の変容 「家族の戦後体制」のゆらぎ
- 第 10 回 項目 結婚の変容 「家族の戦後体制」のゆらぎ (続き)
- 第 11 回 項目 結婚の変容 「家族の戦後体制」のゆらぎ (続き)
- 第 12 回 項目 家族の教育機能とその変容
- 第 13 回 項目 家族の教育機能とその変容(続き)
- 第 14 回 項目 現代家族のゆくえ
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 定期試験(論述式) 50% 出席 40% 小レポート・授業参加度 10%

教科書・参考書 教科書: 教科書は特に使用しない。 / 参考書: 家と村の社会学, 鳥越皓之, 世界思想社, 1993年; 21世紀家族へ(新版), 落合恵美子, 有斐閣, 1998年; 日本人のしつけは衰退したか, 広田照幸, 講談社, 1999年; 家族(講座社会学2), 目黒依子ほか, 東京大学出版会, 1999年; パラサイト社会のゆくえ, 山田昌弘, 筑摩書房, 2004年; その他の参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

メッセージ 時間的に余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども積極的に利用したい。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 小谷典子 | | | | |

授業の概要 都市研究の理論と現代都市の問題について、テキストに基づき、各自レポートし、それぞれの研究課題について議論しながら、現代都市に関する関心を深める。 / 検索キーワード 都市化、グローバル化、都市コミュニティ、都市のエスニシティ

授業の一般目標 現代社会の構造と変動を、都市社会に視点を置いて理解する。そこから派生する関心ある社会問題を見つけ出し、社会学的な分析方法を身につける

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：都市社会の研究に関する知識と理解を深める 思考・判断の観点：現代都市に関する現状を判断する 関心・意欲の観点：現代都市に関する関心を深める 研究テーマを明確化する

授業の計画(全体) テキストや参考文献を分担して、レポートし、その研究課題について議論していく

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 課題報告 1
- 第 3 回 項目 課題報告 2
- 第 4 回 項目 課題報告 3
- 第 5 回 項目 課題報告 4
- 第 6 回 項目 課題報告 5
- 第 7 回 項目 課題報告 6
- 第 8 回 項目 研究テーマ中間 報告
- 第 9 回 項目 課題報告 7
- 第 10 回 項目 課題報告 8
- 第 11 回 項目 課題報告 9
- 第 12 回 項目 課題報告 1 0
- 第 13 回 項目 課題報告 1 1
- 第 14 回 項目 課題報告 1 2
- 第 15 回 項目 都市研究の方法と現代都市の問題を考える する

成績評価方法(総合) 出席、報告、最終レポートを総合的に評価する

教科書・参考書 教科書：都市社会学入門 - - 都市社会研究の理論と技法 - - , 園部雅久・和田清美編著, 文化書房博文社, 2004 年 / 参考書：適宜紹介する

メッセージ 小谷を指導教官とする 4 年生は必ず受講すること

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 小谷典子 | | | | |

授業の概要 各自の研究テーマを明確にし、テーマに基づく文献を読み、レポートし、研究課題について議論しながら、現代社会に関する関心を深める。 / 検索キーワード 近代化、都市化、社会変動、現代社会 社会問題

授業の一般目標 現代社会と社会問題に関する文献を各自読み込み、理解し、各自の研究テーマを明確化する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代社会に関する知識と理解を深める 思考・判断の観点：現代社会と社会問題に関する現状を判断する 関心・意欲の観点：現代社会に関する関心を深める 研究テーマを明確化する

授業の計画（全体） 参考文献についてレポートし、研究課題について議論していく

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 課題報告 1
- 第 3 回 項目 課題報告 2
- 第 4 回 項目 課題報告 3
- 第 5 回 項目 課題報告 4
- 第 6 回 項目 課題報告 5
- 第 7 回 項目 課題報告 6
- 第 8 回 項目 研究課題中間報告会
- 第 9 回 項目 課題報告 7
- 第 10 回 項目 課題報告 8
- 第 11 回 項目 課題報告 9
- 第 12 回 項目 課題報告 1 0
- 第 13 回 項目 課題報告 1 1
- 第 14 回 項目 課題報告 1 2
- 第 15 回 項目 現代社会と社会 変動を総括 する

成績評価方法（総合） 出席、報告、最終レポートを総合的に評価する

教科書・参考書 参考書： 適宜紹介する

メッセージ 小谷を指導教官とする 4 年生は必ず受講すること

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 横田尚俊 | | | | |

授業の概要 1990 年代以降、旧来の公共性の観念を再検討し、新たな公共性を構築しようという試みが社会科学全般において注目を集めるようになった。その背景には、グローバル化と行財政危機、地方分権、公共事業の見直し、NPO とボランティアへの期待といった日本社会そのものを大きく変貌させるような諸動向が複雑にからまりあいながら存在している。この演習では、社会学における公共性論の動向を理解するとともに、公共性とは何かを改めて考えるために、テキストを受講生全員で読み、議論していく。並行して、4 年生には各自の卒論テーマに基づく報告をしてもらい、他の受講生との間で質疑・応答を行う。/ 検索キーワード 公共性、中間集団、NPO、福祉社会、ボランティアセクター、アソシエーション、卒業論文

授業の一般目標 (1) 公共性とは何か、新しい公共性観念とはどのようなものか、という点を、社会学の視点から理解する。(2) 公共性観念の再検討が行われるようになってきた社会的背景を理解する。(3) 卒業論文のテーマを設定し、論文作成に必要な文献・データを収集する(4 年生)

授業の計画(全体) 以下のテキストを受講生全員で読んでいく。授業は、受講生による報告、質疑、討論によって進められていく。また、時間があれば、自発的な市民公益活動に取り組んでいるグループ・人々にお話を伺う機会をつくり、具体的な実践の現場で公共性観念がどのように変化していているのかを探ってみたい。4 年生には、各自の卒論のテーマに基づく研究成果を披露してもらう。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方について
- 第 2 回 項目 NPO と新しい公共性
- 第 3 回 項目 NPO と新しい公共性
- 第 4 回 項目 少子高齢化と支え合う福祉社会
- 第 5 回 項目 少子高齢化と支え合う福祉社会、家族と世代から見た公共性
- 第 6 回 項目 家族と世代から見た公共性
- 第 7 回 項目 きびしい拘束下で多様性を生きる社会
- 第 8 回 項目 きびしい拘束下で多様性を生きる社会
- 第 9 回 項目 ボランティアセクターと社会システムの変革
- 第 10 回 項目 ボランティアセクターと社会システムの変革
- 第 11 回 項目 ボランティアな行為と社会秩序
- 第 12 回 項目 ボランティアな行為と社会秩序
- 第 13 回 項目 NPO が開く公共性
- 第 14 回 項目 NPO が開く公共性
- 第 15 回 項目 課題レポート

成績評価方法 (総合) 出席 40 % 報告・授業参加度 40 % 課題レポート(必須) 20 %

教科書・参考書 教科書：公共哲学7 中間集団が開く公共性、佐々木毅・金泰昌ほか、東京大学出版会、2002 年 / 参考書：公共哲学 11 自治から考える公共性、佐々木毅・金泰昌ほか、東京大学出版会、2004 年；その他の参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する

メッセージ 初回の授業で、テキストの入手法や授業の進め方などについて説明するので、必ず初回に出席すること。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 横田尚俊 | | | | |

授業の概要 地域社会学の視点から、現代地域社会の構造・変動・諸問題に考察を加える。テキストを読みながら、受講生自身による報告と質疑、討論によって授業は進められていく。同時に、3年生には、卒業論文作成に備えて、各自の研究テーマに沿った研究報告をしてもらう。／検索キーワード 地域社会、農業問題、環境問題、開発、福祉、エスニシティ、NPO

授業の一般目標 (1) 現代地域社会の構造・変動や諸問題を社会的に分析し理解することを目標とする。(2) 各自の研究テーマを深め、卒業論文作成の準備を進める。

授業の計画(全体) 以下のテキストを受講生全員で読んでいく。授業は、受講生による報告、質疑、討論によって進められていく。時間があれば、自治体のまちづくり拠点などを訪問して、見学したりお話をうかがったりする機会をつくりたいと考えている。また、3年生には、授業の後半に、卒業論文の作成をにらんで、各自の研究テーマに基づく報告をしてもらう予定である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方の説明
- 第 2 回 項目 地域社会へのまなざし
- 第 3 回 項目 農業問題と地域社会
- 第 4 回 項目 工業と地域社会
- 第 5 回 項目 開発と地域社会
- 第 6 回 項目 環境問題と地域社会
- 第 7 回 項目 地域社会と教育
- 第 8 回 項目 ジェンダーと地域社会
- 第 9 回 項目 福祉と地域社会
- 第 10 回 項目 エイジングと地域社会
- 第 11 回 項目 エスニシティと地域社会
- 第 12 回 項目 情報・メディアと地域社会
- 第 13 回 項目 ガバナンスと地域社会
- 第 14 回 項目 NPO と地域社会
- 第 15 回 項目 課題レポート

成績評価方法(総合) 出席 40% 報告・授業への参加度 40% 課題レポート(必須) 20%

教科書・参考書 教科書: 地域社会へのまなざし, 大久保武・中西典子, 文化書房博文社, 2006年 / 参考書: 参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

メッセージ 初回の授業で、テキストの入手法や授業の進め方などについて説明するので、必ず初回に出席すること。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

| | | | | | |
|------|------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 社会学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 横田尚俊 | | | | |

授業の概要 本演習では、4年生の卒業論文作成に向けた指導を行う。/ 検索キーワード 卒業論文、社会学

授業の一般目標 受講生が、自分自身で設定した研究課題にしたがって、卒業論文を執筆できるようにする。

授業の計画(全体) 受講生には、卒業論文作成に必要な資料・データや文献を渉猟した上で、研究報告をしてもらう。報告に対して、受講生全員で質疑と討論を行い、卒業論文の構想と内容を肉付けしていく。また、報告と並行して、実際に卒業論文の執筆に入ってもらおう。

成績評価方法(総合) 出席・報告 100%

教科書・参考書 教科書: 教科書は特に使用しない。/ 参考書: 参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

メッセージ 受講生の卒業論文提出のスケジュールに鑑みて、正規の演習は12月初旬で終了し、以降は各自の進度に応じた個別指導を実施する。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

| | | | | | |
|------|----------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 現代政治社会学演習(3年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 3年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 瀧澤厚 | | | | |

授業の概要 いま、日本社会はポスト冷戦の時代と言う名の「第二の戦後」を迎えている。1950年代以降の日本社会は、冷戦構造に規定されてきた特殊日本的な社会構造を特質としている。その社会構造のなかで現行憲法の平和主義に形骸化が公然と進められ、安保が憲法に優越する存在としてすら存在してきた。同時に、冷戦構造に後押しされた戦後日本の保守体制と保守思想は、日本社会をして「経済的繁栄」を結果させる一方で、種々の非人権的な諸相を様々な領域で露呈させる要因ともなった。唯一の「冷戦構造の受益者」としての日本人は、冷戦構造を背景として成立した軍事政権の権威主義的支配に苦しめられているアジア民衆との間に埋めがたい距離を創り上げてきた。その日本人も、戦後社会に冷戦構造を支えにもたらされた高度成長経済体制のなか、企業によって支配された日本国家に対置する自己を確立し得ないまま、依然として「市民」としての意識も行動力も持ち得ていない。本演習では、こうした問題意識を念頭に据えつつ、以下のようなテーマで出席者全員で報告と討論を重ねていきたいと思う。/ 検索キーワード 国家 社会 市民

授業の一般目標 出席者が現状分析において明確に自己の見解を表明できるようになること、相互のコミュニケーションに果敢に取り組むスタンスを身につけることを第一の目標としていきたい。そして、論旨が明快な文章執筆能力の向上に資するために新聞記事の解読など並行して進めていく。

授業の計画(全体) 3年次演習の成果として年度末には瀧澤ゼミ誌『現代政治社会学論集』への寄稿を義務づける。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 戦後保守体制論
- 第2回 項目 保守イデオロギーと国家イデオロギー
- 第3回 項目 権威的支配構造と企業社会論
- 第4回 項目 日本株式会社論を超えて
- 第5回 項目 国家暴力装置の実態
- 第6回 項目 現代官僚制の問題点
- 第7回 項目 安保体制・安保構造・安保文化
- 第8回 項目 安保と憲法の強制的共存
- 第9回 項目 戦後国家論の展開
- 第10回 項目 閉塞する戦後日本社会
- 第11回 項目 日本人の国際認識
- 第12回 項目 現代マスコミの課題と展望
- 第13回 項目 マス・メディアとジャーナリズム
- 第14回 項目 情報社会と人権
- 第15回 項目 世論とマスコミ

成績評価方法(総合) 報告内容と討論への参加態度

教科書・参考書 教科書：現代の戦争, 瀧澤厚, 岩波書店, 2002年; 戦争と平和の政治学, 瀧澤厚, 北樹出版, 2005年 / 参考書：検証・新ガイドライン安保体制, 瀧澤厚, インパクト出版会, 1998年; 周辺事態法, 瀧澤厚, 社会評論社, 2000年; 現代政治の課題, 瀧澤厚, 北樹出版, 2001年; 有事法制とは何か, 瀧澤厚, インパクト出版会, 2002年; 有事法制の罠にだまされるな, 瀧澤厚, 凱風社, 2002年

メッセージ 徹底した議論と思考の向こうに見えるものは何か

連絡先・オフィスアワー E-mail koketu@yamaguchi-u.ac.jp、電話 933 - 5278、研究室 411 - 2、オフィスアワー 木曜日 PM 1:00 - 2:30

| | | | | | |
|------|----------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 現代政治社会学演習(3年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 3年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 瀬藤厚 | | | | |

授業の概要 前期での報告を踏まえて、年度末までに以下の日程で瀬藤ゼミ誌『現代政治社会科学論集』に寄稿する小論種の執筆に全力をあげる。従って、後期の報告内容は、小論文の区尾性内容を前提としたものとする。/ 検索キーワード 説得的かつ論理的な論述

授業の一般目標 10月より各自の報告を行う。12月8日(日米開戦日)までに草稿を完成させる。1月28日までに完全原稿を提出する。2月から編集作業を開始し、3月初旬に発行する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 自ら主体的に選択した課題対象にアクセスし、調査・精読などの作業を通して表現する技法を身につける。最終的には小論文(400字で30枚以上)を執筆し、瀬藤ゼミ機関誌『現代政治社会論』に掲載することを課す。 思考・判断の観点: 問題対象にアクセスする場合、借り物ではない自分の思考を徹底する習慣を身につける。 関心・意欲の観点: 常に社会問題全般に目配りし、そこに孕まれた課題や矛盾を切開しようとする動機付けを行う。

授業の計画(全体) 報告内容と小論集で評価する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 報告者のテーマ設定と報告の順番を決定する。
- 第2回 項目 出席者による報告と相互批判(以下同様)
- 第3回
- 第4回
- 第5回
- 第6回
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

メッセージ 書くことの喜びを共に分かち合おう

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 研究室 TEL.933-5278

| | | | | | |
|------|----------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 現代政治社会学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 瀬瀬厚 | | | | |

授業の概要 演習参加者各自の問題意識がクリアに反映された課題を設定し、文献・資料を収集・精読する作業を通して卒業論文の作成を目標とする。 / 検索キーワード 主体的選択 独自の分析

授業の一般目標 社会学領域の論文の執筆活動を通して、将来逞しい「市民」として自立していくための機会とする。そこでは大いなる批判精神や説明能力の習得を求めたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 課題選択への前提条件として情報へのアクセスを果敢に行い、知識取得に取り組む姿勢の確保を第一とする。 思考・判断の観点： 主体的に選択した課題の分析を自らの言葉と方法で明らかにし、相互討論を通して自己評価できる能力を身につける。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 報告者の順番を決定。
- 第 2 回 項目 以下、順次報告と討論を重ねていく。
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

メッセージ 逞しい「市民」への第一歩を！

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

| | | | | | |
|------|----------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 現代政治社会学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 瀬藤厚 | | | | |

授業の概要 説得的かつr論理的な論文の執筆/検索キーワード 時代への批判精神をどう養うか

授業の一般目標 論文の作成と瀬藤ゼミ誌『現代政治社会論』の発行

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

第1回 項目 各自のテーマ設定と広告順の決定

第2回 項目 以下、報告

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

メッセージ 君は君自身を越えられるか

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

| | | | | | |
|------|----------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 現代政治社会学演習(3年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 3年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 山本真弓 | | | | |

授業の概要 情報化社会と言われるなかで、マスコミが流す情報の中身を考え、情報がわたしたちの思考・価値観・世界観に与えている影響を考察する。具体的には、新聞や雑誌(国内外)の記事を通して、情報の取舍選択のあり方、情報の扱い方、それらの国内外における違いを扱う。

授業の一般目標 今日の国際社会の情報を、日本のメディアだけでなく、外国のメディアでどのように報道されているかについて考え、情報のあり方、文化や視点の違いによる物事の捉えかたの違いを考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 新聞・雑誌記事を読んで、内容を理解すること。 思考・判断の観点: 比較考察し、自分を相対化できるようになること。 関心・意欲の観点: 不明点を積極的に自分で調べること。 態度の観点: 授業に出席し、議論に積極的に参加すること。発表、提出物など、役割をきちんと果たすこと。 技能・表現の観点: 口頭発表と文章表現ができること。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに
- 第2回 項目 講義1
- 第3回 項目 発表1
- 第4回 項目 討論1
- 第5回 項目 講義2
- 第6回 項目 発表2
- 第7回 項目 討論2
- 第8回 項目 講義3
- 第9回 項目 発表3
- 第10回 項目 討論3
- 第11回 項目 講義4
- 第12回 項目 発表4
- 第13回 項目 討論4
- 第14回 項目 まとめ
- 第15回 項目 予備

成績評価方法(総合) 出席、および授業への参加、ならびに最後のレポートを含めて総合的に判断する。

メッセージ 時事問題(国際問題)に関心をもってください。

| | | | | | |
|------|----------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 現代政治社会学演習(3年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 3年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 山本真弓 | | | | |

授業の概要 3年生対象。卒論執筆のために論文の書き方を学ぶ。実際のテーマ選びと方法論の決定、目次作成などを通して、各自が自らの論の構成を披露し、参加者が質問するなどして詰めて行く。

授業の一般目標 卒業論文のたたき台になるようなレポート作成を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らの論の背景となる一般的知識を獲得し、理解していること。

思考・判断の観点：論理的思考ができること。 関心・意欲の観点：問題意識が明確であること。

態度の観点：自らの研究だけでなく、他人の研究発表にも積極的に関与し、意見を述べること。 技能・

表現の観点：社会科学用語が使いこなせていて、かつ論理的文章表現ができること。

授業の計画(全体) 各自が自分のテーマに関する研究史、研究論文を発表し、自らの研究課題について報告する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告1
- 第2回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告2
- 第3回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告3
- 第4回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告4
- 第5回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告5
- 第6回 項目 各自の研究発表と討論1
- 第7回 項目 各自の研究発表と討論2
- 第8回 項目 各自の研究発表と討論3
- 第9回 項目 各自の研究発表と討論4
- 第10回 項目 各自の研究発表と討論5
- 第11回 項目 各自の研究発表と討論6
- 第12回 項目 各自の研究発表と討論7
- 第13回 項目 各自の研究発表と討論8
- 第14回 項目 各自の研究発表と討論9
- 第15回 項目 全体討論と今後の予定

成績評価方法(総合) 出席、授業への参加度、期末のレポートによる総合的評価。

| | | | | | |
|------|----------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 現代政治社会学演習（4年生） | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 山本真弓 | | | | |

授業の概要 4年生の卒論演習。

授業の一般目標 問題設定を明確にし、方法論とテーマの整合性を図る。

成績評価方法 (総合) 出席と卒論予備レポートの提出

| | | | | | |
|------|----------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 現代政治社会学演習（4年生） | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 山本真弓 | | | | |

授業の概要 4年生の卒論演習

授業の一般目標 論理がきちんと展開されていて、論文としての文章がきちんと書けていること

成績評価方法 (総合) 出席

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会学調査実習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 小谷典子 | | | | |

授業の概要 社会学的社会調査の計画と実査をふまえ、各自で調査調査結果の分析ができるようにする。そのために調査方法を学び、仮説の検証のための社会調査を実施する。 / 検索キーワード 社会調査、統計的調査、事例調査、調査票作成、フィールド調査

授業の一般目標 問題意識を明確にし、社会調査の計画をし、事例に対する聞き取り調査、調査結果の分析をし、レポートを作成する。 アンケート調査のデータ処理の方法を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：社会調査の概要について理解する 思考・判断の観点：仮説の検証の方法の有効性を考える 関心・意欲の観点：社会現象を切り取る方法に関心を持つ 技能・表現の観点：社会調査の実践の技術を身につける

授業の計画(全体) 仮説を設定し、それにふさわしい社会調査の方法を決定し、調査の対象を設定し、社会調査を実践する。調査結果の利用を考えながら、調査結果の集計、整理を行う

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会調査の設計 1 内容 問題の決定と調査方法の検討
- 第 2 回 項目 社会調査の対象 内容 具体的な調査対象の決定
- 第 3 回 項目 社会調査の方法 の 1 内容 先行研究を検討
- 第 4 回 項目 社会調査の方法 2 内容 先行研究の検討 から仮説を設定し調査方法を確定する
- 第 5 回 項目 社会調査の計画 1 内容 調査方法の検討
- 第 6 回 項目 社会調査の計画 2 内容 調査項目の検討
- 第 7 回 項目 社会調査の計画 3 内容 調査項目の作成
- 第 8 回 項目 社会調査の計画 4 内容 調査対象の決定
- 第 9 回 項目 社会調査の実施 1 内容 フィールド調査 の計画
- 第 10 回 項目 社会調査の実施 2 内容 フィールド調査 の実施
- 第 11 回 項目 社会調査の実施 3 内容 フィールド調査 の実施
- 第 12 回 項目 社会調査の実施 4 内容 フィールド調査 の総括
- 第 13 回 項目 調査結果の集約 1 内容 データ処理の方法を学ぶ
- 第 14 回 項目 調査結果の集約 2 内容 データ処理
- 第 15 回 項目 調査結果の集約 3 内容 調査結果のまとめ

成績評価方法(総合) 出席と、社会調査実習への参加、調査結果を取りまとめたレポートを総合的に評価する

教科書・参考書 参考書：社会調査へのアプローチ：論理と方法 (Minerva text library ; 10), 大谷信介 [ほか] 編著, ミネルヴァ書房, 1999 年; 大谷信介ほか編『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 1999 年

メッセージ 出席と実習への参加を義務とする

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会学調査実習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 横田尚俊 | | | | |

授業の概要 具体的な調査テーマを設定し、社会調査の方法にしたがって、調査を実施する。調査テーマの設定、テーマにかかわる資料収集と事前学習、調査手法の検討、調査票の設計、ラポール、調査によるデータの収集と整理・分析、調査報告書の執筆、という一連のプロセスを、実習形式で修得していく。取り上げるテーマは、「環境問題と住民活動」、「災害と地域社会」、「市民活動と地域社会」、「まちづくりと地域社会形成」のいずれかを予定している。調査手法としては、主に聞き取り調査を採用する予定である（テーマについてはあくまで予定であり、変更する場合もありうる）。 / 検索キーワード 社会調査、質的調査、聞き取り調査、調査項目、調査票

授業の一般目標 社会調査の方法を学習し、受講生自身が、グループで協力しあいながら、社会調査を企画・実践できるようにする。

授業の計画（全体） 社会調査の一連の過程を実践する。受講生各自で分担して調査データを分析し、調査報告書の形にまとめる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション（授業の進め方についての説明）
- 第 2 回 項目 調査テーマの設定と確認 / 調査スケジュールの検討
- 第 3 回 項目 調査テーマに関する資料収集、事前学習
- 第 4 回 項目 調査テーマに関する資料収集、調査方法の検討、調査倫理について
- 第 5 回 項目 調査項目の検討と抽出
- 第 6 回 項目 調査票の作成
- 第 7 回 項目 調査票の設計と再検討
- 第 8 回 項目 調査スケジュールの検討及びラポール、調査マナーの確認
- 第 9 回 項目 調査によるデータ収集
- 第 10 回 項目 調査によるデータ収集
- 第 11 回 項目 調査によるデータ収集
- 第 12 回 項目 調査データの処理・整理
- 第 13 回 項目 調査データの処理・整理
- 第 14 回 項目 調査データの分析 / 報告書目次（案）と執筆分担の決定
- 第 15 回 項目 調査データの分析 / 報告書の執筆

成績評価方法（総合） 授業への参加度（調査のプロセス・作業への参加） 50 % 授業内での発表 20 % 調査レポート 30 %

教科書・参考書 教科書：テキストは特に使用しない。 / 参考書：社会学小辞典，浜嶋朗ほか，有斐閣，1997年；社会調査，森岡清志，日本評論社，2000年；社会調査へのアプローチ（第2版），大谷信介ほか，ミネルヴァ書房，2005年；その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

メッセージ 調査実施期間中は、正規の授業時間以外にもある程度の時間を費やさなければならない。受講生には、あらかじめこの点を了解してほしい。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会心理学概論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 高橋征仁 | | | | |

授業の概要 社会心理学は、社会学や心理学のみならず、人類学、政治学等々の学問からなる非常に学際的な研究領域である。この講義では、「ケータイ」という日常的な題材を取り上げながら、これまでの社会心理学研究における基本的問題や知見について紹介していく。 / 検索キーワード 社会心理学 コミュニケーション ケータイ

授業の一般目標 1) 社会心理学の基礎概念について学ぶ 2) 社会心理学の学説史を学ぶ 3) 社会心理学の多様なアプローチについて学ぶ 4) 現代社会の諸問題と社会心理学のかかわりを考える

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会心理学入門
- 第 2 回 項目 社会心理学の誕生
- 第 3 回 項目 社会心理学の課題
- 第 4 回 項目 ケータイから学ぶということ
- 第 5 回 項目 メディア変容へのアプローチ
- 第 6 回 項目 都市空間とケータイ
- 第 7 回 項目 ケータイ・コミュニケーションの特性
- 第 8 回 項目 中間考察
- 第 9 回 項目 ケータイに映る「わたし」
- 第 10 回 項目 ケータイ利用から見えるジェンダー
- 第 11 回 項目 ケータイの流行学
- 第 12 回 項目 ケータイとうわさ
- 第 13 回 項目 モバイル社会のゆくえ
- 第 14 回 項目 青少年とケータイ
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：ケータイ学入門, 岡田朋之・松田美佐編, 有斐閣, 2002 年

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会心理学概論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 辻 正二 | | | | |

授業の概要 社会心理学においては、社会調査はきわめて重要な意味を持っている。本講義では、社会調査に必要な理論と技法について学ぶ。 / 検索キーワード 調査設計、仮説構成、質問文、標本調査、調査技法

授業の一般目標 (1) 社会心理学に必要な社会調査の方法についての知識、技法について学ぶ。(2) 社会調査を実施するまでの基本的知識、調査票の作成方法、サンプリング方法などの知識・技法を修得する

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会心理学と調査 (1) 内容 社会心理学と社会調査、社会調査はなぜ必要か
- 第 2 回 項目 現代社会と社会調査 内容 現代社会における調査の位置、政策形成と調査
- 第 3 回 項目 社会調査が抱える諸問題 内容 社会調査の現状、情報開示、プライバシー保護
- 第 4 回 項目 調査のための資料の探索 内容 情報の探し方、研究するための情報の入手、情報ソース (図書館、大学、マスコミ、政府など) 統計の所在源、主要な官庁統計
- 第 5 回 項目 社会調査の基本 (1) 内容 何のための社会調査か、記述と説明、概念構成と概念操作、概念の働き、操作概念
- 第 6 回 項目 社会調査の基本 (2) 内容 変数とは、概念の変数化、従属変数、独立変数、媒介変数、問題意識と仮説
- 第 7 回 項目 尺度化とその種類 内容 測定の概念、尺度の種類、内的尺度と外的尺度、名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度
- 第 8 回 項目 調査票の作り方 (1) 内容 調査の種類、質問紙調査票、質問文の作成、質問文の種類、ワーディングの問題、作成の注意事項
- 第 9 回 項目 調査票の作り方 (2) 内容 選択肢の作り方、自由回答、質問文の流れ、制限回答法の長所と短所
- 第 10 回 項目 調査票を作成する 内容 簡単な調査票の作成、ワークショップ形式で作成する。
- 第 11 回 項目 プレゼンテーション 内容 作成した調査票の発表と講評
- 第 12 回 項目 サンプリングの仕方 (1) 内容 サンプリングの歴史、全数調査と標本調査、調査対象の定義、サンプリングの種類、単純無作為抽出法
- 第 13 回 項目 サンプリングの仕方 (2) 内容 新しいサンプリング法、標本数の決め方、サンプリングの台帳の利用方法
- 第 14 回 項目 調査票調査とデータ化 内容 調査の流れ、調査法の種類とその長短、データ化の前に必要な作業
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 補足と全体のまとめ

教科書・参考書 教科書：社会調査へのアプローチ：論理と方法, 大谷信介 [ほか] 編著, ミネルヴァ書房, 1999 年; 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武編『社会調査へのアプローチ』(ミネルヴァ書房)1999 年

連絡先・オフィスアワー 人文学部辻研究室 (3 0 9 室)

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | コミュニケーション論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 高橋征仁 | | | | |

授業の概要 コミュニケーションが問われる場合、「情報の共有」や「情緒的結合」が理念的前提とされていることが少なくない。しかし、こうした前提は、必ずしも現実的ではないし、諸々のコミュニケーション現象を説明する上で、困難に直面してしまうことになる。授業では、これらの観点から古典的コミュニケーション論の限界と、新しいコミュニケーション論の出発点について、検討を進めていく。/
検索キーワード コミュニケーション、メディア、公共圏

授業の一般目標 1. 古典的コミュニケーションモデルの限界を認識する 2. メディアの基本機能と新しいコミュニケーション論の基礎を検討する 3. 公共圏や民主主義、社会システムなどについて、新たな議論を展開するための基礎をつくる 4. パワーポイントを用いたプレゼンテーションやメーリングリストによる討論の方法を学ぶ

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス 内容 授業方法の解説 コミュニケーションをめぐるロマン主義的誤謬 授業外指示 メーリングリストの登録
- 第 2 回 項目 メディアの役割 内容 機械論的コミュニケーション論の限界 授業外指示 メーリングリストによる課題提出
- 第 3 回 項目 メディアとしての貨幣 内容 第1章1, 2, 3
- 第 4 回 項目 現代社会におけるリスク 内容 第1章4, 5
- 第 5 回 項目 パーソナル・メディア 内容 第2章1, 2, 3
- 第 6 回 項目 マス・メディアと電子メディア
- 第 7 回 項目 第1中間考察 内容 ここまでの疑問点、問題点をめぐる質疑応答
- 第 8 回 項目 相互行為と間主観性 内容 第3章1, 2
- 第 9 回 項目 コミュニケーションと合意 内容 第3章3, 4, 5
- 第 10 回 項目 真理・規範・権力・影響力 内容 第3章6, 7, 8
- 第 11 回 項目 第2中間考察 内容 ここまでの疑問点、問題点をめぐる質疑応答
- 第 12 回 項目 強制的権力と生成的権力 内容 第4章1, 2
- 第 13 回 項目 「公共圏」の変容 内容 第4章3, 4
- 第 14 回 項目 社会的コミュニケーションの構造 内容 第5章1, 2
- 第 15 回 項目 原初的コミュニケーションによる自己組織化 内容 第5章3, 4, 5

成績評価方法(総合) 授業外レポート40点と学期末試験60点の総合点によって評価する。

教科書・参考書 教科書: コミュニケーション・メディア, 正村俊之, 世界思想社, 2001年

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会意識論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 辻 正二 | | | | |

授業の概要 現代の日本社会は大きな変革期にかかっているが、そのために犯罪や自殺などの逸脱行動が多様化し深刻化もしている。こうした逸脱行動は、社会システムにとっての変動要因となるばかりか、社会病理現象ともたらずことにもなる。この講義では、現在の我が国の社会において社会病理や逸脱行動が何故生じるのかを理解するために逸脱行動の理論を学ぶ。前半は、理論編、後半は現状分析編の話題になる。/ 検索キーワード 逸脱行動、アノミー論、ラベリング論、サブカルチャー論、機会構造、状況規定、凶悪犯罪、自殺

授業の一般目標 1) 逸脱行動や社会病理の学説・理論について理解する。 2) それを生かして現実に起こっている現象を如何に説明するかを学ぶ 3) こうしたさまざまな逸脱行動が生じないようにするにはどのようなことが必要かを学ぶ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な逸脱行動論の知識を理解する。 思考・判断の観点：マス・メディアによって報道される事件(逸脱行動の)などを自分自身で考え、その本質的な問題が何か、判断できること。 関心・意欲の観点：新聞や雑誌など、社会的な出来事への関心を持つことができること。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義のねらい 内容 今回の授業の狙いと全体の流れを説明する
- 第 2 回 項目 現代の社会問題 内容 現在の社会問題、理論と実証 論
- 第 3 回 項目 社会病理学の考え方 内容 社会病理現象を説明する理論の種類と歴史
- 第 4 回 項目 デュルケームの自殺論と病理的視点 内容 デュルケームの『自殺論』と彼の問題意識
- 第 5 回 項目 マーソンのアノミー論
- 第 6 回 項目 シカゴ学派の逸脱論：分化接触論とサブカルチャー論 内容 シカゴの都市研究と社会病理学(パーク、トーマスなど)
- 第 7 回 項目 サブカルチャー論と非行
- 第 8 回 項目 社会的相互作用と社会的反作用論
- 第 9 回 項目 ベッカーのラベリング論
- 第 10 回 項目 キツセの社会問題論
- 第 11 回 項目 現在の青少年非行 内容 第 4 のピークとは何か
- 第 12 回 項目 現在の犯罪現象
- 第 13 回 項目 自殺と地域社会
- 第 14 回 項目 逸脱行動と統制 内容 犯罪のない街づくり
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 講義の全体的なまとめ

教科書・参考書 参考書：社会病理学と少年非行、高原正興著、法政出版、1996年；自殺論(中公文庫)、デュルケーム著；宮島喬訳、中央公論社、1985年；社会理論と社会構造、ロバート・K. マーソン [著]；森東吾 [ほか] 訳、みすず書房、1961年；アウトサイダーズ：ラベリング理論とはなにか(新装版)、ハワード S. ベッカー著；村上直之訳、新泉社、1993年；”犯罪の原因(刑事学原論 / E.H. サザランド、D.R. クレッシェー [著]；平野龍一、所一彦訳；1)”，”E.H. サザランド、D.R. クレッシェー著；平野龍一、所一彦訳”，有信堂、1964年；高原正興『社会病理学と少年非行』法政出版 デュルケーム『自殺論』中公文庫 マーソン『社会理論と社会構造』みすず書房 ベッカー『アウトサイダーズ』新泉社 サザランド『犯罪の原因 I・II』有信堂

メッセージ 参考書は最低1冊は、該当箇所を読んでおくこと。

連絡先・オフィスアワー 辻研究室(309室)

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会意識論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 辻 正二 | | | | |

授業の概要 我が国は、1994年に高齢化率14%を超え、高齢社会に突入した。この高齢化は、今後ますます進行し、我が国の社会全体に大きな影響を及ぼしつつある。現在の我が国の深刻な社会問題（産業の空洞化、犯罪の凶悪化など）の中には国際化や情報化といった別の要因も関係しているが、高齢化の要因も無視できない。ところが、高齢化については、福祉や社会保障制度などに関しては論議されているが、高齢社会全体についてはあまり論議されていないのが実情である。この講義では、現在に高齢者が抱えている問題やこれまであまり触れられなかったエイジズム（老人差別）、高齢者と時間、生涯現役社会の構築といったことについて触れながら、社会老年学の知識を深めることを目指している。／検索キーワード 高齢化、少子化、生涯現役、エイジング、ライフサイクル、ラベリング

授業の一般目標 (1) 高齢化がもたらす意味とその社会心理学的諸問題についての知識を身につける。(2) 高齢化社会の問題への対応を考え、それへの適切なあり方を考える態度を学ぶ。(3) 生涯現役に向けての諸方策を捉え、あるべき方向性を考える。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義の狙い 内容 高齢化社会とは何か、今期の授業の狙いを概説する
- 第 2 回 項目 高齢化社会とは何か 内容 しのび寄る超高齢化社会、高齢化社会の課題
- 第 3 回 項目 高齢者の自我
- 第 4 回 項目 高齢者の社会化
- 第 5 回 項目 高齢者文化と時間
- 第 6 回 項目 高齢者の人間関係
- 第 7 回 項目 高齢者の社会参加
- 第 8 回 項目 高齢者のグループ 活動 内容 日本と世界の老人クラブ、これからの老人クラブのあり方
- 第 9 回 項目 高齢者の生活意識
- 第 10 回 項目 高齢者の生きがい論
- 第 11 回 項目 高齢者と死の問題
- 第 12 回 項目 老人差別と高齢者ラベリング
- 第 13 回 項目 介護意識と福祉意識
- 第 14 回 項目 生涯現役社会づくりについて
- 第 15 回 項目 全体のまとめ

教科書・参考書 教科書：『エイジングの社会心理学』辻正二、船津衛編著；辻正二 [ほか] 執筆，北樹出版，2003年；辻正二・船津衛編『エイジングの社会心理学』北樹出版 2003年 / 参考書：『高齢者ラベリングの社会学：老人差別の調査研究』辻正二著，恒星社厚生閣，2000年；『高齢社会白書』総務庁編，大蔵省印刷局；辻正二『高齢者ラベリングの社会学』恒星社厚生閣 2000年 総務庁編『高齢社会白書』平成15年版

メッセージ 授業は、テキストと資料を使って進行します。講義の前にテキストは必ず読んでおいてください。

連絡先・オフィスアワー 辻研究室（309室）

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会意識論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 山本努 | | | | |

授業の概要 農山村問題に社会学の方法でアプローチする。/ 検索キーワード 地域、過疎、社会学、農山村

授業の一般目標 過疎農山村問題を軸に、地域社会学の研究成果を学ぶ。

授業の到達目標 / 関心・意欲の観点： 地域問題や地域生活への関心を培ってほしい。

授業の計画（全体） 自殺、家族、高齢者、若者、人口還流、少子化、未婚化・晩婚化などの生活構造・生活問題と絡めて、現代過疎問題の構造を講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 過疎とは何か 内容 過疎概念について
- 第 2 回 項目 過疎研究の課題 内容 過疎問題の社会学接近の成果を解説
- 第 3 回 項目 過疎問題の現状 内容 過疎問題を地域、時代別に概観
- 第 4 回 項目 過疎地域の自殺問題 内容 過疎地域の自殺の現状を概観
- 第 5 回 項目 地域と自殺の関係分析 内容 過疎地域における自殺の社会的因果分析
- 第 6 回 項目 過疎・高齢者・自殺 内容 高齢者自殺の社会的因果分析
- 第 7 回 項目 過疎地域の家族分析 内容 過疎地域家族の小家族化問題の概説
- 第 8 回 項目 家族の機能と過疎問題 内容 家族機能の弱体化と過疎問題の概説
- 第 9 回 項目 過疎地域高齢者と家族・地域 内容 高齢者の生き甲斐感と家族、地域の関係
- 第 10 回 項目 過疎地域若者の地域意識 内容 若者の定住可能性の分析
- 第 11 回 項目 人口還流と定住分析 内容 人口還流の現状、還流のメカニズムなど
- 第 12 回 項目 集落崩壊と少子化 内容 子どもの減少が過疎に与える影響の分析
- 第 13 回 項目 結婚と過疎の分析 内容 未婚化・晩婚化の地域分析
- 第 14 回 項目 集落崩壊の現段階規定 内容 過疎の新しい局面の提示
- 第 15 回 項目 今後の過疎農山村問題研究の課題 内容 新しい過疎に対応した過疎研究の課題

成績評価方法（総合） 受講生の状況を見て決める。きちんと授業に出て、きちんとノートをとって、きちんと教科書を読んで、ノートに纏める。以上の事は最低限求められる。

教科書・参考書 教科書： 現代過疎問題の研究, 山本努, 恒星社厚生閣, 1996 年; 上記のテキスト以外に、図書館にて論文数点、コピー（入手）して、授業に出る事。入手すべき論文のリストは、後日、掲示する。/ 参考書： 現代農山村の社会分析, 山本努、徳野貞雄、加来和典、高野和良, 学文社, 1999 年

メッセージ 山口県や地元の地域問題や地域生活にも関心をもって下さい。

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会心理学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 辻 正二 | | | | |

授業の概要 3年生と4年生を対象にした演習形態の授業です。授業では、逸脱行動論の代表的な文献の幾つかを外書購読や訳書の購読から、それらの理論の特徴と問題点を洗い出し、現在の逸脱行動のなかで捉えることを学びます。 / 検索キーワード マートン、アノミー、ラベリング、構築主義

授業の一般目標 (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。

教科書・参考書 教科書：アウトサイダーズ, ベッカー, 新泉社, 1993年; 社会理論と社会構造, マートン,

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会心理学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 辻正二 | | | | |

授業の概要 3年生と4年生を対象にした演習形態の授業です。3年生は自分の問題意識の研究領域を発見し、それを深めていくことが課題になります。4年生は卒論の最後の仕上げの研究発表となります。3年生は4年生の卒論研究の問題関心や完成に向けてのプロセスを知ることができますし、4年生は3年生の研究への関与をすることによって自分の研究への広がりをもつことができます。

授業の一般目標 (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会心理学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 高橋征仁 | | | | |

授業の概要 日本人の性行動や性意識に関する経験的研究を収集し、分析する。日本において、性意識や性行動に関する経験的研究は、これまで十分に展開されてきたとはいいがたい。調査の実施やその結果発表が新たな性情報をもたらす危険性が懸念されるため調査が行われなかったり、行われた場合にも、＜性行動の低年齢化＞や＜性行動の活発化＞、＜性の商品化の進展＞などを問題視するステレオタイプの議論が展開されてきた。性行動を抑制すべきだとする立場の者も、性をロマンティック・ラブや自己決定の問題と結びつけて考える立場の者も、これらの認識を共有してきたように思われる。しかし、国際比較や時代比較を行うと、そうした認識が必ずしも適切ではないことがわかる。この授業では、そうしたイデオロギー対立をくぐり抜けて、新たな経験的知見を見だし、分析していくことの重要性を学ぶ。 / 検索キーワード 性、セクシュアリティ、近代社会、計量的分析

授業の一般目標 1. 経験的研究をめぐる方法論的問題について把握する。 2. マクロデータの分析技法について学ぶ。 3. 性をめぐる政治的・道徳的争点を経験的知見から捉え返す。 4. 近代社会における性やセクシュアリティの機能とその変化を考察する。

授業の計画(全体) 毎週4年生の卒論発表1名、3年生による教科書の報告2名(1章分)をもとに、全員で議論を進めていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 授業方法 年間予定 発表・報告方法 討論方法 等々
- 第2回 項目 ガイダンス 内容 辞書 文献検索 テキストの概要
- 第3回 項目 性行動全国調査 内容 第1章
- 第4回 項目 性行動の低年齢化? 内容 第2章
- 第5回 項目 性と学校集団 内容 第3章
- 第6回 項目 性情報とメディア 内容 第4章
- 第7回 項目 性教育の現状 内容 第5章
- 第8回 項目 性被害とセクシュアリティ 内容 第6章
- 第9回 項目 各人発表
- 第10回 項目 卒論構想発表会 1 内容 卒論構想発表
- 第11回 項目 各人発表
- 第12回 項目 各人発表
- 第13回 項目 各人発表
- 第14回 項目 各人発表
- 第15回 項目 各人発表

教科書・参考書 教科書: 「若者の性」白書, 日本性教育協会, 小学館, 2001年

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会心理学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 高橋征仁 | | | | |

授業の概要 3年生は卒論の執筆準備のための先行研究レビューを行う。4年生は資料、データの処理、分析、執筆報告を行う。 / 検索キーワード 卒論

授業の一般目標 卒業論文を作成するための基本的ノウハウを学ぶ

授業の計画(全体) 毎週4年生1名、3年生2名の報告を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業計画、卒論 執筆計画について
- 第 2 回 項目 先行研究および 卒論経過報告 内容 発表と討議
- 第 3 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 4 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 5 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 6 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 7 回 項目 中間報告会
- 第 8 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 9 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 10 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 11 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 12 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 13 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 14 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 15 回 項目 最終報告会

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会心理学調査実習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 辻 正二 | | | | |

授業の概要 社会心理学調査実習は、既に学んできた社会調査法の知識と技法を生かして、具体的にフィールドワークなどの実習経験の中で社会調査を学ぶことを主たる狙いとする。 / 検索キーワード フィールドワーク、質的調査と量的調査、質問紙法、サンプリング、抽出法

授業の一般目標 (1) 社会調査のための基礎的な知識を身につけ、問題意識、仮説、調査地の選定、調査票の作成等をおこなう。(2) 調査地との関係を形成して、実際にフィールドワークを経験し、調査研究の体得を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の狙いと今後の予定のガイダンス
- 第 2 回 項目 ワークショップ体験(何を調べるかを探す)
- 第 3 回 項目 調査対象の資料収集と整理
- 第 4 回 項目 調査対象の資料収集と整理
- 第 5 回 項目 問題意識から仮説構成へ
- 第 6 回 項目 調査票の作成(1)
- 第 7 回 項目 調査票の作成(2)
- 第 8 回 項目 調査票の作成(3)
- 第 9 回 項目 調査地の選定
- 第 10 回 項目 サンプリング及び対象者の選定
- 第 11 回 項目 調査の準備
- 第 12 回 項目 調査の実施1
- 第 13 回 項目 調査の実施2
- 第 14 回 項目 調査の実施3
- 第 15 回 項目 調査の実施4

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会心理学調査実習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 高橋征仁 | | | | |

授業の概要 量的な社会調査を念頭に、調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程を一通り体験的に学習することで、学生が自ら調査を企画し、実施していく能力とその際に必要な倫理観とを養う。とくにこの後期の授業においては、具体的なデータの入力から加工、集計・分析、報告のプロセスに学習の重点を置くことで、有意義な調査企画・調査票作成が可能になるようにフィードバックしていく学習を目指す。 / 検索キーワード 青少年、道徳意識、類縁化作用

授業の一般目標 1 . 実際に調査を企画し、実施し、報告書を作成するまでのプロセスを体験することによって、自らが調査を実施していく能力を身につける。 2 . 調査データの性質や意味を十分考慮し、公平かつ客観的に現象を記述する態度を身につける。 3 . 社会心理学の理論と調査研究とを相互に往復する思考様式を身につける。

授業の計画(全体) 授業はいくつかのグループごとに分かれて、毎週、発表・議論する形で進めていく。また統計ソフト SPSS やエクセルの基本的操作についても学ぶ。具体的な授業内容としては、(1) 量的調査全体の流れ、(2) 先行研究の検討、(3) 調査倫理・マナーの学習、(4) 調査データの加工と処理、(5) クロス集計、(6) エラボレーション、(7) 多変量解析、(8) プレゼンテーションの技法、(9) 報告書の作成方法などを含む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 調査の全体像と実習スケジュールの確認
- 第 2 回 項目 調査倫理と先行研究の検討
- 第 3 回 項目 先行研究の検討とエクセル活用
- 第 4 回 項目 先行研究の検討とエクセル活用
- 第 5 回 項目 SPSS によるデータ加工と基礎集計
- 第 6 回 項目 SPSS によるデータ加工と基礎集計
- 第 7 回 項目 クロス集計とエラボレーション
- 第 8 回 項目 クロス集計とエラボレーション
- 第 9 回 項目 SPSS による重回帰分析
- 第 10 回 項目 SPSS による重回帰分析
- 第 11 回 項目 SPSS による因子分析
- 第 12 回 項目 SPSS によるパス解析
- 第 13 回 項目 各人の担当箇所 についての報告 書作成
- 第 14 回 項目 報告書の各班ご との担当部分の 編集、完成
- 第 15 回 項目 報告書編集全体 調整

成績評価方法(総合) 授業参加・プレゼン 40 点と期末レポート 60 点の総合点によって評価する。

教科書・参考書 教科書：社会調査へのアプローチ, 大谷信介ほか, ミネルヴァ書房, 1999 年

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会調査データ解析法 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 高橋征仁 | | | | |

授業の概要 社会調査におけるデータは、はじめから「客観性」を保証されているわけではない。調査項目やサンプリングの方法、質問文の表現や回答法、データの分析技法やその解釈等々によって、巨大な「ウソ」が作られることは、決して珍しいことではない。日本社会においては、予算や補助金獲得のために、または問題隠蔽や責任回避のために、あるいはイデオロギーの補強のために、連日のように「ウソ」が量産されているのが実情である。授業では、そうしたデータの産出を批判的に吟味するとともに、調査データに関する基本的な取り扱い方法について学ぶ。/ 検索キーワード 測定水準 クロス集計 相関係数

授業の一般目標 1. 官庁統計や簡単な調査報告書・フィールドワーク論文が読めるための基礎的知識を習得する。 2. 度数分布やクロス集計、相関係数などについて、それらの計算や図表作成を実際に行う技能を身につける。 3. 調査データに対する、社会学者としての倫理観、責任感を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：相関係数と回帰分析の論理と手順を理解する。 思考・判断の観点：エラボレーションによって関連性を検討することができる。 関心・意欲の観点：常識的な因果関係を疑うとともに、新しい因果関係を構想し、積極的にテストする。 態度の観点：社会調査によるデータ収集や処理・分析に対する倫理観を養う。

授業の計画(全体) 社会調査におけるデータの特性や問題について学んだ上で、記述から説明へと分析技法を学んでいく。その際、計算や出力の意味を理解できるように、できるだけ電卓計算で行う課題を課す。偏回帰係数や部分相関係数を用いたエラボレーションの能力を身につけ、多変量解析へと進む学習の基礎を作るのが本講義の到達点である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 社会調査の「ウソ」、補助金・イデオロギー・ルーティン化によるデータの歪み
- 第 2 回 項目 社会調査におけるデータの多様性 内容 質的データと量的データ、妥当性と信頼性、3角測量の重要性など
- 第 3 回 項目 理論命題と操作 仮説、測定水準 内容 実証主義における理論と仮説の捉え方、独立変数と従属変数、離散変数と連続変数、4つの測定水準
- 第 4 回 項目 度数分布表の作成と代表値 内容 離散変数の場合、連続変数の場合、最頻値、中央値、平均値、分散、Z得点
- 第 5 回 項目 クロス集計表とカイ二乗検定 1 内容 二重クロス集計表作成、統計的推測、無作為抽出、帰無仮説、対立仮説と2つの過誤、統計的独立
- 第 6 回 項目 クロス集計表とカイ二乗検定 2 内容 期待度数、カイ二乗分布、自由度、統計的有意性検定の手続き
- 第 7 回 項目 三重クロス表の作成とエラボレーション (1) 内容 疑似相関と疑似無相関
- 第 8 回 項目 小テストと復習
- 第 9 回 項目 統計的推測と仮説検定 内容 確率分布の記述、チェビシェフの不等式、正規分布、中心極限定理、信頼区間、仮説の検定
- 第 10 回 項目 平均の差の検定 内容 無作為標本、平均の差に関する仮説検定、比率の有意性検定、平均の差の信頼区間、分散分析の考え方
- 第 11 回 項目 相関係数 内容 散布図、線形関係、共分散、決定係数、相関係数、ファイ係数
- 第 12 回 項目 偏相関係数 内容 部分相関、偏相関
- 第 13 回 項目 エラボレーション (2) 内容 多重分割表分析、疑似関係、媒介関係、複合因果、第3変数の統制、交互作用
- 第 14 回 項目 回帰分析の基礎 内容 回帰直線、回帰係数、ベータ係数

第 15 回 項目まとめと復習

成績評価方法 (総合) 毎週の課題 40 点と期末試験 60 点の総合点による評価。

教科書・参考書 教科書：社会統計学, ボーンシュテット & ノーキ, ハーベスト社, 1990 年; 印刷が間に合えば、教科書は、片瀬一男・阿部晃士・高橋征仁『社会統計学』日本放送協会出版(2006 年予定)を用いる。

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 質的調査データ解析法 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 横田尚俊 | | | | |

授業の概要 社会調査のうち、質的調査 (qualitative survey) によるデータ収集・解析の手法について、基本的な知識を学ぶ。質的調査の方法的特徴、データ収集の技法、調査方法としてのメリットと留意点、データから知見を導き出す手法 (分析方法) などについて、社会学における先行研究の事例を参照しながら、学習していく。特に、調査実習や卒業論文の作成などにおいて最も利用価値が大きいと考えられる聞き取り調査の方法について、技術的な諸点も含め、詳しく講義する。 / 検索キーワード 社会調査、質的調査、事例調査、生活史記録、聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析

授業の一般目標 社会調査における質的調査の特徴やデータ収集・解析の方法について、基本的な知識を身につける。

授業の計画 (全体) 質的調査の特徴、技法を概観していく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨン - 授業の目的・内容と進め方について -
- 第 2 回 項目 1 質的調査とは何か 内容 社会調査における質的調査の位置づけ、質的調査の利用法、質的データの素材
- 第 3 回 項目 1 質的調査とは何か (続き) 内容 質的調査の技法、質的調査のメリットと留意点、調査倫理について
- 第 4 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 内容 聞き取り調査の技法と手順
- 第 5 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 聞き取り調査の実践 1 : 災害調査の事例から
- 第 6 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 7 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 8 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 9 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 聞き取り調査の実践 2 : 生活史データの収集と分析
- 第 10 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 11 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 12 回 項目 3 参与観察の方法
- 第 13 回 項目 3 参与観察の方法 (続き) 4 ドキュメント分析の方法
- 第 14 回 項目 4 ドキュメント分析の方法 (続き)
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 授業への出席および参加度 40 % 定期試験 30 % 授業内小レポート及び課題レポート 30 %

教科書・参考書 教科書 : 社会調査へのアプローチ (第 2 版), 大谷信介ほか, ミネルヴァ書房, 2005 年 / 参考書 : ライフヒストリーを学ぶ人のために, 谷富夫編, 世界思想社, 1996 年 ; 生活記録の社会学, ケン・プラマー, 光生館, 1991 年 ; その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 比較社会文化論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 山本真弓 | | | | |

授業の概要 ことばは単にコミュニケーションの手段ではなく、個人のアイデンティティーや、文学などを通じた言語共同体の文化そのものを形成している。このようなことばの多面的な側面を、世界のさまざまなことばを通じて紹介し、ことばと人間とのかかわり、ことばと社会とのかかわり、ことばの政治性などについて明らかにしていく。ここでは、ことばの言語学的側面ではなく、社会的 政治的側面に焦点を置いた講義を行なう。 / 検索キーワード ひとつの言語、言語の呼称、言語共同体、国家語、母語、母国語

授業の一般目標 日本社会に生きていくと、ことばについてさまざまな誤解や幻想を抱いている。それは、日本社会がいわゆる単一言語社会と形容されるような言語状況にあることと無関係ではない。したがって、ここでは多言語社会と形容されるさまざまな地域の事例を通じて、ことばをめぐる人間の能力の可能性を認識することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語は社会や政治と切り離されて存在しているものではないことを、論理的に理解する。 思考・判断の観点：ヨーロッパ近代言語学の成立の背景を踏まえて、言語とはなにか？について、自らの視点で考える 関心・意欲の観点：自らの問題として考えつつも、身の回りの事象のみにとらわれず、積極的に異なる言語状況にある社会を知ろうとする 態度の観点：出席と質問（授業の最後に質問票を配布する）

授業の計画（全体） 基本的に教科書に添って進む。まずことばについて〈われわれ〉が語ってきたこと、をそれぞれの言語的経験に即して議論し、次に言語的近代の成り立ちを考え、それから、言語的近代を超える営みとしての、手話、文学言語、〈国際語〉について考える予定である。なお、内容が多岐にわたっているため、第三章を扱えるかどうかは、授業の進行状況に依拠する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「母語」「ネイティブ」という概念について
- 第 2 回 項目 <やさしい言語> <むずかしい> 言語とはどういうことか
- 第 3 回 項目 ことばが<通じる> <通じない> とはどういうことか？
- 第 4 回 項目 ことばが<できる> <できない> とはどういうことか？
- 第 5 回 項目 ことばの乱れとことばの変化はどうちがうのか？
- 第 6 回 項目 言語の呼称
- 第 7 回 項目 言語的近代の成り立ちと日本
- 第 8 回 項目 南アジアの多言語状況と言語的近代の受容過程
- 第 9 回 項目 ロシア語を話すユダヤ人は、ロシア人か？ユダヤ人か？
- 第 10 回 項目 言語は土地に根ざすのか？それともヒトに根ざすのか？
- 第 11 回 項目 近代言語学が言語とみなしてこなかった言語：手話とろう者について
- 第 12 回 項目 母語以外の言語で執筆する作家たち
- 第 13 回 項目 <国際語> 概念の解体と<国際語> の内実
- 第 14 回 項目 ヨーロッパの多言語状況の動向
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 出席および授業内レポートと定期試験を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：言語的近代を超えて～<多言語状況>を生きるために～, 山本真弓編著, 明石書店, 2004 年

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 比較社会文化論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 湯川洋司 | | | | |

授業の概要 柳田國男の民俗学について取り上げます。日本の民俗学の体系化に大きな役割を果たした柳田國男の学問の視点を、比較研究法との関係を軸に扱います。社会や文化を比較することの意義について、柳田國男の民俗学研究における比較の方法と役割を理解することを通じて考えます。 / 検索キーワード 比較 柳田國男 民俗学

授業の一般目標 1. 柳田國男の民俗学について知る。 2. 民俗学が行う比較の方法について知る。 3. 「比較する」という方法が、思考を深める手段としてどのように有効か考える。

授業の計画(全体) 1. テキストに即して、各回の内容について解説を加えながら進める。 2. 柳田國男の生涯と学問的特色について理解したうえで、その比較法について検討する。 3. 比較のもつ意義や役割について検討して、全体のまとめとする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨と進め方の説明
- 第 2 回 項目 比較と民俗学 内容 「比較」と民俗学との関係について
- 第 3 回 項目 柳田國男の生涯(1) 内容 柳田國男の生涯
- 第 4 回 項目 柳田國男の生涯(2) 内容 民俗学への開眼
- 第 5 回 項目 柳田國男の生涯(3) 内容 民俗学の形成
- 第 6 回 項目 柳田國男の民俗学の視点(1) 内容 近代植民地をめぐって
- 第 7 回 項目 柳田國男の民俗学の視点(2) 内容 農村恐慌をめぐって
- 第 8 回 項目 柳田國男の民俗学の視点(3) 内容 沖縄問題をめぐって
- 第 9 回 項目 柳田國男の民俗学の方法(1) 内容 方法の特色
- 第 10 回 項目 柳田國男の民俗学の方法(2) 内容 周囲論(1)
- 第 11 回 項目 柳田國男の民俗学の方法(3) 内容 周囲論(2)
- 第 12 回 項目 柳田國男の民俗学の方法(4) 内容 民俗資料の分類法
- 第 13 回 項目 柳田國男の民俗学の方法(5) 内容 比較の役割
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 比較という方法
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 1. 毎回の授業に対するコメント、レポート、期末試験の評価を総合して成績評価を行います 2. 欠席は欠格条項(全体の 75 %以上の出席がないと期末試験受験資格がありません。やむをえない欠席は届出でより認めます。)

教科書・参考書 教科書: 民俗学者柳田國男, 福田アジオ, 御茶の水書房, 2000 年 / 参考書: 柳田國男の民俗学, 福田アジオ, 吉川弘文館, 1992 年; そのほかにも、授業中に随時紹介します。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 人文学部棟 2 階 2 1 0 号室 オフィスアワー: 原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねてください

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | アジア比較社会論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 山本真弓 | | | | |

授業の概要 日本社会に生きる今日のわれわれが当然のことと考えている西洋近代の諸価値について再考する。具体的には、政教分離と民主主義について、イスラーム中東世界、ユダヤ人問題、ヒンドゥーイズムを通して考える。 / 検索キーワード 政教分離、近代国家、市民、民主主義、宗教法、自由、平等、友愛、マイノリティー

授業の一般目標 キリスト教西洋社会を相対化する。他文化、とりわけマイノリティーへの想像力を養う。宗教の意味について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 授業内容をきちんと理解できているか。歴史（近現代史）の基本的知識を身に付けているか。 思考・判断の観点： 自分の問題として、自分の身近なところから世界的視野にまで広げて問題を捉えることができているか。 関心・意欲の観点： 宗教の政治的・社会的側面に関心をもって授業に臨んでいるか。 態度の観点： 出席の有無と質問。

授業の計画（全体） 最初に、高校までの教科書の歴史（近現代史）がどのようなものかを問い、そこでは（十分に）扱われなかった地域・人々の問題を、宗教とキーワードに見ていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 近代的諸価値について 1
- 第 2 回 項目 近代的諸価値について 2
- 第 3 回 項目 近代的諸価値について 3
- 第 4 回 項目 キリスト教世界 1
- 第 5 回 項目 キリスト教世界 2
- 第 6 回 項目 ユダヤ教から見た近代 1
- 第 7 回 項目 ユダヤ教から見た近代 2
- 第 8 回 項目 ユダヤ教から見た近代 3
- 第 9 回 項目 イスラームから見たヨーロッパ 1
- 第 10 回 項目 イスラームから見たヨーロッパ 2
- 第 11 回 項目 イスラームから見たヨーロッパ 3
- 第 12 回 項目 ヒンドゥー・ナショナリズム 1
- 第 13 回 項目 ヒンドゥー・ナショナリズム 2
- 第 14 回 項目 ヒンドゥー・ナショナリズム 3
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 出席を兼ねて、毎回、授業の終わりの約 20～30 分を使って、小レポートを提出してもらう。これらの小レポートと試験を総合して評価する。

教科書・参考書 参考書： 宗教とナショナリズム, 中島岳志, 春風社, 2005 年； ヨーロッパとイスラーム, 内藤正典, 岩波書店, 2004 年； ウィーンのユダヤ人, 野村真理, 御茶ノ水書房, 1999 年

メッセージ 「異なる他者」や「他（異）文化」に関心がある学生はぜひ受講してください。

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | アジア比較社会論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 山本真弓 | | | | |

授業の概要 南アジア諸国の国家のありようを、主にインドを中心にみていく。

授業の一般目標 ヒンドゥー教徒が多数を占める世俗国家（政教分離国家）で、世界最大の民主主義を誇るインド社会について、その等身大の姿を見ていく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らの（あるいは、日本社会全般に蔓延する）南アジア世界への偏見にとらわれずに、授業内容を理解できているか。 思考・判断の観点：自らが生きる世界（日本社会と日本がその一部をなす西欧近代の価値を絶対とする世界観）と関連づけてインド社会を捉えることができるか。 関心・意欲の観点：わからないところを積極的に自分で調べるなどして、意欲的に取り組んでいるか。

成績評価方法（総合） 毎回、授業時間中に小レポートを課し、それらと期末試験を総合して評価する。

教科書・参考書 参考書：「現代南アジア第一巻：地域研究への招待, 長崎暢子編, 東京大学出版会, 2002年； 現代南アジア (3), , 東京大学出版会； 現代南アジア (5), , 東京大学出版会

メッセージ アジア比較社会論の前期の講義を履修していることが望ましい

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代民俗論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 湯川洋司 | | | | |

授業の概要 現代民俗論は、民俗を通じて現代社会のありようを考えることをめざしています。この授業では、「死の民俗と現代の死」と題して、現代における死のありようと死に対する姿勢について、日本における「死の民俗」を参照しながら考えます。/ 検索キーワード 日本人 死 葬送儀礼 民俗

授業の一般目標 1. 日本人は死をどのようにとらえ、また向き合ってきたか知る。 2. 日本社会において死者はどのように位置づけられてきたか、検討する。 3. 日本の各地から報告された「死の迎え方・見送り方」の実例を通じて、人生における死とは何か、民俗学的に考察する。

授業の計画(全体) 「死の民俗と現代の死」と題し、(1)日本人の「死」、(2)「死者」の位置づけ、(3)「死の迎え方・見送り方」、(4)まとめ、に区分して、進める。各週の具体的な内容は、初回の授業時に示す。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨(問題設定)と授業方法についての説明 明
- 第 2 回 項目 日本人の「死」(1)
- 第 3 回 項目 日本人の「死」(2)
- 第 4 回 項目 日本人の「死」(3)
- 第 5 回 項目 日本人の「死」(4)
- 第 6 回 項目 「死者」の位置づけ(1)
- 第 7 回 項目 「死者」の位置づけ(2)
- 第 8 回 項目 「死者」の位置づけ(3)
- 第 9 回 項目 「死者」の位置づけ(4)
- 第 10 回 項目 死の迎え方・見送り方(1)
- 第 11 回 項目 死の迎え方・見送り方(2)
- 第 12 回 項目 死の迎え方・見送り方(3)
- 第 13 回 項目 死の迎え方・見送り方(4)
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験 内容 筆記試験

成績評価方法(総合) 1. 授業内容へのコメント、レポート、期末試験の評価を総合して成績評価を行います。 2. 欠席は欠格条項(全体の75%以上の出席がないと期末試験受験資格がありません。やむをえない欠席は届け出により認めます。)

教科書・参考書 教科書: 日本人の死のかたち, 波平恵美子, 朝日新聞社(朝日選書), 2004年; 必要に応じてプリント資料を配布する。/ 参考書: 授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 人文学部棟 2階 210号室 オフィスアワー: 原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねてください

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代民俗論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 湯川洋司 | | | | |

授業の概要 現代民俗論は、民俗を通じて現代社会のありようを考えることをめざしています。この授業では、前期の授業を受け継ぐ形で、「死の政治性」と題して、死した個人を社会的にまつることの事例をいくつかの観点から取り上げ、その意味について考えます。/ 検索キーワード 死者のまつり 慰霊 戦争 民俗

授業の一般目標 1. 死者をまつるとはどのような意味をもつことか、理解する。 2. 個人の死を社会がまつるものの意味を考える。 3. 死がはらむ政治性について、民俗学の立場から考察する。

授業の計画(全体) 「死の政治性」と題して、授業を構想する。具体的には、(1) 死者をまつるものの意味、(2) 異常死者のまつりかた、(3) 家のまつりと死者、(4) 戦争の民俗と戦死者のまつり、(5) まとめ、という構成にする。 各週の具体的な内容については、初回の授業時に説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨と授業 方法についての説明(問題設定)
- 第 2 回 項目 死者をまつるものの意味(1)
- 第 3 回 項目 死者をまつるものの意味(2)
- 第 4 回 項目 死者をまつるものの意味(3)
- 第 5 回 項目 異常死者のまつりかた(1)
- 第 6 回 項目 異常死者のまつりかた(2)
- 第 7 回 項目 異常死者のまつりかた(3)
- 第 8 回 項目 死者と家のまつり(1)
- 第 9 回 項目 死者と家のまつり(2)
- 第 10 回 項目 死者と家のまつり(3)
- 第 11 回 項目 戦争の民俗と戦死者のまつり(1)
- 第 12 回 項目 戦争の民俗と戦死者のまつり(2)
- 第 13 回 項目 戦争の民俗と戦死者のまつり(3)
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験 内容 筆記試験

成績評価方法(総合) 1. 毎回の授業に対するコメント、レポート、期末試験の評価を総合して成績評価を行う。 2. 欠席は欠格条項(全体の 75%以上の出席がないと期末試験受験資格がない。)

教科書・参考書 教科書: 日本人の死のかたち, 波平恵美子, 朝日新聞社(朝日選書), 2004年; その他、必要に応じてプリント資料を配付する。/ 参考書: 授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 人文学部棟 2 階 210 号室 オフィスアワー: 原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねください

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 生活文化論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 坪郷英彦 | | | | |

授業の概要 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。 / 検索キーワード 文化人類学、物質文化、生活用具、環境、東アジア

授業の一般目標 人類が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。人類の基本的な自然に対する対応の仕方を理解し、現在の地球環境問題に接する視点と態度を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的理論、用語の説明ができる。 思考・判断の観点： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 関心・意欲の観点： 技術文化の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 態度の観点： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。 技能・表現の観点： 自分の考えを正確に論述できる。

授業の計画（全体） 人類の技術文化について講義をします。人類は自然に対するさまざまな選択と適応を繰り返してきました。食料生産の方法に基づく用具の使用、移動・運搬のための用具の使用といった人類の生活に基本的に必要な生活用具について理解することを前半の目標とします。後半は東アジアの諸民族の暮らしを例として取りあげ、仕事の体系、技術、技能、道具、仕事への態度の関連を考えていきます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 技術文化研究のアウトライン
- 第 2 回 項目 人類の誕生 1
- 第 3 回 項目 人類の誕生 2
- 第 4 回 項目 食料革命
- 第 5 回 項目 狩猟採集民の技術文化
- 第 6 回 項目 農耕民の技術文化
- 第 7 回 項目 遊牧民の技術文化
- 第 8 回 項目 歩行と運搬
- 第 9 回 項目 まとめ
- 第 10 回 項目 東アジアの技術文化 1
- 第 11 回 項目 東アジアの技術文化 2
- 第 12 回 項目 東アジアの技術文化 3
- 第 13 回 項目 技術と技能
- 第 14 回 項目 身体技法と文化
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席と期末レポート及び数度の授業内レポートにより評価を行います。特に出席と期末レポートを重視します。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。 / 参考書：その都度紹介します。

メッセージ できるだけ視覚情報を使って理解を助けます。

連絡先・オフィスアワー Email： hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 、研究室 213 オフィスアワー木曜日 12：00～14：00

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 生活文化論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 坪郷英彦 | | | | |

授業の概要 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。 / 検索キーワード 文化人類学、物質文化研究、民俗学、技術、技能、手仕事、身体技法

授業の一般目標 人間が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。人類の基本的な自然に対する対応の仕方を理解し、現在の地球環境問題に接する視点と態度を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的理論、用語の説明ができる。 思考・判断の観点： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 関心・意欲の観点： 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 態度の観点： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。 技能・表現の観点： 自分の考えを正確に論述できる。

授業の計画（全体） 日本の技術文化について解説し、具体的な技術・技能に対する理解を深めます。前半は木工・漆工・竹工・製陶などの基本素材と技術、背景としての自然・社会について知識を深めます。後半は日常的な技術と専門的な技術の違い、技術と技能の違いをテーマにして話を進め、最後には現代における手仕事の持つ重要性を考えます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本の技術文化研究のアウトライン
- 第 2 回 項目 日本の基層技術の歴史 1
- 第 3 回 項目 日本の基層技術の歴史 2
- 第 4 回 項目 基層技術と文化 1
- 第 5 回 項目 基層技術と文化 2
- 第 6 回 項目 基層技術と文化 3
- 第 7 回 項目 基層技術と文化 4
- 第 8 回 項目 基層技術と文化 5
- 第 9 回 項目 まとめ
- 第 10 回 項目 基層技術と近代 1
- 第 11 回 項目 基層技術と近代 2
- 第 12 回 項目 現代社会と技術 1
- 第 13 回 項目 現代社会と技術 1
- 第 14 回 項目 基層技術と現代社会
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席と期末レポート及び授業内レポートにより評価します。特に出席と期末レポートを重視します。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。 / 参考書：新訂生活文化論、中村たかを・植田啓司・坪郷英彦、源流社、1997 年

メッセージ 映像やスライドなど画像情報を用いてわかりやすく授業を行います。

連絡先・オフィスアワー Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213、オフィスアワー 木曜日 12：00～14：00

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 生活文化論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 神野 善治 | | | | |

授業の概要 この講義では「生活文化」の多面的な世界を「民俗」の視点からとらえる試みを紹介します。民俗とは「伝承」という方法によって、家族や地域社会などに共有されてきた知恵と技の蓄積だと私は考えます。とくに今回は、日本人の暮らしを支えてきた「モノ」に託された「民俗」を探ることをめざします。すなわち施設や道具などの「有形文化」を、知識・技術・芸能・儀礼・説話などの「無形の伝承」とともにとりあげ、「精神文化」との接点をたどる話題を提供します。/ 検索キーワード 暮らし、モノ、自然、技術、伝承、木霊

授業の一般目標 皆さんの広範な好奇心を引き出すこと。具体的な事物からはじめて心象概念まで、多角的に把握する方法を学ぶ機会としたいと考えます。

授業の計画（全体） 前半は、私たちの日常生活がどのような「モノ」に支えられてきたか。これを包括的にとらえる手法を検討しながら、「モノ」から展開する「民俗」の世界の面白さを紹介したいと思います。

後半は、日常生活の基盤になる「家屋」とそこに宿ると考えられた神霊について、続いて、海に生きる人々を支えた「船」、とくに日本の伝統的な木造船である「和船」をとりあげ、その特異な構造と、そこに宿ると考えられた「フナダマ」の世界について紹介します。さらに、河川の兩岸をつなぐ「橋」と、そこに宿る非常に嫉妬深い女神とされる「橋姫」の伝承世界を紹介し、これらの構築物（モノ）の背後にひそむ自然と人間のかかわり、身近なモノに宿るタマの存在を怖れた日本人の心意の世界に迫りたいと考えています。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「モノを読む」「モノから学ぶ」面白さ 内容 教室の道具「黒板消し」から広がる世界
- 第 2 回 項目 「棒の歴史」から 内容 柳田國男・渋沢敬三・宮本常一のモノ論
- 第 3 回 項目 バスケタリーの魅力 内容 籠から筥（うけ）へ
- 第 4 回 項目 暮らしを支えるモノを探る 内容 悉皆調査という方法
- 第 5 回 項目 モノの体系から生活（記憶）体系が見える 内容 水車小屋との出会い
- 第 6 回 項目 モノの反乱・モノノケの出現 内容 「百鬼夜行」の世界
- 第 7 回 項目 ひと・ひとがた・にんぎょう 内容 道具としての「人形」
- 第 8 回 項目 人形送りと虫の魂 内容 排除の思想
- 第 9 回 項目 人形道祖神の発見 内容 民俗神の原像を探る
- 第 10 回 項目 「モノ」に込められた心象世界 内容 家と柱をめぐる民俗
- 第 11 回 項目 伊勢の遷宮と御柱祭 内容 自然と文化の接点
- 第 12 回 項目 造船儀礼とフナダマ（船霊） 内容 タマからカミへ
- 第 13 回 項目 築橋儀礼とハシヒメ（橋姫） 内容 有形と無形の世界
- 第 14 回 項目 有形無形の民俗を統合的にとらえる 内容 「モノ」と伝承の「曼荼羅」を描く試み
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 課題の整理

成績評価方法（総合） 小テスト・授業内レポートにより評価します。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しません。参考書には別記の拙著をあげておきますが、比較的高価ですので、図書館で一覧することをおすすめします。講義中に関連文献の紹介をするとともに講義資料を配布します。/ 参考書：木霊論～家・船・橋の民俗～，神野善治，白水社，2000年；講義中に参考資料のプリントを配布します。

メッセージ 身の周りの事物に好奇心を働かせ、森羅万象の探求に展開させよう。

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 文化人類学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 坪郷英彦 | | | | |

授業の概要 文化的ひとともの関係について考える内容です。文化人類学の基本的文献を講読していきます。 / 検索キーワード ひとともの 文化的ひと マリノフスキー 機能主義 クラ航海

授業の一般目標 文化人類学の基本を理解すること。文化人類学的ひとの見方を把握すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ひとともの基本的関係について説明できる。 思考・判断の観点：文化相対主義の立場に立った、異文化理解と判断ができる。 関心・意欲の観点：人々の日常を客観的な目で観察し、記録し、分からない原理は文献によって考える。この連関を繰り返す姿勢が身に付く。

態度の観点：自らの考えを簡潔にまとめ、発表することができる。他の人との議論の中で自分の意見をまとめることができる。 技能・表現の観点：講読した内容を的確に要約し、人に伝えるための効果的なプレゼンテーションができる。自分の考えをまとめ人に伝えることができる。

授業の計画(全体) マリノフスキーの「西太平洋の遠洋航海者たち」(中央公論社版)を輪読形式で読んでいきます。文化人類学の重要な学問の方法である機能主義の基本的図書ですが、人と人の関係、ひとともの関係に注目し、様々なネットワーク図が描けないだろうかと考えながら読み進んでいきます。

成績評価方法(総合) 出席を重視します。輪読の発表ではコンピュータによる分かりやすい表示方法を義務づけます。

教科書・参考書 教科書：マリノフスキー・レヴィ ストロース(世界の名著 71), 泉靖一編集, 中央公論社, 1998年; 対象図書は各自購入のこと / 参考書：適宜紹介します。また、関連資料を配付します。

メッセージ 各自の発表はプレゼンテーションソフトを用い、コンピュータを使用して行います。

連絡先・オフィスアワー E-mail hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 文化人類学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 坪郷英彦 | | | | |

授業の概要 文化的ひとともの関係について考える内容です。消費社会の現代ではものが記号的に扱われていますが、本来は身体の延長として実体を伴っていました。この授業ではもの とひとの基本的関係を知るための方法を学び、基本的関係について考察していきます。 / 検索キーワード 文化人類学 文化的ひと ひとともの 物質文化

授業の一般目標 文化人類学の基本を理解すること。文化人類学的ひとの見方を把握すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自が設定したテーマについて基本的内容、用語の説明ができる。

思考・判断の観点：各自が設定したテーマについて、自分の問題として理解し、次の行動を起こすことができる。 関心・意欲の観点：自ら積極的に関連文献を探して読むことができる。 態度の観点：自分の考えをまとめて発表できる。議論の中で自分の考えを組み立てていくことができる。 技能・表現の観点：効果的な発表手法の基本を理解する。

授業の計画（全体） 前半は物質文化に関する代表的論文を取り上げ輪読していきます。後半は各自の卒論に関連する文献を読み発表し、テーマを絞っていく時間に充てます。

成績評価方法（総合） 出席と授業への積極的態度によって評価します。

教科書・参考書 教科書：講読資料はコピーを作成し配布します。 / 参考書：講読論文に関連する文献、卒論に関連する文献は適宜アドバイスします。

メッセージ 卒論へ向けて自分の関心がまとまっていくことを期待します。プレゼンテーションはコンピュータを用いて行います。

連絡先・オフィスアワー E-mail hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10:00~12:00

| | | | | | |
|------|--------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 文化人類学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 坪郷英彦 | | | | |

授業の概要 ゼミ所属の4年生に対して卒業論文作成に向けて研究の基本的な方法、文献の読み方などを一人一人の進め方に沿いながらアドバイスしていきます。

授業の一般目標 はっきりした卒業論文のテーマ設定、研究の手順設定を学生一人一人が行うこと。

授業の計画(全体) 学生各自がテーマ設定のために文献を選び、内容を報告し、ディスカッションをするというプロセスを繰り返します。

成績評価方法(総合) 出席点と授業への積極的な参加態度によって評価します。

教科書・参考書 教科書：特に設けません。 / 参考書：各自の問題意識に沿って教員が紹介します。

メッセージ 卒論のための授業ですから、学生各自が主体的に行動してください。

| | | | | | |
|------|--------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 文化人類学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 坪郷英彦 | | | | |
| | | | | | |

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 民俗学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 湯川洋司 | | | | |

授業の概要 民俗学の基本的問題を理解し、民俗学に対する自らの関心を深め強める一助とする。テキストの各章について担当者の発表を軸にして読み合い、その内容について討論をしながら理解を深める。テキストは毎回、全員が読んで来ること。

授業の一般目標 1. 民俗学の扱う領域・課題を理解する。 2. 民俗学の思考法を知る。 3. 受講生との討論を通じて、相互に啓発しあう人間(友人)関係を築く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 民俗学の基本的概念や対象について理解する。 思考・判断の観点: 1. 民俗学的思考法に即したレポートを作成する。 関心・意欲の観点: 1. 発表の準備を入念に行い、積極的に発表を行う。 態度の観点: 1. 他者の発表をよく聞く。 2. 他者の発表に対して積極的に発言をする。 技能・表現の観点: 1. 分かりやすいレジュメを用意する。 2. 構成や文章表現の整ったレポートを作成する。

授業の計画(全体) 1. 発表スケジュールを定め、それに従い、発表の準備を授業時間外に自主的に行う。 2. レジュメを用意して発表を行う。 3. 発表内容に対して教員が解説やコメントをするとともに受講生全体で意見等を述べ合う。 4. 学習や討論を経て、各自が適宜なテーマを設定し、レポートを作成する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の説明・民俗とは 内容 授業の目標・進め方の解説
- 第 2 回 項目 口承と書承 内容 発表と討論
- 第 3 回 項目 認識と記述 内容 発表と討論
- 第 4 回 項目 比較の視野 内容 発表と討論
- 第 5 回 項目 ムラ社会とは何か(1) 内容 発表と討論
- 第 6 回 項目 ムラ社会とは何か(2) 内容 発表と討論
- 第 7 回 項目 家と親子(1) 内容 発表と討論
- 第 8 回 項目 家と親子(2) 内容 発表と討論
- 第 9 回 項目 日本人の死生観(1) 内容 発表と討論
- 第 10 回 項目 日本人の死生観(2) 内容 発表と討論
- 第 11 回 項目 死の民俗(1) 内容 発表と討論
- 第 12 回 項目 死の民俗(2) 内容 発表と討論
- 第 13 回 項目 カミとホトケ(1) 内容 発表と討論
- 第 14 回 項目 カミとホトケ(2) 内容 発表と討論
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 次の観点に留意して、授業への取組姿勢、発表内容、レポートの内容を総合的に評価する。 1. 出席をして、他の受講生の発表を聞いたり、自ら発表したりする態度や状況を重視する。 2. 発表当番の責任を十分に果たしたどうか。 3. 内容や表現のしっかりしたレポートを作成し提出できたか。

教科書・参考書 教科書: 現代民俗学入門, 古家信平他, 吉川弘文館, 1996 年 / 参考書: 授業中に適宜紹介する

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguti-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 民俗学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 湯川洋司 | | | | |

授業の概要 民俗学の基本的問題を理解し、民俗学に対する自らの関心を深め強める一助とする。テキストの各章について担当者の発表を軸にして読み合い、その内容について討論をしながら理解を深める。テキストは毎回、全員が読んで来ること。

授業の一般目標 1. 民俗学の扱う領域・課題を理解する。 2. 民俗学の思考法を知る。 3. 受講生との討論を通じて、相互に啓発しあう人間(友人)関係を築く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 民俗学の基本的概念や対象について理解する。 思考・判断の観点: 1. 民俗学的思考法に即したレポートを作成する。 関心・意欲の観点: 1. 発表の準備を入念に行い、積極的に発表を行う。 態度の観点: 1. 他者の発表をよく聞く。 2. 他者の発表に対して積極的に発言をする。 技能・表現の観点: 1. 分かりやすいレジュメを用意する。 2. 構成や文章表現の整ったレポートを作成する。

授業の計画(全体) 1. 発表スケジュールを定め、それに従い、発表の準備を授業時間外に自主的に行う。 2. レジュメを用意して発表を行う。 3. 発表内容に対して教員が解説やコメントをするとともに受講生全体で意見等を述べ合う。 4. 学習や討論を経て、各自が適宜なテーマを設定しレポートを作成する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の説明
- 第 2 回 項目 女性の民俗(1) 内容 発表と討論
- 第 3 回 項目 女性の民俗(2) 内容 発表と討論
- 第 4 回 項目 子供と老人の役割(1) 内容 発表と討論
- 第 5 回 項目 子供と老人の役割(2) 内容 発表と討論
- 第 6 回 項目 若者と国家(1) 内容 発表と討論
- 第 7 回 項目 若者と国家(2) 内容 発表と討論
- 第 8 回 項目 霊的職能者と社会(1) 内容 発表と討論
- 第 9 回 項目 霊的職能者と社会(2) 内容 発表と討論
- 第 10 回 項目 人神信仰(1) 内容 発表と討論
- 第 11 回 項目 人神信仰(2) 内容 発表と討論
- 第 12 回 項目 住居と世界観(1) 内容 発表と討論
- 第 13 回 項目 住居と世界観(2) 内容 発表と討論
- 第 14 回 項目 まとめ(1) 内容 発表と討論
- 第 15 回 項目 まとめ(2) 内容 レポート作成について

成績評価方法(総合) 次の観点に留意して、授業への取組姿勢、発表内容、レポートの内容を総合的に評価する。 1. 出席をして、他の受講生の発表を聞いたり、自ら発表したりする態度や状況を重視する。 2. 発表当番の責任を十分に果たしたどうか。 3. 内容や表現のしっかりしたレポートを作成し提出できたか。

教科書・参考書 教科書: 現代民俗学入門, 古家信平他, 吉川弘文館, 1996 年 / 参考書: 授業中に適宜紹介する

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 民俗学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 湯川洋司 | | | | |

授業の概要 卒業論文を作成するための指導を行う。

授業の一般目標 卒業論文の課題を設定し、課題解明のための調査研究を積極的に進め、その成果を発表する。

授業の計画(全体) 受講生各自が卒業論文の課題を設定し、課題に関する調査研究を進め、その成果を発表し、討議して研究の内容を深める。

成績評価方法(総合) 課題を明確に設定し、課題解明のための調査研究に積極的に取り組んだか、授業での取組姿勢と発表内容により評価する。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 民俗学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 湯川洋司 | | | | |

授業の概要 卒業論文作成のための指導を行う。

授業の一般目標 前期の授業で設定した卒業論文の課題について、調査研究を深めて、卒業論文にまとめる。

授業の計画(全体) 課題に関する自分の調査研究成果を発表し、発表内容について、全員で討議し、卒業論文を構成していく。

成績評価方法(総合) 課題に即した調査研究を進め、独自の論点を提示できるか、授業への取組姿勢と発表内容により評価する。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 民俗調査実習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 湯川洋司 | | | | |

授業の概要 民俗調査を実施するためのテーマと調査項目を用意するとともに、聞き書きや写真撮影法、地図の見方読み方、民具の作図法など、民俗資料を収集する技法を習得することを目的にします。先行文献を参考にして、調査対象地域を決めるとともに、調査対象に関する予備知識を蓄積します。そのうえで、自らの関心にに基づき、調査テーマを決定し、調査項目等の作成を進めて、夏季休暇中に3泊4日程度の現地調査を実施します。/検索キーワード 民俗 調査 実習 民俗学

授業の一般目標 1. 民俗調査の実施に関する一連の手順を理解する。 2. フィールドワークを実施するために必要な調査項目票等を作成する。 3. フィールドワークを実施するために必要な技能を学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 民俗調査の手順を理解する。 思考・判断の観点: 1. 民俗調査で得られるデータの質について考察する。 関心・意欲の観点: 1. 知りたいと思うテーマを明確に設定する。 2. テーマに接近するための方法をよく考え、準備する。 態度の観点: 1. 調査実施計画の立案に積極的に参加する。 2. 自らの興味を調査の場へ発展させる。 技能・表現の観点: 1. 聞きたいこと知りたいことを明確に整理し、分かりやすく発表できる。

授業の計画(全体) 1. 山口県内の民俗誌・民俗調査報告書を読んで、山口県内の民俗の存在状況を把握する。 2. 関心の持てるおおよそのテーマを各自で検討する。 3. 各自の関心を持つテーマに関する調査上のポイントを整理して発表し、受講生全体の共通知識とする。 4. 各自のテーマに即した調査項目や聞き書きに用いる質問項目、必要に応じてアンケート用紙などの作成を行う。 5. フィールド・ノート の作成法、写真の撮影法、地図の読み方・利用のしかた、民具の作図法を解説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業担当者による説明 内容 民俗調査実習のねらいとスケジュールの説明
- 第 2 回 項目 調査対象地域の設定(1) 内容 既刊の山口県内の民俗調査報告書を紹介する。
- 第 3 回 項目 調査対象地域の設定(2) 内容 既刊の山口県内の民俗調査報告書を整理して発表する。授業外指示 民俗調査報告書を読んでまとめる。探しておく。
- 第 4 回 項目 調査対象地域の設定(3) 内容 各自の発表を踏まえつつ意見交換をして対象地域を決定する。授業外指示 対象地域を検討しておく。
- 第 5 回 項目 受講生各自の調査テーマの企画(1) 内容 既刊の報告書・論文等の学習と発表を通じて調査テーマを考える。授業外指示 調査テーマを検討しておく。
- 第 6 回 項目 受講生各自の調査テーマの企画(2) 内容 既刊の報告書・論文等の学習と発表を通じて調査テーマを考える。授業外指示 調査テーマを検討しておく。
- 第 7 回 項目 受講生各自の調査テーマの企画(3) 内容 既刊の報告書・論文等の学習と発表を通じて調査テーマを考え、決定する。授業外指示 決まらない場合は、第8回までに決める。
- 第 8 回 項目 調査項目の作成 内容 各自のテーマに応じた調査項目を作成する。授業外指示 完成しない場合は、第9回までに完成させる。
- 第 9 回 項目 質問文案・調査票の作成(1) 内容 各自のテーマ・調査項目に即して必要になる質問文案・調査票を作成する。授業外指示 進捗状況に応じて、第10回に完成するように作業を行なう。
- 第 10 回 項目 質問文案・調査票の作成(2) 内容 質問文案・調査票を全体で検討し、修正等を行い完成させる。授業外指示 完成しない場合は、第11回までに完成させる。
- 第 11 回 項目 フィールドワークの方法を学ぶ(1) 内容 フィールドノートの役割・活用法・作成要領、調査データの整理法を説明する。
- 第 12 回 項目 フィールドワークの方法を学ぶ(2) 内容 写真撮影法と整理法を解説し、実習する。
- 第 13 回 項目 フィールドワークの方法を学ぶ(3) 内容 地図の利用法・略測図の作成法、民具の作図法などを説明し、実習する。

第 14 回 項目 調査項目票の完成 内容 調査項目票を完成させるとともに、調査で実際に試みる方法と調査結果報告の構成（目次）案をまとめる。授業外指示 調査項目票を完成させる。

第 15 回 項目 調査方法と調査結果報告構成案の発表 内容 作成した調査項目票に基づき、実際に試みる調査方法と調査結果報告の構成案（目次案）を各自が順次発表し、全員で検討のうえ実地調査の準備を整える。授業外指示 調査方法と調査結果報告構成案の準備をしておく。

成績評価方法（総合） 1．調査のための準備に積極的に取り組んだか。 2．各作業が確実に実行できたか。

教科書・参考書 教科書：とくに用いない。適宜，必要な資料をプリントして配布する。 / 参考書：新版 民俗調査ハンドブック, 上野和男 他編, 吉川弘文館, 1987 年；適宜紹介する。

メッセージ 好奇心を形にする授業です。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟 2 階 2 1 0 号室 オフィスアワー：原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねてください

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 民俗調査実習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 坪郷英彦 | | | | |

授業の概要 民俗調査で得たデータを処理し報告文としてまとめる能力を養成します。聞き書き、スケッチ、写真撮影により収集されたデータをどのように処理すればよいか、チームによる調査で得られた多量のデータをどうまとめていくかについて、その方法を理解し実践します。最終的に報告文の形でまとめること、報告書作りのための編集を具体的に行います。 / 検索キーワード 民俗 調査 実習 民俗学

授業の一般目標 1, 文字情報、画像情報のデジタル化の方法を習得します。 2, 集められた多くのデータをグルーピング等によってまとめる方法を習得します。 3, 自分の考えをまとめ、文章・図表・画像等で表すことを行います。 4, 報告書としてまとめるための編集技術を習得します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: デジタル化、データの集約、表現方法、編集技術に関する基本的方法を説明できる。報告書作りのための作業全体の手順、関連性を把握する。 思考・判断の観点: 多量のデータの内容を判断し体系的分類ができる。 関心・意欲の観点: 自らテーマを設定し、明らかになったことを報告文としてまとめる。全体をまとめることで一地域総体の民俗理解に寄与できる。 態度の観点: 表現し、まとめるために積極的な授業参加となる。 技能・表現の観点: コンピュータによるデジタル処理ができる。個別的なデータをまとめテーマに沿った文章表現ができる。文章、図、表の表現手段を的確に選択し、表現ができる。

授業の計画(全体) 夏休み期間中に行う調査で得たデータをまとめ、報告書にまとめるまでを行います。授業は大きく(1)データの共有化、(2)報告文の作成とデータの図表化、(3)報告書作りのための編集作業の3つに分かれます。(1)では聞き取りデータのカード化からエクセルへの入力までを学びます。(2)では文章表現方法とデータを図又は表の形でまとめ表現する方法を学びます。(3)ではコンピュータの編集ソフトを使い、データの入力とレイアウトの方法について学びます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 民俗調査実習の目標とスケジュールの説明 内容 スケジュール表に沿った説明 授業外指示 コンピュータ等 授業外学習のための機器の確認
- 第 2 回 項目 フィールドデータの処理 内容 調査データのカード化とグルーピングの方法、エクセルへの入力及び検索方法を理解し作業を行う。 授業外指示 調査データのエクセル入力を各自が行う。
- 第 3 回 項目 データ処理のためのコンピュータソフトの理解と相互の関連性の理解 内容 テキスト・画像データを扱うソフトの操作を行う。 授業外指示 調査データのエクセル入力を各自が行う。
- 第 4 回 項目 プレゼンテーション技法の理解 内容 経過発表に使うプレゼンテーションソフトの操作 授業外指示 調査データのエクセル入力を各自が行う。
- 第 5 回 項目 報告内容の企画 内容 個別データの集約化と、これを活用して各自の報告内容の企画を立てる
- 第 6 回 項目 報告テーマとその要旨の発表(1) 内容 個別に発表し、これに対する意見交換を行う。 授業外指示 プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備
- 第 7 回 項目 報告文テーマとその要旨の発表(2) 内容 個別に発表し、これに対する意見交換を行う。 授業外指示 プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備。
- 第 8 回 項目 報告文作成のための補足調査の実施 内容 報告文テーマとその要旨の発表で指摘された疑問点を解決するための現地調査を行う。 授業外指示 事前に各自の調査計画を立て、インフォマントへの事前確認を行う。
- 第 9 回 項目 補足調査データのまとめ 内容 補足調査の結果報告と情報交換を行う。 授業外指示 調査データのエクセルへの追加入力を行う。

- 第10回 項目 報告文の要旨発表と全体との調整(1) 内容 報告文作成のための詳細な報告を行う。図表の内容検討を行う。授業外指示 プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備。報告文の作成。
- 第11回 項目 報告文の要旨発表と全体との調整(2) 内容 報告文作成のための詳細な報告を行う。図表の内容検討を行う。授業外指示 プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備。報告文の作成。
- 第12回 項目 報告書編集のためのフォーマット作成 内容 個別に編集ソフトへの入力を行うためのレイアウト等のフォーマットを作成する。授業外指示 報告文の作成
- 第13回 項目 画像処理・編集・作図作表用のコンピュータソフトの理解と相互の関連性の理解 内容 画像・図表のデジタルデータを作成する。編集用ソフトへの画像・図表の入力を行う。授業外指示 報告文の作成
- 第14回 項目 報告書個別編集 内容 各自の報告文を編集する。授業外指示 各自の報告文を完成させる。
- 第15回 項目 報告書編集全体調整 内容 基本フォーマットを確認し、調整を行う。目次に沿って表題、ページ入力を行う。

成績評価方法(総合) 様々なレベルの手法を学ぶ授業なので出席を重視します。また、各自の報告文を作成するために2回の中間報告を義務づけて、表現力を評価します。また、グループ作業なので積極的な参加態度を重視します。

教科書・参考書 参考書：各自がまとめる報告分野にそって適宜指示する。

メッセージ 授業ではコンピュータを多用します。各自のパソコンを持ってきてください。所持していない人はコースから借りることができます。ワード、エクセルなどに慣れておくことが望ましい。

連絡先・オフィスアワー Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

人文社会学科 博物文化論コース

| | | | | | |
|------|-----|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 美術史 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 藤川哲 | | | | |

授業の概要 この講義では、「西欧美術史学」の歴史について講義します。日本の美術史学は、西欧美術史学から様々な問題意識を吸収してきました。グローバリゼーション時代に日本の大学で美術史を学ぶということについて受講生の皆さんとともに考えてみたいと思います。/ 検索キーワード 様式史、イコノロジー、芸術心理学、芸術社会学、フェミニズム、ポストコロニアリズム

授業の一般目標 1. 西欧美術史学の知的遺産の基本部分を学ぶ。2. 西欧美術史学を相対化する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：西欧美術史学によって生み出された用語の意味が説明できる。
 思考・判断の観点：西欧美術史学の有用性と問題について、独自の見解を述べることができる。 関心・意欲の観点：西欧美術史学の影響下に、現在さまざまな国で展開されている「美術史学」と西欧美術史学、という構図から、自ら一步踏み出そうという知的意欲を持つ。 態度の観点：「美術史とは何か」という問題意識をもって、さまざまな著作を渉猟し、独自の美術史観を育む。

授業の計画(全体) 16世紀イタリアで活躍したヴァザーリ以後、ポストコロニアリズムの現在まで、西欧美術史学の展開を追いつつ解説します。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 列伝史：ヴァザーリ
- 第 3 回 項目 考古学と美術史：ヴィンケルマン
- 第 4 回 項目 目利きと作品目録：モレッリ ベレンソン
- 第 5 回 項目 美術史の自律性：リーグル
- 第 6 回 項目 様式史：ヴェルフリン
- 第 7 回 項目 イコノロジー：パノフスキー
- 第 8 回 項目 美術史学の拡散
- 第 9 回 項目 知覚心理学と美術史：ゴンブリッチ
- 第 10 回 項目 社会史・社会学と美術史：バクサンドール
- 第 11 回 項目 フェミニズムと美術史：ポロック
- 第 12 回 項目 ポストコロニアル研究と美術史
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法(総合) (1) 期末試験による評価、(2) コメント票による評価、(3) 出席による評価

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。/ 参考書：講義の中で適宜紹介します。

メッセージ 「見ること」を足場に私たちにはどれだけの知的冒険が可能だろうか？

連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

| | | | | | |
|------|-----|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 美術史 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 藤川哲 | | | | |

授業の概要 この講義では、メディア・アートの歴史を代表的な作品の紹介によって辿ります。ビデオ上映やウェブ上の作品体験、山口情報芸術センターの見学等を行います。 / 検索キーワード メディア・アート、山口情報芸術センター

授業の一般目標 メディア・アートの歴史と代表作について簡単な解説ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：メディア・アートの歴史と代表作について簡単な解説ができる。

思考・判断の観点：メディア・アートの歴史から現状の問題点を指摘できる。 関心・意欲の観点：メディア・アートの面白さ、違いがわかる。 態度の観点：山口情報芸術センターのさまざまな機能を主体的に活用できる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 事例研究 1
- 第 3 回 項目 事例研究 2
- 第 4 回 項目 事例研究 3
- 第 5 回 項目 事例研究 4
- 第 6 回 項目 中間まとめ
- 第 7 回 項目 施設見学
- 第 8 回 項目 事例研究 5
- 第 9 回 項目 事例研究 6
- 第 10 回 項目 事例研究 7
- 第 11 回 項目 事例研究 8
- 第 12 回 項目 総括
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合）(1) 期末試験による評価、(2) コメント票による評価、(3) 出席による評価

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。 / 参考書：講義の中で適宜紹介します。

メッセージ 山口情報芸術センターが近くにオープンしたことは、今、山で美術史を学ぶ メリットの一つ。深く学んで積極的に活用しよう！

連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 芸術論特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 奥津 聖 | | | | |

授業の概要 芸術について考察するための資料の収集と蓄積の具体的な方法を探求。主として英文と日文の資料を講読。本年度は、実習や講読に近い形で講義を進める予定。受講生は何らかの形で講義に参画することが要請される。/ 検索キーワード イメージ、解釈学、視覚的思索、明治、日本の美学、美術史

授業の一般目標 論文制作の準備段階としての資料の収集と蓄積を実践するためのノウハウを身につけること。

授業の到達目標 / 態度の観点：授業への主体的参加 技能・表現の観点：プレゼンテーションとレポート

授業の計画（全体）美術史の基礎文献の収集と講読

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論 オリエンテーション 内容 講義内容、履修方法等の説明。Web 上の美術関連資料の紹介。活用。
- 第 2 回 項目 美術史とは何か 1 内容 簡単な美術史の歴史の解説 1
- 第 3 回 項目 美術史とは何か 2 内容 簡単な美術史の歴史の解説 2
- 第 4 回 項目 美術史とは何か 3 内容 簡単な美術史の歴史の解説 3
- 第 5 回 項目 資料の収集方法 1 内容 Web の利用法 1
- 第 6 回 項目 資料の収集方法 2 内容 Web の利用法 2
- 第 7 回 項目 資料の収集方法 3 内容 図書館の活用法 1
- 第 8 回 項目 資料の収集方法 4 内容 図書館の活用法 2
- 第 9 回 項目 資料の収集方法 5 内容 その他
- 第 10 回 項目 蓄積の方法 内容 コンピューターの利用
- 第 11 回 項目 実践的に講読 1 内容 内容は未定
- 第 12 回 項目 実践的に講読 2 内容 内容は未定
- 第 13 回 項目 実践的に講読 3 内容 内容は未定
- 第 14 回 項目 実践的に講読 4 内容 内容は未定
- 第 15 回 項目 終論 エピローグ 内容 講義の補足と総括。

成績評価方法（総合）プレゼンテーションとレポート提出

教科書・参考書 教科書：教科書 プリントを配布。ホームページ上に随時資料を掲載。/ 参考書：参考文献は、講義中に提示する。

メッセージ 教科書は無い。プリント資料を配布。

連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 芸術論特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 奥津 聖 | | | | |

授業の概要 芸術について考察するための資料の収集と蓄積の具体的な方法を探求。主として英文と日文の資料を講読。本年度は、実習や講読に近い形で講義を進める予定。受講生は何らかの形で講義に参画することが要請される。/ 検索キーワード イメージ、解釈学、視覚的思索、明治、日本の美学、美術史

授業の一般目標 論文制作の準備段階としての資料の収集と蓄積を実践するためのノウハウを身につけること。

授業の到達目標 / 態度の観点： 授業への主体的参加 技能・表現の観点： プレゼンテーションとレポート

授業の計画（全体） 美術史の基礎文献の収集と講読

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論 オリエンテーション 内容 講義内容、履修 方法等の説明。 Web 上の美学関連資料の紹介。活用。
- 第 2 回 項目 美学とは何か 1 内容 簡単な美学の歴史の解説 1
- 第 3 回 項目 美学とは何か 2 内容 簡単な美学の歴史の解説 2
- 第 4 回 項目 美術史とは何か 1 内容 簡単な美術史の歴史の解説 1
- 第 5 回 項目 美術史とは何か 2 内容 簡単な美術史の歴史の解説 2
- 第 6 回 項目 資料の収集と蓄積 1 内容 その方法論 1
- 第 7 回 項目 資料の収集と蓄積 2 内容 その方法論 2
- 第 8 回 項目 講読とプレゼンテーションの仕方 1 内容 内容未定
- 第 9 回 項目 講読とプレゼンテーションの仕方 2 内容 内容未定
- 第 10 回 項目 講読とプレゼンテーションの仕方 3 内容 内容未定
- 第 11 回 項目 講読とプレゼンテーションの仕方 4 内容 内容未定
- 第 12 回 項目 講読とプレゼンテーションの仕方 5 内容 内容未定
- 第 13 回 項目 解釈とは何か 1 内容 解釈学の解説 1
- 第 14 回 項目 解釈とは何か 2 内容 解釈学の解説 2
- 第 15 回 項目 終論 エピローグ 内容 講義の補足と総括。

成績評価方法（総合） プレゼンテーションとレポート提出

教科書・参考書 教科書：教科書 プリントを配布。ホームページ上に随時資料を掲載。/ 参考書：参考文献は、講義中に提示する。

メッセージ 教科書は無い。プリント資料を配布。

連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 芸術論特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 藤川哲 | | | | |

授業の概要 この講義では、国内外で開催されている国際美術展の現況について解説します。デジタル画像やビデオの上映を交えながら国際美術展の歴史、代表的な国際美術展を紹介したのち、特に1990年代以降のグローバル化の影響について、ヨーロッパとアジアとの対比の中で見ていきます。/
検索キーワード 国際美術展、現代美術、グローバル化、ビエンナーレ

授業の一般目標 (1) 国際美術展の現況について理解する。(2) 現代美術に関心をもつ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 現代美術の面白さ、展覧会の面白さがわかる。2. 代表的な国際美術展について簡単な説明ができる。
思考・判断の観点: 1. 幅広く深い教養を背景に、美術作品の好悪巧拙の判断ができる。2. 国際美術展について肯定的な側面と課題とを指摘できる。
関心・意欲の観点: 1. 自分の感性を絶えず磨き続ける。2. 幅広い教養を身につける。
態度の観点: 1. 国内で開催されている展覧会情報をチェックし、心の琴線に触れた展覧会には実際に出掛けてみる。2. 海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展を訪れる。

授業の計画(全体) 前半は、国際美術展の歴史、日本の参加・開催の経緯等について概観する。中盤は毎回1つの国際美術展を取り上げ、話題を集めた作品の紹介や、企画者の意図等の解説を行う。後半は、ヨーロッパとアジアとの対比の中で、国際美術展におけるグローバル化の問題を究明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 事例研究1
- 第3回 項目 事例研究2
- 第4回 項目 事例研究3
- 第5回 項目 事例研究4
- 第6回 項目 中間まとめ
- 第7回 項目 事例研究5
- 第8回 項目 事例研究6
- 第9回 項目 事例研究7
- 第10回 項目 事例研究8
- 第11回 項目 事例研究9
- 第12回 項目 総括
- 第13回
- 第14回
- 第15回

成績評価方法(総合) (1) 期末試験による評価、(2) コメント票による評価、(3) 出席による評価

教科書・参考書 教科書: プリントを配布します。 / 参考書: ヴェネツィアと日本: 美術をめぐる交流、石井元章著, "ブリュッケ、星雲社(発売)", 1999年; 『12人の挑戦 大観から日比野まで』、茨城新聞社、2002年 石井元章『ヴェネツィアと日本 美術をめぐる交流』、ブリュッケ、1999年 『ヴェネツィア・ビエンナーレ 日本参加の40年』、国際交流基金、毎日新聞社、1995年、ほか講義の中で随時紹介します。

メッセージ 「ビエンナーレ」という呼ばれ方で、アートの世界でもグローバル化が進んでいます。現代美術の明日はどっちだ!?

連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 芸術論特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 藤川哲 | | | | |

授業の概要 この講義では、2005 年度に開催される展覧会を紹介しします。特に、企画趣旨や出品作品、作家について解説しします。 / 検索キーワード 展覧会企画、現代美術、近代美術、西欧美術

授業の一般目標 (1) 各展覧会の企画趣旨について理解を深める。(2) 美術に関心をもつ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 作品や展覧会の面白さがわかる。2. 美術史の基本的な用語を作品に即して説明できる。 思考・判断の観点： 1. 展覧会のテーマが社会に投げかける問いを読み解き、自らの考えを述べる ことができる。2. 展覧会企画における現実的な制約と先取的な企図とのせめぎあいを看取できる。 関心・意欲の観点： 1. 自分の感性を絶えず磨き続ける。2. 幅広い教養を身につける。 態度の観点： 1. 国内で開催されている展覧会情報をチェックし、心の琴線に触れた展覧会には実際に 出掛けてみる。2. 海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展を訪れる。

授業の計画 (全体) 基本的に各週 1 つの展覧会を紹介しします。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 事例研究 1
- 第 3 回 項目 事例研究 2
- 第 4 回 項目 事例研究 3
- 第 5 回 項目 事例研究 4
- 第 6 回 項目 事例研究 5
- 第 7 回 項目 事例研究 6
- 第 8 回 項目 事例研究 7
- 第 9 回 項目 事例研究 8
- 第 10 回 項目 事例研究 9
- 第 11 回 項目 事例研究 10
- 第 12 回 項目 総括
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) (1) 期末試験による評価、(2) コメント票による評価、(3) 出席による評価

メッセージ 実戦経験を積んで強くなってください。芸術論における実戦経験とは、すなわち、作品を前にあなたが何を感じる ことができるか、です。むしろあなたが作品から挑まれている、と想像してみてください。さあ、展覧会へ出掛けましょ う！

連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 芸術論特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 阿部 一直 | | | | |

授業の概要 メディア・アートについて紹介します / 検索キーワード メディア・アート, YCAM

授業の一般目標 メディア・アートに親しむこと・表現内容を読み取ること

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: メディア・アートに関する基礎的な用語が説明できる 思考・判断の観点: 表現内容を読み取り, 自ら考えを展開することができる 関心・意欲の観点: メディア・アート独自の可能性, 今後の展開に関心をもつ 技能・表現の観点: 作品に対する自分の考えを論理的に表現できる

授業の計画(全体) 歴史的経緯から, 最新事情まで幅広く取り上げます

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 事例研究 1

第 3 回 項目 事例研究 2

第 4 回 項目 事例研究 3

第 5 回 項目 事例研究 4

第 6 回 項目 中間まとめ

第 7 回 項目 事例研究 5

第 8 回 項目 事例研究 6

第 9 回 項目 事例研究 7

第 10 回 項目 事例研究 8

第 11 回 項目 事例研究 9

第 12 回 項目 事例研究 10

第 13 回 項目 総括

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) レポートにより評価します

教科書・参考書 参考書: 講義の中で適宜紹介します

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 美術史・芸術論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 奥津 聖 | | | | |

授業の概要 学生の発表と討論 卒論作成のための準備訓練と資料集積 / 検索キーワード 卒論、プレゼンテーション

授業の一般目標 卒論を書けるようにする プレゼンテーションの技術を身につける

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：自ら問題を立てて解決する能力の養成 技能・表現の観点：レポート作成、論文作成能力の錬磨 プレゼンテーションの方法

授業の計画（全体） コロキウム形式であり、問題は個別にわたるので前もってのシラバス作成はできない。参加学生の個別指導となる。

成績評価方法（総合） 演習中のプレゼンテーション レポート

教科書・参考書 参考書：その都度指示する

連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 美術史・芸術論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 奥津 聖 | | | | |

授業の概要 学生の発表と討論 卒論作成のための準備訓練と資料集積 / 検索キーワード 卒論、プレゼンテーション

授業の一般目標 卒論を書けるようにする プレゼンテーションの技術を身につける

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：自ら問題を立てて解決する能力の養成 技能・表現の観点：レポート作成、論文作成能力の錬磨 プレゼンテーションの方法

授業の計画（全体） コロキウム形式であり、問題は個別にわたるので前もってのシラバス作成はできない。参加学生の個別指導となる。

成績評価方法（総合） 演習中のプレゼンテーション レポート

教科書・参考書 参考書：その都度指示する

連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 美術史・芸術論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 藤川哲 | | | | |

授業の概要 受講者の研究テーマによる発表と、発表に対する質問、討論を中心とした演習です。 / 検索キーワード 研究発表、討議

授業の一般目標 1. 自分の考えを持つこと。それを人にわかりやすく発表できるようになること。2. 人の発表を聞いて、建設的な発言、討議ができるようになること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 自らの研究テーマについて基礎的な知識を身につける。 思考・判断の観点： 他の受講生の研究テーマも含めた美術史・芸術論の全体像の中に、自らの研究テーマをイメージできる。 関心・意欲の観点： 美術史・芸術論をめぐるさまざまなテーマに関心をもつ。 態度の観点： 自分の関心の所在を見定め、必要な文献を収集し、考えを文章でまとめるができる。

授業の計画（全体） 最初の週に、各自関心のあるテーマを発表してもらいます。その後は、順番を決め、各週 2 人ずつ発表の形式をとります。発表者はレジュメ作成のこと。発表、討議を経て内容を深めた期末レポートの提出を求めます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究発表 1
- 第 3 回 項目 研究発表 2
- 第 4 回 項目 研究発表 3
- 第 5 回 項目 研究発表 4
- 第 6 回 項目 研究発表 5
- 第 7 回 項目 中間討議
- 第 8 回 項目 研究発表 6
- 第 9 回 項目 研究発表 7
- 第 10 回 項目 研究発表 8
- 第 11 回 項目 研究発表 9
- 第 12 回 項目 総括
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） (1) 研究発表による評価、(2) 他の発表者への質問・意見等、討議への参加度による評価、(3) 期末レポートによる評価

メッセージ 各自、自分が「言いたいことは何か」をはっきりさせて発表に臨んでください。関心のある作品や作家の「紹介」は発表として認めません。他の参加者は、発表者の「言いたいこと」に自分が賛成できるか出来ないか、しっかり自分の立場を確認しつつ発表を聞き、発言してください。前期の美術史実習を履修の上、Microsoft PowerPoint の操作に習熟しておいてください。

連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 美術史・芸術論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 藤川哲 | | | | |

授業の概要 受講者の研究テーマによる発表と、発表に対する質問、討論を中心とした演習です。 / 検索キーワード 研究発表、討議

授業の一般目標 1. 自分の考えを持つこと。それを人にわかりやすく発表できるようになること。2. 人の発表を聞いて、建設的な発言、討議ができるようになること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 自らの研究テーマについて基礎的な知識を身につける。 思考・判断の観点： 他の受講生の研究テーマも含めた美術史・芸術論の全体像の中に、自らの研究テーマをイメージできる。 関心・意欲の観点： 美術史・芸術論をめぐるさまざまなテーマに関心をもつ。 態度の観点： 自分の関心の所在を見定め、必要な文献を収集し、考えを文章でまとめるができる。

授業の計画（全体） 最初の週に、各自関心のあるテーマを発表してもらいます。その後は、順番を決め、各週 2 人ずつ発表の形式をとります。発表者はレジュメ作成のこと。発表、討議を経て内容を深めた期末レポートの提出を求めます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究発表 1
- 第 3 回 項目 研究発表 2
- 第 4 回 項目 研究発表 3
- 第 5 回 項目 研究発表 4
- 第 6 回 項目 研究発表 5
- 第 7 回 項目 中間討議
- 第 8 回 項目 研究発表 6
- 第 9 回 項目 研究発表 7
- 第 10 回 項目 研究発表 8
- 第 11 回 項目 研究発表 9
- 第 12 回 項目 総括
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） (1) 研究発表による評価、(2) 他の発表者への質問・意見等、討議への参加度による評価、(3) 期末レポートによる評価

メッセージ 各自、自分が「言いたいことは何か」をはっきりさせて発表に臨んでください。関心のある作品や作家の「紹介」は発表として認めません。他の参加者は、発表者の「言いたいこと」に自分が賛成できるか出来ないか、しっかり自分の立場を確認しつつ発表を聞き、発言してください。前期の美術史実習を履修の上、Microsoft PowerPoint の操作に習熟しておいてください。

連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 美術史実習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 奥津聖 | | | | |

授業の概要 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得 / 検索キーワード プレゼンテーション

授業の一般目標 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

授業の到達目標 / 技能・表現の観点： コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 美術史実習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 奥津聖 | | | | |

授業の概要 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得 / 検索キーワード プレゼンテーション

授業の一般目標 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

授業の到達目標 / 技能・表現の観点： コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 美術史実習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 藤川哲 | | | | |

授業の概要 Microsoft PowerPoint を使った効果的なヴィジュアル・プレゼンテーションに習熟するための実習です。 / 検索キーワード プレゼンテーション、インターネット

授業の一般目標 各自、自分の研究テーマに関連する素材を蓄積、テーマ毎に整理し、プレゼンテーション・ドキュメントを作成、発表する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の発表テーマに必要な素材が準備できる。 思考・判断の観点：簡潔で要領を得たプレゼンテーションができる。 関心・意欲の観点：他の学生のプレゼンテーションから優れた点を学ぶよう心掛ける。 態度の観点：テレビや映画をはじめとする日常生活の環境の中から、視覚的なコミュニケーションにおける手法上の工夫やトレンドを読み解くことができる。 技能・表現の観点：1. スキャナーを使った画像の取り込みができる。2. OCR によるテキスト・データの作成と校正ができる。3. Microsoft PowerPoint の基本操作ができる。4. 効果的な視覚表現を工夫できる。

授業の計画（全体）前半は、画像とテキストそれぞれのデータの作成方法について学びます。中盤は、それらを活用したプレゼンテーション・ドキュメントの作成方法を学び、同時に必要素材の整理・収集を行います。後半は各自、実際にプレゼンテーションを行ってもらい、より効果的な視覚表現のあり方について全員で討議・探究します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 実習指導 1
- 第 3 回 項目 実習指導 2
- 第 4 回 項目 実習指導 3
- 第 5 回 項目 実習指導 4
- 第 6 回 項目 実習指導 5
- 第 7 回 項目 中間発表
- 第 8 回 項目 実習指導 6
- 第 9 回 項目 実習指導 7
- 第 10 回 項目 実習指導 8
- 第 11 回 項目 実習指導 9
- 第 12 回 項目 最終発表
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

メッセージ ヴィジュアル・コミュニケーションの「作り手」の快感というものもあります。

連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 美術史実習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 藤川哲 | | | | |

授業の概要 インターネットを活用したドキュメントの収集とウェブ・コンテンツ作成を中心とした実習です。 / 検索キーワード インターネット、ウェブ・コンテンツ作成

授業の一般目標 各自、自分の研究テーマにあったインターネット活用法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. インターネットを活用した情報収集ができる。 2. HTML の基本タグがタイプできる。 思考・判断の観点： インターネットで可能なこと、不可能なことの見当がつく。

関心・意欲の観点： 自分の関心にあったポータルサイトを持つ。 態度の観点： インターネットを活用して自らの知的生活を豊かにできる。 技能・表現の観点： 1. 検索サイトを効率よく活用できる。 2. ウェブ・コンテンツ作成支援ソフトの 基本操作ができる。

授業の計画（全体） インターネット活用の概略、ウェブ・コンテンツ作成支援ソフト等を紹介したのち、班分けを行い、班毎に作業内容、目標を決めて、研究室で作成中のウェブ・ページを教材として、同ウェブの機能やコンテンツに関する提案、作成を行ってまいります。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 実習指導 1
- 第 3 回 項目 実習指導 2
- 第 4 回 項目 実習指導 3
- 第 5 回 項目 実習指導 4
- 第 6 回 項目 実習指導 5
- 第 7 回 項目 中間発表
- 第 8 回 項目 実習指導 6
- 第 9 回 項目 実習指導 7
- 第 10 回 項目 実習指導 8
- 第 11 回 項目 実習指導 9
- 第 12 回 項目 最終発表
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

メッセージ インターネットを「ゴミだめ」にするのも「宝石箱」にするのもあなた次第！

連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 考古学概説 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 村田裕一 | | | | |

授業の概要 日本考古学における基本的な方法論や研究成果・知識について解説する。 / 検索キーワード
考古学

授業の一般目標 1. 考古学の基本知識を獲得する。 2. 考古学の方法論への理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： A. 土器や石器などの考古遺物について説明できる。 B. 考古学の方法論について説明できる。

授業の計画（全体） 日本考古学が対象とする様々な事象とモノとをとり上げて、学史的・方法論的な立場から解説する。基礎的な知識の解説に重点を置く。前期には考古学の発達史や研究法を中心に解説する。後期には日本列島の旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代の、自然環境、住居、集落、生業、衣類、道具、工芸、交易、埋葬、習俗、宗教について見てゆく。 <留意点> 開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に考古学の方法論を中心とした事項を重点的に解説するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。

成績評価方法（総合） 定期試験 80%。 授業外レポート 20%

教科書・参考書 教科書： 使用しない。講義プリントを配布する。 / 参考書： 講義の中で文献を紹介する。

連絡先・オフィスアワー E-mail： h-murata@yamaguchi-u.ac.jp， オフィスアワー： 水曜日 5・6 時限

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 考古学概説 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 村田裕一 | | | | |

授業の概要 日本考古学における基本的な方法論や研究成果・知識について解説する。 / 検索キーワード
考古学

授業の一般目標 1. 考古学の基本知識を獲得する。 2. 考古学の方法論への理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： A. 土器や石器などの考古遺物について説明できる。 B. 考古学の方法論について説明できる。

授業の計画（全体） 日本考古学が対象とする様々な事象とモノとをとり上げて、学史的・方法論的な立場から解説する。基礎的な知識の解説に重点を置く。前期には考古学の発達史や研究法を中心に解説する。後期には日本列島の旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代の、自然環境、住居、集落、生業、衣類、道具、工芸、交易、埋葬、習俗、宗教について見てゆく。 <留意点> 開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に考古学の方法論を中心とした事項を重点的に解説するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。

成績評価方法（総合） 定期試験 80% 授業外レポート 20%

教科書・参考書 教科書： 使用しない。講義プリントを配布する。 / 参考書： 講義の中で文献を紹介する。

連絡先・オフィスアワー E-mail： h-murata@yamaguchi-u.ac.jp , オフィスアワー： 水曜日 5・6 時限

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 東アジア考古学 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 村田裕一 | | | | |

授業の概要 縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記のテーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別の考古資料および題材は、毎年・開講学期毎に異なる。 / 検索キーワード 考古学, 石器, 鉄器, 弥生時代, 生産と流通

授業の一般目標 1. 考古学の基礎の一つであるところの実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる力を養う。 2. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法, すなわち考古学の方法論の基礎について習得する。 3. 学術論文を批判的に読解する力を養う。 4. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: A. 実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる。 B. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。 思考・判断の観点: A. 学術論文を批判的に読解し問題点を抽出できる。 B. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法, すなわち考古学の方法論を, 自分の選んだ考古学的題材に適用できる。 関心・意欲の観点: A. 自分が関心を持つ考古資料をあげることができる。

授業の計画(全体) 【弥生時代の石器・鉄器】弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ、石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で、集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し、製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期の講義では、遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置きながら、山口県や福岡県西部地域の状況を中心に扱う。後期の講義では、前期に整理した基本的な事項を基礎として、九州全域から瀬戸内・山陰地域へと視野を拡大する。 <留意点> 開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に基礎的な事項を整理するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。基本的には講義スタイルの授業だが、受講生の理解のために必要と判断すれば、遺物実測図の並べ替えといった、作業を伴うような時間を設定する。また、時間内に受講生に意見を求めることもあるので自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得しておくこと。

成績評価方法(総合) 小テスト・授業内レポート 10%, 授業外レポート 90%。

教科書・参考書 教科書: 使用しない。講義プリントを配布する。 / 参考書: 石器入門事典 - 先土器 - - 縄文 -, 加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助, 柏書房, 1991年; 倭人と鉄の考古学, 村上恭通, 青木書店, 1998年; 考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器, 北条芳隆・禰宜田佳男 監修, 小学館, 2002年; ここにあげたものは、特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

メッセージ 石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれません。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

連絡先・オフィスアワー E-mail: h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー: 水曜日 7・8 時限

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 東アジア考古学 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 村田裕一 | | | | |

授業の概要 縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記のテーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別の考古資料および題材は、毎年・開講学期毎に異なる。 / 検索キーワード 考古学、石器、鉄器、弥生時代、生産と流通

授業の一般目標 1. 考古学の基礎の一つであるところの実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる力を養う。 2. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論の基礎について習得する。 3. 学術論文を批判的に読解する力を養う。 4. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： A. 実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる。 B. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。 思考・判断の観点： A. 学術論文を批判的に読解し問題点を抽出できる。 B. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論を、自分の選んだ考古学的題材に適用できる。 関心・意欲の観点： A. 自分が関心を持つ考古資料をあげることができる。

授業の計画（全体）【弥生時代の石器・鉄器】弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ、石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で、集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し、製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期の講義では、遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置きながら、山口県や福岡県西部地域の状況を中心に扱う。後期の講義では、前期に整理した基本的な事項を基礎として、九州全域から瀬戸内・山陰地域へと視野を拡大する。 <留意点> 開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に基礎的な事項を整理するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。基本的には講義スタイルの授業だが、受講生の理解のために必要と判断すれば、遺物実測図の並べ替えといった、作業を伴うような時間を設定する。また、時間内に受講生に意見を求めることもあるので自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得しておくこと。

成績評価方法（総合）小テスト・授業内レポート 10%，授業外レポート 90%。

教科書・参考書 教科書：使用しない。講義プリントを配布する。 / 参考書：石器入門事典 - 先土器 - - 縄文 - ，加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助，柏書房，1991年；倭人と鉄の考古学，村上恭通，青木書店，1998年；考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器，北条芳隆・禰宜田佳男 監修，小学館，2002年；ここにあげたものは、特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

メッセージ 石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれませんが。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

連絡先・オフィスアワー E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp，オフィスアワー：水曜日7・8時限

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 比較考古学 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 中村友博 | | | | |

授業の概要 縄紋・弥生過渡期の土器研究：各地の縄紋終末の土器と初期弥生土器を毎回プリントを教材として遺跡ごとに個別に検する。今期は昨年の継続として山口県から始め、いよいよ九州地方の土器を検討する。弥生人の進入仮説というべき学説に留意しながら、土器を紹介することにする。／検索キーワード 刻目突帯文土器 遠賀川式土器 板付遺跡

授業の一般目標 1．考古学ではもっとも一般的な遺物である土器の資料化を修得する。 2．考古学の方法論を実践的に修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：考古学の専門用語を修得する。 思考・判断の観点：型式学的方法を修得する。 関心・意欲の観点：先史学の基礎になる、土器の多様な変化に興味をもつ。 技能・表現の観点：遺物の資料提示の仕方を学ぶ。 その他の観点：遺跡の発掘報告書が読みこなせる。

授業の計画（全体）旧年の継続で、今回は中・四国地方からはじまり九州地方を順次、南下し、出土土器を検討してゆく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 赤妻遺跡の土器
- 第 2 回 項目 吉田遺跡の土器
- 第 3 回 項目 小路遺跡の土器
- 第 4 回 項目 西遺跡の土器
- 第 5 回 項目 下右田遺跡の土器
- 第 6 回 項目 月崎遺跡の土器
- 第 7 回 項目 法仙庵遺跡の土器
- 第 8 回 項目 川棚条理遺跡の土器
- 第 9 回 項目 沖田遺跡の土器
- 第 10 回 項目 ナカンダ浜遺跡の土器
- 第 11 回 項目 江口遺跡の土器
- 第 12 回 項目 貫遺跡の土器
- 第 13 回 項目 貫・井手ヶ本遺跡の土器
- 第 14 回 項目 春日台遺跡の土器
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合）授業は専門的な分野であるから、成績は基本的に受講生の独自な分野の研究（ただし考古学に限定）をレポートとして提出していただき、判定することにする。個々の観点のうち、独創性を含めて得意な長所をできるだけ評価するが、みずから調べる努力の見られないものは評価しない。

教科書・参考書 教科書：毎回、プリントを配布する。／参考書：授業中に言及する。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー月曜日 16:10～17:40

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 比較考古学 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 中村友博 | | | | |

授業の概要 縄文・弥生過渡期の土器研究； 前期の続きで、縄文時代終末の土器と初期弥生土器を検討する。範囲は九州地方の北部から南部におよぶ。いちおう週別に挙げた次の遺跡の土器を予定している。
/ 検索キーワード 刻目突帯文土器 遠賀川式土器

授業の一般目標 1．考古学の一般的な資料である土器の資料化を修得する。 2．考古学の方法論を実践的に修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： * 弥生文化について理解する。 * 考古学の専門用語を理解する。
思考・判断の観点： 型式学的方法を修得する。 関心・意欲の観点： 先史土器の多様性について興味をもつ。 技能・表現の観点： 遺物の提示法を修得する。 その他の観点： 発掘報告書が読みこなせる。

授業の計画（全体） 前期の進行状況によるが、以下の内容を考えている。原則として1回1遺跡。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 井手流遺跡の土器
- 第 2 回 項目 野田目遺跡の土器
- 第 3 回 項目 有田七田前遺跡の土器
- 第 4 回 項目 柳原遺跡の土器
- 第 5 回 項目 植田市遺跡の土器
- 第 6 回 項目 原田遺跡出土の土器
- 第 7 回 項目 大野原遺跡の土器
- 第 8 回 項目 夏足原遺跡の土器
- 第 9 回 項目 山ノ寺遺跡の土器
- 第 10 回 項目 礪石原遺跡の土器
- 第 11 回 項目 上南部遺跡の土器
- 第 12 回 項目 王子原遺跡の土器
- 第 13 回 項目 塚原遺跡の土器
- 第 14 回 項目 上中段遺跡の土器
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 授業は専門的な分野であるから、成績は受講生の独自の分野の研究（ただし考古学に限定）をレポートとして提出していただく。下のような個々の観点のうち、得意な長所をできるだけ評価するが、みずから調べる努力のないものは評価しない。

教科書・参考書 教科書： 毎回、プリントを配布する。 / 参考書： 授業中に言及する。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17:40

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 比較考古学 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 和田 晴吾 | | | | |

授業の概要 弥生墳丘墓と古墳の研究；日本列島における本格的な水稻農耕社会の定着から、古代国家成立までの長い歴史過程を考古学的に理解するために、弥生時代から古墳時代にかけて墳丘墓（墳丘をもつ墓）を、さまざまな視点から比較検討し、弥生墳丘墓3段階、古墳5段階として捉えて、各段階・各画期の意味を考える。／検索キーワード 弥生墳丘墓 古墳 首長連合体制 首長制 初期国家

授業の一般目標 ・弥生時代や古墳時代の墳丘墓について、できるだけ多くの知識を身につける。 ・分析方法を明確にして話をするので、考古学的な研究方法について理解を深める。 ・この分野での、現在の到達点と課題を知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 関連する考古資料をできるだけ多く知る。 思考・判断の観点： 具体的に、論理的に考える習慣を身につける。 関心・意欲の観点： 自分でやるからおもしろい、ということを知る。 態度の観点： 集中力を高め、熱中する。 技能・表現の観点： 図表の大切さを知る

授業の計画（全体） ・集中講義で行う。 ・毎時間、レジュメを用意し、それを基本に話を進める。 ・いちおう5日間のスケジュールとしては、弥生墳丘墓2日、古墳3日を予定している。

成績評価方法（総合） 授業外レポート（テーマは授業中に述べる）

教科書・参考書 教科書： なし。 / 参考書： 「古墳文化論」『日本史講座』第1巻, 和田晴吾, 東京大学出版会, 2004年；プリント配布。

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 考古学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 中村友博 | | | | |

授業の概要 卒業論文作成のための演習である。発表者の研究発表の向上をはかるためには、問題の明確さ、資料の実体化、収集・検索能力、説得力、口頭発表の仕方などを修得する。 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 卒業論文を完成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：従来の研究を掌握し、学説を承知する。 思考・判断の観点：問題の設定を適切に行ない、資料を実体化する。 関心・意欲の観点：興味をもって、集中して取り組む。 態度の観点：問題点を公共化できる。 技能・表現の観点：資料を図表で正確に表現できる。

授業の計画(全体) 毎回、発表分担者を決めて、当事者は資料を添えて口頭発表する。事情で欠席するばあいは、事前に申し出て、順番を変更することができる。

成績評価方法(総合) 授業中の平常をもって評価・採点する。その時には、自己の能力をフルに活用して問題を解決するかどうか、決め手になり、計画的に課題を消化し、まとめる能力を重視する。また、口頭発表であるから文章能力よりも態度が要素に入るので注意すること。

教科書・参考書 教科書：指定せず / 参考書：発表者個々に指導する。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17.40

| | | | | | |
|------|------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 考古学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 中村友博 | | | | |

授業の概要 卒業論文作成のための演習である。問題点の明確化、資料の実体性などに加えて、論文執筆の要領を後期には教示する。/ 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 卒業論文の完成を図る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：従来の学説・研究を理解する。 思考・判断の観点：問題点を設定できる。 関心・意欲の観点：従来の研究を追跡、検討する。 態度の観点：問題点を公共化できる。 技能・表現の観点：資料の適正化をはかる。

授業の計画(全体) 発表者をあらかじめ決め、各自の研究を口頭発表し、相互に論評する。

成績評価方法(総合) 授業の発表、質問など平常の評価・採点をおこなう。自己の能力をフルに活用して問題探求、設定、解決に向かうかどうかを、重要なポリシーとする。

教科書・参考書 教科書：特になし。/ 参考書：発表者個々に指導する。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17.40

| | | | | | |
|------|------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 考古学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 村田裕一 | | | | |

授業の概要 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。

授業の一般目標 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。

授業の到達目標 / 関心・意欲の観点: A. 発表内容について討議できる。 **技能・表現の観点:** A. 論旨構築に必要な考古資料を抽出できる。 B. 抽出した考古資料を、適切に資料操作できる。資料操作は、考古学的手法・統計学的手法・理化学的手法などによる資料分析のことである。 C. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを効果的に使って説明できる。 D. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。

授業の計画(全体) 【考古学の諸問題】受講生は、各自が設定したテーマにそって、基本的には2回程度の研究発表を行う。発表については、受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。

成績評価方法(総合) 授業態度・授業への参加度 10%、受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 90%。

メッセージ 大学内外所蔵の遺跡発掘調査報告書を基本文献として、研究を開始することになります。研究の進展にしたいが、学外の調査研究機関に資料調査に行く必要も生じます。研究は一朝一夕に進展するものではなく、各自の日頃の取り組みが重要なので地道に努力することが大切です。途中何度も突き当たる壁を自ら乗り越えてゆく気概が必要ですが、教官の助言が有効な場合もあります。相談は随時受け付けます。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。授業の性格上、無断欠席はしないでください。

連絡先・オフィスアワー E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp , オフィスアワー : 水曜日 7・8 時限

| | | | | | |
|------|------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 考古学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 村田裕一 | | | | |

授業の概要 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。

授業の一般目標 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。

授業の到達目標 / 関心・意欲の観点：A. 発表内容について討議できる。 技能・表現の観点：A. 論旨構築に必要な考古資料を抽出できる。 B. 抽出した考古資料を、適切に資料操作できる。資料操作は、考古学的手法・統計学的手法・理化学的手法などによる資料分析のことである。 C. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを効果的に使って説明できる。 D. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。

授業の計画(全体) 【考古学の諸問題】受講生は、各自が設定したテーマにそって、基本的には2回程度の研究発表を行う。発表については、受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。

成績評価方法(総合) 授業態度・授業への参加度 10%、受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 90%。

メッセージ 大学内外所蔵の遺跡発掘調査報告書を基本文献として、研究を開始することになります。研究の進展にしたいが、学外の調査研究機関に資料調査に行く必要も生じます。研究は一朝一夕に進展するものではなく、各自の日頃の取り組みが重要なので地道に努力することが大切です。途中何度も突き当たる壁を自ら乗り越えてゆく気概が必要ですが、教官の助言が有効な場合もあります。相談は随時受け付けます。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。授業の性格上、無断欠席はしないでください。

連絡先・オフィスアワー E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp , オフィスアワー : 水曜日 7・8 時限

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 考古学実習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 4 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 中村友博 | | | | |

授業の概要 この授業では、野外の発掘調査に不可欠な測量法を実習する。測量器械の操作方法と身のこなし方、計算法、作図法の実技を修得する。ただし雨天のばあいは室内作業を実習する。 / 検索キーワード 発掘調査法

授業の一般目標 1. 発掘調査に必要な測量ができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 測量の原理を理解する。 思考・判断の観点： 状況に応じた測量法を修得する。 関心・意欲の観点： 実技・作業の身のこなし方に興味をもつ。 態度の観点： *危険回避行動を身につける。 *チームワークを修得する。 技能・表現の観点： 線画の表現法を学ぶ。

授業の計画(全体) 考古学のうち、測量分野は座学、独学ができない実践分野で、特に発掘担当者を志望する者はこの実習で教える骨格測量の原理を理解していなければならない。要するに、だれも教えてくれないが、専門職に就けば、知って得する内容を初心者に教えます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 測距 内容 スチール・テープの扱い方
- 第 2 回 項目 測距 内容 レベルによる標高計測
- 第 3 回 項目 測角 内容 トランシユットの扱い方
- 第 4 回 項目 測角 内容 三脚の据え方
- 第 5 回 項目 測角 内容 副尺の読み方
- 第 6 回 項目 測角 内容 上下のネジの操作法
- 第 7 回 項目 測角 内容 内外角による多角測量
- 第 8 回 項目 測角 内容 方位角による多角測量
- 第 9 回 項目 計算法 内容 図根点の作図
- 第 10 回 項目 地形測量 内容 平板の据え方
- 第 11 回 項目 地形測量 内容 等高線の求め方
- 第 12 回 項目 作図 内容 図面の整合法
- 第 13 回 項目 測角 内容 三角法
- 第 14 回 項目 細部測量 内容 やり方の設置
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法(総合) 実習中の平常で評価・採点する。判定基準は実技が出来るか出来ないかであって、器用・不器用、上手・下手は、個性と経験によるからこの授業では重視しない。要するに、全員出来るようになってほしいし、全員できるまでやらせるので、資格のように判定する。

教科書・参考書 教科書： 測量学の図書はあるが、測量実技は図書からは学べないので、基本動作を体で覚えること。 / 参考書： 特にない。

メッセージ 考古学専攻の3年生に限る。また、授業前に全員そろって機材を用意しておくこと。さらに授業中には、交通事故などに注意すること。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17.40

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 考古学実習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 4 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 村田裕一 | | | | |

授業の概要 考古学の基礎的技術である考古資料の取り扱いについて指導する。考古学の研究対象は過去の時代のモノ（遺構・遺物）である。その際、実物を取り扱うことが基本ではあるが、研究の大部分の段階では、二次的に加工された資料を取り扱うことが多い。この二次資料の代表的なものは図面や写真である。この授業では、考古学的な資料の取り扱いのための基礎的技術に習熟することを目的とする。この技術とは、下の一般目標に示す3項目であるが、2および3は表裏一体のものである。これらの技術はそれぞれ非常に高度な専門的技術であるため、その習得には受講生の多大な研鑽が必要とされるのは言うまでもない。考古学実習ではこれらの技術を習得するための初歩的な手ほどきを行うことで、考古遺物に対する理解を深める。 / 検索キーワード 考古学, 石器, 土器, 発掘調査, 資料調査, 実習, 実測

授業の一般目標 1. 壊れやすく貴重な実物そのものを実際に取り扱うための技術を習得する。 2. 実物の資料化（実物から二次資料への変換）のための技術の初歩を習得する。 3. 二次資料（実測図・写真・拓本）に込められた情報を判読する技術を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： A. 遺物取り扱いの留意点を状況に応じて具体的に指摘できる。 B. 遺物整理から報告書作成までの作業のアウトラインを説明できる。 **思考・判断の観点：** A. 遺物の解説を書くことができる。 B. 報告書を作成することができる。 **技能・表現の観点：** A. 遺物の実測図を作成することができる。 B. 遺物の写真を撮影することができる。 C. 遺物の拓本を採取することができる。

授業の計画（全体）【考古遺物の資料化】 1. ガイダンス ____ A. 道具の解説 2. 遺物洗浄 3. 接合・復元 4. 遺物実測 ____ A. 石器 ____ B. 土器 ____ C. 瓦 5. 拓本 6. 写真 7. 報告書作成 ____ A. DTP 全般 /// * 上記は、カリキュラムの概要であるが、資料・天候などの都合のため、上記の順で授業が進行するわけではない。

成績評価方法（総合） 宿題・授業外レポート 30%，受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品 70%。基本的には、授業中に所定の技術水準を習得することを目標とするので、出席が所定の回数に満たない受講生には単位を与えない。出席が重要な成績評価基準になる。欠席4回で良。5回で可。7回で不可。また決められた課題を提出しないと評価が下がる。

教科書・参考書 参考書：授業の中で紹介する。

メッセージ 考古学に必要とされる基本的な技術の習得を目的として開講する授業科目である。目的達成のためには非常な修練が必要であり、率直に言って設定時間内だけで完全に習得することは不可能である。そのため、時間外での受講生の積極的な取り組みが必要となる。宿題もしばしば課される。

連絡先・オフィスアワー E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp，オフィスアワー：水曜日7・8時限

言語文化学科 日本語文化論コース

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学 III | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 磯部佳宏 | | | | |

授業の概要 ~ 語彙 (1) ~ 日本語の「語彙」について考察する。

授業の一般目標 日本語の「語彙」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「語彙」に関する諸問題について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の「語彙」に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 思考・判断の観点：日本語の「語彙」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点：授業に対しての取り組みを判断する。

授業の計画 (全体) 日本語学の諸分野のうち、「語彙」に関する問題について取り扱う。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本語学とは 日本語学の諸分野
- 第 2 回 項目 語彙とは
- 第 3 回 項目 語彙量 理解語彙と表現語彙
- 第 4 回 項目 基本語彙と基礎語彙
- 第 5 回 項目 語種による語彙の類別
- 第 6 回 項目 語種の使用率
- 第 7 回 項目 和語 (1)
- 第 8 回 項目 和語 (2)
- 第 9 回 項目 混種語
- 第 10 回 項目 和語と漢語
- 第 11 回 項目 漢語の種類と歴史 (1)
- 第 12 回 項目 漢語の種類と歴史 (2)
- 第 13 回 項目 和製漢語 (1)
- 第 14 回 項目 和製漢語 (2)
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法 (総合) 期末試験を主たる評価の対象とする。毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

教科書・参考書 教科書：日本語概説, 加藤彰彦他, おうふう, 1989 年; 日本語史, 沖森卓也, おうふう, 1989 年; (2) は昨年度、「日本語史」の授業で使用したものを継続使用。教科書は生協で取り扱う。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学 IV | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 磯部佳宏 | | | | |

授業の概要 ~ 語彙 (2) ~ 日本語の「語彙」について考察する。

授業の一般目標 日本語の「語彙」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「語彙」に関する諸問題について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の「語彙」に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 思考・判断の観点：日本語の「語彙」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点：授業に対する取り組みを判断する。

授業の計画 (全体) 日本語学の諸分野のうち、「語彙」に関する問題について取り扱う。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 洋語流入の歴史 (1)
- 第 2 回 項目 洋語流入の歴史 (2)
- 第 3 回 項目 和製英語
- 第 4 回 項目 日本語と外国語
- 第 5 回 項目 外来語の表記 (1)
- 第 6 回 項目 外来語の表記 (2)
- 第 7 回 項目 位相
- 第 8 回 項目 現代語の位相
- 第 9 回 項目 歴史的位相語
- 第 10 回 項目 語構成による語彙の類別
- 第 11 回 項目 和語の造語形式
- 第 12 回 項目 合成に伴う音声現象
- 第 13 回 項目 漢語の語構成
- 第 14 回 項目 洋語の借用方式
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法 (総合) 期末試験を主たる評価の対象とする。毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

教科書・参考書 教科書：日本語概説, 加藤彰彦他, おうふう, 1989 年; 日本語史, 沖森卓也, おうふう, 1989 年; (2) は昨年度、「日本語史」の授業で使用したものを継続使用。教科書は生協で取り扱う。

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語史 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 添田建治郎 | | | | |

授業の概要 日本語の音韻史をたどって、日本語の特徴の理解を深める。 / 検索キーワード 音韻変化、音節構造の特徴、日本語音韻史

授業の一般目標 日本語の上代～近世にわたる音韻史を学ぶことを通じて、日本語の特徴を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の上代～近世にわたる音韻史を学ぶ。 思考・判断の観点：日本語の特徴を分析・理解する。 関心・意欲の観点：日本語の意義・価値について再認識する。

授業の計画（全体） 音韻史の資料、音韻変化の分類、日本語の音韻の歴史的变化の足取りを10数項目について述べる。例えば、ア行のeとヤ行のje、ア行のoとワ行のwo、ア行のiとワ行のwi、ア行のeとワ行のwe、八行音の音価など。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本語音韻史の基礎資料
- 第 2 回 項目 日本語音韻史の基礎資料
- 第 3 回 項目 日本語音韻史の基礎資料
- 第 4 回 項目 上代日本語の音韻
- 第 5 回 項目 上代日本語の音韻
- 第 6 回 項目 上代日本語の音韻
- 第 7 回 項目 上代日本語の音韻
- 第 8 回 項目 中古～近世の音韻（1）
- 第 9 回 項目 中古～近世の音韻（1）
- 第 10 回 項目 中古～近世の音韻（2）
- 第 11 回 項目 中古～近世の音韻（2）
- 第 12 回 項目 中古～近世の音韻（3）
- 第 13 回 項目 中古～近世の音韻（3）
- 第 14 回 項目 中古～近世の音韻（3）
- 第 15 回 項目 前期筆記試験

成績評価方法（総合） 定期試験、質問カードの内容、出席。

教科書・参考書 教科書：使用せず。適宜プリントを配布する。 / 参考書：音韻史・文字史（講座国語史；2）、中田祝夫編、大修館書店、1972年；中田祝夫『講座国語史2音韻史』（大修館書店）

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階（083-933-5249） オフィスアワー火曜日 13:00～14:30

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語史 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 添田建治郎 | | | | |

授業の概要 日本語の音韻史をたどって、日本語の特徴についての理解を深める。 / 検索キーワード 音韻変化, 音節構造の特徴, 日本語音韻史

授業の一般目標 日本語の上代～近世にわたる音韻史を学ぶことを通じて、日本語の特徴を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の上代～近世にわたる音韻史を学ぶ。 思考・判断の観点：日本語の特徴を分析・理解する。 関心・意欲の観点：日本語の意義・価値について再認識する。

授業の計画(全体) 音韻史の資料, 音韻変化の分類, 日本語の音韻の歴史的变化の足取りを10数項目について述べる。例えば, 八行転呼, 上代特殊仮名遣い, 濁音の確立, 夕行音の音価, サ行音の音価, 拗音と連声, 音便現象など。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中古～近世の音韻(4)
- 第 2 回 項目 中古～近世の音韻(4)
- 第 3 回 項目 中古～近世の音韻(5)
- 第 4 回 項目 中古～近世の音韻(5)
- 第 5 回 項目 中古～近世の音韻(6)
- 第 6 回 項目 中古～近世の音韻(6)
- 第 7 回 項目 中古～近世の音韻(7)
- 第 8 回 項目 中古～近世の音韻(7)
- 第 9 回 項目 中古～近世の音韻(8)
- 第 10 回 項目 中古～近世の音韻(8)
- 第 11 回 項目 中古～近世の音韻(9)
- 第 12 回 項目 中古～近世の音韻(9)
- 第 13 回 項目 中古～近世の音韻(10)
- 第 14 回 項目 中古～近世の音韻(10)
- 第 15 回 項目 後期筆記試験

成績評価方法(総合) 定期試験, 質問カード, 出席

教科書・参考書 教科書：使用しない。適宜プリントを配布する。 / 参考書：音韻史・文字史(講座国語史; 2), 中田祝夫編, 大修館書店, 1972年; 中田祝夫『講座国語史2音韻史』(大修館書店)

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(083-933-5249), オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 添田建治郎 | | | | |

授業の概要 「日本の方言」日本語方言の形成過程やその特徴を考えながら、方言研究の意義を明らかにする。 / 検索キーワード 方言の形成、方言の意義、方言の分布

授業の一般目標 日本語の方言とは何か、その特徴・意義を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の方言の形成、変化、特徴について理解を深める。 思考・判断の観点：日本語の方言についての分析視点を獲得する。 関心・意欲の観点：日本語の方言の意義を再認識する。

授業の計画（全体） 方言の概念規定、方言の意義、方言研究の意義、方言形成の要因などについて述べる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 方言とは何か
- 第 3 回 項目 方言の形成
- 第 4 回 項目 方言の形成
- 第 5 回 項目 方言の形成
- 第 6 回 項目 方言の形成
- 第 7 回 項目 方言の形成
- 第 8 回 項目 方言研究の意義
- 第 9 回 項目 方言研究の意義
- 第 10 回 項目 方言研究の意義
- 第 11 回 項目 方言研究の意義
- 第 12 回 項目 方言研究の意義
- 第 13 回 項目 方言研究の意義
- 第 14 回 項目 方言研究の意義
- 第 15 回 項目 前期筆記試験

成績評価方法（総合） 定期試験、質問カードの内容、出席

教科書・参考書 教科書：新しい国語学, 佐田智明 [ほか] 著, 朝倉書店, 1988 年； 佐田智明他 『新しい国語学』（朝倉書店）

メッセージ 日本語方言、日本語はかけがえのないことば。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階（083-933-5249） オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 林伸一 | | | | |

授業の概要 日本語教授法の一つとして考えた構成的グループ・エンカウンターについて体験的に理解する。実施の手順、留意点、効果などについて検討する。特にインストラクションの進め方、シェアリングのまとめかたなどについて、実際場面に近づけた形で実施しながら、授業参加者同士でディスカッションする。日本語教師になるための資質についても検討し、解説を加える。特に「言語と文化」の中では異文化間理解、「言語と教育」の分野では、第二言語習得の問題、「言語と心理」の中ではカウンセリングの分野を重点的に扱う。/ 検索キーワード 参加、体験、振り返り

授業の一般目標 1、授業参加者間の人間関係・リレーションづくりを大切にする。2、授業を通しての自己理解、他者理解、相互理解を促進する。3、日本語教師・国語教師の役割と心構えなど教師論について考える。4、日本語を教えるとは、どういう意味をもつのかを検討する。5、適切なエクササイズを進め方、実施方法について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1、構成的グループ・エンカウンターとは何か説明できる。2、人間関係づくり・リレーションづくりの大切さを体験的に理解する。思考・判断の観点：1、「言語と文化」の関係について考える。2、「言語と教育」の関係について考える。3、「言語と心理」の関係について考える。関心・意欲の観点：1、外国人に日本語を教えることに関心と意欲をもつ。2、日本人同士の中にある異文化に関心と興味をもつ。3、異文化とのコミュニケーションに意欲と関心をもつ。態度の観点：1、恥ずかしがらずに自己開示する。2、他者理解につとめ、他者を尊重する。技能・表現の観点：1、他者の立場を尊重しながらも、自己主張する。2、自分の考えを率直に簡潔に言い、書ける。3、適切な質問力を身につける。

授業の計画（全体） 上記の目標達成のため実習を中心に授業を進め、関連するエクササイズを参加体験型で実施する。シェアリングを通して、認知の修正、拡大をはかる。各回ごとに「ふりかえりシート」に記入し、質問があれば答えるようにする。

成績評価方法（総合） 主に授業内レポートと学期末レポートおよび出席により評価する。

教科書・参考書 教科書：未定 / 参考書：エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集, 國分康孝ほか, 図書文化, 1999年; エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集 Part 2, 國分康孝ほか, 図書文化, 2001年

メッセージ 教員志望者、留学生の参加を歓迎する。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 2 階 210-2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時～12 時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090-6415-8203

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 林伸一 | | | | |

授業の概要 前期授業に準ずる。ただし、構成的グループ・エンカウンターを次の点で応用することを検討する。留学生支援の可能性、異文化間理解の可能性、キャリア教育の可能性など。日本語教師としての自己理解、他者理解、相互理解のためのエクササイズ開発の可能性についても検討する。ソーシャル・スキル・トレーニングと構成的グループエンカウンターの違いについても考える。/ 検索キーワード 参加、体験、振り返り、分かち合い

授業の一般目標 1、異文化間理解に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。2、キャリア教育に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。3、ソーシャル・スキル・トレーニングとエンカウンター・エクササイズの違いを理解する。4、ペアワークの可能性とインタビューにおける質問力について検討する。5、その他

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1、内なる異文化：地域差、男女差、年齢差などについて理解する。2、生涯発達論の観点から、キャリア・デザインを考える。思考・判断の観点：1、類義語や類似表現について違いを考える。2、る言葉について、その意味・用法を考える。関心・意欲の観点：1、身の回りの日本語表現についての関心を高める。2、微妙なニュアンスの違いなどについて、調べてみる意欲をもつ。態度の観点：1、わからないことをそのままにしておかないで、積極的に調べたり、聞いたりする態度を形成する。2、授業内容に集中する態度を形成する。技能・表現の観点：1、他者理解のための質問力を身につける。2、他者の立場を尊重しながらも、自己主張できるようにする。

授業の計画（全体）上記の目標達成のために対話的な授業を行なう。参加体験型のコミュニケーション重視の授業を実施する。

成績評価方法（総合）出席、レポートを重視し、テストは行なわない。

教科書・参考書 教科書：エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集 Part2, 林伸一, 図書文化, 2001 年 / 参考書：未定

メッセージ 日本語教師志望者、留学生の参加を歓迎する。他学科、他コースの学生の参加を歓迎する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 2 階 210-2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時～12 時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090-6415-8203

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 磯部佳宏 | | | | |

授業の概要 ~ 待遇表現 (1) ~ 日本語の「待遇表現」について、現代語を中心に考察する。

授業の一般目標 日本語の「待遇表現」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「待遇表現」に関する諸問題について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 思考・判断の観点：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点：授業に対する取り組みを判断する。

授業の計画 (全体) 「待遇表現」とは 「待遇表現」の種類 敬語と「待遇表現」 人称代名詞 人物の呼称 現代敬語の性格 敬語の持つ効果 敬語の分類 美化語とは

成績評価方法 (総合) 期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 磯部佳宏 | | | | |

授業の概要 ~ 待遇表現 (2) ~ 日本語の「待遇表現」について、現代語を中心に考察する。

授業の一般目標 日本語の「待遇表現」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「待遇表現」に関する諸問題について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識が身についているかを判断する。 思考・判断の観点：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点：授業に対する取り組みを判断する。

授業の計画 (全体) 諸外国語と比較した日本語の特徴として、よく「敬語」の複雑さが話題となるが、この授業では「敬語」を「待遇表現」の一部として扱い、その性格について、現代語の場合を中心に、日本語史的な観点も取り入れながら考察を加える。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 美化語の形式 (1)
- 第 2 回 項目 美化語の形式 (2)
- 第 3 回 項目 接頭辞 { お } 「ご」の用法 (1)
- 第 4 回 項目 接頭辞 { お } 「ご」の用法 (2)
- 第 5 回 項目 準敬語とは
- 第 6 回 項目 丁寧語の用法 (1)
- 第 7 回 項目 丁寧語の用法 (2)
- 第 8 回 項目 尊敬語の用法 (1)
- 第 9 回 項目 尊敬語の用法 (2)
- 第 10 回 項目 謙譲語の用法 (1)
- 第 11 回 項目 謙譲語の用法 (2)
- 第 12 回 項目 丁寧語とは
- 第 13 回 項目 問題となる敬語表現 (1)
- 第 14 回 項目 問題となる敬語表現 (2)
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法 (総合) 期末試験を主たる評価の対象とする。毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

教科書・参考書 教科書：特定の教科書は使用しない。随時、補助プリントを使用する。

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 友定 賢治 | | | | |

授業の概要 言語研究において、これまで中心であった言語素材(カタチ)の研究から、運用(ハタラキ)の研究へと関心が移りつつある。本講義においては、現代の言語生活において、方言と共通語がどのように運用されているかを見つめてみたい。方言や共通語を、どのような必要からどのように習得し、どのような場でどのように運用しているのかを考えていく。

授業の一般目標 言語研究の動向を捉え、方言や共通語の習得と運用の様相を資料に基づいて考察することによって、言語形式だけに注目する見方から、音声コミュニケーション的な見方が出来るようになることを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: (1) 言語(方言)研究の動向を把握する。(2) 音声コミュニケーションの研究状況を把握する。 **思考・判断の観点:** 方言と共通語の習得と運用を資料に基づいて考察し、その運用規則を明らかにする。 **関心・意欲の観点:** 音声コミュニケーション的な見方に関心を持ち、その実態を把握しようとする意欲をもつ。 **態度の観点:** 資料をどのように解釈していくか、積極的に自らの意見を発表する。 **技能・表現の観点:** 個人やグループで発表することを求めるので、プレゼンテーション技能を高めるように努力する。

授業の計画(全体) 以下のような順ですすめていく。 1. 言語(方言)研究の未開拓分野 2. 言語(方言・共通語)習得の場 3. 言語(方言・共通語)運用の実態 4. 音声コミュニケーションの地域性 5. コミュニケーションの行方

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 言語(方言)研究の未開拓分野 (1) 内容 未開拓分野として「談話研究」「言語運用」「ハタラキ」を指摘する。
- 第 2 回 項目 言語(方言)研究の未開拓分野 (2) 内容 未開拓分野として「談話研究」「言語運用」「ハタラキ」を指摘する。
- 第 3 回 項目 言語(方言・共通語)の習得 (1) 内容 習得の場 (1) 家庭
- 第 4 回 項目 言語(方言・共通語)の習得 (2) 内容 習得の場 (2) 学校・友人
- 第 5 回 項目 言語(方言・共通語)の習得 (3) 内容 習得の場 (3) 地域社会
- 第 6 回 項目 言語(方言・共通語)の習得 (4) 内容 習得の場 (4) 通勤・通学・マスコミなど
- 第 7 回 項目 音声コミュニケーション的な見方とは 内容 音声コミュニケーション的な見方によって、方言研究の幅が広がることを明らかにする。
- 第 8 回 項目 言語(方言・共通語)の運用 (1) 内容 言語的弱者に対する運用の特徴
- 第 9 回 項目 言語(方言・共通語)の運用 (2) 内容 「公」と「私」の区別はどのように運用の違いとなっているか。
- 第 10 回 項目 言語(方言・共通語)の運用 (3) 内容 仲間とのコミュニケーションにみられる現代的な特徴
- 第 11 回 項目 言語(方言・共通語)の運用 (4) 内容 「改まり」の地域差
- 第 12 回 項目 コミュニケーションの地域性 (1) 内容 関西弁の広がり、ことばだけの問題ではないことを明らかにする。
- 第 13 回 項目 コミュニケーションの地域性 (2) 内容 感動詞の使用法にみられる地域性を明らかにする。
- 第 14 回 項目 コミュニケーションの行方 内容 「日本語のポストモダン」について考える。
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 講義全体から、これからの言語研究の方向性を考える。

成績評価方法(総合) 授業終了後に課すレポートと出席状況、それに授業への参加態度によって評価する。

教科書・参考書 参考書: プリントを配布する。

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 添田建治郎 | | | | |

授業の概要 万葉集の巻八～十所収の歌を対象に、万葉仮名で表記された本文の訓読に関して、従来の訓読説と新しく出た注釈書の訓みとを比較しながらその当否を考える。 / 検索キーワード 万葉仮名、訓読、古辞書

授業の一般目標 古辞書の意義を理解しその活用方法に習熟しつつ、上代～中古の仮名文献から類例を検索して、万葉仮名で表記された歌謡本文の訓読についての従来説の再検討を試みる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古辞書の意義を理解しその活用方法に習熟する。 思考・判断の観点：古辞書の記述と類例とを対照させそれらを分析しながら、万葉仮名で表記された歌謡本文のあるべき訓読を考察する。 関心・意欲の観点：各歌の歌謡本文における万葉仮名表記の意図を考える。

授業の計画（全体） 万葉集の巻八～十所収の歌の訓読に関して、受講者各自が、従来の訓読説と新しく出た注釈書の訓みとに相違のある箇所を探し、その当否を考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入（資料の扱いの指導）
- 第 2 回 項目 これ以下、万葉集巻八～十から各人 1 課題を取り上げレポートする（ 1 ）
- 第 3 回 項目 学生のレポート（ 2 ）
- 第 4 回 項目 学生のレポート（ 3 ）
- 第 5 回 項目 学生のレポート（ 4 ）
- 第 6 回 項目 学生のレポート（ 5 ）
- 第 7 回 項目 学生のレポート（ 6 ）
- 第 8 回 項目 学生のレポート（ 7 ）
- 第 9 回 項目 学生のレポート（ 8 ）
- 第 10 回 項目 学生のレポート（ 9 ）
- 第 11 回 項目 学生のレポート（ 10 ）
- 第 12 回 項目 学生のレポート（ 11 ）
- 第 13 回 項目 学生のレポート（ 12 ）
- 第 14 回 項目 学生のレポート（ 13 ）
- 第 15 回 項目 学生のレポート（ 14 ）

成績評価方法（総合） 質問票，出席，レポートの内容

教科書・参考書 教科書：万葉集 本文篇，佐竹昭広 [ほか] 共著，塙書房，1982 年；佐竹昭広他『万葉集本文篇』（塙書房）

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階 (933-5249) オフィスアワー：火曜日 1:00～2:30

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 添田建治郎 | | | | |

授業の概要 前半は前期の継続。後半は『日本語地図』に見られる方言地図の分布について、その分布形成の過程の解明を試みる。 / 検索キーワード 方言地図、方言語史、分布解釈

授業の一般目標 方言地図の分布には、日本語のたどってきた縦の歴史が、横に平面に分布している。方言分布の解釈から、日本語の語史を明らかにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の歴史に関心を寄せ、日本語の再発見に繋げる。 思考・判断の観点：方言地図の分布をみて分布図を分析・解釈する能力を身につける。 関心・意欲の観点：自国の言語への関心を高める。

授業の計画（全体）各自が担当する地図を持ち寄り一人が一枚の地図を読む。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 万葉集の学生レポート（ 1 ）
- 第 2 回 項目 万葉集の学生レポート（ 2 ）
- 第 3 回 項目 万葉集の学生レポート（ 3 ）
- 第 4 回 項目 万葉集の学生レポート（ 4 ）
- 第 5 回 項目 万葉集の学生レポート（ 5 ）
- 第 6 回 項目 万葉集の学生レポート（ 6 ）
- 第 7 回 項目 万葉集の学生レポート（ 7 ）
- 第 8 回 項目 万葉集の学生レポート（ 8 ）
- 第 9 回 項目 方言地図の解釈（ 1 ）
- 第 10 回 項目 方言地図の解釈（ 2 ）
- 第 11 回 項目 方言地図の解釈（ 3 ）
- 第 12 回 項目 方言地図の解釈（ 4 ）
- 第 13 回 項目 方言地図の解釈（ 5 ）
- 第 14 回 項目 方言地図の解釈（ 6 ）
- 第 15 回 項目 方言地図の解釈（ 7 ）

成績評価方法（総合） 質問票，出席，レポートの内容

教科書・参考書 教科書：日本語地図（日文研究室所蔵），国立国語研究所，大蔵省印刷局

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階（083-933-5249） オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 林伸一 | | | | |

授業の概要 一方的な講義形式ではなく、テーマごとに参加者の発表形式で進めていく。日本語教師または国語教師としての教育実習のリハーサルになるような発表を試みる。発表は、模擬授業形式で、教案・教材をあらかじめ準備し、参加者を学習者に見立てて行なう。/ 検索キーワード 日本語教育、異文化理解、発表力、表現力

授業の一般目標 1、先輩の研究論文を先行研究として読み解いていく。2、すでに発表された論文でも批判的に読む。3、プレゼンテーションのしかたを体験的に学ぶ。4、フィードバックのしかたを体験的に学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1、引用のしかたを学ぶ 2、参考文献の提示のしかたを学ぶ 思考・判断の観点：1、先行研究を基に自論を展開できるようにする 2、先行研究を鵜呑みにするのではなく批判的に読む 関心・意欲の観点：1、自分の関心のある分野でレポートを書いてみる 2、振り返りを意欲的に実行する 態度の観点：1、まじめに課題に取り組む態度を養う。2、不明な点をじっくり調べる態度を養う。 技能・表現の観点：1、板書の仕方を工夫する 2、ハンドアウトの作り方を工夫し、わかりやすくする 3、パネルの提示の仕方を工夫する

授業の計画（全体）上記の目標達成のために対話的に授業を進めていく。分担者が発表し、参加が検討を加えていく。

成績評価方法（総合）出席と発表、レポートを重視し、テストはしない。

教科書・参考書 教科書：多言語社会がやってきた、河原俊昭・山本忠行編、くろしお出版、200年；おいでませ山口1（2005）、日本語クラブ山口発行 / 参考書：しあわせます山口1、（山口県日本語教育ネットワーク発行）

メッセージ 日本語教師、国語教師を目指す人を歓迎する。外国人留学生、日本人の海外派遣留学生の参加を歓迎する。

連絡先・オフィスアワー 木曜、3-4 時限目、人文棟 2 階 210-2 号室、hayashix@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 林伸一 | | | | |

授業の概要 日本語教育を異文化コミュニケーションの現場としてとらえ直すことによって、他者とのかわり方や自分自身のコミュニケーションスタイルなどについての「自己」への気づきを促す。 / 検索キーワード 自己理解、他者理解、異文化理解

授業の一般目標 1、異文化とは何かを考える。 2、自分とは何かを考える。 3、イメージとステレオタイプについて考える。 4、人と出会うということについて考える。 5、人とコミュニケーションすることについて考える。 6、非言語コミュニケーションについて考える。 7、価値観の相違を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、文化とは何か、異文化とは何かについて理解する 2、ジョハリの窓について知識と理解を深める 思考・判断の観点： 1、ステレオタイプを崩していく 2、出会いと人生のドラマ 関心・意欲の観点： 1、言語的コミュニケーションへの関心と意欲 2、非言語コミュニケーションへの関心と意欲 態度の観点： 1、価値観が違う者への態度 2、多文化共生社会への態度 技能・表現の観点： 1、自己開示、自己表現、自己主張能力 2、質問力

授業の計画（全体） 上記目標を達成するために対話的な授業を行なう。テキストの章ごとの発表をする。

成績評価方法（総合） 出席、発表、レポートを重視し、テストは行なわない。

教科書・参考書 教科書：多言語社会がやってきた，河原俊昭・山本忠行編，くろしお出版，2004年 / 参考書：多文化共生時代の日本語教育，縫部義憲，瀝々社，2002年；多文化共生のコミュニケーション，徳井厚子，アルク，2002年

メッセージ 日本語教師志望者・国語教師志望者・海外派遣留学生・外国人留学生歓迎

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 2 階 210 - 2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時～12 時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090 - 6415 - 8203

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 磯部佳宏 | | | | |

授業の概要 ~ 古文の文法 ~ 主として高校生や大学教養向けに執筆された古典文法のテキストの、「助動詞」「助詞」について説明された箇所を演習形式で購読する。

授業の一般目標 古典語の「助動詞」「助詞」について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点：発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点：質疑応答への参加度。 技能・表現の観点：口頭発表における技術、表現。

授業の計画（全体） テキストにより提起されている問題点や、テキストとは異なる立場の学説などについて、調査を行い、資料を作成して口頭発表してもらう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス
- 第 2 回 項目 演習形式による発表（ 1 ）
- 第 3 回 項目 演習形式による発表（ 2 ）
- 第 4 回 項目 演習形式による発表（ 3 ）
- 第 5 回 項目 演習形式による発表（ 4 ）
- 第 6 回 項目 演習形式による発表（ 5 ）
- 第 7 回 項目 演習形式による発表（ 6 ）
- 第 8 回 項目 演習形式による発表（ 7 ）
- 第 9 回 項目 演習形式による発表（ 8 ）
- 第 10 回 項目 演習形式による発表（ 9 ）
- 第 11 回 項目 演習形式による発表（ 1 0 ）
- 第 12 回 項目 演習形式による発表（ 1 1 ）
- 第 13 回 項目 演習形式による発表（ 1 2 ）
- 第 14 回 項目 演習形式による発表（ 1 3 ）
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの例文の現代語訳。 期末レポート。（口頭発表が 2 度の場合は実施しない）

教科書・参考書 教科書： 古文の文法, 馬淵和夫, 武蔵野書院, 1963 年 ; テキストは現在絶版のため、プリント配布。

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 添田建治郎 | | | | |

授業の概要 漢文訓読資料としての、山口大学人文学部日本語文化論コース研究室所蔵の真福寺本遊仙窟を読む。 / 検索キーワード ヲコト点、漢文訓読、中世前期の日本語

授業の一般目標 真福寺本遊仙窟本文の訓読の確認と醍醐寺本遊仙窟本文とを読み比べる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 中世前期の日本語の語彙、文法について考える。 思考・判断の観点： 漢文訓読資料によってオコト点を用いた訓読を解説する。 関心・意欲の観点： 自国の言語の歴史を考える。

授業の計画（全体） 真福寺本遊仙窟本文を一人数行宛て読み 1 課題を報告する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テキスト、資料の説明
- 第 2 回 項目 学生のレポート（ 1 ）
- 第 3 回 項目 学生のレポート（ 2 ）
- 第 4 回 項目 学生のレポート（ 3 ）
- 第 5 回 項目 学生のレポート（ 4 ）
- 第 6 回 項目 学生のレポート（ 5 ）
- 第 7 回 項目 学生のレポート（ 6 ）
- 第 8 回 項目 学生のレポート（ 7 ）
- 第 9 回 項目 学生のレポート（ 8 ）
- 第 10 回 項目 学生のレポート（ 9 ）
- 第 11 回 項目 学生のレポート（ 1 0 ）
- 第 12 回 項目 学生のレポート（ 1 1 ）
- 第 13 回 項目 学生のレポート（ 1 2 ）
- 第 14 回 項目 学生のレポート（ 1 3 ）
- 第 15 回 項目 学生のレポート（ 1 4 ）

成績評価方法（総合） 質問票、出席、レポートの内容

教科書・参考書 教科書： 遊仙窟, 貴重古典籍刊行会, 貴重古典籍刊行会, 1954 年； 人文学部日本語文化論コースに所蔵

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階 (083-933-5249) オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 添田建治郎 | | | | |

授業の概要 漢文訓読資料としての、山口大学人文学部日本語文化論コース研究室所蔵の真福寺本遊仙窟を読む。 / 検索キーワード ヲコト点、漢文訓読、中世前期の日本語

授業の一般目標 真福寺本遊仙窟本文の訓読の確認と醍醐寺本遊仙窟本文とを読み比べる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 中世前期の日本語の語彙、文法について考える。 思考・判断の観点： 漢文訓読資料によってオコト点を用いた訓読を解説する。 関心・意欲の観点： 自国の言語の歴史について考える。

授業の計画（全体） 真福寺本遊仙窟本文を一人数行宛て読み 1 課題を報告する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 学生のレポート（ 1 ）
- 第 2 回 項目 学生のレポート（ 2 ）
- 第 3 回 項目 学生のレポート（ 3 ）
- 第 4 回 項目 学生のレポート（ 4 ）
- 第 5 回 項目 学生のレポート（ 5 ）
- 第 6 回 項目 学生のレポート（ 6 ）
- 第 7 回 項目 学生のレポート（ 7 ）
- 第 8 回 項目 学生のレポート（ 8 ）
- 第 9 回 項目 学生のレポート（ 9 ）
- 第 10 回 項目 学生のレポート（ 1 0 ）
- 第 11 回 項目 学生のレポート（ 1 1 ）
- 第 12 回 項目 学生のレポート（ 1 2 ）
- 第 13 回 項目 学生のレポート（ 1 3 ）
- 第 14 回 項目 学生のレポート（ 1 4 ）
- 第 15 回 項目 学生のレポート（ 1 5 ）

成績評価方法（総合） 質問票、出席、レポートの内容

教科書・参考書 教科書： 遊仙窟, 貴重古典籍刊行会, 貴重古典籍刊行会, 1954 年； 人文学部日本語文化論コースに所蔵

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階 (083-933-5249) オフィスアワー火曜日 13:00 ~ 14:30

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 日本語学演習（４年生） | 区分 | 演習 | 学年 | ４年生 |
| 対象学生 | | 単位 | ２単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 添田建治郎 | | | | |

授業の概要 ４年生を対象とする卒業論文指導と臨地に行う方言実地調査をセットにした授業を実施する。
 / 検索キーワード 卒業論文，方言の実地調査

授業の一般目標 卒業論文の意義などの指導・助言を通じて卒業論文の課題を決定する。調査の意図を理解させ，方言調査票の作成，実地調査の体験，資料分析，記述方法の習得を目指す

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：卒業論文と方言調査の意義を理解させる。思考・判断の観点：論文構成力，方言資料の分析力を高める。関心・意欲の観点：自国の言語に対する関心を高める。

授業の計画（全体）卒業論文指導に関しては中間発表会を，方言調査は兵庫県全域のアクセント調査を予定している。

成績評価方法（総合）論文発表や調査への取組を判断する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部５階（083-933-5249）オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 日本語学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 添田建治郎 | | | | |

授業の概要 4年生を対象とする卒業論文指導と臨地に行う方言実地調査をセットにした授業を実施する。
 / 検索キーワード 卒業論文、方言の実地調査

授業の一般目標 卒業論文の中間発表などの指導・助言を通じて卒業論文の完成を目指す。方言調査の意図を理解させ、方言調査票の作成、実地調査の体験、資料分析、記述方法の習得を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：卒業論文と方言調査の意義を理解させる。 思考・判断の観点：論文構成力、方言資料の分析力を高める。 関心・意欲の観点：自国の言語に対する理解を深める。

授業の計画(全体) 卒業論文指導に関しては題目の発表会を、方言調査は兵庫県全域のアクセント調査を予定している。

成績評価方法(総合) 論文発表や調査への取組を判断する。

教科書・参考書 教科書：日本言語地図, 国立国語研究所編, 大蔵省印刷局, 1981年

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(083-933-5249) オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 林伸一 | | | | |

授業の概要 卒業研究論文のテーマの立て方、研究計画書の書き方、目次の立て方、データの集め方などの実際の卒論生の事例を検討しながら進めていく。 / 検索キーワード 文章力、質問力、表現力

授業の一般目標 1、卒業研究のテーマの立て方を具体的に考える。 2、研究計画書を個々人が実際に書いてみる。 3、研究計画に沿って、目次を書いてみる。 4、データの集め方、先行研究の集め方を検討する。 5、データの整理の仕方、分析の仕方を検討する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、引用の仕方 2、図や表のタイトルのつけかた 3、参考文献の示し方 思考・判断の観点： 1、一般論と具体例を区別する 2、論理の展開に一貫性があるかどうかを考える 3、説得力のある文章を考える 関心・意欲の観点： 1、自分の関心・意欲を明確にする 2、前向きに困難に対処する 3、目標を立てて動機付けする 態度の観点： 1、積極的に授業に参加する 2、わからないことをそのままにしないで調べる 3、不明な点は質問する 技能・表現の観点： 1、口頭での発表力をつける 2、図や表でわかりやすく表現する能力をつける 3、コンピューターを使いこなす

授業の計画（全体） 上記の目標達成のため、授業を対話的に進める

成績評価方法（総合） 授業内の質問感想カードを毎回提出、期末の授業外レポート及び授業内での発表や出席・授業態度を重視する

教科書・参考書 教科書： 山口支部研究紀要, JALT, JECA, 2005 年 / 参考書： 質問力： 話し上手はここがちがう, 齋藤孝著, 筑摩書房, 2003 年； 齋藤孝 (2003) 『質問力』 筑摩書房

メッセージ 日本人だからといって読み書き能力が十分とは限らない。しっかりした文章が書けるようになるう。

連絡先・オフィスアワー hayashix@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー木曜日： 11 時－ 12 時 携帯： 0 9 0 - 6 4 1 5 - 8 2 0 3

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 林伸一 | | | | |

授業の概要 前期の概要に準ずるが、その発展として、卒業論文の内容の吟味に入り、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるか否かを検討する。参加者も傍観的に見るのではなく、もし自分が書き手だったら、どう考え、どう書くか主体的に関わるようにする。/ 検索キーワード 文章力、説得力、質問力、表現力、発表力

授業の一般目標 1、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるかという視点から検討する。2、文章記述に無駄や重複がないか、簡潔に書かれているかを検討する。3、文章記述にわかりやすい適切な具体例が示されているか否かを検討する。4、気づいたこと、感じたこと、考えたことを書き留める習慣を形成する。5、参加者の前で資料に基づいて発表する力：プレゼンテーション能力をつける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：前期に同じ 関心・意欲の観点：前期に同じ 態度の観点：前期に同じ 技能・表現の観点：前期に同じ

授業の計画（全体）上記の目標達成のために、授業を対話的に進める。

成績評価方法（総合）前期に同じ

教科書・参考書 教科書：未定 / 参考書：プリント配布

メッセージ 興味、関心を形にする。

連絡先・オフィスアワー hayashix@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜 11-12 時 携帯 090 - 6415-8203

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 磯部佳宏 | | | | |

授業の概要 ~ 中世日記文学の語法・語彙 ~ 中世成立の女流日記文学『とはすがたり』を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。

授業の一般目標 中世日記文学の語法・語彙について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点：発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点：質疑応答への参加度。 技能・表現の観点：口頭発表における技術、表現。

授業の計画（全体）当該作品の語法・語彙について調査するとともに、適宜、平安時代成立の日記文学作品や、中世の他ジャンルの作品の語法・語彙との比較も行い、資料を作成して口頭発表してもらう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス（ 1 ）
- 第 2 回 項目 授業ガイダンス（ 2 ）
- 第 3 回 項目 演習形式による発表（ 1 ）
- 第 4 回 項目 演習形式による発表（ 2 ）
- 第 5 回 項目 演習形式による発表（ 3 ）
- 第 6 回 項目 演習形式による発表（ 4 ）
- 第 7 回 項目 演習形式による発表（ 5 ）
- 第 8 回 項目 演習形式による発表（ 6 ）
- 第 9 回 項目 演習形式による発表（ 7 ）
- 第 10 回 項目 演習形式による発表（ 8 ）
- 第 11 回 項目 演習形式による発表（ 9 ）
- 第 12 回 項目 演習形式による発表（ 10 ）
- 第 13 回 項目 演習形式による発表（ 11 ）
- 第 14 回 項目 演習形式による発表（ 12 ）
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合）授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの現代語訳。 期末レポート。（口頭発表が 2 度の場合は実施しない）

教科書・参考書 教科書：とはすがたり<四>、伊地知鉄男編、笠間書院、1972 年 / 参考書：とはすがたり（新日本古典文学大系）、三角洋一編、岩波書店、1994 年；とはすがたり（新潮日本古典集成）、福田秀一編、新潮社、1988 年

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 磯部佳宏 | | | | |

授業の概要 ~ 平安後期物語の語法・語彙 ~ 平安後期物語『堤中納言物語』を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。

授業の一般目標 平安後期文学の語法・語彙について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点：発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点：質疑応答への参加度。 技能・表現の観点：口頭発表における技術、表現。

授業の計画（全体） 当該作品の語法・語彙について調査するとともに、適宜、『源氏物語』『枕草子』などの平安中期の作品や、中世の作品の語法・語彙との比較も行い、資料を作成して口頭発表してもらう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス（ 1 ）
- 第 2 回 項目 授業ガイダンス（ 2 ）
- 第 3 回 項目 授業ガイダンス（ 3 ）
- 第 4 回 項目 演習形式による発表（ 1 ）
- 第 5 回 項目 演習形式による発表（ 2 ）
- 第 6 回 項目 演習形式による発表（ 3 ）
- 第 7 回 項目 演習形式による発表（ 4 ）
- 第 8 回 項目 演習形式による発表（ 5 ）
- 第 9 回 項目 演習形式による発表（ 6 ）
- 第 10 回 項目 演習形式による発表（ 7 ）
- 第 11 回 項目 演習形式による発表（ 8 ）
- 第 12 回 項目 演習形式による発表（ 9 ）
- 第 13 回 項目 演習形式による発表（ 10 ）
- 第 14 回 項目 演習形式による発表（ 11 ）
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの現代語訳。 期末レポート。（口頭発表が 2 度の場合は実施しない）

教科書・参考書 教科書： 堤中納言物語, 塚原鉄雄, 武蔵野書院; 教科書は生協で取り扱う。 / 参考書： 堤中納言物語（日本古典文学大系 13）, 寺本直彦, 岩波書店, 1957 年; 堤中納言物語（新潮日本古典集成 56）, 塚原鉄雄, 新潮社, 1983 年; 堤中納言物語（日本古典文学全集 10）, 稲賀敬二, 小学館, 1972 年; 堤中納言物語（新日本古典文学大系）, 大槻修, 岩波書店, 1992 年

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 日本語学演習（4年生） | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 磯部佳宏 | | | | |

授業の概要 ~ 卒論演習(1)~ 卒業論文作成のための具体的方法を習得するための演習。

授業の一般目標 学生各自のテーマにより、卒業論文作成を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語学に関する基本的な知識の確認。 思考・判断の観点：問題への取り組み方法。 関心・意欲の観点：自発的な研究意欲。 技能・表現の観点：資料の取り扱ひ方、参考文献の検索方法。

授業の計画（全体）日本語学に関する基本知識の確認や、資料の取り扱ひ方、参考文献の検索方法などの指導を行う。口頭による題目発表を実施する。

成績評価方法（総合）卒業論文に対する取り組みを評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストは使用しない。

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 日本語学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 磯部佳宏 | | | | |

授業の概要 ~ 卒論演習(2)~ 卒業論文作成のための具体的方法を習得するための演習。

授業の一般目標 学生各自のテーマにより、卒業論文作成を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語学に関する基本的な知識の確認。 思考・判断の観点：問題への取り組み方法。 関心・意欲の観点：自発的な研究意欲。 技能・表現の観点：資料の取り扱い方、参考文献の検索方法。

授業の計画(全体) 日本語学に関する基本知識の確認や、資料の取り扱い方、参考文献の検索方法などの指導を行う。口頭による中間発表を実施するとともに、12,000字程度の中間レポートの提出を求める。

成績評価方法(総合) 卒業論文に対する取り組みを評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストは使用しない。

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学概論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 平野芳信 | | | | |

授業の概要 日本文学をその起源としての和歌に求め、言語を表現媒体とする時間芸術としての文学（小説が中心になるとは思われますが、）について述語を中心に講述します。

授業の一般目標 各項目（述語）に即して具体的な作品を分析しますが、あくまでも日本文学における伝達媒体としての言語の本質を明らかにすることを最終的な目標としています。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 日本文学の起源（ 1 ）
- 第 3 回 項目 日本文学の起源（ 2 ）
- 第 4 回 項目 和歌の位相（ 1 ）
- 第 5 回 項目 和歌の位相（ 2 ）
- 第 6 回 項目 百人一首の世界（ 1 ）
- 第 7 回 項目 百人一首の世界（ 2 ）
- 第 8 回 項目 引用とテキスト（ 1 ）
- 第 9 回 項目 引用とテキスト（ 2 ）
- 第 10 回 項目 作者－物語っているのは誰か－（ 1 ）
- 第 11 回 項目 作者－物語っているのは誰か－（ 2 ）
- 第 12 回 項目 読者とは何ものなのか？（ 1 ）
- 第 13 回 項目 読者とは何ものなのか？（ 2 ）
- 第 14 回 項目 語りと脱構築（ 1 ）
- 第 15 回 項目 語りと脱構築（ 2 ）

教科書・参考書 教科書：特定の教科書は使用せず、毎回プリントを配布します。／参考書：講義中に適宜紹介します。

メッセージ 講義でふれた具体的な作品を実際に読むことを希望します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室電話番号: 9 3 3 - 5 2 6 2 E メールアドレス:y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 9 , 1 0 時限

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学概論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 平野芳信 | | | | |

授業の概要 日本文学をその起源としての和歌に求め、言語を表現媒体とする時間芸術としての文学（小説が中心になるとは思われますが、）について述語を中心に講述します。

授業の一般目標 各項目（述語）に即して具体的な作品を分析しますが、あくまでも日本文学における伝達媒体としての言語の本質を明らかにすることを最終的な目標としています。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 主人公（ 1 ）
- 第 2 回 項目 主人公（ 2 ）
- 第 3 回 項目 ストーリーとプロット（ 1 ）
- 第 4 回 項目 ストーリーとプロット（ 2 ）
- 第 5 回 項目 小説の筋論争（ 1 ）
- 第 6 回 項目 小説の筋論争（ 2 ）
- 第 7 回 項目 物語の終り、あるいは小説と物語（ 1 ）
- 第 8 回 項目 物語の終り、あるいは小説と物語（ 2 ）
- 第 9 回 項目 枠（フレーム）とは何か？（ 1 ）
- 第 10 回 項目 枠（フレーム）とは何か？（ 2 ）
- 第 11 回 項目 短篇と長篇（ 1 ）
- 第 12 回 項目 短篇と長篇（ 2 ）
- 第 13 回 項目 フェミニズムと批評（ 1 ）
- 第 14 回 項目 フェミニズムと批評（ 2 ）
- 第 15 回 項目 予備日

教科書・参考書 教科書：特定の教科書は使用せず、毎回プリントを配布します。／参考書：講義中に適宜紹介します。

メッセージ 講義でふれた具体的な作品を実際に読むことを希望します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室電話番号: 9 3 3 - 5 2 6 2 E メールアドレス:y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 9. 1 0 時限

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学史 III | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 尾崎千佳 | | | | |

授業の概要 【近世文学の諸相とその展開】徳川政権下約三百年間の文芸を、時代環境や作品・作家の性格に即したトピックごとに講じます。近世という時代は、広範な作者と読者の層に支えられて、多種多様な文芸作品を生み出しました。それらの抱え込む、伝統と革新／人情と義理／雅と俗といった、相反する命題の諸相について、代表的作品を読み解きつつ、考えてゆきたいと思います。今期は、前期小説の展開を中心にとりあげます。

授業の一般目標 近世文学史上の代表的作家と作品について、基礎知識の習得を目指します。あわせて、文学史が時代の状況や思潮と絡みあいながら展開することを学び、古典作品研究のあり方とその意義について、各自の考察を促します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近世前期小説史上の主要作家・作品について基礎知識を習得する。

思考・判断の観点：近世前期文学の展開を促した諸条件について理解する。態度の観点：自らの課題を持ち積極的能動的に授業に参加することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN・近世文学史の諸問題
- 第 2 回 項目 啓蒙と教訓 仮名草子（1）内容 印刷との出会い
- 第 3 回 項目 啓蒙と教訓 仮名草子（2）内容 うらみのすけ（1）
- 第 4 回 項目 啓蒙と教訓 仮名草子（3）内容 うらみのすけ（2）
- 第 5 回 項目 啓蒙と教訓 仮名草子（4）内容 仁勢物語とパロディの世紀（1）
- 第 6 回 項目 啓蒙と教訓 仮名草子（5）内容 仁勢物語とパロディの世紀（2）
- 第 7 回 項目 啓蒙と教訓 仮名草子（6）内容 作家の出現
- 第 8 回 項目 浮世草子の成立 西鶴の登場（1）内容 好色一代男（1）
- 第 9 回 項目 浮世草子の成立 西鶴の登場（2）内容 好色一代男（2）
- 第 10 回 項目 浮世草子の成立 西鶴の登場（3）内容 好色一代男（3）
- 第 11 回 項目 浮世草子の成立 西鶴の登場（4）内容 万の文反古（1）
- 第 12 回 項目 浮世草子の成立 西鶴の登場（5）内容 万の文反古（2）
- 第 13 回 項目 浮世草子の成立 西鶴の登場（6）内容 万の文反古（3）
- 第 14 回 項目 まとめと補足 内容 近世前期小説の展開
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 期末試験 80% アンケート票記入による授業態度 20% 出席は欠格条件（4回の無断欠席で期末試験の受験資格失効）

教科書・参考書 教科書：年表資料 近世文学史, 松崎仁・白石悌三・谷脇理史編, 笠間書院, 1977年 / 参考書：日本文学新史 近世, 松田修編, 至文堂, 1990年

連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話; 083(933)5257 E-mail; ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学史 IV | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 尾崎千佳 | | | | |

授業の概要 【近世文学の諸相とその展開】徳川政権下約三百年間の文芸を、時代環境や作品・作家の性格に即したトピックごとに講じます。近世という時代は、広範な作者と読者の層に支えられて、多種多様な文芸作品を生み出しました。それらの抱え込む、伝統と革新／人情と義理／雅と俗といった、相反する命題の諸相について、代表的作品を読み解きつつ、考えてゆきたいと思います。今期は、芸能史および後期小説の展開を中心にとりあげます。

授業の一般目標 近世文学史上の代表的作家と作品について、基礎知識の習得を目指します。あわせて、文学史が時代の状況や思潮と絡みあいながら展開することを学び、古典作品研究のあり方とその意義について、各自の考察を促します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近世芸能史および後期小説史上の主要作家・作品について基礎知識を習得する。 思考・判断の観点：近世芸能史および後期小説の展開を促した諸条件について理解する。 態度の観点：自らの課題を持ち積極的能動的に授業に参加することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション・近世文学史の諸問題
- 第 2 回 項目 芸能史の諸相（1） 内容 歌舞伎の創始と衰退
- 第 3 回 項目 芸能史の諸相（2） 内容 浄瑠璃 浄瑠璃御前物語
- 第 4 回 項目 芸能史の諸相（3） 内容 説経 さんせう太夫
- 第 5 回 項目 芸能史の諸相（4） 内容 近松時代浄瑠璃の世界 出世景清
- 第 6 回 項目 芸能史の諸相（5） 内容 近松世話浄瑠璃の世界 曾根崎心中
- 第 7 回 項目 学と芸の融合 読本（1） 内容 読本の成立とその背景
- 第 8 回 項目 学と芸の融合 読本（2） 内容 都賀庭鐘の読本 英草紙
- 第 9 回 項目 学と芸の融合 読本（3） 内容 上田秋成の読本 雨月物語（1）
- 第 10 回 項目 学と芸の融合 読本（4） 内容 上田秋成の読本 雨月物語（2）
- 第 11 回 項目 成熟と退廃 江戸の戯作（1） 内容 洒落本
- 第 12 回 項目 成熟と退廃 江戸の戯作（2） 内容 黄表紙
- 第 13 回 項目 成熟と退廃 江戸の戯作（3） 内容 滑稽本・人情本
- 第 14 回 項目 まとめと補足 内容 近世芸能史の展開 近世後期小説の展開
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 期末試験 80% アンケート票記入による授業態度 20% 出席は欠格条件（4回の無断欠席で期末試験の受験資格失効）

教科書・参考書 教科書：年表資料 近世文学史, 松崎仁・白石悌三・谷脇理史編, 笠間書院, 1977年 / 参考書：日本文学新史 近世, 松田修編, 至文堂, 1990年

連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話; 083(933)5257 E-mail; ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 平野芳信 | | | | |

授業の概要 今回は村上春樹と映画の関係について考えたいと思います。以前からこの場で断っていますが、シラバスの入力と実際の講義の間には、タイムラグがあります。昨年は8ヶ月、今年の場合は10ヶ月です。内容的に時事的な問題を取り込む必要がある以上、以下提示する講義内容は、あくまでも予定であることはいうまでもありません。

授業の一般目標 村上春樹は早稲田大学文学部映画演劇科出身であり、その進学の動機を「映画を作ることにもっと正確に言えば映画のシナリオを書くことに興味を持っていたのだ。」と告白しています。また在学中は授業をさぼって朝から映画を見てばかりいたし、「映画を見る金がなくなると早稲田の本部にある演劇博物館というところに行って、古い映画雑誌に載っているシナリオをかたはしから読ん」でいた彼は、その後も「毎日のように映画館に通っ」た「シネマディクト(映画中毒)」の時期を経て、作家になってからも一つの小説を書き上げ、次の小説に取りかかるまでの「エアポケットのような気軽な時期にはだいたいまとめて映画を観る」といっています。そんな春樹の小説と映画間の往還に、他の作家とは微妙にニュアンスの異なるその意味でただならぬ影響関係があると思うのは私だけではないでしょう。映画という合わせ鏡を使うことでいったい何が見えてくるのか。それが本講義のねらいです。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 プレゼンテーション
- 第2回 項目 小説『風の歌を聴け』と映画『風の歌を聴け』
- 第3回 項目 小説『風の歌を聴け』と映画『風の歌を聴け』
- 第4回 項目 小説『風の歌を聴け』と映画『風の歌を聴け』
- 第5回 項目 小説『パン屋再襲撃』と映画『パン屋再襲撃』
- 第6回 項目 小説『パン屋再襲撃』と映画『パン屋再襲撃』
- 第7回 項目 小説『100パーセントの女の子』と映画『100パーセントの女の子』
- 第8回 項目 小説『100パーセントの女の子』と映画『100パーセントの女の子』
- 第9回 項目 小説『ノルウェイの森』と映画『(ハル)』
- 第10回 項目 小説『ノルウェイの森』と映画『(ハル)』
- 第11回 項目 小説『トニー滝谷』と映画『トニー滝谷』
- 第12回 項目 小説『トニー滝谷』と映画『トニー滝谷』
- 第13回 項目 小説『トニー滝谷』と映画『トニー滝谷』
- 第14回 項目 小説『かえるくん、東京を救う』と映画『X』
- 第15回 項目 小説『かえるくん、東京を救う』と映画『X』

成績評価方法(総合) 定期試験(中間・期末試験)=70% 授業態度や授業への参加度=10% 出席=20%

教科書・参考書 教科書: 毎回プリントを配布します。/ 参考書: 適宜、紹介します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー: 火曜日9:10時限

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 森野正弘 | | | | |

授業の概要 平安時代における物語文学の代表的作品である『源氏物語』を読み解きつつ、そこに孕まれている問題について取りあげ、研究史のうえで営まれてきた読みについて検討を加える。 / 検索キーワード 源氏物語

授業の一般目標 古典文学について研究・考察する力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点：作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画（全体）光源氏の運命の転換期となる「葵」巻から「薄雲」巻にかけて、主要な場面を取り上げ、それらについてどのような研究がなされてきたかを紹介していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 『源氏物語』の概説
- 第 2 回 項目 「葵」巻の問題（1）
- 第 3 回 項目 「葵」巻の問題（2）
- 第 4 回 項目 「賢木」巻の問題（1）
- 第 5 回 項目 「賢木」巻の問題（2）
- 第 6 回 項目 「須磨」巻の問題（1）
- 第 7 回 項目 「須磨」巻の問題（2）
- 第 8 回 項目 「明石」巻の問題（1）
- 第 9 回 項目 「明石」巻の問題（2）
- 第 10 回 項目 「澪標」巻の問題（1）
- 第 11 回 項目 「澪標」巻の問題（2）
- 第 12 回 項目 「松風」巻の問題（1）
- 第 13 回 項目 「松風」巻の問題（2）
- 第 14 回 項目 「薄雲」巻の問題（1）
- 第 15 回 項目 「薄雲」巻の問題（2）

成績評価方法（総合） 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：新・源氏物語必携, 秋山虔, 學燈社, 1997 年 ; 新編日本古典文学全集 源氏物語 全六冊, 阿部秋生ほか, 小学館, 1998 年 ; 源氏物語 全 10 冊, 玉上琢弥・訳注, 角川文庫ソフィア, 1997 年 ; 源氏物語の鑑賞と基礎知識 全 43 冊, 鈴木一雄・監修, 至文堂, 2005 年 ; 人物で読む源氏物語, 上原作和・編集, 勉誠出版, 2005 年 ; 源氏物語事典, 林田孝和ほか, 大和書房, 2002 年

メッセージ 出席状況 80 %未満の者は欠格とする。授業開始後 15 分を過ぎてからの入室は出席として認めない。

連絡先・オフィスアワー morino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 5・6 時限

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 尾崎千佳 | | | | |

授業の概要 【西山宗因と武家文化】一昨年度昨年度に引き続き、近世前期を代表する連歌師・俳諧師、西山宗因をとりあげ、その活躍の基盤について考察する。西山宗因という連歌師が、諸侯間のネットワークを利用し多数の庇護を獲得してゆく様相を、松平定信・内藤義概・小笠原忠真らとの関係を具体的事例としてとりあげつつ、確かめることとしたい。その際、2005～2007年度にかかる西山宗因展覧会に際して発掘された新出資料群を豊富に使用する。／検索キーワード 連歌師、西山宗因

授業の一般目標 1. 連歌師という存在の特殊性を、時代の思潮や政治的背景と併せて理解する。2. 研究上の問題設定と論証のあり方の例に触れ、自らの卒業論文への備えとする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 連歌師の行動とその文学について理解する。 思考・判断の観点： 1. 研究上の問題設定と論証のあり方を習得する。

授業の計画（全体）以下のトピックにつき選択的に進める。（1）宗因自筆資料群の位置づけ 松平信之との関わりをめぐって（2）内藤家との交流をめぐる諸問題（3）小笠原家との交流をめぐる諸問題

成績評価方法（総合）主に期末テストによって評価する。4回の無断欠席でその受験資格を失う。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。 / 参考書： 西山宗因生誕四百年記念 宗因から芭蕉へ、（財）柿衛文庫他編、八木書店、2005年

連絡先・オフィスアワー 研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 中原 豊 | | | | |

授業の概要 日本の近現代詩の特質を、明治から戦後までの代表的な詩人の詩を中心として捉える。 / 検索キーワード 近代詩 現代詩 詩

授業の一般目標 まずは詩の本質と表現の特徴を理解し、詩の読解を通じて、それぞれの詩人の詩と詩想、およびその成立に関わった先行文学あるいは同時代の文学についての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 詩の表現の特色、および日本の近代詩歌の特質を理解する。 思考・判断の観点： 言葉によって形成されるイメージについて自覚的になり、さらにそれを拡充していく。

関心・意欲の観点： 進んで講義で扱う詩人および他の詩人の詩を読もうとする。 技能・表現の観点： 自身の抱くイメージを自分なりの言葉で表現できる。

授業の計画（全体） 詩の本質について語った詩人の言葉を通じて詩の本質を理解し、その後明治から戦後までの代表的な詩人の詩の特質の説明と読解を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 詩とは何か I 内容 ポエジーについて
- 第 2 回 項目 詩とは何か II 内容 詩の表現
- 第 3 回 項目 島崎藤村 I 内容 『若菜集』
- 第 4 回 項目 島崎藤村 II 内容 『落梅集』
- 第 5 回 項目 北原白秋 I 内容 『邪宗門』『思ひ出』
- 第 6 回 項目 北原白秋 II 内容 『白金之独楽』他
- 第 7 回 項目 高村光太郎 I 内容 『道程』
- 第 8 回 項目 高村光太郎 II 内容 『智恵子抄』を中心に
- 第 9 回 項目 萩原朔太郎 I 内容 『月に吠える』
- 第 10 回 項目 萩原朔太郎 II 内容 『氷島』まで
- 第 11 回 項目 中原中也 I 内容 『山羊の歌』
- 第 12 回 項目 中原中也 II 内容 『在りし日の歌』
- 第 13 回 項目 谷川俊太郎 I 内容 初期の詩集から
- 第 14 回 項目 谷川俊太郎 II 内容 近年の詩集から
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：『近代詩: 12 人の詩人たち』, 境忠一, おうふう / 参考書：『詩とは何か』, 嶋岡晨, 新潮社, 1998 年

メッセージ 講義で取り上げる詩を読んでおいてください。

連絡先・オフィスアワー 中原中也記念館（山口市湯田温泉 1-11-21 083-932-6430）

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 平野芳信 | | | | |

授業の概要 本年度は村上春樹の短篇集『パン屋再襲撃』に収められた六つの作品を精読します。

授業の一般目標 本年度の講読は、これまでとは異なりある一人の作家の手による短編集を読みます。純粹な意味での連作ではないのですが、『パン屋再襲撃』にはそのように解釈可能な、ある共通項が認められます。そこに込められた作者の目論見の一端に迫りたいと思います。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 作家としての村上春樹
- 第 3 回 項目 短篇集『パン屋再襲撃』の成立と背景
- 第 4 回 項目 『パン屋再襲撃』精読
- 第 5 回 項目 『象の消滅』精読
- 第 6 回 項目 『ファミリー・アフエア』精読
- 第 7 回 項目 『双子と沈んだ大陸』精読
- 第 8 回 項目 『ローマ帝国の崩壊・1881年のインディアン蜂起・ヒットラーのポーランド侵入・そして強風世界』精読
- 第 9 回 項目 『ねじまき鳥と火曜日の女たち』精読
- 第 10 回 項目 先行研究論文精読
- 第 11 回 項目 先行研究論文精読
- 第 12 回 項目 先行研究論文精読
- 第 13 回 項目 先行研究論文精読
- 第 14 回 項目 先行研究論文精読
- 第 15 回 項目 先行研究論文精読

成績評価方法(総合) 宿題/授業外レポート = 40% 授業態度や授業への参加度 = 10% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 40% 出席 = 10%

教科書・参考書 教科書: 文庫『パン屋再襲撃』, 村上春樹, 文藝春秋, 2005年; 村上春樹『パン屋再襲撃』(文春文庫) テキストは文栄堂で販売する予定。/ 参考書: 追って指示します。

メッセージ 講読日誌を作成していただきますので、ノートを1冊準備しておくように。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー: 水曜日9:10時限

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 平野芳信 | | | | |

授業の概要 本年度後期はこれまでにない試みを実施します。すなわち三好行雄氏の『芥川龍之介論』という研究論文集の構成に従って、芥川文学の主だった作品を順に精読していきます。

授業の一般目標 この授業は三好行雄という卓越したの芥川研究の足跡を辿ることで、日本近代文学の方法論を学ぶことにねらいを定めています。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 『大川の水』の精読
- 第 3 回 項目 小説家の誕生
- 第 4 回 項目 『羅生門』の精読
- 第 5 回 項目 『芋粥』の精読
- 第 6 回 項目 『偷盗』の精読
- 第 7 回 項目 『戯作三昧』の精読
- 第 8 回 項目 『地獄変』の精読
- 第 9 回 項目 『枯野抄』の精読
- 第 10 回 項目 『舞踏会』の精読
- 第 11 回 項目 『秋』の精読
- 第 12 回 項目 『南京の基督』の精読
- 第 13 回 項目 芥川龍之介における《母》
- 第 14 回 項目 芥川龍之介の美学
- 第 15 回 項目 芥川龍之介の死

成績評価方法（総合）宿題／授業外レポート＝40％ 授業態度や授業への参加度＝10％ 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品）＝40％ 出席＝10％

教科書・参考書 教科書：文庫『羅生門 蜘蛛の糸 杜子春 外十八篇』（文藝春秋）三好行雄『芥川龍之介論』は現在絶版なので、プリントを配布致します。なお、テキストは文栄堂で販売する予定。／参考書：追って指示する予定。

メッセージ 講読日誌を作成していただきますので、ノートを1冊準備しておくように。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：水曜日9.10時限

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 森野正弘 | | | | |

授業の概要 『蜻蛉日記』の講読 / 検索キーワード 古典文学

授業の一般目標 古典文学について研究・考察する力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：作品に書かれた内容を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画(全体) 『蜻蛉日記』の上巻から主要な場面を抜き出し、受講者に担当範囲として割り当てる。受講者は担当範囲についての注釈・現代語訳・問題点・鑑賞などを載せた資料を作成し、発表することになる。

成績評価方法(総合) レジюме・発表内容・質疑応答・レポートによる。

教科書・参考書 教科書：蜻蛉日記 1(上巻・中巻・現代語訳付き)[新版], 川村裕子, 角川ソフィア文庫, 2003年 / 参考書：蜻蛉日記解釈大成, 上村悦子, 明治書院, 1995年; 新編日本古典文学全集 土佐日記・蜻蛉日記, 菊地靖彦・木村正中・伊牟田経久, 小学館, 1995年; 新日本古典文学大系 土佐日記・蜻蛉日記・紫式部日記・更級日記, 今西祐一郎ほか, 岩波書店, 1989年; 女流日記文学講座 第二巻 蜻蛉日記, 今井卓爾・監修, 勉誠出版, 1990年; 日記文学事典, 石原昭平ほか, 勉誠出版, 2000年

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 森野正弘 | | | | |

授業の概要 『和泉式部日記』の講読 / 検索キーワード 古典文学

授業の一般目標 古典文学について研究・考察する力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：作品に書かれた内容を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画(全体) 『和泉式部日記』を適宜区切り、受講者に担当範囲として割り当て、岩波文庫版で読み進めていく。受講者は、円地文子・鈴木一雄『全講和泉式部日記(改訂版)』を参照し、担当範囲についての注釈・現代語訳・鑑賞・問題点などを載せた資料を作成して発表することになる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 文献案内
- 第 3 回 項目 11 頁 1 行～14 頁 7 行
- 第 4 回 項目 14 頁 8 行～22 頁 3 行
- 第 5 回 項目 22 頁 4 行～28 頁 7 行
- 第 6 回 項目 28 頁 7 行～34 頁 1 行
- 第 7 回 項目 34 頁 2 行～42 頁 1 行
- 第 8 回 項目 42 頁 2 行～50 頁 4 行
- 第 9 回 項目 50 頁 5 行～56 頁 10 行
- 第 10 回 項目 57 頁 1 行～65 頁 4 行
- 第 11 回 項目 65 頁 5 行～73 頁 4 行
- 第 12 回 項目 73 頁 5 行～80 頁 7 行
- 第 13 回 項目 80 頁 8 行～86 頁 10 行
- 第 14 回 項目 87 頁 1 行～97 頁 3 行
- 第 15 回 項目 97 頁 4 行～101 頁 2 行

成績評価方法(総合) レジюме・発表内容・質疑応答・レポートによる。

教科書・参考書 教科書：和泉式部日記, 清水文雄・校注, 岩波文庫, 1981 年 / 参考書：全講和泉式部日記(改訂版), 円地文子・鈴木一雄, 至文堂, 1985 年; 新編日本古典文学全集 和泉式部日記・紫式部日記・更級日記・讃岐典侍日記, 藤岡忠美ほか, 小学館, 1994 年; 新潮日本古典集成 和泉式部日記・和泉式部集, 野村精一・校注, 新潮社, 1981 年; 女流日記文学講座 第三巻 和泉式部日記・紫式部日記, 今井卓爾・監修, 勉誠出版, 1991 年; 王朝女流日記必携, 秋山虔・編, 學燈社, 1989 年

メッセージ 第 1 回の授業までに岩波文庫版『和泉式部日記』を各自購入しておくこと。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 尾崎千佳 | | | | |

授業の概要 【西鶴『好色五人女』おさん茂右衛門を読む】『好色五人女』は、貞享三（1686）年に刊行された、西鶴浮世草子の五作目である。本演習では、『五人女』刊行の三年前、京都で実際に起きた密通駆け落ち事件に取材した、巻三「中段に見る暦屋物語」をとりあげる。前期は、前半三章により、小野小町の再来とも噂される絶世の美女・大経師屋の妻おさんと、律儀者の手代・茂右衛門が、ふとしたいたずら心から、許されぬ恋にのめり込んでゆく過程を精読する。読者周知の事件を巧みに物語化してゆく、西鶴の文体の魅力を感じたい。

授業の一般目標 1. 西鶴浮世草子作品を通して、近世文学読解の基本的あり方を習得する。2. 西鶴浮世草子作品を通して、中古中世文学の咀嚼の上に成る近世文学の醍醐味を感じ取る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世文学読解のための文献調査法の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 作品の主題を的確に把握できる。 関心・意欲の観点： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 態度の観点： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べることができる。

授業の計画（全体） 初回は、底本の概要と発表資料作成上の注意点を講じる。第2回時に「姿の関守」を講述・通読したうえで、第3回以降は、「してやられた枕の夢」「人をはめたる湖」の章を、参加者全員が数行ずつ担当し、語注・解釈結果を発表のうえ、全員で討議する形式で行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション 内容 『好色五人女』概説・発表資料作成の手引き・発表分担決定
- 第 2 回 項目 首章概説 内容 巻三 一「姿の関守」講読
- 第 3 回 項目 発表（1） 内容 巻三 二「してやられた枕の夢」輪読（1）
- 第 4 回 項目 発表（2） 内容 巻三 二「してやられた枕の夢」輪読（2）
- 第 5 回 項目 発表（3） 内容 巻三 二「してやられた枕の夢」輪読（3）
- 第 6 回 項目 発表（4） 内容 巻三 二「してやられた枕の夢」輪読（4）
- 第 7 回 項目 発表（5） 内容 巻三 二「してやられた枕の夢」輪読（5）
- 第 8 回 項目 発表（6） 内容 巻三 二「してやられた枕の夢」輪読（6）
- 第 9 回 項目 発表（7） 内容 巻三 二「してやられた枕の夢」輪読（7）
- 第 10 回 項目 発表（8） 内容 巻三 二「してやられた枕の夢」輪読（8）
- 第 11 回 項目 発表（9） 内容 巻三 三「人をはめたる湖」輪読（1）
- 第 12 回 項目 発表（10） 内容 巻三 三「人をはめたる湖」輪読（2）
- 第 13 回 項目 発表（11） 内容 巻三 三「人をはめたる湖」輪読（3）
- 第 14 回 項目 発表（12） 内容 巻三 三「人をはめたる湖」輪読（4）
- 第 15 回 項目 発表予備日

成績評価方法（総合） 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

教科書・参考書 教科書： 対訳西鶴全集 3 好色五人女・好色一代女、麻生磯次・富士昭雄訳注、明治書院、1974 年； 演習 好色五人女、堀章男編、和泉書院、1985 年； 『演習 好色五人女』は文栄堂山大前店で販売しているので必ず購入すること。対訳西鶴全集については当該箇所をプリント配付する。 / 参考書： 授業初回時に配付プリント「発表資料作成の手引き」により指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話; 933-5257 E-mail; ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 尾崎千佳 | | | | |

授業の概要 【西鶴『好色五人女』おさん茂右衛門を読む】『好色五人女』は、貞享三(1686)年に刊行された、西鶴浮世草子の五作目である。本演習では、『五人女』刊行の三年前、京都で実際に起きた密通駆け落ち事件に取材した、巻三「中段に見る暦屋物語」をとりあげる。後期は、後半二章により、おさん茂右衛門の道ならぬ恋のたどった結末を精読する。読者周知の事件を巧みに物語化してゆく、西鶴の文体の魅力を感じたい。

授業の一般目標 1. 西鶴浮世草子作品を通して、近世文学読解の基本的あり方を習得する。2. 西鶴浮世草子作品を通して、中古中世文学の咀嚼の上に成る近世文学の醍醐味を感じ得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世文学読解のための文献調査法の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 作品の主題を的確に把握できる。 関心・意欲の観点： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 態度の観点： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べるができる。

授業の計画(全体) 初回は、底本の概要と発表資料作成上の注意点を講じる。第2回以降は、「小判しらぬ休み茶屋」「身のうへの立聞」の章を、参加者全員が数行ずつ担当し、語注・解釈結果を発表のうえ、全員で討議する形式で行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション 内容 『好色五人女』概説・発表資料作成の手引き・発表分担決定
- 第 2 回 項目 首章概説 内容 巻三 四「小判しらぬ休み茶屋」輪読(1)
- 第 3 回 項目 発表(1) 内容 巻三 四「小判しらぬ休み茶屋」輪読(2)
- 第 4 回 項目 発表(2) 内容 巻三 四「小判しらぬ休み茶屋」輪読(3)
- 第 5 回 項目 発表(3) 内容 巻三 四「小判しらぬ休み茶屋」輪読(4)
- 第 6 回 項目 発表(4) 内容 巻三 四「小判しらぬ休み茶屋」輪読(5)
- 第 7 回 項目 発表(5) 内容 巻三 四「小判しらぬ休み茶屋」輪読(6)
- 第 8 回 項目 発表(6) 内容 巻三 四「小判しらぬ休み茶屋」輪読(7)
- 第 9 回 項目 発表(7) 内容 巻三 五「身のうへの立聞」輪読(1)
- 第10回 項目 発表(8) 内容 巻三 五「身のうへの立聞」輪読(2)
- 第11回 項目 発表(9) 内容 巻三 五「身のうへの立聞」輪読(3)
- 第12回 項目 発表(10) 内容 巻三 五「身のうへの立聞」輪読(4)
- 第13回 項目 発表(11) 内容 巻三 五「身のうへの立聞」輪読(5)
- 第14回 項目 発表(12) 内容 巻三 五「身のうへの立聞」輪読(6)
- 第15回 項目 発表予備日

成績評価方法(総合) 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

教科書・参考書 教科書： 対訳西鶴全集 3 好色五人女・好色一代女, 麻生磯次・富士昭雄訳注, 明治書院, 1974年; 演習 好色五人女, 堀章男編, 和泉書院, 1985年; 『演習 好色五人女』は文栄堂山大前店で販売しているので必ず購入すること。対訳西鶴全集については当該箇所をプリント配付する。 / 参考書： 授業初回時に配付プリント「発表資料作成の手引き」により指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話; 933-5257 E-mail; ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 平野芳信 | | | | |

授業の概要 明治以降の近代小説の代表的作品について、一種の共同研究・共同作業を行います。分担を決め、各自に作品それぞれの個性に応じて、テクスチュアル・クリティシズム、作家論、背景論、作品論、テキスト論等々を発表していただきます。

授業の一般目標 端的にいえば、このゼミナールにおけるいろいろな作業を通じて、将来の卒業論文作成の具体的方法を体得していただくことを目標としています。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 国文研究室・図書館オリエンテーション
- 第 3 回 項目 1 作家論 二葉亭四迷 2 『浮雲』の成立と背景
- 第 4 回 項目 1 『浮雲』論 2 『浮雲』論
- 第 5 回 項目 1 作家論 樋口一葉 2 『たけくらべ』の成立と背景
- 第 6 回 項目 1 『たけくらべ』論 2 『たけくらべ』論
- 第 7 回 項目 1 作家論 田山花袋 2 『少女病』の成立と背景
- 第 8 回 項目 1 『少女病』論 2 『少女病』論
- 第 9 回 項目 1 作家論 川端康成 2 『雪国』の成立と背景
- 第 10 回 項目 1 『雪国』論 2 『雪国』論
- 第 11 回 項目 1 作家論 遠藤周作 2 『沈黙』の成立と背景
- 第 12 回 項目 1 『沈黙』論 2 『沈黙』論
- 第 13 回 項目 読書会
- 第 14 回 項目 読書会
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法(総合) 宿題 / 授業外レポート = 50 % 授業態度や授業への参加度 = 10 % 受講者の発表(プレゼン) や授業内での製作作業(作品) = 30 % 出席 = 10 %

教科書・参考書 教科書：二葉亭四迷、文庫『浮雲』、新潮社 樋口一葉、文庫『たけくらべ・にごりえ』、新潮社 川端康成、文庫『雪国』、新潮社 遠藤周作、文庫『沈黙』、新潮社 読書会で取り上げる作品については、授業開始後受講生と相談の上、作品を決定いたします。なおテキストは全て文栄堂で販売しますので、各自購入しておくこと。 / 参考書：適宜、指示します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：水曜日 9:10 時限

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 平野芳信 | | | | |

授業の概要 明治以降の近代小説の代表的作品について、一種の共同研究・共同作業を行います。分担を決め、各自に作品それぞれの個性に応じて、テクスチュアル・クリティシズム、作家論、背景論、作品論、テキスト論等々を発表していただきます。

授業の一般目標 端的にいえば、このゼミナールにおけるいろいろな作業を通じて、将来の卒業論文作成の具体的方法を体得していただくことを目標としています。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 中也記念館見学(あくまでも予定です。)
- 第 3 回 項目 1 作家論 尾崎紅葉 2 『金色夜叉』の成立と背景
- 第 4 回 項目 1 『金色夜叉』論 2 『金色夜叉』論
- 第 5 回 項目 1 作家論 島崎藤村 2 『若菜集』の成立と背景
- 第 6 回 項目 1 『若菜集』論 2 『若菜集』論
- 第 7 回 項目 1 作家論 堀辰雄 2 『ルウベンスの偽画』の成立と背景
- 第 8 回 項目 1 『ルウベンスの偽画』論 2 『ルウベンスの偽画』論
- 第 9 回 項目 1 作家論 谷崎潤一郎 2 『痴人の愛』の成立と背景
- 第 10 回 項目 1 『痴人の愛』論 2 『痴人の愛』論
- 第 11 回 項目 1 作家論 中上健次 2 『岬』の成立と背景
- 第 12 回 項目 1 『岬』論 2 『岬』論
- 第 13 回 項目 読書会
- 第 14 回 項目 読書会
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法(総合) 宿題 / 授業外レポート = 50 % 授業態度や授業への参加度 = 10 % 受講者の発表(プレゼン) や授業内での製作作業(作品) = 30 % 出席 = 10 %

教科書・参考書 教科書: 尾崎紅葉、文庫『金色夜叉』、新潮社 堀辰雄、文庫『ルウベンスの偽画』、新潮社 谷崎潤一郎、文庫『痴人の愛』、新潮社 中上健次、文庫『岬』、文藝春秋 テキストは全て文栄堂で販売します。 / 参考書: 適宜指示します。

メッセージ 読書会でとりあげるについては、受講生と相談の上、取り上げる作品を決定します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー: 水曜日 9 . 1 0 時限

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 日本文学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 平野芳信 | | | | |

授業の概要 卒業論文作成の直接的な指導、助言を行うための演習を実施します。

授業の一般目標 この演習を通して、ゼミ構成員各自が、卒業論文作成のための具体的な方法を体得していただきたい。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 阿南沙弥香 夏目漱石『夢十夜』
- 第3回 項目 有川 巴 町田康『くっすん大黒』
- 第4回 項目 片岡奈緒美 泉鏡花『草迷宮』
- 第5回 項目 桑原裕美 田口ランディ『コンセント』
- 第6回 項目 下瀬浩子 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』
- 第7回 項目 徳田麻美 南木桂士『未定』
- 第8回 項目 中間まとめ
- 第9回 項目 個別指導
- 第10回 項目 個別指導
- 第11回 項目 個別指導
- 第12回 項目 個別指導
- 第13回 項目 個別指導
- 第14回 項目 個別指導
- 第15回 項目 前期末まとめ

成績評価方法(総合) 授業態度や授業への参加度 = 30% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 30% 演習 = 30% 出席 = 10%

教科書・参考書 教科書: 統一した教科書などは使用しません。/ 参考書: 個別指導します。

メッセージ 卒論のテーマは題目提出(6月末)までは変更可能です。ですからテーマは当然、仮のものです。発表の順番はあくまでも予定です。就職活動等々によって、変更があることを承知しておいてください。なお、4年生用の時間ですので、2、3年生は受講しないように。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー: 水曜日9:10時限

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 日本文学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 平野芳信 | | | | |

授業の概要 卒業論文作成の直接的な指導、助言を行うための演習を実施します。

授業の一般目標 この演習を通して、ゼミ構成員各自が、卒業論文作成のための具体的な方法を体得していただきたい。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 卒業論文中間発表
- 第3回 項目 卒業論文中間発表
- 第4回 項目 卒業論文中間発表
- 第5回 項目 卒業論文中間発表
- 第6回 項目 卒業論文中間発表
- 第7回 項目 卒業論文中間発表
- 第8回 項目 個別指導
- 第9回 項目 個別指導
- 第10回 項目 個別指導
- 第11回 項目 卒業論文1ヶ月前チェック
- 第12回 項目 個別指導
- 第13回 項目 卒業論文一週間前チェック
- 第14回 項目 口頭試問前指導
- 第15回 項目 総括

成績評価方法(総合) 授業態度や授業への参加度 = 30% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 30% 演習 = 30% 出席 = 10%

教科書・参考書 教科書: 統一した教科書などは使用しません。/ 参考書: 個別に指導します。

メッセージ 発表の順番はあくまでも予定です。就職活動等々によって、変更があることを承知しておいてください。なお、4年生用の時間ですので、2、3年生は受講しないように。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー: 水曜日9.10時限

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 森野正弘 | | | | |

授業の概要 『源氏物語』の研究 / 検索キーワード 源氏物語

授業の一般目標 古典文学の研究を進めていくうえで必要な基礎知識の習得、及び分析力・論理的思考力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。関心・意欲の観点：自発的に古典文学を読み進め、関連する事項について調査する意欲を高める。態度の観点：古典文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

授業の計画(全体) 『源氏物語』を対象として、受講者各自が研究課題を見つけ、考察した内容を発表する。受講者は(1)問題の所在、(2)先行研究、(3)考察、(4)結論を掲載したレジュメを作成し、発表に臨む。

成績評価方法(総合) レジュメ・質疑応答・レポートによる。

教科書・参考書 教科書：新編日本古典文学全集 源氏物語 全6冊, 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男, 小学館, 1998年 / 参考書：新日本古典文学大系別巻『源氏物語索引』, 柳井滋・室伏信助・鈴木日出男・藤井貞和・今西祐一郎, 岩波書店, 1999年; 新・源氏物語必携, 秋山虔, 學燈社, 1997年; 源氏物語事典, 林田孝和・原岡文子ほか, 大和書房, 2002年; 源氏物語の鑑賞と基礎知識 全43冊, 鈴木一雄・監修, 至文堂, 2005年; 新日本古典文学大系 源氏物語 全5冊, 柳井滋・室伏信助ほか, 岩波書店, 1993年; 人物で読む源氏物語, 上原作和・編, 勉誠出版, 2005年; 源氏物語評釈 全14冊, 玉上琢弥, 角川書店, 1969年

メッセージ 『源氏物語』の「何について」考察したいのか、各自あらかじめ考えてきたうえで第1回目の授業に臨んでください。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 森野正弘 | | | | |

授業の概要 『源氏物語』の研究。 / 検索キーワード 源氏物語

授業の一般目標 古典文学の研究を進めていくうえで必要な基礎知識の習得、及び分析力・論理的思考力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点：作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 関心・意欲の観点：自発的に古典文学を読み進め、関連する事項について調査する意欲を高める。 態度の観点：古典文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。 技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

授業の計画(全体) 『源氏物語』を対象として、受講者各自が研究課題を見つけ、考察した内容を発表する。受講者は(1)問題の所在、(2)先行研究、(3)考察、(4)結論を掲載したレジュメを作成し、発表に臨む。

成績評価方法(総合) レジュメ・質疑応答・レポートによる。

教科書・参考書 教科書：新編日本古典文学全集 源氏物語 全6冊, 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男, 小学館, 1998年 / 参考書：新日本古典文学大系別巻『源氏物語索引』, 柳井滋・室伏信助・鈴木日出男・藤井貞和・今西祐一郎, 岩波書店, 1999年; 新・源氏物語必携, 秋山虔, 學燈社, 1997年; 源氏物語事典, 林田孝和・原岡文子ほか, 大和書房, 2002年; 源氏物語の鑑賞と基礎知識 全43冊, 鈴木一雄・監修, 至文堂, 2005年; 新日本古典文学大系 源氏物語 全5冊, 柳井滋・室伏信助ほか, 岩波書店, 1993年; 人物で読む源氏物語, 上原作和・編, 勉誠出版, 2005年; 源氏物語評釈 全14冊, 玉上琢弥, 角川書店, 1969年

メッセージ 『源氏物語』の「何について」考察したいのか、各自あらかじめ考えてきたうえで第1回目の授業に臨んでください。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 日本文学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 森野正弘 | | | | |

授業の概要 中古文学を卒業論文の対象としている4年生のための演習。 / 検索キーワード 中古文学

授業の一般目標 中古文学研究を進めていくうえで必要な知識・方法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中古文学を研究するための知識を得ることができる。 思考・判断の観点：中古文学の研究を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 関心・意欲の観点：自発的に中古文学の研究を進め、関連する事項について調査する意欲を高める。 態度の観点：中古文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。 技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

授業の計画(全体) 研究課題に関する先行研究の状況を調査し、整理する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス
- 第2回 項目 文献案内(1)
- 第3回 項目 文献案内(2)
- 第4回 項目 研究課題の確定
- 第5回 項目 問題提起(1)
- 第6回 項目 問題提起(2)
- 第7回 項目 問題提起(3)
- 第8回 項目 先行論文の蒐集(1)
- 第9回 項目 先行論文の蒐集(2)
- 第10回 項目 先行論文の蒐集(3)
- 第11回 項目 先行研究の状況について(1)
- 第12回 項目 先行研究の状況について(2)
- 第13回 項目 先行研究の状況について(3)
- 第14回 項目 問題提起の再検討(1)
- 第15回 項目 問題提起の再検討(2)

成績評価方法(総合) レジюмеとレポートによる。

教科書・参考書 教科書：各自に指示する。 / 参考書：適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー morino@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 5・6時限

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 日本文学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 森野正弘 | | | | |

授業の概要 中古文学を卒業論文の対象としている4年生のための演習。 / 検索キーワード 中古文学

授業の一般目標 中古文学研究を進めていくうえで必要な知識・方法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中古文学を研究するための知識を得ることができる。 思考・判断の観点：中古文学の研究を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 関心・意欲の観点：自発的に中古文学の研究を進め、関連する事項について調査する意欲を高める。 態度の観点：中古文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。 技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

授業の計画(全体) 研究課題の進行状況をレジュメにし、発表していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス
- 第2回 項目 資料の検討(1)
- 第3回 項目 資料の検討(2)
- 第4回 項目 資料の検討(3)
- 第5回 項目 レジュメの作成(1)
- 第6回 項目 レジュメの作成(2)
- 第7回 項目 レジュメの作成(3)
- 第8回 項目 個別発表(1)
- 第9回 項目 個別発表(2)
- 第10回 項目 個別発表(3)
- 第11回 項目 論文要旨の発表(1)
- 第12回 項目 論文要旨の発表(2)
- 第13回 項目 論文要旨の発表(3)
- 第14回 項目 質疑応答
- 第15回 項目 総括

成績評価方法(総合) レジュメによる。

教科書・参考書 教科書：各自に指示する。 / 参考書：適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 水曜日5・6時限

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 尾崎千佳 | | | | |

授業の概要 【『大坂独吟集』幾音独吟百韻註釈】延宝三（1675）年刊『大坂独吟集』は、談林俳諧の盟主・西山宗因が評語を付し点をかけた百韻 10 巻を集める、談林俳諧の代表的作品集である。謡曲の文句取りを駆使した軽妙な表現と、古典作品の大胆なパロディが生む笑いを精読して、談林俳諧の意義と達成につき考察を深めたい。前期は、上巻所収の幾音独吟「去年といはん」百韻の前半二折表（にのおりおもて）までをとりあげる。連句と評語がありなす、師弟のコラボレーションにも注目しよう。／検索キーワード 『大坂独吟集』、百韻、談林俳諧、西山宗因

授業の一般目標 1. 近世文学の読解に必要な、文献調査法の習得から、古典註釈の基礎を学ぶ。2. 詠作と鑑賞が同時に繰り返される「座」の文芸＝俳諧連句の作法と精神を知り、談林俳諧の意義と達成につき考察を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世文学読解のために必要な文献調査の方法を習得する。2. 古典文学註釈の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 俳諧連句の作法と精神を理解する。2. 中古中世文学との比較を通して近世文学の到達点を理解する。 関心・意欲の観点： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 態度の観点： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べるができる。

授業の計画（全体） 初回から第3回にかけて、『大坂独吟集』につき概説し、俳諧連句のルール・註釈のあり方の基礎を講じる。第4回以降は、参加者全員が3句ずつ担当し、順次註釈結果を発表のうえ、全員で討議し、解釈を深める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

| | | | | |
|--------|----|-----------------|----|----------------------------|
| 第 1 回 | 項目 | イントロダクション・概説（1） | 内容 | 『大坂独吟集』概説・発表分担決定 |
| 第 2 回 | 項目 | 概説（2） | 内容 | 連句のルール（1） |
| 第 3 回 | 項目 | 概説（3） | 内容 | 連句のルール（2） 発表資料作成の手引き |
| 第 4 回 | 項目 | 発表（1） | 内容 | 「去年といはん」の巻初折表 1 3 句註釈 |
| 第 5 回 | 項目 | 発表（2） | 内容 | 「去年といはん」の巻初折表 4 6 句註釈 |
| 第 6 回 | 項目 | 発表（3） | 内容 | 「去年といはん」の巻初折表 7 裏 1 句註釈 |
| 第 7 回 | 項目 | 発表（4） | 内容 | 「去年といはん」の巻初折裏 2 4 句註釈 |
| 第 8 回 | 項目 | 発表（5） | 内容 | 「去年といはん」の巻初折裏 5 7 句註釈 |
| 第 9 回 | 項目 | 発表（6） | 内容 | 「去年といはん」の巻初折裏 8 10 句註釈 |
| 第 10 回 | 項目 | 発表（7） | 内容 | 「去年といはん」の巻初折裏 11 13 句註釈 |
| 第 11 回 | 項目 | 発表（8） | 内容 | 「去年といはん」の巻初折裏 14 二折表 2 句註釈 |
| 第 12 回 | 項目 | 発表（9） | 内容 | 「去年といはん」の巻二折表 3 5 句註釈 |
| 第 13 回 | 項目 | 発表（10） | 内容 | 「去年といはん」の巻二折表 6 8 句註釈 |
| 第 14 回 | 項目 | 発表（11） | 内容 | 「去年といはん」の巻二折表 9 11 句註釈 |
| 第 15 回 | 項目 | 発表（12） | 内容 | 「去年といはん」の巻二折表 12 14 句註釈 |

成績評価方法（総合） 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

教科書・参考書 教科書： 近世文学資料類従古俳諧編 29, 乾裕幸他解題, 勉誠社, 1976 年； 当該箇所をプリント配布する。 / 参考書： 新日本古典文学大系 69 初期俳諧集, 乾裕幸他校注, 岩波書店, 1991 年； 新版連句への招待, 乾裕幸・白石悌三, 和泉書院, 1989 年； 当該箇所をプリント配付するが、希望者は文栄堂山大前店で購入すること。

連絡先・オフィスアワー 研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 尾崎千佳 | | | | |

授業の概要 【『大坂独吟集』幾音独吟百韻註釈】延宝三（1675）年刊『大坂独吟集』は、談林俳諧の盟主・西山宗因が評語を付し点をかけた百韻 10 巻を集める、談林俳諧の代表的作品集である。謡曲の文句取りを駆使した軽妙な表現と、古典作品の大胆なパロディが生む笑いを精読して、談林俳諧の意義と達成につき考察を深めたい。後期は、上巻所収の幾音独吟「去年といはん」百韻の二折裏（にのおりうら）以降をとりあげる。連句と評語がおりなす、師弟のコラボレーションにも注目しよう。／検索キーワード『大坂独吟集』、百韻、談林俳諧、西山宗因

授業の一般目標 1. 近世文学の読解に必要な、文献調査法の習得から、古典註釈の基礎を学ぶ。2. 詠作と鑑賞が同時に繰り返される「座」の文芸＝俳諧連句の作法と精神を知り、談林俳諧の意義と達成につき考察を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世文学読解のために必要な文献調査の方法を習得する。2. 古典文学註釈の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 俳諧連句の作法と精神を理解する。2. 中古中世文学との比較を通して近世文学の到達点を理解する。 関心・意欲の観点： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 態度の観点： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べるができる。

授業の計画（全体） 初回から第3回にかけて、『大坂独吟集』につき概説し、俳諧連句のルール・註釈のあり方の基礎を講じる。第4回以降は、参加者全員が3句ずつ担当し、順次註釈結果を発表のうえ、全員で討議し、解釈を深める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション・概説（1） 内容 『大坂独吟集』概説・発表分担決定
- 第 2 回 項目 概説（2） 内容 連句のルール（1）
- 第 3 回 項目 概説（3） 内容 連句のルール（2） 発表資料作成の手引き
- 第 4 回 項目 発表（1） 内容 「去年といはん」の巻二折裏 1 3 句註釈
- 第 5 回 項目 発表（2） 内容 「去年といはん」の巻二折裏 4 6 句註釈
- 第 6 回 項目 発表（3） 内容 「去年といはん」の巻二折裏 7 9 句註釈
- 第 7 回 項目 発表（4） 内容 「去年といはん」の巻二折裏 10 12 句註釈
- 第 8 回 項目 発表（5） 内容 「去年といはん」の巻二折裏 13 三折表 1 句註釈
- 第 9 回 項目 発表（6） 内容 「去年といはん」の巻三折表 2 4 句註釈
- 第 10 回 項目 発表（7） 内容 「去年といはん」の巻三折表 5 7 句註釈
- 第 11 回 項目 発表（8） 内容 「去年といはん」の巻三折表 8 10 句註釈
- 第 12 回 項目 発表（9） 内容 「去年といはん」の巻三折表 11 13 句註釈
- 第 13 回 項目 発表（10） 内容 「去年といはん」の巻三折表 14 裏 2 句註釈
- 第 14 回 項目 発表（11） 内容 「去年といはん」の巻三折裏 3 5 句註釈
- 第 15 回 項目 発表（12） 内容 「去年といはん」の巻三折裏 6 8 句註釈

成績評価方法（総合） 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

教科書・参考書 教科書： 近世文学資料類従古俳諧編 29, 乾裕幸他解題, 勉誠社, 1976 年； 当該箇所をプリント配布する。 / 参考書： 新日本古典文学大系 69 初期俳諧集, 乾裕幸他校注, 岩波書店, 1991 年； 新版連句への招待, 乾裕幸・白石悌三, 和泉書院, 1989 年； 当該箇所をプリント配付するが、希望者は文栄堂山大前店で購入すること。

連絡先・オフィスアワー 研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 日本文学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 尾崎千佳 | | | | |

授業の概要 卒業論文執筆に向け、作品作家の選定・先行研究の検索と収集・研究史の把握・論文テーマの設定について、個別に指導する。

授業の一般目標 卒業論文執筆のための具体的方法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. とりあげる作家や作品を選定することができる。 2. 先行研究を収集し整理することができる。 思考・判断の観点： 1. 研究史を把握し問題を提起することができる。 2. 論文テーマを自ら設定することができる。 関心・意欲の観点： 1. 選定した作家や作品について適切に説明することができる。 2. 研究史とその問題点について適切に説明することができる。 3. 設定した論文テーマについて適切に説明することができる。 態度の観点： 1. 論文作成に向けたスケジュールを自ら設定し管理することができる。

授業の計画(全体) 全体を4ステップに分け、提出レポートに基づいた個別面談で行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション 内容 1. 卒業論文に向けた心構え 2. 卒業論文提出までのスケジュール確認 3. 各ステップの概要 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第2回 項目 ステップ(1)-1 内容 レポート(1)「作品作家」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(1)「作品作家」を準備すること
- 第3回 項目 ステップ(1)-2 内容 レポート(1)「作品作家」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(1)「作品作家」を準備すること
- 第4回 項目 ステップ(1)-3 内容 レポート(1)「作品作家」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(1)「作品作家」を準備すること
- 第5回 項目 ステップ(2)-1 内容 レポート(2)「研究テーマ」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(2)「研究テーマ」を準備すること
- 第6回 項目 ステップ(2)-2 内容 レポート(2)「研究テーマ」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(2)「研究テーマ」を準備すること
- 第7回 項目 ステップ(2)-3 内容 レポート(2)「研究テーマ」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(2)「研究テーマ」を準備すること
- 第8回 項目 ステップ(3)-1 内容 レポート(3)「論文題目」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(3)「論文題目」を準備すること
- 第9回 項目 ステップ(3)-2 内容 レポート(3)「論文題目」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(3)「論文題目」を準備すること
- 第10回 項目 ステップ(3)-3 内容 レポート(3)「論文題目」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(3)「論文題目」を準備すること
- 第11回 項目 ステップ(4)-1 内容 夏季休業中の作業確認に関する個別面談
- 第12回 項目 ステップ(4)-2 内容 夏季休業中の作業確認に関する個別面談
- 第13回 項目 ステップ(4)-3 内容 夏季休業中の作業確認に関する個別面談
- 第14回 項目 予備日
- 第15回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 主にレポート(1)~(3)の内容により評価する。試験は行わない。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。 / 参考書： 授業(個別面談)時に個別に指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話; 933-5257 E-mail; ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 日本文学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 尾崎千佳 | | | | |

授業の概要 卒業論文完成に向け、論文テーマの確立・論文の構成について、個別に指導する。

授業の一般目標 卒業論文の完成を目指す。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：1. 論文テーマについて多角的に考察を進めることができる。2. 論文の構成を自ら設定することができる。 関心・意欲の観点：1. 論文テーマについて適切に説明することができる。2. 論文の構成について適切に説明することができる。 態度の観点：1. 論文テーマについて異見を受容することができる。2. 論文の構成について異見を受容することができる。

授業の計画(全体) 全体を4ステップに分け、ステップ(5)では個別の経過報告、ステップ(6)では各自20分程度の中間発表、ステップ(7)では論文構成についての個別面談、ステップ(8)では論文草稿に基づいた個別面談を行う。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ステップ(5)-1 内容 中間発表の準備に向けた個別面談 授業外指示 夏季休業中の作業経過についてまとめておくこと
- 第2回 項目 ステップ(5)-2 内容 中間発表の準備に向けた個別面談 授業外指示 夏季休業中の作業経過についてまとめておくこと
- 第3回 項目 ステップ(5)-3 内容 中間発表の準備に向けた個別面談 授業外指示 夏季休業中の作業経過についてまとめておくこと
- 第4回 項目 ステップ(6) 内容 中間発表会 授業外指示 発表レジュメを準備すること
- 第5回 項目 ステップ(7)-1 内容 論文構成に基づく個別面談 授業外指示 論文の構成についてまとめておくこと
- 第6回 項目 ステップ(7)-2 内容 論文構成に基づく個別面談 授業外指示 論文の構成についてまとめておくこと
- 第7回 項目 ステップ(7)-3 内容 論文構成に基づく個別面談 授業外指示 論文の構成についてまとめておくこと
- 第8回 項目 ステップ(8)-1 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文の草稿を準備すること
- 第9回 項目 ステップ(8)-2 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文の草稿を準備すること
- 第10回 項目 ステップ(8)-3 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文の草稿を準備すること
- 第11回 項目 ステップ(8)-4 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文の草稿を準備すること
- 第12回 項目 ステップ(8)-5 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文の草稿を準備すること
- 第13回 項目 ステップ(8)-7 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文の草稿を準備すること
- 第14回 項目 ステップ(8)-8 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文の草稿を準備すること
- 第15回 項目 ステップ(8)-9 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文の草稿を準備すること

成績評価方法(総合) 主に中間発表と論文草稿により評価する。試験は行わない。

教科書・参考書 教科書：使用しない。/ 参考書：授業(個別面談)時に個別に指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話;933-5257 E-mail;ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

言語文化学科 中国語文化論コース

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語学概説 III | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 更科慎一 | | | | |

授業の概要 中国語学に関して最低限踏まえておくべきことがらを講義します。中国語学の分野で卒論を書くことを考えている学生は、できれば二年生のうちに必ず受講してください。中国文学、言語学などに関心を寄せる広範な学生の受講も歓迎します。

授業の一般目標 (1) 言語学の考え方を認識し、言語生活を言語学的に反省する態度と手法を身に付ける。(2) 中国語を外国語として見る態度を確立する。(3) 現代中国の言語状況を知る。(4) 現代中国語の背後にある歴史のあらましを知る。(5) 調音音声学の初歩を学び、これを現代中国語の音声の理解に応用することができる。(6) 中国の文字の歴史と構造を知り、文字と言語の関係について正しく理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 中国が他民族多言語の国であることを理解している。(2) 中国語の歴史区分と方言区分について簡単に説明できる。(3) 国際音声字母で表記された現代中国語の音声を自分の口で再現できる。(4) 中国語の音節構造について簡単に説明できる。(5) 漢字の歴史段階、書体、字書史について簡単に説明できる。(6) 中国の文字規範化の歴史と現状について簡単に説明できる。思考・判断の観点：(1) 中国語を言語学的に分析する基本的姿勢を認識し、発音と文字については運用もできる。(2) 言語と文字の違いがわかる。(3) 中国語を母語たる日本語と比べ、似たところと違うところについて指摘することができる。関心・意欲の観点：(1) 授業で習ったことを自らの学習上の問題と結びつけることができる。(2) 教科書や、それに対する教員のコメントを検証し、批判することができる。態度の観点：2/3 以上出席する。

授業の計画(全体) 教科書の「序」から第3章までを講読する。受講者は毎回、授業の内容と関連した小レポートを提出し、学期末には授業の内容と関連したレポートを提出する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序 内容 中国語を言語学的に扱うということ
- 第 2 回 項目 第 1 章 中国と中国語(1) 1.1 内容 多言語国家・中国
- 第 3 回 項目 第 1 章 中国と中国語(2) 1.2, 1.3 内容 中国語の歴史区分と地理区分
- 第 4 回 項目 第 1 章 中国と中国語(3) 1.4 内容 日本語と中国語
- 第 5 回 項目 第 2 章 中国語の音声(1) 2.1~2.4 内容 音声学の基礎(1)
- 第 6 回 項目 第 2 章 中国語の音声(2) 2.1~2.4 内容 音声学の基礎(2)
- 第 7 回 項目 第 2 章 中国語の音声(3) 2.5, 2.6, 2.9, 2.10 内容 日中母音比較
- 第 8 回 項目 第 2 章 中国語の音声(4) 2.5, 2.7 内容 日中子音比較
- 第 9 回 項目 第 2 章 中国語の音声(5) 2.8, 2.11~2.14 内容 声調・音節・四呼
- 第 10 回 項目 第 2 章 中国語の音声(6) 2.15 内容 変調・軽声・児化
- 第 11 回 項目 第 3 章 中国語の文字(1) 3.1, 3.2 内容 漢字の起源と変遷
- 第 12 回 項目 第 3 章 中国語の文字(2) 3.3 内容 漢字の仕組み、字書
- 第 13 回 項目 第 3 章 中国語の文字(3) 3.4 内容 文字改革、現代における漢字の生態
- 第 14 回 項目 第 3 章 中国語の文字(4) 3.4 内容 第 13 週の続き；総まとめ
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) 毎回の小レポート(20%)と学期末レポート(80%)とによって評価をする。出席が授業回数の2/3に満たない者は、たとえレポートを提出しても成績評価の対象とはしない(単位を与えない)。ただし出席そのものは成績評価の対象ではないので、全部の回に出席してもレポートの評価いかににより単位を与えない場合がある。

教科書・参考書 教科書：中国語学概論，王占華、一木達彦、苞山武義，駿河台出版社，2004年 / 参考書：教科書各章の「参考文献」の他、授業中に示すもの。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語学概説 IV | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 更科慎一 | | | | |

授業の概要 中国語学に関して最低限踏まえておくべきことがらを講義します。中国語学の分野で卒論を書くことを考えている学生は、できれば二年生のうちに必ず受講してください。中国文学、言語学などに関心を寄せる広範な学生の受講も歓迎します。

授業の一般目標 (1) 言語学の考え方を認識し、言語生活を言語学的に反省する態度と手法を身に付ける。(2) 中国語を外国語として見る態度を確立する。(3) 中国語の文法・語彙・表現の特質について初歩的な知識を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 中国語の語彙と文法の研究方法の基本的手法について理解する。(2) 中国語の品詞分類、文法関係の分類、文の分類について簡単に説明できる。(3) 中国語の語彙の特色について、例を挙げながら簡単に説明できる。(4) 日本語と比べての中国語の特徴を、文法・語彙・表現の点において理解する。 思考・判断の観点：中国語の語彙と文法の特徴について、なぜそうであるのかを、文字と発音の特徴とも関連付けて考えることができる。 関心・意欲の観点：(1) 授業で習ったことを自らの学習上の問題と結びつけることができる。(2) 教科書や、それに対する教員のコメントを検証し、批判することができる。 態度の観点：2/3 以上出席する。

授業の計画(全体) 教科書の第4章から第6章までを講読する。受講者は毎回、授業の内容と関連した小レポートを提出し、学期末には授業の内容と関連したレポートを提出する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 第 4 章 中国語の文法(1)
- 第 2 回 項目 第 4 章 中国語の文法(2)
- 第 3 回 項目 第 4 章 中国語の文法(3)
- 第 4 回 項目 第 4 章 中国語の文法(4)
- 第 5 回 項目 第 4 章 中国語の文法(5)
- 第 6 回 項目 第 5 章 中国語の語彙(1)
- 第 7 回 項目 第 5 章 中国語の語彙(2)
- 第 8 回 項目 第 5 章 中国語の語彙(3)
- 第 9 回 項目 第 5 章 中国語の語彙(4)
- 第 10 回 項目 第 5 章 中国語の語彙(5)
- 第 11 回 項目 復習
- 第 12 回 項目 第 6 章 中国語の表現(1)
- 第 13 回 項目 第 6 章 中国語の表現(2)
- 第 14 回 項目 第 6 章 中国語の表現(3)
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) 毎回の小レポート(20%)と学期末レポート(80%)とによって評価をする。出席が授業回数の2/3に満たない者は、たとえレポートを提出しても成績評価の対象とはしない(単位を与えない)。ただし出席そのものは成績評価の対象ではないので、全部の回に出席してもレポートの評価いかんにより単位を与えない場合がありうる。

教科書・参考書 教科書：中国語学概論, 王占華、一木達彦、苞山武義, 駿河台出版社, 2004年 / 参考書：参考書備考：教科書各章の「参考文献」の他、授業中に示すもの。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 富平美波 | | | | |

授業の概要 中国語の音韻学に関する知識を、わかりやすく解説する。直音・反切など中国の伝統的な表音法、漢詩の韻律を構成している押韻や平仄、また古代の韻書や韻図を見て字音を求める方法などを、実際に作業をしながら学んでいく。 / 検索キーワード 中国語 音韻

授業の一般目標 中国語の音韻学に関する基礎知識を学び、漢字の発音について一層深い理解ができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国の伝統的な発音表示法を知る。漢詩の韻律に関する基本的術語が理解できる。韻書や韻図などの仕組みが理解できる。思考・判断の観点：中国の伝統的な方法で表示された字音がわかる。具体的な漢詩について、その韻律がおおよそわかる。韻書等で字を引くことができる。関心・意欲の観点：漢字の発音や中国語音韻学について関心を持ち、調査・考察することができる。

授業の計画（全体）中国語の音韻学に関する基礎知識を、簡単な序説から始めて順々に解説していく。理解を深めるために、反切の実例から表示された音を求めたり、具体的な漢詩の平仄を調べたりなど、授業中に適宜作業を織り交ぜていくつもりである。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序説（1）内容 漢字について
- 第 2 回 項目 序説（2）内容 「小学」について
- 第 3 回 項目 反切（1）内容 中国語の音節構造と表音法
- 第 4 回 項目 反切（2）内容 反切の読み方
- 第 5 回 項目 韻書（1）内容 韻書の始まり
- 第 6 回 項目 韻書（2）内容 韻書を引く
- 第 7 回 項目 平仄（1）内容 漢詩について
- 第 8 回 項目 平仄（2）内容 押韻・平仄式について
- 第 9 回 項目 平仄（3）内容 平仄を調べる
- 第 10 回 項目 等韻（1）内容 等韻学の始まり
- 第 11 回 項目 等韻（2）内容 韻図のしくみ
- 第 12 回 項目 等韻（3）内容 韻図のしくみ
- 第 13 回 項目 発音を調べる（1）内容 漢字の中古音を調べる方法
- 第 14 回 項目 発音を調べる（2）内容 漢字の中古音を調べる方法
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法（総合）期末に課すレポートの成績を主とし、授業への参加度も加味して評価する。全体の3分の1以上欠席した者は成績評価の対象としない。

教科書・参考書 教科書：授業中にプリントを配布する。 / 参考書：音韻のはなし, 李思敬, 光生館, 1987年；中国文化叢書1言語, 牛島徳次ほか, 大修館書店, 1967年；辞書の発明, 大島正二, 三省堂, 1997年；中国語語音史, 佐藤昭, 白帝社, 2002年；中国語で書かれた参考文献については、『中国語学習ハンドブック』等を参照のこと。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 富平美波 | | | | |

授業の概要 古代(ここでは清代までを総称する。)の中国における上古音の研究史を概説する。上古音とは、上古中国語(先秦から漢代ころまでの中国語)の発音を指し、伝統的には「古音」とか「古韻」と呼ばれて来たものであるが、この時代の音は漢字の字形のなりたちとも深い関連がある。たとえば、誰でも知っている「波」という字は、なぜ「水(さんずい)」と「皮」からできているのだろうか? 「波」は「八」、「皮」は「ヒ」で音が合わないではないか!? しかし、考えてみれば、「波」も「八」、「破」も「八」、「頗」も「八」である! -もし、このような事実に気づく能力のある人がおられたら、古代中国の音韻学者の後裔を名乗る資格があるかもしれない。中国の「古音」学は一つにはこのような疑問を解こうとした学問である。中国語音韻学の基礎知識がわかっていると理解しやすいと思われるので、受講者は前期に行われる同教員による中国語学特殊講義を履修していることが望ましい(受講の必須条件とはしない)。/検索キーワード 中国語 音韻 上古音 研究史

授業の一般目標 清代までの中国語上古音研究史について若干の基礎的知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 中国語上古音の研究資料と清代までの研究史についてその概略を知っている。 関心・意欲の観点: 中国語の音韻やその研究史について関心を持ち、自主的な学習・考察ができる。

授業の計画(全体) 中国語の上古音について、その時代・研究資料・清代までの研究史について基礎的な知識を順次紹介していく。まず、『詩経』の押韻や、形声文字の構造について基礎的な知識を持ってもらい、さらに、宋代から清代にかけての代表的な学者を幾人が選び、その業績や著作について解説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序説(詩経について)
- 第 2 回 項目 序説(形声文字について)
- 第 3 回 項目 六朝から隋唐まで(1)
- 第 4 回 項目 六朝から隋唐まで(2)
- 第 5 回 項目 宋(1)
- 第 6 回 項目 宋(2)
- 第 7 回 項目 元
- 第 8 回 項目 明(1)
- 第 9 回 項目 明(2)
- 第 10 回 項目 清(1)
- 第 11 回 項目 清(2)
- 第 12 回 項目 清(3)
- 第 13 回 項目 清(4)
- 第 14 回 項目 清(5)
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) 学期末のレポートを主とし、授業への参加度を加味して評価する。欠席が全体の3分の1を越える者は成績評価の対象としない。

教科書・参考書 教科書: 授業中にプリントを配布する。/ 参考書: 音韻のはなし, 李思敬, 光生館, 1987年; 中国語音韻論, 藤堂明保, 光生館, 1980年; 説文入門, 頼惟勤・説文会, 大修館書店, 1983年

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー: 月曜日 12:50-16:00

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 池田 巧 | | | | |

授業の概要 中国語は‘普通話(プットンホア)’という北京の口語にもとづく標準語が普及しているので、ともすれば均質な言語と思われがちであるが、実際には相互理解の困難な多数の方言群を内包する世界最大の言語であり、その周囲にはさらに中国語とは異なる多様なシナ=チベット諸語が分布している。通常‘少数民族語’と称されるこれらの言語にも、やはり大きな方言差がある大言語のほかに、特に西南中国には数千人規模の独立した少数言語がいくつも話されていて、シナ=チベット諸語のさまざまな発展段階の諸特徴を今日まで伝承してきている。本講義では西南から西北中国の言語の調査データをもとに、中国語方言と周辺諸語の類型構造の共通性と多様性を概観しつつ、その歴史的発展を解明する手がかりとなるいくつかの諸特徴に焦点を当てた研究テーマを紹介していきたい。

授業の一般目標 中国語の方言の多様性と諸特徴、ならびに周辺に分布する諸言語を概観して基礎的な知識を得ることにより、中国語と中国社会をより巨視的、多角的に理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：普通話は中国人にとっても外国語のように学んで習得する共通語であるにもかかわらず、他言語ではなくスタイルの違いとして認識されていること、また異なる言語を話す少数民族が中国語を話すようになるのも方言区の人と同じ社会的なメカニズムが働いており、言語の違いは程度の差でしかないという事実を認識し、その構造を理解する。 思考・判断の観点：多言語社会の構造的な諸側面とそのような状況が生まれるに到った環境および社会的背景について考察し、多言語社会においてよりよい言語生活を送るには、どうしたらよいのかを考える。中国の複合言語社会の様相を知ることを通じて、日本社会の言語生活の諸相についても、新たな視点で判断できるようになることを期待したい。

授業の計画(全体) 中国語の標準語と方言の関係について、分布とその諸特徴を紹介する。漢字を媒介として方言間で対応があることにより、中国語の統一性と中国人の文化的一体感が形成されている事実を紹介する。中国語の周囲に分布する少数民族語について概観し、言語と民族認定との関係について分析する。現地調査によって観察し得た複合化した多言語社会における言語生活の諸相を紹介し、歴史的な多言語状況についても考察したい。(構成案) 1 中国語の標準語と方言 2 中国の少数民族語概観 3 周辺諸語との歴史的交流 4 多言語社会としての中国

成績評価方法(総合) レポートおよび平常点による。授業への出席を50%、授業にて指示したレポートを50%として評価する。レポートは参考文献からの抜粋ではなく、言語現象について観察を行ない、独自の視点での分析をしていること。

教科書・参考書 教科書：指定教科書はない。教材はプリントを配布する。 / 参考書：参考文献は多岐にわたるので、授業時に文献目録を配布する。

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 更科慎一 | | | | |

授業の概要 ふつう、「中国語」と呼ばれる言語は、現代北京の音韻体系を規範とする中国の標準語「普通話」である。現代北京語は、このように普通話の骨組を為しているが、あたかも日本語の標準語に対する東京弁の如く、人民の中で生き、変化し続けている方言の一つなのであって、普通話そのものとは区別される。本授業では、現代北京語の音韻、語彙、文法などに関して、現代中国語で書かれた文献を読む。学生の皆さんが中国語学研究への道を敷設するのに、あるいは役立つかもしれない。 / 検索キーワード 北京語 普通話

授業の一般目標 (1) 現代北京語の特徴や、現代北京語と普通話との関係等について理解を深める。(2) 現代中国語の論文文体に慣れ、読解と翻訳の実力を増強する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 現代北京語の特徴について言語学的に述べるができる。 2. 現代北京語と普通話の関係を説明することができる。 3. 中国語学の基本的用語を理解することができる。

技能・表現の観点： 1. 現代中国語文を正しい発音で音読することができる。 2. 現代中国語文を正しく日本語に訳すことができる。

授業の計画(全体) 授業は、出席した受講者がテキストの音読と日本語訳を行い、講師が口頭でそれに対する補足を行う形で進行する。

成績評価方法(総合) 主として、学期末に実施する試験によって評価し、あわせて受講者の口頭発表の良し悪しを加味する。いわゆる出席点はない。全体の 2/3 以上出席しない学生には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：講師が授業中に配布するプリントを教科書(テキスト)とする。

メッセージ なるべく多くの漢字の発音を覚え、また語彙を増やすよう心がけてください。漢字だけを見て「知っている単語だ」と思わないように！

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 更科慎一 | | | | |

授業の概要 前期に引き続き、現代北京語の音韻、語彙、文法などに関して、現代中国語で書かれた文献を読む。

授業の一般目標 (1) 現代北京語の特徴や、現代北京語と普通話との関係等について理解を深める。(2) 現代中国語の論文文体に慣れ、読解と翻訳の力を増強する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 現代北京語の特徴について言語学的に述べるができる。 2. 現代北京語と普通話の関係を説明することができる。 3. 中国語学の基本的用語を理解することができる。

技能・表現の観点： 1. 現代中国語文を正しい発音で音読することができる。 2. 現代中国語文を正しく日本語に訳すことができる。

授業の計画(全体) 授業は、出席した受講者がテキストの音読と日本語訳を行い、講師が口頭でそれに対する補足を行う形で進行する。

成績評価方法(総合) 主として、学期末に実施する試験によって評価し、あわせて受講者の口頭発表の良し悪しを加味する。いわゆる出席点はない。全体の 2/3 以上出席しない学生には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：講師が授業中に配布するプリントを教科書(テキスト)とする。

メッセージ なるべく多くの漢字の発音を覚え、また語彙を増やすよう心がけてください。漢字だけを見て「知っている単語だ」と思わないように！

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

| | | | | | |
|------|---------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語学演習(2・3年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 富平美波 | | | | |

授業の概要 古典中国語(文言)文法の概略や特徴について述べた現代中国の学者の著作を読解しつつ、中国の文語文法の特徴について学ぶ。古典中国語(文言)とは、中国の先秦時代から漢代ころに定形ができあがった中国語の書き言葉のスタイルで、現代中国語の祖先にあたる。その文法には、現代中国語と共通するところもあれば、少し違っているところもある。現代の中国人にとっては、その違っている点が重要なので、両者の異同に重点をおいて解説した参考書なども多く編まれている。本授業では、それら現代中国人の著作の一部を共に読解し学んでゆきたい。学生の皆さんにとって、この古典中国語(文言)は始めて出会う相手ではない。すでに高校までの「漢文」の時間において、このスタイルで書かれた作品に親しんだはずで、その文法上の諸特徴についても、「漢文」の文法として実はかなり学習しているのだ。この授業が、それを新たに「中国語」の文法として認識しなおすきっかけになればこれにまさる喜びはない。/検索キーワード 中国語 文言 文法

授業の一般目標 古典中国語(文言)文法の特徴について一定の理解を得させ、あわせて現代中国語で書かれた語学関係の文献の読解能力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典中国語(文言)文法の特徴のいくつかを知る。思考・判断の観点：現代中国語の文章が読解できる。簡単な古典中国語の文が読解できる。関心・意欲の観点：古典中国語(文言)文法について関心を持ち、自主的に学習できる。

授業の計画(全体) 古典中国語(文言)文法の概略や特徴について述べた現代中国の学者の著作を講読し、適宜補足説明を加えることにより、中国の文語文法の特徴について学ぶ。受講者には、初回にテキストのコピーを配布し、次回から、毎回の講読部分の音読・翻訳等を課す。

成績評価方法(総合) 毎回の授業における課題の達成度と学期末のレポートにより、授業内容に対する理解度と主体的学習態度を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：授業中にテキストのコピーを配布します。/参考書：中国文化叢書1言語, 牛島徳次ほか, 大修館書店, 1967年; 中国古典読法通論, 王力, 朋友書店, 1992年; 訓読による読解のための中国古典文法, 吉儀壽雄, 日本教育研究センター, 1989年; その他、授業中に適宜紹介します。

メッセージ 講読文献は現代中国語で書かれていますが、途中に古典の引用が出てきます。その部分の意味を解釈するには漢和辞典が必要です。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

| | | | | | |
|------|---------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語学演習(2・3年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 富平美波 | | | | |

授業の概要 古典中国語(文言)文法の概略や特徴について述べた現代中国の学者の著作を読解しつつ、中国の文語文法の特徴について学ぶ。前期の同教員による同名の授業に引き続く内容で行う。古典中国語(文言)とは、中国の先秦時代から漢代ころに定形ができあがった中国語の書き言葉のスタイルで、現代中国語の祖先にあたる。その文法には、現代中国語と共通するところもあれば、少し違っているところもある。現代の中国人にとっては、その違っている点が重要なので、両者の異同に重点をおいて解説した参考書なども多く編まれている。本授業では、それら現代中国人の著作の一部を共に読解し学んでゆきたい。学生の皆さんにとって、この古典中国語(文言)は始めて出会う相手ではない。すでに高校までの「漢文」の時間において、このスタイルで書かれた作品に親しんだはずで、その文法上の諸特徴についても、「漢文」の文法として実はかなり学習しているのだ。この授業が、それを新たに「中国語」の文法として認識しなおすきっかけになればこれにまさる喜びはない。/検索キーワード 中国語 文言 文法

授業の一般目標 古典中国語(文言)文法の特徴について一定の理解を得させ、あわせて現代中国語で書かれた語学関係の文献の読解能力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典中国語(文言)文法の特徴について理解する。 思考・判断の観点：現代中国語の文章が読解できる。簡単な古典中国語の文が読解できる。 関心・意欲の観点：古典中国語(文言)文法について関心を持ち、自主的に学習できる。

授業の計画(全体) 前期に引き続き、古典中国語(文言)文法の概略や特徴について述べた現代中国の学者の著作を講読し、適宜補足説明を加えることにより、中国の文語文法の特徴について学ぶ。受講者には、初回にテキストのコピーを配布し、次回から、毎回の講読部分の音読・翻訳等を課す。

成績評価方法(総合) 毎回の授業における課題の達成度と学期末のレポートにより、授業内容に対する理解度と主体的学習態度を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：授業中にテキストのコピーを配布します。/参考書：中国文化叢書1言語、牛島徳次ほか、大修館書店、1967年；中国古典読法通論、王力、朋友書店、1992年；訓読による読解のための中国古典文法、吉儀壽雄、日本教育研究センター、1989年；その他、授業中に適宜紹介します。

メッセージ 講読文献は現代中国語で書かれていますが、途中で古典の引用が出てきます。その部分の意味を解釈するには漢和辞典が必要です。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 中国語学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 富平美波 | | | | |

授業の概要 受講者は、各自、中国語学に関する研究テーマを1つ選び、調査研究を行い、互いに研究の進行状況と成果を発表し合い、討論を交わす。 / 検索キーワード 中国語学 研究発表

授業の一般目標 中国語学に関して、独自に課題を発見し、調査を行い、考察を加え、報告を行う力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の選んだ研究領域に関する基礎知識をマスターし、それについて説明することができる。 思考・判断の観点：自分の選んだ研究テーマに関連する先行研究の論点を把握し、内容の中で理解できなかった点を指摘し、疑問の解決法を考えることができる。 関心・意欲の観点：中国語に関して、問題意識を持ち、主体的な調査・考察を行う姿勢が身に付いている。 態度の観点：1.常に少しずつでも、自分の選んだ研究テーマに関して調査・考察を進める。2.他人の報告を熱心に聞き、問題を提起できる。 技能・表現の観点：自分の選んだ研究テーマについて、わかりやすい研究報告ができる。

授業の計画(全体) 第1回目の授業で、おのおのの研究テーマを持ち寄り、研究発表の順番を決める。第2回までにテーマを確定し、順次研究発表・討論を行う。学期末に総まとめのレポートを課す。

成績評価方法(総合) 授業中に行う研究発表と学期末のレポートにより評価する。また、授業への参加度として、他の受講者の研究発表に対して行った発言、毎回の研究進捗報告を評価に加える。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 中国語学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 富平美波 | | | | |

授業の概要 受講者は、各自、前学期に選んだ研究テーマについて、引き続き調査・研究を行い、互いに研究の進行状況と成果を発表し合い、討論を交わす。/ 検索キーワード 中国語学 研究発表

授業の一般目標 中国語学に関して、独自に課題を発見し、学習・調査を行い、考察を加え、報告を行う力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の選んだ研究領域に関する基礎知識をマスターし、それについて説明することができる。 思考・判断の観点：自分の選んだ研究テーマに関連する先行研究の論点を把握し、内容の中で理解できなかった点を指摘し、疑問の解決法を考えることができる。 関心・意欲の観点：中国語に関して、問題意識を持ち、主体的な調査・研究を行う姿勢が身に付いている。 態度の観点：1. 常時少しずつでも、自分の選んだ研究テーマに関して調査・研究を進める。2. 他人の報告を熱心に聞き、問題を提起できる。 技能・表現の観点：自分の選んだ研究テーマについて、わかりやすい研究報告ができる。

授業の計画(全体) 第1回目は、各自の研究についてこれまでの進捗を確認し、第2回より、順次、研究発表と討論を進める。

成績評価方法(総合) 授業中に行う研究発表と、他の受講者の発表に対する発言、及び毎回の研究進捗報告により評価する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 中国語学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 更科慎一 | | | | |

授業の概要 卒業論文演習である。卒業論文を執筆する受講者を指導する。

授業の一般目標 卒論執筆に向けて、テーマを選び、先行研究文献の検索・収集・消化を行う。その過程で、問題を見つけ、他の受講者や担当教員を対象に報告を行うと同時に、他の受講者の報告に対し適切な意見と助言を提示する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 決定したテーマに関連した先行研究を踏まえて、テーマの研究状況について説明することができる。 2. 学術論文執筆の基本的ルールを身につける。 思考・判断の観点： 1. テーマにおける問題のありかを指摘することができる。 2. 論理的な思考様式によって問題を処理することができる。 関心・意欲の観点： 1. 科学の趣旨を理解し、学問に敬意を払う。 態度の観点： 1. テーマに関する研究史の中に自分の研究を位置づけることができる。 技能・表現の観点： 1. 必要な文献を検索し、適切に引用することができる。

授業の計画(全体) (1) 中国語学の領域において研究テーマを決定する。(2) テーマの研究資料を決定する。(3) 研究の進捗状況について発表資料(レジюме)を作成し、発表と討論を行う。(4) 期末に、テーマと関連したレポートを提出する。

成績評価方法(総合) (1) 研究の進捗状況を報告するためのレジюмеと口頭発表 (2) 討論への参加態度 (3) 学期末レポート による。

メッセージ たとえテーマそのものが今すぐ社会に役立つことはなくとも、一年間に及ぶ卒論執筆の過程は、今後の自身と他人の生活に計り知れない益を齎すはずで す。そのためにも、いい卒論を書いてください。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 中国語学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 更科慎一 | | | | |

授業の概要 卒業論文演習である。卒業論文を執筆する受講者を指導する。

授業の一般目標 前期に決定したテーマに沿って、引き続き先行研究文献の検索・収集・消化を行うとともに、研究資料を分析し、検討する。その過程で得られた成果につき、他の受講者や担当教員を対象に報告を行うと同時に、他の受講者の報告に対し適切な意見と助言を提示する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 決定したテーマに関連した先行研究を踏まえて、テーマの研究状況について説明することができる。 2. 学術論文執筆の基本的ルールを身につける。 思考・判断の観点： 1. テーマにおける問題のありかを指摘することができる。 2. 論理的な思考様式によって問題を処理することができる。 関心・意欲の観点： 1. 科学の趣旨を理解し、学問に敬意を払う。 態度の観点： 1. テーマに関する研究史の中に自分の研究を位置づけることができる。 技能・表現の観点： 1. 必要な文献を検索し、適切に引用することができる。

授業の計画(全体) 研究の進捗状況について発表資料(レジュメ)を作成し、発表と討論を行う。

成績評価方法(総合) (1) 研究の進捗状況を報告するためのレジュメと口頭発表 (2) 討論への参加態度による。

メッセージ たとえテーマそのものが今すぐ社会に役立つことはなくとも、一年間に及ぶ卒論執筆の過程は、今後の自身と他人の生活に計り知れない益を齎すはずで す。そのためにも、いい卒論を書いてください。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国文学史 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 根ヶ山徹 | | | | |

授業の概要 中国古代から清朝まで(民国以前)の文学について概観する。 中国文学は「漢文」・「唐詩」・「宋詞」・「元曲」ということばに代表されるように、長い歴史を有するのみならず、ジャンルも多種多様にわたる。この授業では、古代から清朝に至るまでの重要な作品を紹介し、さまざまな観点から分析する。

授業の一般目標 中国の主な時代の作家と文学作品に関して、基本的知識を得、個々の作品の読解を通じて、中国文化に対する理解を深めること。

授業の計画(全体) 文献資料を読み進めながら、中国文学の特質『詩経』と『楚辞』、六朝文学、隋・唐代の文学等について言及する予定。

成績評価方法 (総合) 期末試験の成績により評価する。

教科書・参考書 教科書：中国文学概論, 岩城秀夫, 朋友書店

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国文学史 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 根ヶ山徹 | | | | |

授業の概要 「中国文学史 I」に引き続き，中国古代から清朝まで（民国以前）の文学について概観する。

授業の一般目標 中国の主な時代の作家と文学作品に関して，基本的知識を得，個々の作品の読解を通じて，中国文化に対する理解を深めること。

授業の計画（全体） 文献資料を読み進めながら，宋詞，近世の演劇・小説，元・明・清の文学等について言及する予定。

成績評価方法（総合） 期末試験の成績により評価する。

教科書・参考書 教科書：中国文学概論，岩城秀夫，朋友書店

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国文学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 阿部泰記 | | | | |

授業の概要 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拝の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。/ 検索キーワード 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟

授業の一般目標 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 思考・判断の観点： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 関心・意欲の観点： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 態度の観点： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 技能・表現の観点： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。

授業の計画（全体） 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 包拯の伝記 内容 宋史を読む。
- 第 2 回 項目 南宋時代の包拯 伝説 内容 新編醉翁談録を読む。
- 第 3 回 項目 元時代の包拯伝説 内容 元曲選を読む。
- 第 4 回 項目 明時代の包拯伝説 (1) 内容 説唱詞話を読む。
- 第 5 回 項目 明時代の包拯伝説 (2) 内容 百家公案を読む。
- 第 6 回 項目 明時代の包拯伝説 (3) 内容 龍図公案を読む。
- 第 7 回 項目 清時代の包拯伝説 (1) 内容 石派書を読む。
- 第 8 回 項目 清時代の包拯伝説 (2) 内容 龍図耳録を読む。
- 第 9 回 項目 現代の包拯伝説 (1) 内容 地方劇のテキストを読む。
- 第 10 回 項目 現代の包拯伝説 (2) 内容 地方劇のテキストを読む。
- 第 11 回 項目 包拯の経典 内容 包公明聖經を読む。
- 第 12 回 項目 包拯の祠廟 内容 広東・陳州の包公廟を紹介する。
- 第 13 回 項目 包拯の祠廟 内容 浙江の包公廟を紹介する。
- 第 14 回 項目 包拯の祠廟 内容 湖南・江西の包公廟を紹介する。
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 包拯伝説の伝播についてまとめる。

成績評価方法（総合） 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

教科書・参考書 参考書：包公伝説の形成と展開，阿部泰記著，汲古書院，2004 年；中国の公案小説，莊司格一著，研文出版，1988 年；阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 莊司格一『中国の公案小説』（研文出版）

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国文学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 阿部泰記 | | | | |

授業の概要 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。／検索キーワード 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟

授業の一般目標 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 思考・判断の観点： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 関心・意欲の観点： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 態度の観点： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 技能・表現の観点： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。

授業の計画（全体） 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。

成績評価方法（総合） 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

教科書・参考書 参考書：包公伝説の形成と展開, 阿部泰記著, 汲古書院, 2004 年；中国の公案小説, 莊司格一著, 研文出版, 1988 年；阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 莊司格一『中国の公案小説』（研文出版）

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国文学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 大塚 博久 | | | | |

授業の概要 「古典文学」から「現代文学」への過渡期の状況 中国文学は、時期上「古典文学」と「現代文学」とに大別される。「古典文学」とは、世界文学の中でもっとも古い歴史をもち、独自の文学形式である典故と対句を重んじる「詩文」の豊富な文学遺産をもち、主として士人によって担われた文学であり、ほぼ清朝末期までを指す。これに対して「現代文学」とは 1840 年アヘン戦争以後、西欧の帝国主義の侵略とともに西欧＝「近代」の価値観が中国に及んだいわゆる Western-Impact が文学上にも徐々に影響しはじめ、具体的には 1917 年胡適の「文学改良芻議」(『新青年』誌 2 巻 5 号)における「空虚で陳腐、難解な文語による旧文学の殻を破って口語の文学を創造しよう」との提唱を契機に、五・四「文学革命」運動が起きて以後の近・現代文学を指す。この 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての旧～新「過渡期」(近代文学「胎動期」)の文学思想の具体的様相を明らかにする。/ 検索キーワード 辛亥革命、『新青年』誌、五・四「文学革命」、「五・四」運動、梁啓超、胡適、陳独秀、魯迅。

授業の一般目標 (1) 19 世紀末～20 世紀初頭における「古典文学」世界から「現代文学」世界への過渡期の文学的状況とその歴史的背景について理解する。(2) この時期に出現した文学的主張や運動、とくに「五・四文学革命」について理解する。(3) 個々の作家と作品(翻訳を含む)について興味、関心を深め、その文学的営為の内実を考える。(4) 同時代の日本の作家、作品との関係、影響について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 近代中国の問題状況、文学史的背景および作家、作品について、理解を深め、説明できる。 思考・判断の観点: 関連する研究書や論文を読んで、的確に要点を把握、分析し、自分の見解を持つ。 関心・意欲の観点: 中国の「近・現代文学」の作家、作品に今後も興味、関心を持続できる。 態度の観点: これら作品を積極的に読み、鑑賞する習慣を培う。 技能・表現の観点: 読解の能力を高め、自分の考えを文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画(全体) 授業は、この時期の文学・思想上の節目となる出来事、流れ、運動と人物、作品などについて、毎回資料を提示して紹介、解説し、「伝統」的中国社会が接した西洋近代の「異質」な文物に如何に対処、受容し、文学はどのように変容していったか、を理解する。そして、この「近代」世界を果敢に生きた中国人の姿や、心情に関心を持つ。またこの時期を代表するいくつかの「作品」を読むことを通じて当時の「日本文学」との関連についても考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 清朝の危機と「洋務」「变法」自強運動 内容 「亡国の危機感」と「慷慨」の詩人たち 授業外指示 「シラバス」を読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 近代的「報刊」とその啓蒙活動 内容 (1)「循環日報」(2)「時務報」「国聞報」
- 第 3 回 項目 嚴復の近代西洋思潮 内容 嚴復の『天演論』の翻訳と桐城派古文
- 第 4 回 項目 西洋(日本)の「翻訳小説」 内容 林琴南の『巴黎茶花女遺事』と『不如帰』の漢訳など
- 第 5 回 項目 『清議報』『新民叢報』の新文体と「政治小説」 内容 梁啓超の「詩界革命」、「小説界革命」の提唱と『新中国未来記』
- 第 6 回 項目 「譴責小説」の盛行 内容 『官場現形記』『老残遊記』ほか
- 第 7 回 項目 留日学生の動向 「辛亥革命」前後 内容 魯迅の文学的「覚醒」、『域外小説集』と「文化偏至論」など 授業外指示 「呐喊」自序などを予習。
- 第 8 回 項目 『新青年』と文学革命(1) 内容 『新青年』誌の創刊と陳独秀「宣言」
- 第 9 回 項目 『新青年』と文学革命(2) 内容 胡適の「文学改良芻議」と陳独秀「文学革命論」
- 第 10 回 項目 「五・四」運動前後と文学・思想界 内容 李大 の「庶民の勝利」と胡適 「問題と主義」論争および「新旧文学」論争
- 第 11 回 項目 近代小説の誕生 「魯迅の文学」 内容 「狂人日記」、「呐喊」集の小説、「野草」などを読む

- 第12回 項目「文学研究会」の作家たちと『小説月報』内容 日本の文学状況と周作人、沈雁冰らの作品
第13回 項目「創造社」の文学 内容 郭沫若の『女神』、郁達夫『沈淪』など
第14回 項目 五・四退潮期から新旧、左右分裂期を経て「国民革命」へ 内容 「新青年」Gの分裂、左翼文芸運動と「革命文学論戦」、「中国自由運動大同盟」と「左聯」の結成
第15回 項目 新しい作家たちの登場と「三十年代文学」へ(まとめ) 内容 巴金、老舍、丁玲らと「新月派」詩人聞一多ら

成績評価方法(総合) (1)授業によっては、著名な「作品」を指名読解させることがある。(2)試験を行う(自筆のノートの持ち込み可) なお出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 参考書：毎回、講義概要、作品・作家解説、関連資料などを配布。また必要に応じて参考文献を紹介する。

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国文学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 根ヶ山徹 | | | | |

授業の概要 湯頭祖の『牡丹亭還魂記』を、俞為民校注本によって読む。

授業の一般目標 古代漢語で書かれた韻文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。

授業の計画（全体） 俞為民の注釈に基づきながら原文を解釈する。毎回1人が担当し、発表・討議する。

教科書・参考書 教科書：『牡丹亭』，湯頭祖撰・俞為民導読，黄山書社，2001年

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国文学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 根ヶ山徹 | | | | |

授業の概要 湯頭祖の『牡丹亭還魂記』を、俞為民校注本によって読む。

授業の一般目標 古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。

授業の計画（全体） 俞為民の注釈に基づきながら原文を解釈する。毎回1人が担当し、発表・討議する。

教科書・参考書 教科書：『牡丹亭』，湯頭祖撰・俞為民導読，黄山書社，2001年

| | | | | | |
|------|---------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 中国文学演習(2・3年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 阿部泰記 | | | | |

授業の概要 中国の物語文学を読解する。中国の物語は語り物や演劇で上演された。本演習では、古代から現代にいたる間の代表的な物語文学を取り上げて、その研究方法を学習する。/ 検索キーワード 物語、語り物、演劇

授業の一般目標 1. 物語の媒体となる文学の形式を理解する。 2. 物語の主題を考察する。 3. 物語の現代的意義を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 物語文学の代表的な作品を知る。 2. 物語文学の文体を知る。
 思考・判断の観点： 1. 物語文学の主題を考える。 2. 物語文学の歴史を考える。 関心・意欲の観点： 1. 物語文学のおもしろさを感じる。 2. 物語文学をすすんで読むようになる。 態度の観点： 1. 物語文学の読解につとめる。 2. 辞書を丹念に調べる。 技能・表現の観点： 1. 流暢な日本語に翻訳できる。 2. 中国語と日本語の表現に注意する。

授業の計画(全体) 漢代から現代にいたるまでの代表的な物語作品を原書をもちいて読解する。

成績評価方法(総合) 予習による評価。ノート提出。

教科書・参考書 教科書：未定。あるいはプリント配布。/ 参考書：中国の小説、物語、演劇関係の書籍。

| | | | | | |
|------|---------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 中国文学演習(2・3年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 阿部泰記 | | | | |

授業の概要 中国の物語文学を読解する。中国の物語は語り物や演劇で上演された。本演習では、古代から現代にいたる間の代表的な物語文学を取り上げて、その研究方法を学習する。/ 検索キーワード 物語、語り物、演劇

授業の一般目標 1. 物語の媒体となる文学の形式を理解する。 2. 物語の主題を考察する。 3. 物語の現代的意義を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 物語文学の代表的な作品を知る。 2. 物語文学の文体を知る。
 思考・判断の観点： 1. 物語文学の主題を考える。 2. 物語文学の歴史を考える。 関心・意欲の観点： 1. 物語文学のおもしろさを感じる。 2. 物語文学をすすんで読むようになる。 態度の観点： 1. 物語文学の読解につとめる。 2. 辞書を丹念に調べる。 技能・表現の観点： 1. 流暢な日本語に翻訳できる。 2. 中国語と日本語の表現に注意する。

授業の計画(全体) 漢代から現代にいたるまでの代表的な物語作品を原書をもちいて読解する。

成績評価方法(総合) 予習による評価。ノート提出。

教科書・参考書 教科書：未定。あるいはプリント配布。/ 参考書：中国の小説、物語、演劇関係の書籍。

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 中国文学演習（４年生） | 区分 | 演習 | 学年 | ４年生 |
| 対象学生 | | 単位 | ２単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 阿部泰記 | | | | |

授業の概要 卒論作成の指導を行う。卒論作成に必要な基本的な知識や研究方法を教授し、作成した文章に対する手直しを行う。 / 検索キーワード 卒論作成

授業の一般目標 1. 適正な論文課題を選択する。 2. 研究資料の検索方法を身につける。 3. 論理的な文章が書けるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究資料の存在を知る。 思考・判断の観点：研究方法を考える。
 関心・意欲の観点：関係の書籍を自分で探し出す。 態度の観点：指導をよく聞き取る。 技能・表現の観点：論理的な思考ができるようになる。

授業の計画（全体） 1. 適正な卒論のテーマの選択を幫助する。 2. 決定したテーマにふさわしい資料の検索方法を教示する。 3. 論理的な論文構成について指導する。

成績評価方法（総合） 授業での発表を評価する。

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 中国文学演習（４年生） | 区分 | 演習 | 学年 | ４年生 |
| 対象学生 | | 単位 | ２単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 阿部泰記 | | | | |

授業の概要 卒論作成の指導を行う。卒論作成に必要な基本的な知識や研究方法を教授し、作成した文章に対する手直しを行う。 / 検索キーワード 卒論作成

授業の一般目標 1. 適正な論文課題を選択する。 2. 研究資料の検索方法を身につける。 3. 論理的な文章が書けるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究資料の存在を知る。 思考・判断の観点： 研究方法を考える。

関心・意欲の観点： 関係の書籍を自分で探し出す。 態度の観点： 指導をよく聞き取る。 技能・表現の観点： 論理的な思考ができるようになる。

授業の計画（全体） 1. 適正な卒論のテーマの選択を幫助する。 2. 決定したテーマにふさわしい資料の検索方法を教示する。 3. 論理的な論文構成について指導する。

成績評価方法（総合） 授業での発表を評価する。

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 中国文学演習（４年生） | 区分 | 演習 | 学年 | ４年生 |
| 対象学生 | | 単位 | ２単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 根ヶ山徹 | | | | |

授業の概要 本授業は卒業論文指導。

授業の一般目標 一年間を通じて着実に研究を進め、「論文」の名に値するレベルに到達することを目標とする。

授業の計画（全体） 各自の研究テーマに応じて、調査すべき資料を示し、その読解、考察に関する指導を行う。毎回、進捗状況の報告を課す。

成績評価方法（総合） 報告内容により判断する。

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 中国文学演習（４年生） | 区分 | 演習 | 学年 | ４年生 |
| 対象学生 | | 単位 | ２単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 根ヶ山徹 | | | | |

授業の概要 本授業は卒業論文指導。

授業の一般目標 一年間を通じて着実に研究をすすめ、「論文」の名に値するレベルに到達することを目標とする。

授業の計画（全体） 前期に引き続き、各自の研究テーマに応じて、調査すべき資料を示し、その読解、考察に関する指導を行う。毎回、研究の進捗状況の報告を課す。

成績評価方法（総合） 報告内容により判断する。

| | | | | | |
|------|-----------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語演習(会話) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 田梅 | | | | |

授業の概要 本授業は初級中国語を終了、もしくはそれに準ずるレベルの学生を対象とするクラスで、応用会話能力を高めることを目指す。発音、語彙、文法など共通教育で習得した項目の確認、整理と拡充をしながら、具体的な場面を設定した対話文を繰り返し読んで、暗唱して、それからグループ或はペアの形で発表する。始めは難しいかも知れないが、会話能力を高めることによってよく続ければ楽しみも倍増すると思う。/ 検索キーワード 中国会話、コミュニケーション

授業の一般目標 1、基本的な会話が流暢にする。 2、よく使う慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法を習得する。 3、自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分理解し運用する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法ができる。 関心・意欲の観点：中国、中国人、中国事情に理解、関心を持つ。 技能・表現の観点：自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分理解し運用して、日常生活の会話が流暢にできる。

授業の計画(全体) 第一回 【項目】オリエンテーション 【内容】授業の目標、進み方、シラバス、成績評価など説明する レベル確認の練習をして、その後テキスト、授業計画、参考書を決める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 目標、シラバス、など説明、レベル確認の練習をする
- 第 2 回
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 1、授業中の発表と内容の難易度。 2、授業外の宿題を数回行う。 3、中間小テストを行う。 4、最後に試験を実施する。

教科書・参考書 教科書：学生全般のレベルなどによって、一回目の授業ガイダンス時に指示する。

メッセージ 中国語初級1・2 a/bを習得した者に限る。

連絡先・オフィスアワー 研究1号館(311) tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・水曜日 16:00~18:00

| | | | | | |
|------|-----------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語演習(会話) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 田梅 | | | | |

授業の概要 前期に続けて通年のクラスである。発音、語彙、文法などの整理と拡充をしながら、具体的な場面を設定した対話文を繰り返し読んで、暗唱して、それからグループ或はペアの形で発表する。始めは難しいかもしれないが、会話能力を高めることによってよく続ければ楽しみも倍増すると思う。/
検索キーワード 中国会話、コミュニケーション

授業の一般目標 1、基本的な会話が流暢にする。2、よく使う慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法を習得する。3、自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分理解し運用する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法できる。関心・意欲の観点：中国、中国人、中国事情に理解、関心を持つ。技能・表現の観点：自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分に理解し運用して、日常生活の会話が流暢にできる。

授業の計画(全体) 前期と同じテキストを使って、授業計画は一回目の授業に説明する。

成績評価方法(総合) 1、授業中の発表と内容の難易度。2、授業外の宿題を数回行う。3、中間テストを行う。4、最後に試験を実施する。

メッセージ 中国語初級1・2 a/bを習得した者に限る。前期中国語演習(会話)も履修するのが望ましい。

連絡先・オフィスアワー 研究一号館(311) tian@yamaguchi-uac.jp オフィスアワー：月曜日・水曜日 16:00～18:00

| | | | | | |
|------|-----------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語演習(作文) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 田 梅 | | | | |

授業の概要 本授業は基本的な文法を習得し、辞書の助けで易しい文章の大体の内容が理解できるレベルの学者を対象とする。中国のセンテンスをどう組み立てるのか勉強して、和文中訳、中文和訳・誤文訂正など数多くの練習をして、短文、作文及び表現能力を高めることを目指す。(授業では学生諸君に練習問題、作文を板書してもらい、それをチェックする。問題点を分析し、不適切なところを直す。)
/検索キーワード 中国語、短文、作文

授業の一般目標 1、常用単文の組み立てる。 2、常用複文の組み立てる。 3、常用虚詞の組み立てる。 4、作文で正確の表現能力を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：慣用語、文型を身につけて、訳文、短文の方法、形式を運用できる。 関心・意欲の観点：中国、中国語、中国事情に理解、関心を持つ。 技能・表現の観点：自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文を作る。

授業の計画(全体) 第一回【項目】オリエンテーション 【内容】授業の目標、進み方、シラバス、成績評価などを説明する レベル確認の練習をして、それによってテキスト、参考書を決める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 本授業の説明と 受講生の中国語 レベルをチェックする。
 第 2 回
 第 3 回
 第 4 回
 第 5 回
 第 6 回
 第 7 回
 第 8 回
 第 9 回
 第 10 回
 第 11 回
 第 12 回
 第 13 回
 第 14 回
 第 15 回

成績評価方法(総合) 1、授業外の宿題を数回行う。 2、中国語で作文を作成し提出する。 3、授業中の態度と作成した作文の難易度。 4、最後に試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：一回目受講生の中国語レベルの練習チェックによって決める。

メッセージ 中国語初級 1・2 a/b を習得した者に限る。

連絡先・オフィスアワー 研究 1 号館(311) tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・水曜日
16:00 18:00

| | | | | | |
|------|-----------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語演習(作文) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 田 梅 | | | | |

授業の概要 前期に引き続き、自分の感情や考えを正しく表現できるように一層の実力アップを目指す。

(授業では学生諸君に練習問題、作文を板書してもらい、それをチェックする。問題点を分析し、不適切なところを直す。) / 検索キーワード 中国語、短文、作文

授業の一般目標 1、常用単文の組み立てる。 2、常用複文の組み立てる。 3、常用虚詞の組み立てる。 4、自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：慣用語、句型を身につけて、訳文、短文の方法、形式を運用できる。 関心・意欲の観点：中国、中国語、中国事情に理解、関心を持つ。 技能・表現の観点：自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文を作る。

授業の計画(全体) 前期と同じテキストを使って、授業計画は一回目の授業に説明する。

成績評価方法(総合) 1、授業外の宿題を数回行う。 2、中国語で作文を作成し提出する。 3、授業中の態度と作成した作文の難易度。 4、最後に試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

メッセージ 中国語初級1・2 a/bを習得した者に限る。前期中国語演習(作文)も履修した者が望ましい。

連絡先・オフィスアワー 研究1号館(311) tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・水曜日
16:00 18:00

| | | | | | |
|------|--------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語演習(時事中国語) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 陳 鳳 展 | | | | |

授業の概要 中国の新聞・雑誌から政治、経済、文化、科学、社会、スポーツの各分野の記事を集めたテキストを使って、いわゆる新聞体の文型、構文、前置詞の使い方や次々と出現する新語等について解説する。

授業の一般目標 中国語の新聞・雑誌・論文が正確に読解できるようになること。

授業の計画(全体) テキストの目次に従って、下記項目を抜粋して授業する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、勉強の仕方、シラバスの説明、成績評価等。
- 第 2 回 項目 LEVEL II 内容 基礎問題 A
- 第 3 回 項目 LEVEL II 内容 基礎問題 B
- 第 4 回 項目 LEVEL II 内容 発展問題
- 第 5 回 項目 LEVEL IV 内容 基礎問題 A
- 第 6 回 項目 LEVEL IV 内容 基礎問題 B
- 第 7 回 項目 LEVEL VI 内容 発展問題
- 第 8 回 項目 LEVEL VI 内容 基礎問題 A
- 第 9 回 項目 LEVEL VI 内容 基礎問題 B
- 第 10 回 項目 LEVEL VI 内容 発展問題
- 第 11 回 項目 LEVEL VIII 内容 基礎問題 A
- 第 12 回 項目 LEVEL VIII 内容 基礎問題 B
- 第 13 回 項目 LEVEL VIII 内容 発展問題
- 第 14 回 項目 期末試験 内容 テキスト外より実力問題を出題する
- 第 15 回

成績評価方法(総合) (1) 期末試験で 60 点以上取ること。(試験は 1 回のみ。評価割合 100%) (2) 全講義回数の四分の三以上出席すること。(欠格条件とします。)

教科書・参考書 教科書: 現代中国放大鏡: 绿色通道, 三瀆正道編著, 朝日出版社, 2002 年; 《現代中国語放大鏡》(绿色通道) 三瀆正道編著、朝日出版社

メッセージ 上記テキストは文栄堂山大前店で購入して下さい。

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国事情 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 陳 鳳 展 | | | | |

授業の概要 1. 漢民族の伝統的な風俗・習慣や物の考え方について、日本のそれと比較しながら話していく。 2. 近年の改革・開放政策による人や社会の変化についてビデオで紹介する。

授業の一般目標 授業計画（授業単位）欄の授業項目に挙げた事項を日本のそれと比較して理解できる。

授業の計画（全体）書きの授業計画（授業単位）のとおり。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方。シラバスの説明。成績評価方法等。
- 第 2 回 項目 中国の国土と人 内容 広大な面積と人口、地勢、豊富な地下資源等について。
- 第 3 回 項目 中国の国土と人 内容 行政区域、多民族国家、中国人の発明等について。
- 第 4 回 項目 中国人の姓名 内容 姓名の来源、中国人の姓名の特長（名のつけ方）。
- 第 5 回 項目 中国人の食事 内容 土地によって主食・副食が異なる。味もちがう。
- 第 6 回 項目 中国人の食事 内容 食事の方式・習慣。料理法。日中の箸のちがひ。
- 第 7 回 項目 中国茶 内容 中国茶の種類と名茶。土地によって茶をのむ習慣が異なる。
- 第 8 回 項目 中国の酒 内容 醸造酒と蒸留酒のそれぞれの名酒。老酒について。
- 第 9 回 項目 伝統的な主要節句 I 内容 春節、元宵節の意義と行事について。
- 第 10 回 項目 伝統的な主要節句 II 内容 端午節、中秋節の意義と行事について。
- 第 11 回 項目 京劇 - 中国の芝居 内容 京劇の特長。京劇の役柄。
- 第 12 回 項目 改革・開放後の人や社会 内容 ビデオで鑑賞
- 第 13 回 項目 改革・開放後の人や社会 内容 ビデオで鑑賞
- 第 14 回 項目 期末試験
- 第 15 回

成績評価方法（総合）(1) 期末試験の成績による。（評価割合 100 %）(2) 全講義回数のおよそ四分の三以上出席しないと試験を受ける資格がない。

教科書・参考書 教科書：教科書を使用しない。毎回講義する項目の関係資料をプリントして配付します。

言語文化学科 英米語文化論コース

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代英米語概説 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 太田聡 | | | | |

授業の概要 英語学・言語学がまったくはじめての学生にもわかりやすく、英語言語学の全体像を紹介する。同時に、英文法の基本的かつ重要なトピックスを厳選したサブテキストを用いて、英文法の要点を今一度学ぶ時間にもしたい(授業のはじめの20分をこれに充てる)。

授業の一般目標 英語学研究(そして英語教員になるため)に必要な基礎知識をまんべんなく身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 統語論、意味論、形態論、音声学、音韻論、語用論、英語史、社会言語学、心理言語学といった英語言語学の全領域をカバーする基礎知識を学び、重要概念や分析方法などが理解できるようになる。また、英語のネイティブスピーカーの「感覚」を理解しながら、英語の運用に欠かせない英文法のエッセンスをしっかりと掴む。思考・判断の観点: ことばの音、形、意味を生み出すさまざまな法則に気づき、自らも思考・分析ができるようになる。関心・意欲の観点: 英語の構造の分析を通して、ことばの中に見られる原理・原則や制約の働きに関心を持つ。態度の観点: 「ことばは暗記するもの」という考え方を捨て去る。技能・表現の観点: 本文の英文読解や付属のCDの聞き取りを通して、英語で考え、英語で発表するための素地を作る。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Why Study English Linguistics 内容 英語言語学とはどのような分野であり、どのような研究がなされてきたのかを紹介する。授業外指示 Comprehension Check と Exercises をやる。サブテキストを1課ずつ読む。
- 第 2 回 項目 How English Has Changed over the Centuries / サブテキスト第1課 内容 英語の歴史を解説する。 / 前置詞について 授業外指示 "
- 第 3 回 項目 How Words Are Made: Morphology / サブテキスト第2課 内容 語がどのようにして作られるのかを考える。 / 冠詞について 授業外指示 "
- 第 4 回 項目 How Words Mean: Semantics I / サブテキスト第3課 内容 語の意味について考える。 / 指示詞について 授業外指示 "
- 第 5 回 項目 How English Phrases Are Formed: Syntax I / サブテキスト第4課 内容 文を形作る規則について考える。 / 現在完了について 授業外指示 "
- 第 6 回 項目 How English Sentences Are Formed: Syntax II / サブテキスト第5課 内容 " / 進行形について 授業外指示 "
- 第 7 回 項目 How Sentences Mean: Semantics II / サブテキスト第6課 内容 文の意味について考える。 / -ing について 授業外指示 "
- 第 8 回 項目 How to Communicate with Other People: Pragmatics / サブテキスト第7課 内容 会話の原則について考える。 / 未来表現について 授業外指示 "
- 第 9 回 項目 The Sounds of English: Phonetics and Phonology / サブテキスト第8課 内容 英語の音声・音韻的特徴を捉える。 / 助動詞について 授業外指示 "
- 第 10 回 項目 Regional Varieties of English: Sociolinguistics I / サブテキスト第9課 内容 英語の方言について考える。 / 丁寧・婉曲表現について 授業外指示 "
- 第 11 回 項目 English in Society: Sociolinguistics II / サブテキスト第10課 内容 " / 仮定法について 授業外指示 "
- 第 12 回 項目 How English Is Acquired: Psycholinguistics / サブテキスト第11課 内容 子供の言語習得について考える。 / 動詞・英単語について 授業外指示 "
- 第 13 回 項目 How English as a Second/Foreign Language Is Acquired: Applied Linguistics / サブテキスト第12課 内容 外国語としての英語の習得について考える。 / 文型について 授業外指示 "
- 第 14 回 項目 まとめ1 内容 教科書の分かりにくかった箇所を補足する。 授業外指示 "
- 第 15 回 項目 まとめ2 内容 " 授業外指示 "

成績評価方法 (総合) 毎回教科書にある Comprehension Check と Exercises を宿題とし、その出来具合によって主に評価する。また、サブテキストに関連した簡単なテストを随時行う。なお、出席も重視し、欠席 1 回につき 5 点ずつ期末評点から減点する。

教科書・参考書 教科書： First Steps in English Linguistics, 影山太郎他, くろしお出版, 2004 年； <サブテキスト> ハートで感じる英文法, 大西泰斗, ポール・マクベイ, 日本放送出版協会, 2005 年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代英米語概説 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 太田聡 | | | | |

授業の概要 英語の発音に関する正しい知識を伝授した上で、英語の音声や語形成に関する原則や制約を、日本語のそれらとも対照させながら、説明する。また、音節などの韻律単位が言語文化にどのような影響を与えているのかを考える時間にもしたい。

授業の一般目標 日英語の発音や語形成に関する法則を比較し、言語の個別性と普遍性を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語と英語のアクセントの法則の共通性に気づく。新しい語を生み出す法則を知る。 思考・判断の観点：知らない語句のアクセントを予測したり、可能な語と不可能な語の区別ができるようになる。 関心・意欲の観点：広く人間言語のアクセントの法則に興味を持つ。 態度の観点：「語とそのアクセント（発音）は暗記するもの」という考え方を捨て去る。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 英語音声学の基礎（1） 内容 英語の母音の正しい発音の仕方を指導する。授業外指示 配布したプリントの図と同じように調音できるようにする。
- 第 2 回 項目 英語音声学の基礎（2） 内容 英語の子音の正しい発音の仕方を指導する。授業外指示 "
- 第 3 回 項目 英語音声学の基礎（3） 内容 英語のつづり字と発音の関係について解説する。授業外指示 配布資料の課題を解く。
- 第 4 回 項目 日英語の分節音韻論 内容 母音や子音の体系を解説する。授業外指示 教科書第 1 章を読んでおく。
- 第 5 回 項目 " 内容 母音や子音の変化の法則を説明する。授業外指示 "
- 第 6 回 項目 " 内容 母音や子音の変化に関わる制約について論じる。授業外指示 "
- 第 7 回 項目 日英語の語形成 内容 可能な語を生み出すメカニズムを説明する。授業外指示 "
- 第 8 回 項目 日英語の音節構造 内容 日英語の音節構造について解説する。授業外指示 教科書第 2 章を読んでおく。
- 第 9 回 項目 " 内容 日英語の音節構造の真の違いについて論じる。授業外指示 "
- 第 10 回 項目 日英語の韻律 内容 リズム等の問題を取り上げる。また、韻律が生み出す言語文化について論じる。授業外指示 教科書第 3 章を読んでおく。
- 第 11 回 項目 日英語のアクセント 内容 日英語のアクセントの相違について説明する。授業外指示 教科書第 4 章を読んでおく。
- 第 12 回 項目 日英語のアクセント 内容 日英語のアクセントの共通性について論じる。授業外指示 "
- 第 13 回 項目 文強勢について 内容 英語の文のアクセントについて解説する。授業外指示 配布プリントを読んでおく。
- 第 14 回 項目 方言による発音の違いについて 内容 イギリス英語、アメリカ英語、オーストラリア英語の発音の特徴を解説する。授業外指示 "
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 期末筆記試験で評価する。なお、出席も重視し、欠席 1 回につき期末試験から 5 点ずつ減点する。

教科書・参考書 教科書：音韻構造とアクセント、窪園晴夫・太田聡、研究社、1998 年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英語史 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 岩部浩三 | | | | |

授業の概要 英語を学び始めたときから誰もが感じる英語に関する素朴な疑問を歴史的に解き明かす。例えば、「規則変化のほかに不規則変化があるのはなぜか」「keep,deep のように e が二つならイーと読むのに、kept, depth のように 1 つならエであるのはなぜか」など、最初に疑問点を列挙して、半年後にはそれが説明できるようにする。英語を話す民族の動向をビデオ教材を通じて理解する。 / 検索キーワード 英語史

授業の一般目標 現代英語に関する疑問を共有し、それらを歴史的に説明できるようになる。英語の成立から、現代英語までの概略を把握する。英語を話す民族の動向に関心を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語とその言語を話す民族の歴史の概略を把握する。現代英語に対して感じる疑問点を歴史的に説明できる。 関心・意欲の観点：英語に対する素朴な疑問点を再確認し、それを歴史的に解明する意欲を持つ。 態度の観点：英語の発達の背景を知り、国際的な視点と態度を身につける。

授業の計画（全体） 学生と教員から出された「英語に関する素朴な疑問」への歴史的な説明をする。テキストを用いた講義に適宜ビデオ教材を交えて進める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 英語に関する素朴な疑問について
- 第 2 回 項目 英語の外史
- 第 3 回 項目 借入語
- 第 4 回 項目 発音の変化
- 第 5 回 項目 屈折の単純化
- 第 6 回 項目 屈折の単純化
- 第 7 回 項目 屈折の単純化
- 第 8 回 項目 屈折の単純化
- 第 9 回 項目 統語法の発達
- 第 10 回 項目 統語法の発達
- 第 11 回 項目 統語法の発達
- 第 12 回 項目 統語法の発達
- 第 13 回 項目 統語法の発達
- 第 14 回 項目 質疑応答
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 期末試験によって評価する。また、欠席は、原則として 2 回を超えると欠格とする。

教科書・参考書 教科書：『英語史入門』, 安藤貞雄, 開拓社, 2002 年 ; 教科書は、文栄堂（大学前）で販売予定。

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英語生成文法 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 島越郎 | | | | |

授業の概要 生成文法と呼ばれる文法理論の基本的考え方を概説する。高校までに習った学習英文法は、受動文では目的語が主語位置に移動し、WH 疑問文では WH 疑問詞が文頭に移動することを教えてくれる。しかしながら、それは何故かという疑問に対して学習英文法は何も答えてくれない。このような問いに答えることにより、ことばの仕組みを明らかにしようと試みる文法理論が生成文法である。授業では、生成文法の枠組みにおいて、学習英文法では教えてくれない英語の特徴を考察する。 / 検索キーワード 英語、生成文法、ことばの仕組み、文法理論

授業の一般目標 生成文法における言語分析を通して、英語についての理解を深め、また、科学的思考法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の主要な構文の特徴を説明できる。 思考・判断の観点：表面的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書で表現できる。

授業の計画(全体) 先ず、生成文法の枠組みを概説し、その後、その枠組みを使って英語を分析していく。取り上げるトピックは、主語・助動詞倒置、否定文、時制、モダリティー、アスペクト、動詞の意味、受動文等々である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価法について説明する
- 第 2 回 項目 文法の枠組み (1) 内容 文には抽象的構造が存在することについて説明する。
- 第 3 回 項目 文法の枠組み (2) 内容 英語の主語・助動詞倒置現象について説明する。
- 第 4 回 項目 文法の枠組み (3) 内容 英語の否定文について説明する。
- 第 5 回 項目 文法の枠組み (4) 内容 文の基本的構造を決定する規則 X' 理論について説明する。
- 第 6 回 項目 文法の枠組み (5) 内容 CP, IP, DP 構造について説明する。
- 第 7 回 項目 中間テスト
- 第 8 回 項目 テスト返却・解説
- 第 9 回 項目 時と時制 内容 時制の統語特性と意味解釈について説明する、
- 第 10 回 項目 ムードとモダリティー 内容 法助動詞と命令文について説明する。
- 第 11 回 項目 アスペクト 内容 動詞の意味分類について説明する。
- 第 12 回 項目 動詞のクラスと交替現象 内容 自動詞の分類、使役文、二重目的語文について説明する。
- 第 13 回 項目 名詞句移動 内容 受動文と繰り上げ文について説明する。
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験)の結果に基づいて評価する。

教科書・参考書 教科書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年; プリントも随時配布する。

連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 太田聡 | | | | |

授業の概要 人間の言語は脳に蓄えられた知識であると考える立場から、言語の性質や獲得、また、理解の仕組みなどをめぐる様々な問題をわかりやすく解説していく。前半で生成文法理論の基礎となる考え方を紹介し、後半では進んだ研究の一端にも触れるようにする。

授業の一般目標 生成文法理論の目標や特徴、その発展を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生成文法のテクニカルな分析方法を理解する。思考・判断の観点：生成文法理論に基づいて、英語や日本語の基本的な分析が行えるようになる。関心・意欲の観点：幼児の言語獲得のなぞや、ことばを通して見えてくる人間の精神・脳の特徴などにも関心を寄せる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の主な狙いや課題などについて説明する。授業外指示 教科書の第 1 章を読む。
- 第 2 回 項目 こころを探る言語研究 内容 なぜ言語研究をするのかという問題について考える。授業外指示 教科書第 2 章を読む。課題を解く。
- 第 3 回 項目 言語知識とは何か 内容 言語の無意識の知識、言語能力と言語運用、普遍文法と個別文法について考える。授業外指示 教科書第 3 章を読む。課題を解く
- 第 4 回 項目 文法の組み立て 内容 文法の組み立てについての最近のアプローチを紹介する。授業外指示 教科書第 4, 5 章を読む。課題を解く。
- 第 5 回 項目 音韻論 内容 音声・音韻研究の基本概念と主要な問題を講じる。授業外指示 教科書第 6, 7 章を読む。課題を解く。
- 第 6 回 項目 形態論 内容 語を作る仕組みについて考える。授業外指示 教科書第 8 章を読む。課題を解く。
- 第 7 回 項目 統語論 1 内容 文を作る仕組みについて考える。授業外指示 教科書第 9 章を読む。課題を解く。
- 第 8 回 項目 統語論 2 内容 原理とパラメータのアプローチを紹介する。授業外指示 教科書第 10 章を読む。課題を解く。
- 第 9 回 項目 意味論 1 内容 種々の意味解釈規則を紹介する。授業外指示 教科書第 11 章を読む。課題を解く。
- 第 10 回 項目 意味論 2 内容 代名詞の解釈などについて論じる。授業外指示 教科書第 12 章を読む。課題を解く。
- 第 11 回 項目 語用論 内容 語用論的知識とプラトンの問題などについて考える。授業外指示 教科書第 13, 14 章を読む。課題を解く。
- 第 12 回 項目 言語の獲得 内容 原理とパラメータのアプローチと言語獲得について論じる。授業外指示 教科書第 15, 16, 17 章を読む。課題を解く。
- 第 13 回 項目 言語の変化・変異 内容 歴史的な観点を交えながら、言語変化について考える。授業外指示 教科書第 18 章を読む。課題を解く。
- 第 14 回 項目 言語研究の現状と展望 内容 最新の言語研究の動向について紹介する。授業外指示 課題を解く。
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体の補足とまとめを行う。授業外指示 "

成績評価方法 (総合) 各テーマが終わるごとに課題を出すので、それを解いて次の授業時に提出のこと。この課題レポートの合計点で評価する。欠席は 1 回につき 5 点減点とする。

教科書・参考書 教科書：言語研究入門 生成文法を学ぶ人のために、大津由紀雄他、研究社、2002 年 / 参考書：生成文法用語辞典、安藤貞雄・小野隆啓、大修館書店、1993 年；チョムスキー理論辞典、原口庄輔・中村捷編、研究社出版、1992 年；チョムスキー小事典、今井邦彦編、大修館書店、1986 年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 島越郎 | | | | |

授業の概要 英語における次の省略構文について考える。 Jack bought something, but I don't know what. この文は間接疑問縮約構文 (Sluicing) と呼ばれる省略文の例で、疑問詞 what の後ろで Jack bought が省略されている。授業では、間接疑問縮約構文の諸特性を、生成文法の枠組みで考察する。 / 検索キーワード 省略文、統語構造、意味解釈、形態特性、生成文法

授業の一般目標 英語の省略構文の統語的、形態的、意味的特徴についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の省略文の特徴について説明できる。 思考・判断の観点：表面的な省略文の現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書で表現できる。

授業の計画 (全体) 英語の間接疑問縮約が示す諸特徴を、(1) 格の一致現象、(2) 前置詞残留現象、(3) 島効果の消失、(4) 多重適用の制限、(5) 先行詞の制限、(6) 定性効果の順に考えていく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第 2 回 項目 格の一致現象 内容 ドイツ語を使って、間接疑問縮約における格の一致現象について説明する。
- 第 3 回 項目 前置詞残留現象 内容 英語、フリジア語、スウェーデン語、ギリシャ語、ドイツ語を使って、間接疑問縮約における前置詞残留現象について説明する。
- 第 4 回 項目 島効果の消失 (1) 内容 移動操作に課せられる島条件について説明する。
- 第 5 回 項目 島効果の消失 (2) 内容 間接疑問縮約における島効果の消失について説明する。
- 第 6 回 項目 島効果の消失 (3) 内容 島効果の消失に関する間接疑問縮約と動詞句削除との違いについて説明する。
- 第 7 回 項目 多重適用の制限 内容 間接疑問縮約における多重適用の制限について説明する。
- 第 8 回 項目 相関語句の制限 (1) 内容 間接疑問縮約における先行詞の可能性について説明する。
- 第 9 回 項目 相関語句の制限 (2) 内容 焦点の意味について説明する。
- 第 10 回 項目 相関語句の制限 (3) 内容 間接疑問縮約における先行詞の制限と焦点の関連性を説明する。
- 第 11 回 項目 定性効果 (1) 内容 間接疑問縮約における定性効果について説明する。
- 第 12 回 項目 定性効果 (2) 内容 焦点の意味について説明する。
- 第 13 回 項目 定性効果 (3) 内容 間接疑問縮約における定性効果と焦点の関連性を説明する。
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

成績評価方法 (総合) 定期試験の結果に基づいて評価する。

教科書・参考書 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 島越郎 | | | | |

授業の概要 前期に引き続き、生成文法の枠組みにおいて英語の省略文を考察する。後期は、次の二つの省略文に焦点を当てる。(1) John loves Mary, and Peter does, too. (2) Bill ate more peaches than Harry did grapes. 省略文(1)では、動詞と目的語 (love Mary) が省略されており、このような文は動詞句省略文 (VP ellipsis) と呼ばれている。一方、(2)では、動詞 (eat) のみが省略されており、このような省略文は擬似空所化 (pseudo-gapping) と呼ばれている。この授業では、この二つの省略文の類似点と相違点について考えていく。/ 検索キーワード 省略文、動詞句省略文、擬似空所化、生成文法

授業の一般目標 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の省略文についての特徴を説明できる。 思考・判断の観点：表面的な省略文の現象の底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 技能・表現の観点：考察したことを論理的に文章で表現できる。

授業の計画(全体) 動詞句削除文と擬似空所化が示す三つの相違点と一つの類似点について順次考察していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第 2 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (1) 内容 動詞句削除文における解釈の多義性について説明する。
- 第 3 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (2) 内容 擬似空所化における解釈の局所性効果について説明する。
- 第 4 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (3) 内容 動詞句削除文における解釈の局所性効果について説明する。
- 第 5 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 2：strict/sloppy の読み (1) 内容 動詞句削除文における strict/sloppy の読みについて説明する。
- 第 6 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化のその 2：strict/sloppy の読み (2) 内容 sloppy の読みを認可する意味的条件について説明する。
- 第 7 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 2：strict/sloppy の読み (3) 内容 擬似空所化における sloppy の読みの可能性について説明する。
- 第 8 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (1) 内容 擬似空所化における逆行削除について説明する。
- 第 9 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (2) 内容 文解析の原理と逆行削除について説明する。
- 第 10 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (3) 内容 動詞句削除文における逆行削除の可能性について説明する。
- 第 11 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (1) 内容 動詞句削除文と擬似空所化における削除問題について説明する。
- 第 12 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (2) 内容 島の効果と削除について説明する。
- 第 13 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (3) 内容 擬似空所化における削除の義務性について説明する。
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

成績評価方法(総合) 定期試験の結果に基づいて評価する。

教科書・参考書 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 服部 範子 | | | | |

授業の概要 実際の社会で用いられる言語は必然的に変異(ヴァリエーション)を伴う。変異はまた、言語変化の始まりとなりうる。本講義では、社会言語学の分野の中で、とくに変異に注目して言語変化のメカニズムを追究する変異理論の枠組みにおいて、音声・音韻、形態における変異を考察する。具体的には英語と日本語を例に、データの収集方法、分析方法、これまでの研究で明らかになったことを学びながら、今後の課題を探っていく。

授業の一般目標 ことばの多様性に関する意識を高め、ことばの本質について理解を深めることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：変異研究の目標や特徴を理解する。 思考・判断の観点：変異に着目して英語や日本語の分析を行う。 関心・意欲の観点：ことばの多様性についての意識を高め、ことばの本質について理解を深める。 技能・表現の観点：ことばの変異に関する観察力を高め、言語学的に分析して正確に表現する。

授業の計画(全体) 変異理論の枠組みの中で、(1)音声の変異に関する基本的事項の確認、(2)データの収集方法、(3)分析方法、(4)「変異も構造をなす」という事例の提示と検討、(5)地域日常語の観察と分析について段階的に解説していく。

成績評価方法(総合) 試験、レポート、出席状況を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：社会言語学入門, 中尾俊夫・日比谷潤子・服部範子, くろしお出版, 1997年

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英語学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 岩部浩三 | | | | |

授業の概要 英語学の専門論文を読み、内容を解説する。

授業の一般目標 英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。あわせて、意味論・語用論の研究内容に触れ、関心を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語で書かれた論文の内容を把握して、例を用いて日本語で説明できる。さまざまな現象を理論的に整理する。疑問点を明確にし、質問できる。 関心・意欲の観点：論文の一部分だけではなく、全体を見る目を持ち、常に予習を進めながら授業に臨む。 技能・表現の観点：英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。

授業の計画（全体） 1 回に 5 ページ程度の進捗で進むが、演習形式であるので、多少の進み遅れがある。できるだけ早く全体を読んでおく必要がある。試験は広範囲にわたるので、常時予習を怠らず、疑問点の解決に努める必要がある。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方。教材とする論文紹介。 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 2 回 項目 講読・演習 内容 論文の内容について、受講生を順に指名しながら解説・演習を行う

第 3 回 内容 以下同様

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 期末試験が 90 パーセント、授業時の演習 10 パーセントの割合で評価します。

教科書・参考書 教科書：教材は授業時にプリントして配布します。

連絡先・オフィスアワー iwabe@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 英語学演習(文法と意味) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 島越郎 | | | | |

授業の概要 生成文法の枠組みにおいて、英語の時制現象を考察する。特に、未来を表す助動詞 will の特性について考える。 / 検索キーワード 時制、助動詞 will、生成文法

授業の一般目標 英語の時制現象についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の時制現象についての特徴を説明できる。 思考・判断の観点：表層的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書に表現できる。

授業の計画(全体) 授業では、1) 未来を表す助動詞 will について英語で書かれた専門論文 (Murvet Enc 1996, Tense and Modality) を段落単位で精読し、2) 論文で提示されている分析を解説し、3) その分析に対する問題点を適宜指摘していく。受講者は、担当箇所を正確に日本語訳し、また、専門用語を事前に調べておくことが最低限要求される。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第 2 回 項目 論文講読
- 第 3 回 項目 論文講読
- 第 4 回 項目 論文講読
- 第 5 回 項目 論文講読
- 第 6 回 項目 論文講読
- 第 7 回 項目 論文講読
- 第 8 回 項目 論文講読
- 第 9 回 項目 論文講読
- 第 10 回 項目 論文講読
- 第 11 回 項目 論文講読
- 第 12 回 項目 論文講読
- 第 13 回 項目 論文講読
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

成績評価方法(総合) 定期試験の結果に基づいて評価する。

教科書・参考書 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 英語学演習(文法と意味) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 島越郎 | | | | |

授業の概要 前期に引き続き、生成文法の枠組みで、英語の時制現象について考察する。後期は、過去時制の問題について考える。/ 検索キーワード 英語、時制現象、過去時制、生成文法

授業の一般目標 英語の時制現象についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の時制現象についての特徴を説明できる。 思考・判断の観点：表層的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書で表現できる。

授業の計画(全体) 授業では、1) 過去時制について英語で書かれた専門論文 (Muvet Enc 2004, Rethinking Past Tense) を段落単位で精読し、2) 論文で提示されている分析を解説し、3) その分析に対する問題点を適宜指摘していく。受講者は、担当箇所を正確に日本語訳し、また、専門用語を事前に調べておくことが最低限要求される。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第 2 回 項目 論文講読
- 第 3 回 項目 論文講読
- 第 4 回 項目 論文講読
- 第 5 回 項目 論文講読
- 第 6 回 項目 論文講読
- 第 7 回 項目 論文講読
- 第 8 回 項目 論文講読
- 第 9 回 項目 論文講読
- 第 10 回 項目 論文講読
- 第 11 回 項目 論文講読
- 第 12 回 項目 論文講読
- 第 13 回 項目 論文講読
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

成績評価方法(総合) 定期試験の結果に基づいて評価する。

教科書・参考書 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 英語学演習(形態と音声) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 太田聡 | | | | |

授業の概要 生成音韻論の発展の歴史や基本概念・分析方法を解説していく。

授業の一般目標 1960年代以降の音韻論の展開を理解し、高度な音韻理論を理解するための基礎固めをする。また、日英語のデータの比較を通して、音韻的普遍性と個別性について考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生成音韻論の特徴を知る。伝統的な音韻分析の手法のみならず、最新の音韻理論の考え方にも慣れ親しむ。思考・判断の観点：知らない語句でも、そのアクセントなどを分析・予測できるようになる。関心・意欲の観点：暗記するものと思われがちな語のアクセントや発音などにも法則が隠されていることに関心を持ち、自らもその法則を解明しようとする。技能・表現の観点：配布資料に基づいて紹介する理論の内容を理解するのみならず、問題点などにも気づき、それをわかりやすく指摘・発表できるようになる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 音韻論とはどのような学問かを紹介する。授業外指示 配布資料に目を通す。
- 第 2 回 項目 SPE 理論とそれ以前の音韻論 内容 生成文法以前の音韻論と生成文法の音韻論の違いを解説する。授業外指示 宿題の課題を解く。配布資料に目を通す。
- 第 3 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //
- 第 4 回 項目 // 内容 生成音韻論の標準理論におけるアクセント分析について理解する。授業外指示 //
- 第 5 回 項目 // 内容 標準生成音韻論の功罪を考察する。授業外指示 //
- 第 6 回 項目 韻律理論 内容 アクセントの非線状音韻論での分析を理解する。授業外指示 //
- 第 7 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //
- 第 8 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //
- 第 9 回 項目 // 内容 リズム規則について考察する。授業外指示 //
- 第 10 回 項目 日英語比較音韻論 内容 日本語と英語のアクセントの比較を行う。授業外指示 //
- 第 11 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //
- 第 12 回 項目 // 内容 借用語の促音化について考察する。授業外指示 //
- 第 13 回 項目 最適性理論 内容 派生ではなく制約に基づく音韻理論とはどのようなものかを理解する。授業外指示 //
- 第 14 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体のまとめと補足を行う。授業外指示 //

成績評価方法(総合) 授業内での発表や小テスト、および、各テーマごとの課題レポートの出来具合によって総合的に評価する。出席を重視し、欠席1回につき期末評点から5点ずつ減点する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：音韻理論ハンドブック, 西原哲雄・那須川訓也共編, 英宝社, 2005年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 英語学演習(形態と音声) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 太田聡 | | | | |

授業の概要 語形成にかかわる法則や制約を紹介し、語形成の仕組みを理解させる。

授業の一般目標 語形成のメカニズムを理解して、可能な語と不可能な語の予測・説明ができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：語形成に関する法則を掴む。 思考・判断の観点：辞書に依らずに可能な語と不可能な語が予測できるようになる。 関心・意欲の観点：「単語は暗記するもの」といった考え方が正しくないことに気づく。 技能・表現の観点：英語で書かれた論文の内容も正確に読み取って、わかりやすくまとめる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 形態論とはどのような研究なのかを概説する。 授業外指示 配布プリントに目を通す。
- 第 2 回 項目 語彙音韻論・形態論 内容 派生語、複合語、屈折形がどのようなメカニズムで形成されるのかを理解し、課題を解く。 授業外指示 宿題の課題を解く。配布プリントに目を通す。
- 第 3 回 項目 " 内容 " 授業外指示 "
- 第 4 回 項目 " 内容 " 授業外指示 "
- 第 5 回 項目 " 内容 " 授業外指示 "
- 第 6 回 項目 " 内容 " 授業外指示 "
- 第 7 回 項目 接辞付加の順序付けについて 内容 接辞付加の順序を決める原則を理解し、その反例に対する説明を試みる。 授業外指示 "
- 第 8 回 項目 " 内容 " 授業外指示 "
- 第 9 回 項目 混成語について 内容 混成語形成において、日英語に共通して働く条件や制約を考える。 授業外指示 "
- 第 10 回 項目 " 内容 " 授業外指示 "
- 第 11 回 項目 " 内容 " 授業外指示 "
- 第 12 回 項目 屈折について 内容 屈折にはどのような特徴や制約があるのかを考察する。 授業外指示 "
- 第 13 回 項目 " 内容 形容詞の屈折の規則性について考察する。 授業外指示 "
- 第 14 回 項目 " 内容 " 授業外指示 "
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体のまとめと補足を行う。 授業外指示 "

成績評価方法(総合) 授業中の発表や小テスト、宿題の課題の出来具合などで総合的に判断する。出席も重視する(欠席1回につき総合評点から5点ずつ減点)。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | アメリカ文学史 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 皆尾 麻弥 | | | | |

授業の概要 17 世紀初頭から 19 世紀中頃までのアメリカ文学の流れを概説する。アメリカの時代背景、文化にとどまらず、世界文学の歴史とも照らし合わせ、世界におけるアメリカ文学の位置づけについても解説する。 / 検索キーワード アメリカ文学

授業の一般目標 アメリカ文学についての基礎的な知識を得る。アメリカ文学の作家と作品に対する興味を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：アメリカ文学の主要な作家と作品、さらに文学の基本的な用語について説明できる。 思考・判断の観点：アメリカ文学の作家・作品の多様性を通して、アメリカの文化、そして文学というものについて考える。 関心・意欲の観点：アメリカ文学の様々な作家と作品に興味を持つ。授業で扱わない作品についても積極的に読む。

授業の計画（全体） 使用テキストに沿って講義を進めるが、テキストに記述されている内容全てに言及するわけではない。また、テキストの内容のみで不十分な部分では、補足すべき点にそのつど言及する。重要と思われる作家・作品については、作品の引用など、参考資料を配布し、より深くその人物と実際の文章に触れたい。

成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点を加味する。

教科書・参考書 教科書： An Outline of American Literature, Peter B. High, Longman

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | アメリカ文学史 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 皆尾 麻弥 | | | | |

授業の概要 アメリカ文学史 I の続き。19 世紀中頃から 20 世紀前半までのアメリカ文学の流れを概説する。引き続き、アメリカの時代背景、文化にとどまらず、世界文学の歴史とも照らし合わせ、世界におけるアメリカ文学の位置づけについても解説する。 / 検索キーワード アメリカ文学史

授業の一般目標 アメリカ文学についての基礎的な知識を得る。アメリカ文学の作家と作品に対する興味を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：アメリカ文学の主要な作家と作品、さらに文学の基本的な用語について説明できる。 思考・判断の観点：アメリカ文学の作家・作品の多様性を通して、アメリカの文化、そして文学と言うものについて考える。 関心・意欲の観点：アメリカ文学の様々な作家と作品に興味を持つ。授業で扱わない作品についても積極的に読む。

授業の計画（全体） 使用テキストに沿って講義を進めるが、テキストに記述されている内容全てに言及するわけではない。また、テキストの内容のみでは不十分な部分では、補足すべき点にそのつと言及する。重要と思われる作家・作品については作品の引用などの参考資料を配布し、より深くその人物と実際の文章に触れたい。テキストには載っていない現代の作家や、現在のアメリカ文学の動きについても解説したい。

成績評価方法（総合） 期末試験を行う。出席が所定の回数に満たないものには単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： An Outline of American Literature, Peter B. High, Longman

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 田中晉 | | | | |

授業の概要 Edmund Spenser の諸作品に即して、詩人の自然・愛・美等の理念を追求して、ルネサンス期英文学における中世より近世への展開の実相を明らかにする。 / 検索キーワード 自然・愛・美、超越と内在、中世と近世

授業の一般目標 近世は中世の否定であるとする一般的解釈は、少なくともスペンサーにおいては多少の修正を必要としよう。歴史観形成について考慮すべき問題を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 作品の具体的内容を理解する。 思考・判断の観点： 作品に即して寓意の意味を考える。 関心・意欲の観点： スペンサーの作品を積極的に読む。

授業の計画（全体） 『妖精の女王』第3巻「アドーニスの園」、第4巻「ビュシレインの館」及び最後の断片「無常篇」を考察する。

成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席、受講態度等）を加味する。

教科書・参考書 教科書： プリント配布 / 参考書： 『詩人の王スペンサー』（九州大学出版会）

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 田中晉 | | | | |

授業の概要 Edmund Spenser の諸作品に即して、詩人の自然・愛・美等の理念を追求して、ルネサンス期英文学における中世より近世への展開の実相を明らかにする。 / 検索キーワード 自然・愛・美、超越と内在、中世と近世

授業の一般目標 近世は中世の否定であるとする一般的解釈は、少なくともスペンサーにおいては多少の修正を必要としよう。歴史観形成について考慮すべき問題を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 作品の具体的内容を理解する。 思考・判断の観点： 作品に即して寓意の意味を考える。 関心・意欲の観点： スペンサーの作品を積極的に読む。

授業の計画（全体） 小曲より『アモレッティ』、『四つの賛歌』、『コリン・クラウト故郷に帰る』を考察する。

成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席、受講態度等）を加味する。

教科書・参考書 教科書： プリント配布 / 参考書： 『詩人の王スペンサー』（九州大学出版会）

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 宮原一成 | | | | |

授業の概要 現代英国・英連邦の小説について、時代を代表する作品をいくつか取り上げ、そこから浮かび上がる時代意識や傾向のようなものを考えていきます。文学は社会の鏡、社会は文学の鏡？ / 検索キーワード 現代小説

授業の一般目標 英語による文学作品を批評的に鑑賞できるようになる。文学作品を読む際に、文学を取り巻く諸状況についても目配りする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1970-2000年の英国英連邦小説の概略と傾向を理解する。思考・判断の観点：それぞれの本を別々の点として読むだけでなく、複数作品を繋ぐ線や面の存在へ発想を広げる。関心・意欲の観点：原書または翻訳で実際に作品を読んだり、参考資料を調査し、自分なりの意見を形成する。

授業の計画(全体) 1)1956年という年 2)植民地の独立 3)インドの事例、オーストラリアの事例、アメリカの事例 4)イギリスという国の歴史決算意識 5)歴史記述のあり方 6)地下水脈的な通底モチーフ こういった項目について、それぞれ2~3週ずつかけて進めます。項目が終わるごとに、簡単な感想レポートを提出してもらいます(各5点満点で評価)。

成績評価方法(総合) ポイントごとの感想レポート30%+期末筆記試験70%。出席は毎回とって、欠格条件(5回以上の欠席で不可評定)とします。

教科書・参考書 教科書：『ブッカー・リーダー 現代英国・英連邦小説を読む』, 吉田徹夫監修, 開文社出版, 2005年; 生協で購入してください。他に、英米文学史関係の本が手元にあると便利です。 / 参考書：『20世紀末イギリス小説』, 木村政則, 彩流社, 2005年; Oxford Concise Companion to English Literature, 2nd ed., M. Drabble 他編, Oxford Univ. Press, 2003年

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 宮原一成 | | | | |

授業の概要 現代の英語小説には、過去のことなのにわざと現在時制を使って語る技法が散見されます。これは、必ずしもヌーボー・ロマン期の実験手法の再現というだけでは、説明しきれないように思われます。本講義では、この現象について、諸相を考察します。

授業の一般目標 小説鑑賞において、語りという技法面にアプローチするための感性を磨く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：語り手・語りという概念とその効果、時制論的アプローチのあらましを理解する。 思考・判断の観点：時制を利用した語りの効果を実践的に批評する。

授業の計画(全体) 1)「歴史的現在」の見直し 2)文体論・認知言語学的に見る「現在時制」とは 3)歴史記述のあり方について 4)コロニアルという問題 5)民族誌学的現在(時制)という側面 上記のような諸相を、それぞれ2～3週ずつかけて考察していきます。基本的事項や用語が理解できているかどうか、各項目が終わるごとに簡単なテストをします。

成績評価方法(総合) 小テスト25%+期末筆記試験75%。出席は毎回とって、欠格条件(5回以上の欠席は不可評点)に使用します。

教科書・参考書 教科書：ハンドアウト・プリントを使います。 / 参考書：授業中に適宜紹介します。

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 田中 晉 | | | | |

授業の概要 シェイクスピアの『リア王』を精読する。四大悲劇の一つにして「人間とは何か」という問題をその根源まで追及した大作に学ぶ。 / 検索キーワード シェイクスピア、リア王、自然観

授業の一般目標 現代英語のもとをなすエリザベス朝英語の語法や、当時の舞台構造等につき基礎的知識を習得し、この作品を通してシェイクスピアの人間心理の洞察について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：シェイクスピアの英語の語法を理解し、語源に遡って言葉の意味を知る。 思考・判断の観点：中世以来の伝統的自然観と、シェイクスピア時代に考え新しく台頭してきた自然観の相克葛藤について考える。 関心・意欲の観点：シェイクスピアの作品を積極的に読む。

授業の計画（全体） 前期は第1幕、2幕、3幕2場までを読む。

成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席、受講態度等）を加味する。

教科書・参考書 教科書：King Lear, 市河・嶺注釈, 研究社, 1993年；研究社詳注シェイクスピア双書『リア王』を使用する。山口大学生協（大学会館内）で販売。 / 参考書：辞書やその他の文献は授業中に言及する。

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 田中 晉 | | | | |

授業の概要 シェイクスピアの『リア王』を精読する。四大悲劇の一つにして「人間とは何か」という問題をその根源まで追及した大作に学ぶ。 / 検索キーワード シェイクスピア、リア王、自然観

授業の一般目標 現代英語のもとをなすエリザベス朝英語の語法や、当時の舞台構造等につき基礎的知識を習得し、この作品を通してシェイクスピアの人間心理の洞察について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：シェイクスピアの英語の語法を理解し、語源に遡って言葉の意味を知る。 思考・判断の観点：中世以来の伝統的自然観と、シェイクスピア時代に新しく台頭してきた自然観の相克葛藤について考える。 関心・意欲の観点：シェイクスピアの作品を積極的に読む。

授業の計画（全体） 3幕3場より5幕までを読む。

成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席、授業態度等）を加味する。

教科書・参考書 教科書：King Lear, 市河・嶺注釈, 研究社, 1993年；研究社詳注シェイクスピア双書『リア王』を使用する。山口大学生協（大学会館内）で販売。 / 参考書：辞書やその他の文献は授業中に言及する。

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 皆尾 麻弥 | | | | |

授業の概要 20 世紀アメリカの作家 Vladimir Nabokov の小説 Pnin(1957) を読む。 / 検索キーワード Nabokov, アメリカ文学

授業の一般目標 文学作品を、細部に目を配りながら丹念に読む力をつける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語で小説を読むことができる。 思考・判断の観点：ナボコフという作家が読者に要求する読み方について思考する。 関心・意欲の観点：同時代の作家や当時の文化にも関心を持つことができる。

授業の計画（全体） 毎回、受講者による音読と訳を中心に授業を進める。

成績評価方法（総合） 学期末に 2000 字程度のレポート（日本語）を提出し、平常点を加味して評価する。

教科書・参考書 教科書： Pnin, Vladimir Nabokov, Penguin

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学講読 | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 皆尾 麻弥 | | | | |

授業の概要 引き続き、Vladimir Nabokov の小説 Pnin (1957) を読む。 / 検索キーワード アメリカ文学、Nabokov

授業の一般目標 文学作品を、細部に目を配りながら丹念に読む力をつける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語で小説を読むことができる。 思考・判断の観点：ナボコフという作家が読者に要求する読み方について思考する。 関心・意欲の観点：同時代の作家や当時の文化にも関心を持つことができる。

授業の計画(全体) 毎回、受講者による音読と訳を中心に進める。

成績評価方法(総合) 学期末に 2000 字程度のレポート(日本語)を提出。平常点を加味して評価する。

教科書・参考書 教科書：Pnin, Vladimir Nabokov, Penguin

| | | | | | |
|------|------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学演習(小説) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 池園宏 | | | | |

授業の概要 19世紀イギリスの小説家 Anne Bronte の『Agnes Grey』を読む。作品の解釈や分析のみならず、英文法や発音など総合的な英語力の養成も行う。 / 検索キーワード Anne Bronte、英国小説、19世紀

授業の一般目標 (1) テキストを丹念に解釈することにより、Anne Bronte の作家像及び19世紀英文学における位置づけを理解する。(2) 英文法力や英文解釈力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：作家や作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点：作品に盛り込まれた諸テーマを分析できる。 関心・意欲の観点：小説を読み解く行為に関心を持つ。 態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画(全体) 一年間を通して本作品を扱うが、前期はその約3分の2まで読み進める予定である。最初はスローペースで読み始め、徐々にスピードを上げていく。受講者の発表と質疑応答、及びディスカッションを中心に授業を行う。

成績評価方法(総合) (1) 試験は学期末に1回実施する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：Agnes Grey, Anne Bronte, Penguin, 1988年 / 参考書：授業の中で紹介する。

メッセージ 一年間を通して一つの作品に取り組むため、前後期を通して受講すること。毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。

| | | | | | |
|------|------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学演習(小説) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 池園宏 | | | | |

授業の概要 19世紀イギリスの小説家 Anne Bronte の *Agnes Grey*、及びこの作品に関する論文を読む。作品の解釈や分析のみならず、英文法や発音など総合的な英語力の養成も行う。 / 検索キーワード Jane Austen、英国小説、19世紀

授業の一般目標 (1) テキストを丹念に解釈することにより、Anne Bronte の作家像及び 19 世紀英文学における位置づけを理解する。(2) 英文法力や英文解釈力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：作家や作品の具体的内容を説明できる。思考・判断の観点：作品に盛り込まれた諸テーマを分析できる。関心・意欲の観点：小説を読み解く行為に関心を持つ。態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画(全体) 後期の約3分の2ほどで小説の残り3分の1を読了し、その後でこの作品に関する論文を読む。受講者の発表と質疑応答、及びディスカッションを中心に授業を行う。

成績評価方法(総合) (1) 試験は学期末に1回実施する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： *Agnes Grey*, Anne Bronte, Penguin, 1988年 / 参考書：授業の中で紹介する。

メッセージ 一年間を通して一つの作品に取り組むため、前後期を通して受講すること。後期のみの受講は基本的に認められない。毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。

| | | | | | |
|------|------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学演習(小説) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 宮原一成 | | | | |

授業の概要 輪番形式で発表担当者を定め、学生の予習発表を基に英米文学を読む演習を行います。アメリカ南部出身の作家による作品を集めた短篇集を使います。

授業の一般目標 英語による文学を批評的に鑑賞する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英文の構造や、談話状況などを正しく把握する。 思考・判断の観点：古典を読み、そこにある問題を、現代の私たちのものと比較して考察する。 態度の観点：他人の発表を受け身で聞かず、積極的に討論に持ち込む。 技能・表現の観点：輪番発表時に、効果的な言語表現で持論を説明する。

授業の計画(全体) 日本人大学生向けに編纂された教科書(語句に関する注釈付き)で、1回8~10ページ読み進めます。短篇一本を読み終えるごとに、討論の時間を設定します。

成績評価方法(総合) 5回以上の欠席は自動的に不可評定となります。当番時の発表内容評価が70%、討論への参加・貢献度が30%。期末の筆記試験やレポートは実施しません。

教科書・参考書 教科書：Contemporary American Southern Writers, K. A. Porter 他著, 南雲堂, 1973年; 生協で購入。 / 参考書：ロイヤル英文法, 綿貫陽他, 旺文社, 2000年; 生協で購入。

| | | | | | |
|------|------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学演習(小説) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 宮原一成 | | | | |

授業の概要 英国人作家 Evelyn Waugh の A Handful of Dust (1934) を輪番形式で読み進めます。小説は全7章、ペーパーバック版で約220ページ。ストーリー展開の意外性もこの作品の魅力の一つなので、これ以上の紹介は避けませんが、面白い小説です。

授業の一般目標 英語による文学を批評的に鑑賞する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：一般読者向け文学作品に使用される英語構文や談話状況について、確実に理解する。本小説の根底にある時代意識や、テキスト間相互関連性についても、文化人として理解する。思考・判断の観点：作品のメッセージを自分なりに解釈し、現在の自分を取り巻く問題と比較する。関心・意欲の観点：積極的に議論に参加する。

授業の計画(全体) 上記のように、ペーパーバックで220ページくらいの長編小説。これを一回20ページ弱のペースで読み進める。第1週はオリエンテーション。第2週から、13回の演習で読み終える。一人で1回だいたい3～4ページの担当。大丈夫、これくらいできます。

成績評価方法(総合) 担当箇所の発表内容の出来50% + 議論への積極的な参加20% + 期末レポート30%。5回以上の欠席は自動的に「不可」評定とする。

教科書・参考書 教科書：A Handful of Dust, Evelyn Waugh 著, Penguin Modern Classics, 2000年；生協で販売。ISBNは、0141183969の方。 / 参考書：英和辞典は、電子辞書ではなく、紙媒体のものを使うこと。英文学史のテキストをもっている人は、手元に置いておくこと。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学演習（詩） | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 池園宏 | | | | |

授業の概要 英詩アンソロジーとして著名な『Golden Treasury』をテキストに用い、特にイギリス 18 世紀後半から 19 世紀前半にかけて書かれたロマン主義的傾向の詩作品を読んでいく。作品の解釈や分析のみならず、英文法や発音など総合的な英語力の養成も行う。 / 検索キーワード 英詩、ロマン主義

授業の一般目標 (1) 個々の詩を丹念に解釈・鑑賞することにより、ロマン主義時代の詩の有り様や詩人の考え方を理解する。(2) 英文法力や英文解釈力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 個々の詩作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点： 作品に盛り込まれた詩人の心情やテーマを分析できる。 関心・意欲の観点： 詩を読み解き鑑賞する行為に関心を持つ。 態度の観点： 常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画（全体） 一年間を通して一冊のテキストを読んでいくが、前期はその半分まで終了する予定である。詩の難易度によって授業のペースは変わりうる。受講者の発表と質疑応答、及びディスカッションを中心に授業を行う。

成績評価方法（総合） (1) 試験は学期末に 1 回実施する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： Palgrave's Golden Treasury, 福田陸太郎, 南雲堂, 1989 年 / 参考書： 授業の中で紹介する。

メッセージ 前後期を通して受講することが望ましい。必ず辞書を持参すること。毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学演習（詩） | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 池園宏 | | | | |

授業の概要 英詩アンソロジーとして著名な『Golden Treasury』をテキストに用い、特にイギリス 18 世紀後半から 19 世紀前半にかけて書かれたロマン主義的傾向の詩作品を読んでいく。作品の解釈や分析のみならず、英文法や発音など総合的な英語力の養成も行う。 / 検索キーワード 英詩、ロマン主義

授業の一般目標 (1) 個々の詩を丹念に解釈・鑑賞することにより、ロマン主義時代の詩の有り様や詩人の考え方を理解する。(2) 英文法力や英文解釈力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 個々の詩作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点： 作品に盛り込まれた詩人の心情やテーマを分析できる。 関心・意欲の観点： 詩を読み解き鑑賞する行為に関心を持つ。 態度の観点： 常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画（全体） 一年間を通して一冊のテキストを読んでいくが、後期は残りの半分を扱う予定である。詩の難易度によって授業のペースは変わりうる。受講者の発表と質疑応答、及びディスカッションを中心に授業を行う。

成績評価方法（総合） (1) 試験は学期末に 1 回実施する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： Palgrave's Golden Treasury, 福田陸太郎, 南雲堂, 1989 年 / 参考書： 授業の中で紹介する。

メッセージ 前後期を通して受講することが望ましい。必ず辞書を持参すること。毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。

| | | | | | |
|--|-------------------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 英語演習(会話)(英米語2年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 2年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | EDWARDS NATHANIEL TYLER | | | | |
| <p>授業の概要 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on ten different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening</p> <p>授業の一般目標 This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.</p> <p>授業の計画(全体) (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1– Let’s Have a Party! (3) Unit 2–Which Grand Prize Will You Take? (4) Unit 3–What Songs Can We Write? (5) Unit 4–How Will You Plan Your Family’s Budget? (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5–Hair, Hair, What’s the Sweetest Hair? (8) Unit 6–What’s the Right Thing to Do? (9) Unit 7–Playing Favorites (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8–Where Do You Want to Go? (12) Unit 9–What’s on the Ice Cream Menu? (13) Unit 10–On the Job with a Green Card (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.</p> <p>授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.</p> <p>第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。</p> <p>第 3 回</p> <p>第 4 回</p> <p>第 5 回</p> <p>第 6 回</p> <p>第 7 回</p> <p>第 8 回</p> <p>第 9 回</p> <p>第 10 回</p> <p>第 11 回</p> <p>第 12 回</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回</p> <p>第 15 回</p> <p>成績評価方法(総合) Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 %. Attitude and Participation: 20 %. Presentations: 20 %.</p> <p>教科書・参考書 教科書 : Let’s Start Talking, George Rooks, Heinle & Heinle, 1994 年</p> <p>メッセージ Bring your dictionary and textbook to every class.</p> <p>連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp</p> | | | | | |

| | | | | | |
|--|-------------------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 英語演習(会話)(英米語2年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 2年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | EDWARDS NATHANIEL TYLER | | | | |
| <p>授業の概要 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on ten different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening</p> <p>授業の一般目標 This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.</p> <p>授業の計画(全体) (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 11– Which University Do You Want to Attend? (3) Unit 12–Which Man Should She Mary? (4) Unit 13–Plan the Perfect Dinners (5) Unit 14–Doctor’s Orders (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 15– Redesigning the Wheel? (8) Unit 16–What Would You Do If? (9) Unit 17–What Will We Do with the Park? (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 18–What’s In and What’s Not? (12) Unit 19–The World is Coming to an End! (13) Unit 20–If I Had My Rathers (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.</p> <p>第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。</p> <p>第 3 回</p> <p>第 4 回</p> <p>第 5 回</p> <p>第 6 回</p> <p>第 7 回</p> <p>第 8 回</p> <p>第 9 回</p> <p>第 10 回</p> <p>第 11 回</p> <p>第 12 回</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回</p> <p>第 15 回</p> <p>成績評価方法(総合) Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 % Attitude and Participation: 20 % Presentations: 20 %</p> <p>教科書・参考書 教科書: Let’s Start Talking, George Rooks, Heinle & Heinle, 1994 年; Units 11-20 will be used in this course.</p> <p>メッセージ Bring your dictionary and textbook to every class.</p> <p>連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp</p> | | | | | |

| | | | | | |
|---|-------------------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 英語演習(会話)(英米語3年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 3年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | EDWARDS NATHANIEL TYLER | | | | |
| <p>授業の概要 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on ten different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening</p> <p>授業の一般目標 This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.</p> <p>授業の計画(全体) (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1– Remembering (3) Unit 2–Decisions (4) Unit 3–Conversation Frame I (5) Unit 4–Priorities (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5–Encouraging (8) Unit 6–Conversation Taboos I (9) Unit 7–Difficult Explanations (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8–Describing the Impossible (12) Unit 9– Conversation Frame II (13) Unit 10–Telling a Story (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.</p> <p>第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。</p> <p>第 3 回</p> <p>第 4 回</p> <p>第 5 回</p> <p>第 6 回</p> <p>第 7 回</p> <p>第 8 回</p> <p>第 9 回</p> <p>第 10 回</p> <p>第 11 回</p> <p>第 12 回</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回</p> <p>第 15 回</p> <p>成績評価方法(総合) Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 % Attitude and Participation: 20 % Presentations: 20 %</p> <p>教科書・参考書 教科書: Conversation Lessons: The Natural Language of Conversation (An Intermediate Course), Ron Martinez, Language Teaching Publications, 1997 年</p> <p>メッセージ Bring your dictionary and textbook to every class.</p> <p>連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp</p> | | | | | |

| | | | | | |
|--|-------------------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 英語演習(会話)(英米語3年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 3年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | EDWARDS NATHANIEL TYLER | | | | |
| <p>授業の概要 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on ten different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening</p> <p>授業の一般目標 This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.</p> <p>授業の計画(全体) (1) Course Introduction- Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 14-Comforting (3) Unit 15-Conversation Frame 3 (4) Unit 16-Sharing Secrets (5) Unit 17-Angry with Yourself (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 18-Conversation Taboos 3 (8) Unit 19-Sharing Problems (9) Unit 20-The State of Things (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 21-Conversation Frame 4 (12) Unit 22-Being Negative (13) Unit 23-Guessing (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.</p> <p>第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。</p> <p>第 3 回</p> <p>第 4 回</p> <p>第 5 回</p> <p>第 6 回</p> <p>第 7 回</p> <p>第 8 回</p> <p>第 9 回</p> <p>第 10 回</p> <p>第 11 回</p> <p>第 12 回</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回</p> <p>第 15 回</p> <p>成績評価方法(総合) Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 % Attitude and Participation: 20 % Presentations: 20 %</p> <p>教科書・参考書 教科書: Conversation Lessons: The Natural Language of Conversation (An Intermediate Course), Ron Martinez, Language Teaching Publications, 1997 年 ; Units 14-23 will be used in this course.</p> <p>メッセージ Bring your dictionary and textbook to every class.</p> <p>連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp</p> | | | | | |

| | | | | | |
|------|-------------------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 英語演習(会話)(他コース) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | EDWARDS NATHANIEL TYLER | | | | |

授業の概要 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on ten different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening

授業の一般目標 This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.

授業の計画(全体) (1) Course Introduction- Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1- Let's Have a Party! (3) Unit 2-Which Grand Prize Will You Take? (4) Unit 3-What Songs Can We Write? (5) Unit 4-How Will You Plan Your Family's Budget? (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5-Hair, Hair, What's the Sweetest Hair? (8) Unit 6-What's the Right Thing to Do? (9) Unit 7-Playing Favorites (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8-Where Do You Want to Go? (12) Unit 9-What's on the Ice Cream Menu? (13) Unit 10-On the Job with a Green Card (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 Course Introduction. Study skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 % Attitude and Participation: 20 % Presentations: 20 %

教科書・参考書 教科書 : Let's Start Talking, George Rooks, Heinle & Heinle, 1994 年

メッセージ Bring your dictionary and textbook to every class.

連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-------------------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 英語演習(会話)(他コース) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | EDWARDS NATHANIEL TYLER | | | | |

授業の概要 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on ten different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening

授業の一般目標 This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.

授業の計画(全体) (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 11– Which University Do You Want to Attend? (3) Unit 12–Which Man Should She Mary? (4) Unit 13–Plan the Perfect Dinners (5) Unit 14–Doctor’s Orders (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 15– Redesigning the Wheel? (8) Unit 16–What Would You Do If? (9) Unit 17–What Will We Do with the Park? (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 18–What’s In and What’s Not? (12) Unit 19–The World is Coming to an End! (13) Unit 20–If I Had My Rathers (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.
- 第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法(総合) Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 % Attitude and Participation: 20 % Presentations: 20 %

教科書・参考書 教科書 : Let’s Start Talking, George Rooks, Heinle & Heinle, 1994 年 ; Units 11-20 will be used in this course.

メッセージ Bring your dictionary and textbook to every class.

連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-------------------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 英語演習(作文) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | EDWARDS NATHANIEL TYLER | | | | |

授業の概要 1) Students will read many different types of English writing as models for their own writing. 2) Useful writing skills and strategies will be reviewed and practiced. 3) Key grammar points will be reviewed and practiced. 4) Students will increase their vocabulary on a variety of topics. 5) Students will learn and use new study techniques. 6) Students will also practice some speaking and listening by discussing their writing in pairs and small groups. / 検索キーワード Writing, Reading, Opinions, Communication

授業の一般目標 This course is for students who wish to improve their English writing and reading skills, using a variety of different types of writing.

授業の計画(全体) (1) Course Introduction- Study Skills, Warm-up Writing Activities. (2) Unit 1- The Classroom Community (3) Unit 2-Stories We Tell (4) Unit 3-Decisions (5) Unit 4-The Importance of Place (6) Review Activities. (7) Unit 5-Looking Outward (8) Unit 6-Learning New Skills (9) Unit 7-Changes (10) Review Activities. (11) Unit 8-Making Judgments (12) Unit 9-The Order of Things (13) Unit 10-The Global Community (14) Review of all units. (15) Final Written Exam.

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Writing Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) Final Written Exam: 20 % of Final Grade. Homework and Reports: 60 % Attitude and Participation: 20 %

教科書・参考書 教科書: Tools for Writing: A Structured Process for Intermediate Students, Linda Fellag & Laura LeDrean, Heinle & Heinle, 1995 年

メッセージ Bring your dictionary and textbook to every class.

連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-------------------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 英語演習(作文) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | EDWARDS NATHANIEL TYLER | | | | |

授業の概要 1) Students will read many different types of English writing as models for their own writing. 2) Useful writing skills and strategies will be reviewed and practiced. 3) Key grammar points will be reviewed and practiced. 4) Students will increase their vocabulary on a variety of topics. 5) Students will learn and use new study techniques. 6) Students will also practice some speaking and listening by discussing their writing in pairs and small groups. / 検索キーワード Writing, Reading, Opinions, Communication

授業の一般目標 This course is for students who wish to improve their English writing and reading skills, using a variety of different types of writing.

授業の計画(全体) (1) Course Introduction- Study Skills, Warm-up Writing Activities. (2) Unit 1- Daily Lives (3) Unit 2-Letter to Friends and Relatives (4) Unit 3-Friends (5) Unit 4-Directions (6) Review Activities (7) Unit 5-Good Days and Bad Days (8) Unit 6-Business Affairs (9) Unit 7-Trips (10) Review Activities (11) Unit 8-Educational Experiences (12) Unit 9-Interesting People (13) Unit 10-Changes (14) Review of all units. (15) Final Written Exam.

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Writing Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) Final Written Exam: 20 % of Final Grade. Homework and Reports: 60 % Attitude and Participation: 20 %

教科書・参考書 教科書: Idea Exchange 2: From Speaking to Writing, Linda Lonon Blanton, Thomson Heinle, 2002 年

メッセージ Bring your dictionary and textbook to every class.

連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英語演習（時事英語） | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | EDWARDS NATHANIEL TYLER | | | | |

授業の概要 1) Students will improve their listening skills by listening to current news stories, and watching short, current news videos on the CNN website. 2) Students will learn and practice new study techniques. 3) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 4) Students will increase their vocabulary on a variety of current news topics. 5) Students will work together in groups to complete discussion activities. 6) Students will improve their English presentation skills. 7) Students will also improve their reading by reading current news articles. / 検索キーワード Speaking, Listening, Current Events, News Stories, Opinions

授業の一般目標 This course is for students who wish to improve their speaking and listening skills, and to increase their vocabulary on a variety of current news topics. There will also be reading assignments for homework.

授業の計画（全体） (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1–U.S. News (3) Unit 2–Politics (4) Unit 3–Business (5) Unit 4–Law (6) Unit 5–Health (7) Unit 6–Entertainment (8) Unit 7–Science and Technology (9) Unit 8–U.S. News 2 (10) Unit 9–Politics 2 (11) Unit 10–Business 2 (12) Unit 11–Law 2 (13) Unit 12–Health 2 (14) Unit 13–Science and Technology 2 (15) Final Written Exam.

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.
- 第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） Final Written Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 50 % Attitude and Participation: 20 %

教科書・参考書 教科書：CNN English Express 9: September 2006, CNN News Network, TimeWarner, 2006 年

メッセージ Bring your dictionary and CNN English Express to every class.

連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米事情 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | EDWARDS NATHANIEL TYLER | | | | |

授業の概要 1) Students will work together in groups to complete discussion activities. 2) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 3) Students will increase their vocabulary and knowledge related to the society and culture of English-speaking countries. 4) Students will improve their reading by reading about the society and culture of English-speaking countries. 5) Students will learn and practice new study techniques. 6) Students will improve their writing by writing short reports. / 検索キーワード Speaking, Listening, Reading, Writing, English-Speaking Countries, Society, Culture

授業の一般目標 This course is for students who wish to learn more about daily life, society, and culture in English-speaking countries. This course includes speaking, listening, reading, and writing practice.

授業の計画 (全体) (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1–U.K. History; British English (3) Unit 2–British Parliament; American English (4) Unit 3–What Britain Looks Like; An American Writer (5) Unit 4–Living in Britain; Ireland (6) Unit 5–Transport; Ireland (7) Unit 6–Customs and Habits; English Places (8) Unit 7–Food and Drink; An Irish Writer (9) Unit 8–The Media; Canada (10) Unit 9–Britain’s Leisure Society; Canada (11) Unit 10–U.K. Youth Culture; Canada (12) Unit 11–U.K. Education System; Canada (13) Unit 12–The School Day; Canada (14) Unit 13–British Industry; A Canadian Writer (15) Final Written Exam.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activity. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法 (総合) Final Written Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 50 % Attitude and Participation: 20 %

教科書・参考書 教科書 : In the English-Speaking World, Goldwright & Olearski (Editors), MacMillan Language House, 1998 年 ; Focus on Britain Today: Cultural Studies for the Language Classroom., Clare Lavery, MacMillan Language House, 1993 年

メッセージ Bring your dictionary and textbooks to every class.

連絡先・オフィスアワー canada1@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|----------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 卒業研究 | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 4単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 岩部浩三, 太田聡, 島越郎 | | | | |

授業の概要 英語学の専門文献を読み、その内容をオーラルレポートする。セメスターあたり2回のプレゼンテーションを2名1組で順次実施する。1回の発表につき、平均8時間の事前指導（授業時間外）が必要になるので、3週間前までに論文を読み疑問点を整理しておくこと。時間外指導を受ける時は、毎回アポイントメントを取って指導を受けること。

授業の一般目標 英語で書かれた専門論文を読みこなす能力を養い、さらにそれをわかりやすくプレゼンテーションをする技術を磨く。与えられた仕事に責任を持ち、パートナーと協調して完全にやり遂げること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 英語の専門論文が読める。内容をわかりやすく説明できる。質問に対して、適切に回答することができる。 **思考・判断の観点：** 論文を読んだり、他人の発表を聞いて、疑問点を簡潔に質問できる。不明な点を洗い出して、調べられる。 **関心・意欲の観点：** 高度な内容をわかるまであきらめずに理解する意欲を持つ。内容を発展させたり、問題点を解決しようと試みる。 **態度の観点：** 1つの仕事をパートナーと協調して責任を持ってやり遂げる。必要なプロセスと時間を見積もり、計画的に作業を進めることができる。 **技能・表現の観点：** 前提となる知識の不足した相手に対して親切な資料を作ることができる。わかりやすく聞き取りやすい言葉で説明できる。

授業の計画（全体） 事前に調整したスケジュール通りに実施する。ただし、変更になることがある。教育実習期間は、オーラルレポート授は中断し、時間外の個別指導にのみ対応する。

成績評価方法（総合） 2回のオーラルレポートとその事前指導を通じて、論文読解、資料作成、プレゼンテーションを評価する。

メッセージ ハンドアウトの作り方、英文レポートの書き方については、下記のURLを参照のこと。
<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/iwabe/oral.htm>

| | | | | | |
|------|----------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 卒業研究 | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 4単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 岩部浩三, 太田聡, 島越郎 | | | | |

授業の概要 英語学の専門文献を読み、その内容をオーラルレポートする。セメスターあたり2回のプレゼンテーションを2名1組で順次実施する。1回の発表につき、平均8時間の事前指導（授業時間外）が必要になるので、3週間前までに論文を読み疑問点を整理しておくこと。時間外指導を受ける時は、毎回アポイントメントを取って指導を受けること。後期は、英文レポートの提出が求められる。

授業の一般目標 英語で書かれた専門論文を読みこなす能力を養い、さらにそれをわかりやすくプレゼンテーションをする技術を磨く。与えられた仕事に責任を持ち、パートナーと協調して完全にやり遂げる

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 英語の専門論文が読める。内容をわかりやすく説明できる。質問に対して、適切に回答することができる。
思考・判断の観点： 論文を読んだり、他人の発表を聞いて、疑問点を簡潔に質問できる。不明な点を洗い出して、調べられる。
関心・意欲の観点： 高度な内容をわかるまであきらめずに理解する意欲を持つ。内容を発展させたり、問題点を解決しようと試みる。
態度の観点： 1つの仕事をパートナーと協調して責任を持ってやり遂げる。必要なプロセスと時間を見積もり、計画的に作業を進めることができる。
技能・表現の観点： 前提となる知識の不足した相手に対して親切な資料を作ることができる。わかりやすく聞き取りやすい言葉で説明できる。正しい英語でレポートを書くことができる。

授業の計画（全体） 前期末までに後期のスケジュール決定し、それに基づいてオーラルレポートを行う。資料も同時に配付する。

成績評価方法（総合） 2回のオーラルレポートとその事前指導を通じて、論文読解力、資料作成、プレゼンテーションを評価する。期末の英文レポートは卒業論文に準ずるものとし、レポートした論文内容からの発展性と、英文表現力を評価する。

メッセージ ハンドアウトの作り方、英文レポートの書き方については、下記の URL を参照のこと。
<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/iwabe/oral.htm>

言語文化学科 独仏語文化論コース

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代ドイツ語概説 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 下寄正利 | | | | |

授業の概要 ドイツ語とはどのような言語なのか、どのような特徴を持っているのかといったことについて、様々な点から論じていく。ドイツ語の知識は必要としない。ドイツ語以外の初習外国語を履修している（あるいは履修した）学生でも理解できるように説明していく。

授業の一般目標 ドイツ語とはどのような言語なのかについてある程度理解していると同時に、ドイツ語学あるいは言語学に興味を持っている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語とはどのような言語なのかについて、ある程度理解している。 関心・意欲の観点：ドイツ語学、あるいは言語学に興味を持っている。

授業の計画（全体） まずドイツ語の発音と綴りについて概略を説明した後、ドイツ語の文法の様々な特徴について解説していく。

成績評価方法（総合） 期末試験により評価する。

| | | | | | |
|------|-------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代ドイツ語概説 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 下寄正利 | | | | |

授業の概要 ドイツ語とはどのような言語なのか、どのような特徴を持っているのかといったことについて、様々な点から論じていく。ドイツ語の知識は必要としない。ドイツ語以外の初習外国語を履修している（あるいは履修した）学生でも理解できるように説明していく。

授業の一般目標 ドイツ語とはどのような言語なのかある程度理解していると同時に、ドイツ語学あるいは言語学に興味を持っている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語とはどのような言語なのかについて、ある程度理解している。 関心・意欲の観点：ドイツ語学、あるいは言語学に興味を持っている。

授業の計画（全体） できるだけ前期の授業とは違ったテーマをとりあげていく。前期の授業を受講していなかった学生がいる場合には、ドイツ語の発音と綴りについてまず簡単に説明する。

成績評価方法（総合） 期末試験により評価する。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 本田義昭 | | | | |

授業の概要 現代ドイツ語の話し言葉では denn, doch, mal などの心態詞と呼ばれる語が頻繁に使われます。これらの語は固有の意味を持っている訳ではありませんが、ある具体的な状況で使われることで、驚き、疑い、促し、了解など、話し手が心に抱いているものを表すシグナルとなり、会話が生き活きてきます。本講義ではこれら心態詞を採り上げ、その用法を説明してゆきます。 / 検索キーワード 現代ドイツ語、話し言葉、会話、ニュアンス

授業の一般目標 心態詞の用法を学ぶことで、現代ドイツ語の話し言葉についての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 心態詞に関する知識を得る。 2 . 現代ドイツ語の会話パターンを習得する。 思考・判断の観点： 1 . 心態詞が日本語ではどのように対応しているか、考察する。 2 . 心態詞の有無によってニュアンスがどのように違って来るか、考える。 関心・意欲の観点： 1 . 心態詞を含むテキストを自分で探してくる。 技能・表現の観点： 1 . 心態詞を含む文を自分で発することができるようになる。

授業の計画(全体) 採り上げる心態詞について、その語の用法を解説し、どのような状況下で使用されるのか、説明して行きます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 推測
- 第 3 回 項目 関心の度合い
- 第 4 回 項目 懐疑
- 第 5 回 項目 驚き
- 第 6 回 項目 苛立ち
- 第 7 回 項目 非難
- 第 8 回 項目 事実の確認
- 第 9 回 項目 依頼
- 第 10 回 項目 要請
- 第 11 回 項目 勧誘
- 第 12 回 項目 勇気づけ
- 第 13 回 項目 もどかしい気持ち
- 第 14 回 項目 共通認識の確認
- 第 15 回 項目 授業のまとめ

成績評価方法(総合) 質問や意見発表など、授業への積極的な参加を重視します。出席が所定の回数に満たない場合は失格となります。

教科書・参考書 教科書：ドイツ語・表現レベルアップー心態詞の使い方、中島耕太郎、同学社、1999年 / 参考書：必要に応じて、授業の中で紹介します。

メッセージ 授業への積極的な参加を期待しています。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 4 階 411 号室

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 鈴木 直樹 | | | | |

授業の概要 この授業では統語論・意味論・形態論からいくつかのテーマをピックアップして、そこにみられる諸現象と導かれるべき適切な結論をみなさんとともに考えていきます。具体的なテーマは受動態・再帰代名詞・能格性・分離名詞句・前綴りと語形成などを予定しています。ドイツ語を主たる対象としますが、必要に応じて英語・オランダ語・デンマーク語・ノルウェー語など他のゲルマン諸語から相応する現象を紹介し、タイポロジカルな視点からドイツ語のありかたを観察します。

授業の一般目標 この授業の一般目標は言語、それも例文を正確に把握し、それを他の例文と比較することによって全体像の中に占める当該例文の位置を判断することにあります。この目標を達成するために、授業の導入部では日本語を題材にしたウオーミングアップを行います。ここで例文を扱う感覚を身につけてください。次にドイツ語の諸現象を観察し、最終的には、必ずしも文法体系を知っているわけではない「他のゲルマン語」であっても、適切な例文が与えられればある程度の予測が可能となることを実体験していきます。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語学で用いる述語、およびその意味を正確に理解すること。
 思考・判断の観点：与えられた言語現象から適切な結論を導くこと。 関心・意欲の観点：ドイツ語のみならず、他のゲルマン語、あるいは日本語に対する興味が喚起されること。 態度の観点：自ら考え、自ら質問する積極的な態度が養われること。 技能・表現の観点：自分の考えを、相手に分かるような表現で、正確に伝えること。 その他の観点：文法とは決して万能選手ではなく、人間言語には説明のつかない現象が多々存在することを認識すること。

授業の計画（全体） 【全体】集中講義【週単位】与えられた授業時間を、上記内容にしたがって、日本語学 ドイツ語学 ゲルマン語学の順序で進めていきます。詳しくは週単位シラバスをご覧ください。ただし、このシラバスに挙げた進捗はあくまでも「目標」で、みなさんの理解の度合いにより実際の進捗とは異なる可能性があります。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本語学 (1) 内容 「は」と「が」
- 第 2 回 項目 日本語学 (2) 内容 受動態
- 第 3 回 項目 日本語学 (3) 内容 後置文
- 第 4 回 項目 ドイツ語学 (1) 内容 再帰代名詞 (a)
- 第 5 回 項目 ドイツ語学 (2) 内容 再帰代名詞 (b)
- 第 6 回 項目 ドイツ語学 (3) 内容 再帰代名詞 (c)
- 第 7 回 項目 ドイツ語学 (4) 内容 状態受動 (a)
- 第 8 回 項目 ドイツ語学 (5) 内容 状態受動 (b)
- 第 9 回 項目 ドイツ語学 (6) 内容 状態受動 (c)
- 第 10 回 項目 ドイツ語学 (7) 内容 能格性 (a)
- 第 11 回 項目 ドイツ語学 (8) 内容 能格性 (b)
- 第 12 回 項目 ドイツ語学 (9) 内容 分離名詞句 (a)
- 第 13 回 項目 ドイツ語学 (10) 内容 分離名詞句 (b)
- 第 14 回 項目 ドイツ語学 (11) 内容 前綴りと語形成 (a)
- 第 15 回 項目 ドイツ語学 (12) 内容 前綴りと語形成 (a)

成績評価方法（総合） 成績は出席、および授業への積極的な参加の二点から総合的に判断して算出します。試験は行いません。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。

メッセージ 分からないことを残して家に帰ると、分からないことが雪ダルマのように膨れ上がり、自信がなくなり、意欲が減退し、勉強することがイヤになってしまいます。この授業は必ずここまで進まなければならないという「制約」がありません。分からないことはその場で積極的に質問し、すべての疑問が解消された状態でその日を終える、というストレスフリーな自分を「自分で作り出す」ように心がけてください。

連絡先・オフィスアワー 相談・質問は以下のメールアドレスで常時受け付けます。 suzumura@hc.cc.keio.ac.jp 内容が複雑な場合、私からの答えもそれなりの長さになる可能性があります。大きな案件には携帯メールを使わず、添付ファイルなどが受け取れる環境で通信されることを希望します。

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|----------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ語学演習(3・4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 下寄正利 | | | | |

授業の概要 ドイツ語で書かれたドイツ語学の文献を読む。

授業の一般目標 ドイツ語学に関する知識を深めるとともに、ドイツ語で書かれた専門文献を一人で読みこなせるだけのドイツ語読解力をつける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語学に関する知識が深まっている。 関心・意欲の観点：ドイツ語研究への関心がより高まっている。 態度の観点：わからないことは徹底的に調べる習慣が身についている。

授業の計画(全体) 1回の授業で、最低でも2ページ進む予定でいる。

成績評価方法(総合) 演習とレポートによる。

教科書・参考書 教科書：コピーを用いる

| | | | | | |
|------|----------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ語学演習(3・4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 本田義昭 | | | | |

授業の概要 ドイツ語学の専門文献を批判的に読んで行きます。 / 検索キーワード ドイツ語学 専門文献

授業の一般目標 ドイツ語学の専門文献を批判的に読みこなす力をつける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語学の専門的知識を習得する。 思考・判断の観点：論の展開の仕方を学ぶ。 関心・意欲の観点：広く言語現象への関心を深める。

授業の計画(全体) 毎回担当者を決めて、担当箇所の概要を説明させた後に、質疑応答の時間を設け、理解をより一層深める。

成績評価方法(総合) 授業への積極的参加を重視します。出席率が8割未満の場合は失格とします。

教科書・参考書 教科書：プリントを使用します。 / 参考書：授業の中で紹介します。

メッセージ 授業への積極的な参加を期待しています。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ文学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | Hintereeder-Emde Franz | | | | |

授業の概要 宮崎駿作『アルプスの少女ハイジ』は、日本人なら誰でも知っているし、世界的に有名である。原作品は、スイスの女流作家ヨハンナ・スピーリ (Johanna Spyri, 1827-1901) の代表的な児童文学の『ハイジの修業時代と遍歴時代』(1880年)や『ハイジは習ったことを使うことができる』(1881年)である。原作のタイトルは、ドイツ文学の文豪ゲーテの代表作『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』(1795 / 96年)と『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』(1821年)の意識したもので、教養小説の伝統をついでいる作品でもある。 / 検索キーワード スイス文学、児童文学、異文化理解、ドイツ文学

授業の一般目標 この講義では、『アルプスの少女ハイジ』を出発点にしながら、アニメの映像を取り入れて、原作と比較する一方、「スイス」という文化的なイメージと現実のスイスの差異を論じる。当時の社会、歴史、経済や宗教の意味を把握し、ヨーロッパやドイツ文化圏の多様性を考察したい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：19世紀や世紀末の中央ヨーロッパの文化的な背景を把握することができる。 思考・判断の観点：原文や周辺資料の解読によって、19世紀後半の中央ヨーロッパの時代性や文化的な実体を理解する。 関心・意欲の観点：スイスやドイツ語圏の文学への関心をもって、文化的なイメージや文化の現状について学ぶ。 態度の観点：自分の異文化観(「ハイジのスイス」)を再検討し、さらに異文化理解を深める。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 アニメの「ハイジ」と原作「ハイジ」(1) 内容 アニメのいくつかの場面を選び、現作品と比較する (1)
- 第 2 回 項目 アニメの「ハイジ」と原作「ハイジ」(2) 内容 アニメのいくつかの場面を選び、現作品と比較する (2)
- 第 3 回 項目 アニメの「ハイジ」と原作「ハイジ」(3) 内容 アニメのいくつかの場面を選び、現作品と比較する (3)
- 第 4 回 項目 「ハイジ」と自然 (1) 内容 作品の自然描写について
- 第 5 回 項目 「ハイジ」と自然 (2) 内容 作品の自然描写について
- 第 6 回 項目 「ハイジ」と自然 (3) 内容 作品の自然描写について
- 第 7 回 項目 「ハイジ」と宗教 (1) 内容 作品に描かれた宗教生活について
- 第 8 回 項目 「ハイジ」と宗教 (2) 内容 作品に描かれた宗教生活について
- 第 9 回 項目 「ハイジ」と宗教 (3) 内容 作品に描かれた宗教生活について
- 第 10 回 項目 「ハイジ」と文明 (1) 内容 都会と地方における子供の生活環境
- 第 11 回 項目 「ハイジ」と文明 (2) 内容 都会と地方における子供の生活環境
- 第 12 回 項目 「ハイジ」と文明 (3) 内容 都会と地方における子供の生活環境
- 第 13 回 項目 「ハイジ」と異文化意識 (1) 内容 スイスのイメージと異文化理解
- 第 14 回 項目 「ハイジ」と異文化意識 (2) 内容 スイスのイメージと異文化理解
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：アルプスの少女、(世界の名作全集；14), ヨハンナ・スピーリ作；山口四郎訳, 国土社, 1992年

連絡先・オフィスアワー tel/fax: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp office hour: 木曜日 3・4 時限 (10:20~11:50)

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ文学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 坂本貴志 | | | | |

授業の概要 ドイツおよびヨーロッパの「迷信」について、文学作品、図像の紹介を交えて講義する。/
 検索キーワード 悪魔、魔女、占星術、霊媒師、幽霊、人魚、カリオストロ、フランス革命、記憶のモン
 タージュ。

授業の一般目標 迷信についての知識を得る。

成績評価方法 (総合) レポート発表による。

| | | | | | |
|------|-----------------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ文学演習(3・4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | Hintereder-Emde Franz | | | | |

授業の概要 ドイツ文学はドイツやヨーロッパの文化と密接に絡み合っている。総体的な理解には文学の材料になる文化要素の知識や全体的な視野が欠かせない。ドイツ文化を、様々な側面において勉強していく。目的はドイツ語圏文化の総合的な知識や理解である。/検索キーワード ドイツ語圏文学、ドイツ文化圏、文化理解

授業の一般目標 ドイツ語圏の歴史を始め、社会、政治制度、地理、気候、日常文化や文学などの各分野の概略を把握できるように文献、新聞記事、インターネットなど様々なメディアを通じて勉強する。ドイツ語の資料も含めて、できるだけドイツ語で授業を進める。ドイツ文化に関連した研究文献などを読み、定期的に授業で発表や紹介をしてもらう。資料の分析や発表の技術にも重点を置く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ヨーロッパの文化を背景とするドイツ語圏の文化を理解する。
 思考・判断の観点：資料を文化的背景に関連づけて理解できること。 技能・表現の観点：ドイツ語の資料を分野に従って収集・分析すること。 その他の観点：論点をまとめ、分かりやすく発表すること。

授業の計画(全体) 演習は次の四つの分野にわたりますが、順番や内容には、演習の展開や進み方によって変更があり得ます。 題1部：19世紀から現代までのドイツの歴史(1)第二ドイツ帝国の設立前後。(2)第1・第2世界大戦の背景(3)戦後ドイツからドイツ再統一まで 第2部：ドイツの地理・社会・行政・政治(1)ドイツの地理(地方・川・山脈・都市・州)(2)連邦制、教育制度、環境問題と環境保護、地域文化(3)国家、政党、選挙、社会団体(若者、女性、外国人)

成績評価方法(総合) 1. 授業での発表(纏め方、メディアの適切な使い方、資料の提示)(40%) 2. 授業内外のドイツ語のレポート(ドイツ語の文書を書く努力、上達への努力)(40%) 3. 授業への参加、貢献(関心をもって、積極的な態度)(20%)

教科書・参考書 教科書：資料は適宜に紹介、又は配分する。/参考書：授業で紹介する。

メッセージ 異文化理解には、自分の文化への関心も欠かせない。ノートパソコンを授業で使う。

連絡先・オフィスアワー tel/fax: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp office hour: 木曜日 3・4 時限(10:20~11:50)

| | | | | | |
|------|-------------------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ文学演習(3・4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | Hintereeder-Emde, Franz | | | | |

授業の概要 ドイツ文学はドイツやヨーロッパの文化に織り込まれています。相対的な理解には文学の材料になる文化分子の知識や全体的な視野が欠かせません。この演習ではドイツ関係の情報やニュース、又は、文学・芸術作品などをドイツ文化の文脈において相応しく位置づけられるが重要です。そのために、ドイツ文化を、様々な側面において勉強していきます。目的はドイツ語圏文化の総合的な知識や理解です。/ 検索キーワード ドイツ文化、ドイツ文学、文化理解、ドイツ語圏

授業の一般目標 ドイツ語圏の歴史を始め、社会や政治制度や地理や気候、日常文化や文学などの各分野の概略を把握できるように文献、新聞記事、インターネットなど様々なメディアを通じて勉強します。ドイツ語の資料も含めて、ドイツ語で授業を進みます。ドイツ文化の関連した研究などを読書し、定期的に授業で紹介してもらいます。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ヨーロッパの文化を背景とするドイツ語圏の文化を理解する。
 思考・判断の観点：資料を文化的背景に関連づけて理解できること。 態度の観点：ドイツ語の資料を分野に従って収集・分析すること。 その他の観点：論点をまとめ、分かりやすく発表すること。

授業の計画(全体) 第1部：ドイツの日常生活(1)仕事と休み(2)娯楽(映画、音楽、遊び、スポーツ)(3)食生活 第2部：ドイツ文化表現としての芸術や音楽(様式や概念)(1)絵画(2)芸術(3)音楽

成績評価方法(総合) 1. 授業での発表(纏め方、メディアの適切な使い方、資料の提示)(40%) 2. 授業内外のドイツ語のレポート(ドイツ語の文書を書く努力、上達への努力)(40%) 3. 授業への参加、貢献(関心をもって、積極的な態度)(20%)

教科書・参考書 教科書：資料は適宜に紹介、又は配分する。/ 参考書：授業で紹介する。

メッセージ 異文化理解には、自分の文化への関心も欠かせない。ノートパソコンを授業で使う。

連絡先・オフィスアワー tel/fax: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp office hour: 木曜日 3・4 時限(10:20~11:50)

| | | | | | |
|------|----------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ文学演習(3・4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 坂本貴志 | | | | |

授業の概要 ドイツの迷信的世界について勉強する。

授業の一般目標 ドイツの迷信的世界についての知識を得て、ヨーロッパ文化に対する理解を深める。

授業の計画(全体) 上記テーマについて文献および資料を集めて分析し、対話的に理解する。

成績評価方法(総合) 各回のプレゼンテーション(和訳)と期末レポートによる。

教科書・参考書 教科書：テキストはコピーしたものを配布する。

| | | | | | |
|------|----------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ文学演習(3・4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 坂本貴志 | | | | |

授業の概要 ドイツの迷信的世界について勉強する。

授業の一般目標 ドイツの迷信的世界についての知識を得て、ヨーロッパ文化に対する理解を深める。

授業の計画(全体) 上記テーマについて文献および資料を集めて分析し、対話的に理解する。

教科書・参考書 教科書：適宜指示する。 / 参考書：適宜指示する。

| | | | | | |
|------|------------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | ドイツ文学講読(小説)(2年生) | 区分 | 講読 | 学年 | 2年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 下寄正利 | | | | |

授業の概要 基本的には1年次でドイツ語を履修していない学生のためのドイツ語の速習コースであるが、1年次でドイツ語を学んだ学生も初級文法の復習のために受講してかまわない。但し、受講できるのは2年生のみである。ドイツ語の初歩を市販の入門書を用いて一通り学習した後、もしできたら簡単なドイツ語のテキストを読む。

授業の一般目標 ドイツ語の初歩を理解しているとともに、ドイツ語やドイツ語圏の国々の文化にこれまで以上に強い興味を持っている

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語の初歩を理解している。 関心・意欲の観点：ドイツ語やドイツ語圏の国々の文化に強い興味を持っている 態度の観点：自ら学習する態度を身につけている。

授業の計画(全体) ドイツ語の入門書を用いてドイツ語の初歩を勉強し、もし時間があるようなら、少し長いドイツ語のテキストを読む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 第1章から第3章 授業外指示 予習、復習
- 第3回 項目 第4章 授業外指示 予習、復習
- 第4回 項目 第5章から第7章 授業外指示 予習、復習
- 第5回 項目 第8章から第10章 授業外指示 予習、復習
- 第6回 項目 第11章から第13章 授業外指示 予習、復習
- 第7回 項目 第14章から第16章 授業外指示 予習、復習
- 第8回 項目 第17章から第19章 授業外指示 予習、復習
- 第9回 項目 第20章から第22章 授業外指示 予習、復習
- 第10回 項目 第23章から第24章 授業外指示 予習、復習
- 第11回 項目 第25章から第26章 授業外指示 予習、復習
- 第12回 項目 第27章から第29章 授業外指示 予習、復習
- 第13回 項目 第30章から第31章 授業外指示 予習、復習
- 第14回 項目 ドイツ語のテキストの講読 授業外指示 予習、復習
- 第15回 項目 テスト

成績評価方法(総合) 毎時間の演習と期末テストで評価する。

教科書・参考書 教科書：読んでわかるドイツ語, 橋本郁夫、伊藤眞, 同学社, 1998年

| | | | | | |
|------|---------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ文学講読(詩・戯曲) | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 坂本貴志 | | | | |

授業の概要 シラー『たくらみと恋』を読む。

授業の一般目標 ドイツ語のお芝居を、頭の中で上演する。

成績評価方法(総合) 授業でのプレゼンテーション(朗読、和訳、芝居の世界に対する理解)と期末レポート。

| | | | | | |
|------|---------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ文学講読(詩・戯曲) | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 坂本貴志 | | | | |

授業の概要 シラー『たくらみと恋』を読む。/検索キーワード シラー、悲劇。

授業の一般目標 ドイツ語のお芝居を、頭の中で上演する。

成績評価方法(総合) 授業でのプレゼンテーション(朗読、和訳、芝居の世界に対する理解)と期末レポート。

教科書・参考書 教科書: Reclam 文庫のコピーを配布する。

| | | | | | |
|------|-----------------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ文学講読(エッセイ・批評) | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | Hintereder-Emde Franz | | | | |

授業の概要 色々なドイツ文化圏やヨーロッパに関する今日的な話題を取り上げているエッセイや新聞記事やインターネットのホームページなどの資料を解読する。ドイツ社会における問題(少子化、失業など)、大学や一般教育の危機や、いまはやりのファッションやライフスタイルなどを扱うテキストを通じて、今日のドイツ人の生活感や考え方を考察する。/検索キーワード ドイツの日常文化

授業の一般目標 文学理解に欠かせない、現代ドイツの歴史、社会や日常生活を様々なメディアを通じて勉強する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: ドイツやヨーロッパの社会や文化への関心や理解を深める。 関心・意欲の観点: 自発的にドイツ語の資料を読み進め、積極的にドイツ語の語彙や解読力を増やし、内容について討論をする。 技能・表現の観点: 資料の収集や纏め、そして発表の方法を取得する。

教科書・参考書 教科書: 授業でコピーを配ります。

連絡先・オフィスアワー mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp tel/fax: 933-5287 office hour: 木曜日 3・4 (10:20~11:50)

| | | | | | |
|---|------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ文学講読(エッセイ・批評) | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | Hintereder-Emde, Franz | | | | |
| <p>授業の概要 色々なドイツ文化圏やヨーロッパに関する今日的な話題を取り上げているエッセイや新聞記事やインターネットのホームページなどの資料を解読する。ドイツ社会における問題(少子化、失業など)、大学や一般教育の危機や、いまはやりのファッションやライフスタイルなどを扱うテキストを通じて、今日のドイツ人の生活感や考え方を考察する。</p> <p>授業の一般目標 文学理解に欠かせない、現代ドイツの歴史、社会や日常生活を様々なメディアを通じて勉強する。</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点: ドイツやヨーロッパの社会や文化への関心や理解を深める。 関心・意欲の観点: 自発的にドイツ語の資料を読み進め、積極的にドイツ語の語彙や解読力を増やし、内容について討論をする。 技能・表現の観点: 資料の収集や纏め、そして発表の方法を取得する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 授業でコピーを配ります。</p> <p>連絡先・オフィスアワー mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp tel/fax: 933-5287 office hour: 木曜日 3・4 (10:20~11:50)</p> | | | | | |

| | | | | | |
|------|-----------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | ドイツ語演習(会話)(2年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 2年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | DobraFelicitas | | | | |

授業の概要 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせる、言い換えれば、一年目に学んだことを復習し、確かなものにするを目的とする。文型は、より意識的に応用されなければならない。これらの文型は、学生によってパートナー練習やグループ練習の中で練習され、学生の生活やさまざまなコミュニケーションの状況に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。

授業の一般目標 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニケーションに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。授業の重点は、教科書の題名に示唆されている「問題発見」にある。学生は、これまでに学んできたことを思い出しながら、世界についての自己の知識を活用して、比較的最近に学んだ新しい言語で言い表すことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。音声練習が学生の理解を助け、聴解力を鍛えるであろう。自分自身が話すときにはなまりがあるにしても、大きな声ではっきりと話すように努めるべきである。**思考・判断の観点：**学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようになる。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。多くの自主性が要求される。**関心・意欲の観点：**学生と教師は、感情を通わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌および自由会話練習(プリント無し)によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていくべきである。**技能・表現の観点：**学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。**その他の観点：**本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Lektion 1 内容 聞き取り CD 1 / CD 2 / IX ペ - ジ > テーマ: 聞き取り / 人々の生活 / 仕事 / 趣味 / 勉強 / 家族 / テーマ: 自己紹介 文法: 人称変化 練習: 自己紹介 授業外指示 2 格 練習: 1~5 ペ - ジ とプリント
- 第 2 回 項目 Lektion 1 内容 テ - マ: 数詞 Ordnungszahlen それはだれの物ですか 練習: 自己紹介 文法: 2 格 授業外指示 2 格 練習: 1~5 ペ - ジ とプリント
- 第 3 回 項目 Lektion 1 Lektion 2 の始め 内容 テ - マ: 大学の勉強と休み / 友だち / クラブ 授業外指示 練習: ドイツの学生 とあなたたちの 夏休: 6 ペ - ジ
- 第 4 回 項目 Lektion 2 内容 テ - マ: Lebenslauf 大学の勉強と休み / 友だち / クラブ / ドイツの学校 / ドイツの大学 授業外指示 現在完了形 + 過去形 8-9 ペ - ジ 接続詞 "während" "als" "wenn" "weil" + "da" "obwohl" "dass" "ob" 練習: 9-11 ペ - ジ とプリント あなたたちの ライフ子どもの 頃 / 学生の 頃
- 第 5 回 項目 Lektion 2 Lektion 3 の始め 内容 テ - マ: ドイツの学校のシステム / 過去形 / 現在完了形 公共の建物に関する語彙 文法: 定冠詞、序数 授業外指示 お祖父さんのライフ 12 ペ - ジ
- 第 6 回 項目 Lektion 2 内容 テ - マ: ドイツの学校のシステム / 過去形 / 現在完了形 授業外指示 復讐 Lektion 1 + 2
- 第 7 回 項目 Lektion 1 と 2 内容 テ - マ: ペ - パ - テスト Lektion 1 と Lektion 2

- 第 8 回 項目 Lektion 3 Lektion 3 内容 テ - マ : 物と物の色 / 物の種類 / よふく / 代名詞の変化 文法 : 動詞の格 支配、前置詞、不定冠詞、否定 冠詞 (20-21 ページ) 人称代名 詞の 1 格と 4 格 授 業外指示 形容詞の変化
- 第 9 回 項目 Lektion 3 内容 テ - マ : 忘れ物 / モデルダやログ + CD 1 1 4 ペ - ジ 授業外指示 練習 : 17 ペ - ジ とプリント
- 第 10 回 項目 Lektion 3 内容 テ - マ : 人びとの洋服と物 (色 / 大きさ / 形 : < 1 7 - 1 8 ペ - ジ 授業外指示 Sketch を書いてそして演技をして下さい。
- 第 11 回 項目 Lektion 4 Lektion 5 の始め 内容 テ - マ : ペ - パ - テスト Lektion 3 スタア - ト Lektion 4 テ - マ : 手紙を書く 1 9 + 2 1 ペ - ジ / 比較級 / 最上級 授業外指示 比較級 と 最上級 手紙を書く 物を比べる 人びとを比べる 練習 : 19 ~ 24 ペ - ジ とプリント
- 第 12 回 項目 Lektion 4 内容 形容詞の比較級 2 格をとる前置詞 練習 2 1 ペ - ジ ~ 2 4 ペ - ジ 授業外指 示 プリント Sketch を書い て、覚えてと 演技して。
- 第 13 回 項目 Lektion 4 と 5 内容 Lektion 4 : テ - マ : ペ - パ - テスト Lektion 4 とスタ - ト Lektion 5 テ - マ : 貴方は朝に何をしますか。風を曳いたかな再帰代名詞 会話テストのアド バイス 授業外指示 会話テストの準備
- 第 14 回 項目 Lektion 5 内容 テ - マ : 天気 / 体 / 病気と体の手入れ / 文法 : 再帰動詞と再帰代名詞 / "es" / 天気 練習 2 7 ペ - ジ 会話テストのアドバイス 授業外指示 会話テストの準備
- 第 15 回 項目 Lektion 5 内容 家族 : 身長、体 Sketch 28 ペ - ジビデオ / 授業外指示 練習 29 ~ 30 ペ - ジ

成績評価方法 (総合) 期末試験 : 筆記テスト (L.6) と会話テスト (Lektion 1-5) (どちらも定期試験期間 中に 実施)

教科書・参考書 教科書 : Modelle 2, Andreas Riessland / Ikumi Waragai/Goro Christoph Kimura/Fumiya Hirataka, Sanshusha, 2005 年 ; CD 付き モデル 2 問題発見のドイツ語 / アンドレアス リ - スラント / 藁谷 郁美 / 木村悟郎 クリストフ / 平高 史也 / 東京 : 三修社、2 0 0 5 . ISBN4-384-13076-7 C1084. 2.700 円

連絡先・オフィスアワー 授業のあといつでもいいです / dobra@yamaguchi-u.ac.jp 宇部医学部の研究室 の電話番号 :(月 / 金 (0 8 3 6) 2 2 - 2 1 8 7 オフィスアウア - : 金曜日 : 1 2 : 3 0 時 ~ 1 4 : 0 0 時 山口吉田研究室 : 水曜日 1 2 : 3 0 時 ~ 1 4 : 0 0 時

| | | | | | |
|------|-----------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | ドイツ語演習(会話)(2年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 2年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | DobraFelicitas | | | | |

授業の概要 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせる、言い換えれば、一年目に学んだことを復習し、確かなものにするを目的とする。文型は、より意識的に応用されなければならない。これらの文型は、学生によってパートナー練習やグループ練習の中で練習され、学生の生活やさまざまなコミュニケーションの状況に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。

授業の一般目標 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニケーションに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。授業の重点は、教科書の題名に示唆されている「問題発見」にある。学生は、これまでに学んできたことを思い出しながら、世界についての自己の知識を活用して、比較的最近に学んだ新しい言語で言い表すことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。音声練習が学生の理解を助け、聴解力を鍛えるであろう。自分自身が話すときにはなまりがあるにしても、大きな声ではっきりと話すように努めるべきである。**思考・判断の観点：**学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようになるなければならない。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。多くの自主性が要求される。**関心・意欲の観点：**学生と教師は、感情を通わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌および自由会話練習(プリント無し)によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていくべきである。**技能・表現の観点：**学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。**その他の観点：**本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Lektion 6 内容 テーマ：書体 / 約束 / 集まりの所を調べる / 来れない理由 / 文法：不定詞と”zu” 再帰代名詞と再帰動詞 4格と3格 ”sich treffen (mit)” ”sich freuen auf” ”jemandem passieren” 授業外指示 会話練習 31 33 ページ
- 第 2 回 項目 Lektion 6 内容 テーマ：パーティに何を忘れない方がいいですか。 文法：不定詞と”zu” 授業外指示 会話練習 33 34 ページ
- 第 3 回 項目 Lektion 6 内容 テーマ：パーティの準備 授業外指示 Sketch と Sketchuebung 34(33) ページの会話
- 第 4 回 項目 Lektion 7 内容 会話テスト Lektion 6 スタート Lektion 7 テーマ：日本 / 日本文化 / 日本語 / 何つもりで日本に行きますか。 文法：不定詞と ”um...zu” ”ohne zu” 授業外指示 何つもりでドイツに行きますか。 39 ページの会話
- 第 5 回 項目 Lektion 7 内容 テーマ：思いで / 趣味 興味 / 趣味 文法：再帰代名詞と再帰動詞 ”sich interessieren fuer” / ”sich beschaeftigen mit” / ”sich erinnern an” / ”sich kuemmern um” / ”sich freuen auf” / ”sich freuen ueber” 授業外指示 自分のダイヤログを作って下さい。 練習 4 2 ページ
- 第 6 回 項目 Lektion 8 内容 テーマ：会話テスト Lektion 7 / スタート Lektion 8 : テーマ：大学のキャンパス 色んな建物 / 講義室 / 図書館 / センター / 大学の歴史 文法：受動態 授業外指示 43 ページのボタン と練習

- 第 7 回 項目 Lektion 8 Lektion 8 の始め 内容 テーマ: 大学 受動態に付いての "werden" 未来形の "werden" 何何になるの "werden" 授業外指示 Sketch Sketchuebung 46(45) 47 ページ自分の大学紹介して下さい。
- 第 8 回 項目 Lektion 8 内容 テーマ: "werden" のバリエーション 文法: 分離動詞 (45-47 ページ) 練習: 分離動詞 の会話練習 (ワークシート) (45-47 ページ) 授業外指示 "werden" のバリエーションの会話: 私は何何になりたい。父は私何何をじゃめさせた。明日から必ずドイツ語を勉強します。48 ~ 49 ページの会話練習 / テーマ: 古里
- 第 9 回 項目 Lektion 9 内容 Lektion 8 の会話テストスタート Lektion 9 テーマ: / 愛 / 人びとのことを記述する 文法: 副文 / 関係代名詞 / 名詞になる形容し 授業外指示 練習 51 ページ
- 第 10 回 項目 Lektion 9 内容 テーマ: 舞姫 (小階森の小説) 授業外指示 Sketch と Sketchuebung 54(53) ページ 練習 53 ページ
- 第 11 回 項目 Lektion 9 Lektion 9 内容 テーマ: 愛 / 建物 / 所 / 有名な人 Lektion 9 の続き 文法: 復習、所有冠詞 (51-52 ページ) 授業外指示 会話: 貴方のパートナー - 55 ページと 何ですか。(関係代名詞を使って下さい。56 ページ)
- 第 12 回 項目 Lektion 10 内容 テーマ: お願い 文法: 接続法 "koennen" "haben" "sein" "werden" の接続法 授業外指示 クラスの会話パートナー - に何何をお願いして。61 62 ページ
- 第 13 回 項目 Lektion 10 内容 文法: 復習不定詞と "zu" 授業外指示 Sketch Sketchuebung 60 (59) ページ
- 第 14 回 項目 Lektion 11 Lektion 9 Lektion 10 の始め 内容 テスト Lektion 10 スタート Lektion 11 テーマ: もし... Was wuerden sie machen, wenn ...? 文法: 接続法 ペーパー - テストと会話テストのためにアドバイス 授業外指示 練習 63 65 ページ
- 第 15 回 項目 Lektion 11 内容 テーマ: Was wuerden Sie tun, wenn ... 授業外指示 Sketch Sketchuebung 66(65) ページ 練習 67 ページ

成績評価方法 (総合) 定期試験: 筆記試験 (45 分) 会話試験 (定期試験期間中に実施)

教科書・参考書 教科書: Modelle 2, Andreas Riessland, Sanshusha, 2004 年; アンドレアスリ - スランド / 藁谷郁美 / 木村ごろうクリストフ / 平高史也 モデル 2 CD 付き問題発見のドイツ語 三修社: 2005 .ISBN4-384-13076-7 C1084.2700 円

連絡先・オフィスアワー 授業のあといつでもいいです / dobra@yamaguchi-u.ac.jp 宇部医学部の研究室の電話番号: (月 / 金 (0836) 22-2187 山口吉田研究室 12:30 時 ~ 14:00 時

| 開設科目 | ドイツ語演習(会話)(3・4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
|--|-------------------|----|-----|-----|--------|
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | Felicitas Dobra | | | | |
| <p>授業の概要 コミュニケーション手段としてのドイツ語を勉強します。2年次に学習したドイツ語文法をふまえて会話の練習を主にします。文法も学習しますが、これはほとんど2年次の復習です。</p> <p>授業の一般目標 ドイツ語会話の基礎的能力をふまえ、より高いレベルでの会話技術を身につけることを目標とします。ドイツ後劇はフリ-コミュニケーションのためにします。コミュニケーションの間口だけ使いません。しかし体を使います。そして気持ちを入れます。</p> <p>授業の到達目標 / 技能・表現の観点： ディスカッションを通して与えられた問題を解決する・子供時代の夢、思い出を話す・自分の将来の夢、希望を話す・気持ち、興味を表現する・ドイツの過去、現代社会における家庭の役割を学び、日本のそれと比較する等、自分の考えをドイツ語で表現できるようになる。</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 テキスト Lektion 1 内容 Goro will nach Deutschland fahren [Sie auch ?] Reisevorbereitungen 授業外指示 Print Ihre Gepaeckliste ティスカッション： Was brauchen Sie? Was brauchen Sie nicht? 復習： 話法の助動詞 ”muessen” ”duerfen” ”koennen”</p> <p>第2回 項目 テキスト Lektion 1 内容 Schluesselsatze [keysentences] Sketch + Video 2~4 ペ - ジ 授業外指示 Fragen zum Text Goros Gepaeckliste 3 ペ - ジ</p> <p>第3回 項目 テキスト Lektion 1 内容 Sketch/ Video (問題の話し / そして問題を討論する) 5 ペ - ジ 接続法 ”sollte” 授業外指示 聞き取り 6 ペ - ジ 自分でスケッチを書く 4~6 ペ - ジ / 二人の友だちは話します。 テ - マ： 旅行の準備</p> <p>第4回 項目 テキスト Lektion 2 内容 テ - マ： Anmeldung zum Sprachkurs ”doch” テ - マ： Was tun Sie, wenn Sie einen Deutschen nicht verstehen? 7~8 ペ - ジ Schluesselsaetze 8 ペ - ジ 授業外指示 練習： 3： 9 ペ - ジ</p> <p>第5回 項目 テキスト Lektion 2 内容 Sketch/ Video 10 ペ - ジ 授業外指示 Fragen zum Sketch： 9 ペ - ジ 練習： Anwendung 5 と 11 ペ - ジ 聞き取り + 質問 12 ペ - ジ</p> <p>第6回 項目 テキスト Lektion 3 内容 Im Studenten- wohnheim (寮で)： 13 ペジ 家具 / 部屋 / 物 授業外指示 寮のここの話し 14~15 ペ - ジ</p> <p>第7回 項目 テキスト Lektion 3 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 15~16 ペ - ジ 授業外指示 自分でスケッチを書く 16~17 ペ - ジ 練習： 17~18 ペ - ジ 聞き取り： 18 ペ - ジ ペーパーテストの準備 Wortbildung</p> <p>第8回 項目 ペーパーテスト Lektion 1 bis 3</p> <p>第9回 項目 テキスト Lektion 4 内容 Wie waere es, wenn...19 ペ - ジ Schluesselsaetze 授業外指示 練習： 21 ペ - ジ 約束を相談する 21 ペ - ジ</p> <p>第10回 項目 テキスト Lektion 4 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 21~22 ペ - ジ 授業外指示 約束を相談する 22~23 ペ - ジ 24 ペ - ジ 友だちを招待する 友だちとおもしろいプランのことで話す 24 ペ - ジ 問題を討論する 25 ペ - ジ</p> <p>第11回 項目 テキスト Lektion 5 内容 Japanische Feste Schluesselsaetze 28 ペ - ジ 授業外指示 練習： Sprache in der Praxis 28~29 ペ - ジ</p> <p>第12回 項目 テキスト Lektion 5 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 29~30 ペ - ジ 授業外指示 三人でスケッチで出てください。 練習： 31 ペ - ジ Obon 聞き取り： 32 ペ - ジ 聞き取り</p> <p>第13回 項目 テキスト Lektion 5 内容 Bestellen und bezahlen im Restaurant (im Biergarten) 33 ペ - ジ Schluesselsaetze 34 ペ - ジ 授業外指示 Wortbildung： 形容詞 34 ペ - ジ 注文すると払う 35 ペ - ジ 聞き取り 35 ペ - ジ Sketchuebung 37 ペ - ジ 練習： 37 ペ - ジ</p> | | | | | |

- 第 14 回 項目 テキスト Lektion 6 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 35~36 ペ - ジ 授業外指示
Wortschatzuebung 37 ペ - ジ ペ - パ - テストの準備 / 会話テストの準備
- 第 15 回 項目 テキスト Lektion 6 内容 Julias Tagebuch コリアの日記 38 ペ - ジ 授業外指示 聞き取り
38 ペ - ジ 会話テストの練習

成績評価方法 (総合) 成績は定期試験 (ペーパーテスト・会話テスト) [30 %] 宿題 [10 %] 授業中の
態度 [20 %] 演習 [30 %] 出席 [10 %] で評価します。

教科書・参考書 教科書 : Modelle 3 (CD) + Lehrervideotape, Fumiya HIRATAKA/ Andreas RIESS-
LAND/ Ikumi WARAGAI/ Goro Christoph KIMURA, Sanshusha, 2006 年 ; CD 付き / モデル 3 / 問
題発見のドイツ語 / 平高史也 / アンドレアスリ - スラント / 木村護郎クリストフ / 藁谷郁美 / 東京 : 三
修社、2 0 0 6 ISBN4-384-13077-5 C1084 2800 円

連絡先・オフィスアワー E-mail:dobra@yamaguchi-u.ac.jp 宇部 : 医学部 : TEL:0836-22-2187 オフフィス
アワー - : 金曜日 : 1 2 : 0 0 時 ~ 1 4 : 0 0 時 山口吉田研究室 : 水曜日 : 1 2 : 0 0 時 ~ 1 4 :
0 0 時 オフィスアワー : 火曜日、木曜日の授業時間外

| 開設科目 | ドイツ語演習(会話)(3・4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
|--|-------------------|----|-----|-----|--------|
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | DobraFelicitas | | | | |
| <p>授業の概要 コミュニケーション手段としてのドイツ語を勉強します。2年次に学習したドイツ語文法をふまえて会話の練習を主にします。文法も学習しますが、これはほとんど2年次の復習です。</p> <p>授業の一般目標 ドイツ語会話の基礎的能力をふまえ、より高いレベルでの会話技術を身につけることを目標とします。</p> <p>授業の到達目標 / 技能・表現の観点：ディスカッションを通して与えられた問題を解決する・子供時代の夢、思い出を話す・自分の将来の夢、希望を話す・気持ち、興味を表現する・ドイツの過去、現代社会における家庭の役割を学び、日本のそれと比較する等、自分の考えをドイツ語で表現できるようになる</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 テキスト Lektion 7 内容 Der oeffentliche Verkehr (交通) in Deutschland 39ペ - ジ 命令文 Schluesselsaetze 40ペ - ジ 授業外指示 Wortschatz 動詞 - 名詞 復習：比べる(形容詞) 40ペ - ジ 分利動詞 41ペ - ジ</p> <p>第2回 項目 テキスト Lektion 7 内容 Sketch? Video Sketchuebung 42~43ペ - ジ 授業外指示 練習：43ペ - ジ 難しいことは何ですか。どきどき趣味がトラブルになります。ドイツと日本を比べる。会話パ - トナ - が前に分かりましたこともう一度説明する。カメラ / 電話 / ... を説明するボタンを使う 43ペ - ジ 聞き取り 44ペ - ジ 宿題：Dialogを書く 42ペ - ジ</p> <p>第3回 項目 テキスト Lektion 8 内容 Mein Rucksack ist gestohlen worden 復習：受動態 45~48ペ - ジ Schluesselsaetze 46ペ - ジ 授業外指示 練習：受動態 物を捜す 49ペ - ジ</p> <p>第4回 項目 テキスト Lektion 8 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 46~48ペ - ジ 授業外指示 Sketchを書く、演技をする 50~51ペ - ジ</p> <p>第5回 項目 テキスト Lektion 8 内容 Aus Goros Tagebuch Aus Inges Tagebuch 護郎の日記 インゲの日記 52ペ - ジ 授業外指示 聞き取り 52ペ - ジ 宿題：あなたたちにはもうトラブルがありましたか。</p> <p>第6回 項目 テキスト Lektion 9 内容 Kennen Sie Bamberg? (Staedte in Japan?) 53~54ペ - ジ Schluesselsaetze 授業外指示 練習：54~55ペ - ジ</p> <p>第7回 項目 テキスト Lektion 9 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 55~56ペ - ジ 授業外指示 読む：質問：答え 57ペ - ジ</p> <p>第8回 項目 テキスト Lektion 9 内容 Mir gefaellt ... Gebaeude, Bilder, ... 私は好きな建物、え 57ペ - ジ Berlin ベルリンの歴史 授業外指示 練習：動詞をえらぶ 58ペ - ジ 宿題：作文をかく 57ペ - ジ</p> <p>第9回 項目 テキスト Lektion 10 内容 "sagen"/"sprechen"/"erklaren"/"behaupten"/"meinen" 接続法1 「レポ - トで」 59~61ペ - ジ Schluesselsaetze 60ペ - ジ 授業外指示 練習："sagen"/"sprechen"/"erklaren"/"behaupten"/ 59~61ペ - ジ 接続法1：63ペ - ジ</p> <p>第10回 項目 テキスト Lektion 10 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 61~62ペ - ジ 授業外指示 メッセージとインタビューを比べる 63~64ペ - ジ</p> <p>第11回 項目 テキスト Lektion 11 内容 Seine Meinung sagen 65~70ペ - ジ 授業外指示 "doch"/"ja"/"denn"/"einfach"/ 65~66ペ - ジ</p> <p>第12回 項目 テキスト Lektion 11 内容 Schluesselsaetze 66ペ - ジ 授業外指示 討論する：67ペ - ジ</p> <p>第13回 項目 テキスト Lektion 11 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 67~68ペ - ジ 授業外指示 Wie finden Sie das? 69ペ - ジ Eine Meinung 70ペ - ジ レポ - トと会話テストの準備</p> <p>第14回 項目 テキスト Lektion 12 内容 Umwelt (環境) Schluesselsaetze 72ペ - ジ 話法助動詞「受動態で」71~75ペ - ジ 授業外指示 会話テストの準備</p> | | | | | |

第 15 回 項目 テキスト Lektion 12 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 73 ~ 74 ペ - ジ 授業外指示 練習 :
"seit"/"in" + 3 格 - Jahrtausend-en - Jahrhundert-en - kurz-em - lang-em - d-em 19. Jh. -
heute - gestern - vorgestern / d-en achtziger Jahr-en ... ----- m/ cm/mm/kg/m2
1/3 - 3/4 - 1/2 会話テストの準備

成績評価方法 (総合) 成績は定期試験 (30 %)、宿題 (10 %)、授業態度 (20 %)、演習 (30 %)、出席
(10 %) で評価します。

教科書・参考書 教科書 : Modelle 3/ CD + Lehrervideo, Fumiya HIRATAKA/ Andreas RIESSLAND/
Ikumi WARAGAI/ Goro Christoph KIMURA, Sanshusha, 2006 年 ; CD 付きモデル / 平高史也 /
アンドレアス リ - スランド / 藁谷郁美 / 木村護郎クリストフ / 東京 : 三修社、2006 ISBN4-
384-1377-5 C1084 2.800 円

連絡先・オフィスアワー E-mail:dobra@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2187(小串キャンパス) オフィ
スアワー : 火曜日と木曜日の授業外の時間

| | | | | | |
|------|------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ語演習(作文) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 下寄正利 | | | | |

授業の概要 ドイツ語作文の教科書を用いて、ドイツ語作文の訓練を行う。そのほか、数回、何らかのテーマを与え、それについて自由に作文を書いてもらう予定でいる。

授業の一般目標 ドイツ語作文力の向上。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語の初級文法をしっかり身に付けている。 技能・表現の観点：きちんとしたドイツ語を書くことができるのはもちろんのこと、より高度なドイツ語表現ができる。

授業の計画(全体) 独作文の教科書を1冊すべてやり終える予定。またレポートも2~3回課す予定。

成績評価方法(総合) 授業中に行う練習問題の解答、レポート、期末試験による。

教科書・参考書 教科書：日本の出版社から出ている独作文の教科書を用いるが、どの教科書にするかは受講者の顔ぶれを見てから決定する。

| | | | | | |
|------|------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ語演習(作文) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 本田義昭 | | | | |

授業の概要 ドイツ語の初級文法で学んだ事項を組み合わせ、ドイツ語の文章を作成する練習を積み重ねていきます。 / 検索キーワード ドイツ語 文法 独作文

授業の一般目標 ドイツ語の文章を作成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語の文の構造および各文法事項に関する知識を深める。

思考・判断の観点：日本語とは異なる発想に触れて、世界を複眼的にみれるようになる。 関心・意欲

の観点：自分が思っていることをドイツ語という形で発信する積極性を養う。 技能・表現の観点：ド

イツ語の文を作成する能力を養う。

授業の計画(全体) 教科書に沿って練習問題を解きながら、質疑に答え、必要に応じて追加説明して行きます。

成績評価方法(総合) 平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。出席率が8割未満の場合は失格とします。

教科書・参考書 教科書：ドイツ語を書いてみよう！, 清野智昭, 白水社, 2002年 / 参考書：必要に応じて、授業の中で紹介します。

メッセージ ドイツ語の基本文を暗記していると、購読や会話にも非常に役立ちます。授業への積極的な参加を期待しています。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|----------------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ語演習(時事ドイツ語・ドイツ事情) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 本田義昭 | | | | |

授業の概要 地理、歴史、政治、経済、社会、文化、衣食住など、現代ドイツに関するテキストを読んでゆきます。 / 検索キーワード ドイツ、地理、歴史、政治、経済、社会、文化、衣食住

授業の一般目標 現代ドイツに関する知識を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 .ドイツに関する基本知識を得る。 2 .ドイツの社会で問題になっている事柄を知る。 思考・判断の観点： 1 .ドイツの出来事の歴史的・社会的背景を考える。 2 .ドイツの出来事が日本や世界にどのような影響を及ぼすかを考える。 関心・意欲の観点： 1 .授業で採り上げるテーマの関連テキストを自分で探し出す。

授業の計画(全体) 今日のドイツを、地理、歴史、政治、経済、社会、文化、衣食住など様々なテーマで採り上げ、関連するテキストを読んでゆきます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要説明
- 第 2 回 項目 再統一後のドイツ
- 第 3 回 項目 ドイツの地理
- 第 4 回 項目 ライン河
- 第 5 回 項目 ドイツの飲食物 1
- 第 6 回 項目 ドイツの飲食物 2
- 第 7 回 項目 ドイツの音楽
- 第 8 回 項目 ドイツの外国人
- 第 9 回 項目 ドイツの学校制度
- 第 10 回 項目 ドイツの新聞・雑誌
- 第 11 回 項目 ドイツの科学技術
- 第 12 回 項目 ドイツの自動車産業
- 第 13 回 項目 ドイツの環境保護
- 第 14 回 項目 ドイツのスポーツ
- 第 15 回 項目 授業のまとめ

成績評価方法(総合) 質問や意見発表など、授業への積極的な参加を重視します。出席が所定の回数に満たない場合は失格となります。

教科書・参考書 教科書： こんにちは! ドイツです, A.Raab/石井, 朝日出版社, 2003 年 / 参考書： 必要に応じて、授業の中で紹介します。

メッセージ 授業への積極的な参加を期待しています。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | フランス語史 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 武本雅嗣 | | | | |

授業の概要 半年間で、インド・ヨーロッパ祖語からラテン語を経て現代フランス語が成立するまでの流れを概観します。

授業の一般目標 古フランス語、中期フランス語、近代フランス語、現代フランス語の特徴を理解する。とくに、近代フランス語が正確に読めるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代フランス語が成立するまでの流れを把握する。思考・判断の観点：古フランス語、中期フランス語、近代フランス語、現代フランス語の特徴を指摘できる。関心・意欲の観点：文献の講読に参加する。技能・表現の観点：文献の読解ができる。

授業の計画（全体）半年間で、インド・ヨーロッパ祖語からラテン語を経て現代フランス語が成立するまでの流れを概観します。古フランス語、中期フランス語、近代フランス語、現代フランス語の特徴を把握していきますが、とくに近代フランス語に関しては、文献を読みます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インド・ヨーロッパ祖語
- 第 2 回 項目 ラテン語
- 第 3 回 項目 ラテン語
- 第 4 回 項目 ラテン語からフランス語へ
- 第 5 回 項目 古フランス語
- 第 6 回 項目 古フランス語
- 第 7 回 項目 古フランス語
- 第 8 回 項目 中期フランス語
- 第 9 回 項目 中期フランス語
- 第 10 回 項目 中期フランス語
- 第 11 回 項目 近代フランス語
- 第 12 回 項目 近代フランス語
- 第 13 回 項目 近代フランス語
- 第 14 回 項目 現代フランス語
- 第 15 回 項目 現代フランス語

成績評価方法（総合）授業への参加：20-40 % レポート：60-80 %

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | フランス語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 武本雅嗣 | | | | |

授業の概要 フランス語のジェロンディフ構文を機能的・認知的観点から分析します。先行研究を紹介し、現在分詞構文との違いについて考察します。

授業の一般目標 フランス語のジェロンディフ構文の形式と意味の連関を把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ジェロンディフ構文と現在分詞構文の間の形式的・意味的相違を説明できる。思考・判断の観点：ジェロンディフ構文をめぐる現象を説明できる。

授業の計画（全体）ジェロンディフ構文と現在分詞構文の間の形式的・意味的相違を捉え、ジェロンディフ構文をめぐる現象を解明する。

成績評価方法（総合）レポート：60-80 % 授業態度や授業への参加度：20-40 %

教科書・参考書 教科書：コピーを配布します。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

| | | | | | |
|------|-----------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | フランス語学演習(3・4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 武本雅嗣 | | | | |

授業の概要 今年度は、*Syntaxe comparee du francais et de l'anglais* の時制・態・法の箇所を読んでいきます。卒業論文を書くための指導も合わせて行っていきます。

授業の一般目標 フランス語で書かれた論考を読むことによって、フランス語学の知識を深めるだけでなく、論文の書き方や議論の展開の仕方も学んでいきます。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：論文を正確に読むことができる。思考・判断の観点：フランス語と英語の時制・態・法の異同を説明できる。態度の観点：講読に参加できる。

授業の計画(全体) 前期のテキストは次のとおりです。Guillemin-Flesher, J. (1993), *Syntaxe comparee du francais et de l'anglais*, pp. 4-61.

成績評価方法(総合) レポート：60% 授業態度や授業への参加度：40%

教科書・参考書 教科書：テキストのコピーを配布します。

メッセージ 毎回予習してくることを。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

| | | | | | |
|------|-----------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | フランス語学演習(3・4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 武本雅嗣 | | | | |

授業の概要 今年度は、*Syntaxe comparee du francais et de l'anglais* の時制・態・法の箇所を読んでいきます。卒業論文を書くための指導も合わせて行っていきます。

授業の一般目標 フランス語で書かれた論考を読むことによって、フランス語学の知識を深めるだけでなく、論文の書き方や議論の展開の仕方も学んでいきます。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：論文を正確に読める。思考・判断の観点：フランス語と英語の時制・態・法の異同を説明できる。態度の観点：講読に参加できる。

授業の計画(全体) 後期のテキストは次のとおりです。Guillemin-Flesher, J. (1993), *Syntaxe comparee du francais et de l'anglais*, pp. 63-105.

成績評価方法(総合) レポート：60% 授業態度や授業への参加度：40%

教科書・参考書 教科書：テキストのコピーを配布します。

メッセージ 毎回予習してくること。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | フランス文学史 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 平山豊 | | | | |

授業の概要 フランスという国の成り立ち、フランス語の形成から説き起こし、ケルト、ラテン、ゲルマン等の諸文化、諸文明やキリスト教精神、封建制度等の背景としての制度や時代精神と文学ジャンルの変遷とのかかわりを概観する。また文学史上に名を残すそれぞれの時代の名作にも触れ、解説をする。

授業の一般目標 (1) 時代とともに移り変わる様々な精神文化について理解を深める。(2) 文学のジャンルや表現形式について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 様々な文学ジャンルと文化的・歴史的背景の理解 関心・意欲の観点: 隔たった時代や世界への想像力

授業の計画(全体) フランス文学の揺籃期間から18世紀の啓蒙の時代まで、年代順にそれぞれの時代の文学の特色と名だたる作品と作家について概説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 シラバス説明成績評価の説明授業の進め方 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 項目 フランス文学の曙 内容 フランス語の形成とその背景について
- 第 3 回 項目 中世前期 内容 聖人伝、武勲詩 Chanson de Roland 等について 授業外指示 今後取り上げることになる翻訳作品の継続の勧め
- 第 4 回 項目 中世前期 内容 トルバドゥールの詩について
- 第 5 回 項目 宮廷風文学 内容 クレチアン・ド・トロワの騎士道物語について
- 第 6 回 項目 宮廷風文学 内容 トリスタン物語について
- 第 7 回 項目 中世後期の町人文学 内容 ファブリオ、Le Roman de Renart について
- 第 8 回 項目 中世後期の抒情詩 内容 フランソワ・ヴィヨンについて
- 第 9 回 項目 ルネッサンス前期 内容 マルグリット・ド・ナヴァールとユマニストについて
- 第 10 回 項目 ルネッサンスの抒情詩と散文 内容 プレイヤッド派について、モンテーニュ
- 第 11 回 項目 17 世紀古典悲劇 内容 コルネーユとラシーヌ
- 第 12 回 項目 17 世紀古典喜劇 内容 モリエール
- 第 13 回 項目 17・8 世紀の小説、書簡文学 内容 ラ・ファイエット夫人、セヴィニエ夫人、アベ・プレヴォーの作品について
- 第 14 回 項目 啓蒙主義の文学 内容 ヴォルテール、ディドロ、ルソーの文学
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 中間試験と授業内レポート 40% 期末試験の代わりにレポート 60% を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書: ほぼ毎回プリント配布 / 参考書: フランス文学案内, 渡辺一夫、鈴木力衛, 岩波書店

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | フランス文学史 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 井上三朗 | | | | |

授業の概要 19世紀前半のフランス文学を問題とする。19世紀前半のフランスの代表的作品を取り上げ、その作品を具体的に検討・分析することをとおして、文学の流れを把握したい。どの作品を取り上げるかといえば、シャトーブリアンの『アタラ・ルネ』、ヴィクトル・ユゴーの『エルナニ』、スタンダールの『赤と黒』、バルザックの『ゴリオ爺さん』を考えている。これらの作品を紹介することによって、フランスの小説がどのようなものであるのか、具体的に知ってもらいたいと願っている。

授業の一般目標 文学史の授業であるが、歴史を前面に出すのではなく、代表的作品を具体的に取り上げることによって、文学の流れの理解を目指す。歴史の話は、ともすれば退屈であり、作品を具体的に知ってもらうことによって、興味が湧けば、実際に読んでもらいたいと願うからである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 19世紀前半の主要な作家や作品を具体的に知り、あわせて、フランス文学の流れを把握できる。 思考・判断の観点： 作家や作品の歴史的背景を学ぶことで、現代において生きることを考察することができる。 関心・意欲の観点： フランス文学への積極的な関心を持つことができる。また、授業で取り上げる作品を実際に読むことができる。

授業の計画（全体） 概要のところでも述べたように、シャトーブリアンの『アタラ・ルネ』、ヴィクトル・ユゴーの『エルナニ』、スタンダールの『赤と黒』、バルザックの『ゴリオ爺さん』という4つの作品を解説、分析したい。それぞれの作品について、3回から4回ほどの時間を充てる予定である。

成績評価方法（総合） 試験の点数と平常点との総合で、成績評価する。

教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。 / 参考書： フランス文学史, 饗庭孝男他, 白水社, 1979年； フランス文学史, 田村毅・塩川徹也, 東京大学出版会, 1995年； 授業中、適宜紹介する。

メッセージ 文学とは、知識ではなく、なによりもまず読むことだと思ふ。できれば、取り上げる作品を読んでもらいたい。

連絡先・オフィスアワー 月曜日 14:30 - 16:00 . 人文学部 613 研究室。

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | フランス文学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 平山豊 | | | | |

授業の概要 20 世紀後半のフランス文学の潮流を、理論的側面と実作との双方で辿ってみる。

授業の一般目標 文学を単に個々の作家の個性の発現としてのみ捉えるのではなく、時代の精神風土と密接に絡み合った流れやうねりとして理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：それぞれの作家の主張や表現法の理解 思考・判断の観点：文学批評には必須の要件

授業の計画（全体） 以下のように大別して講義を進める。Ⅰ ニューヴォー・ロマン及びその周辺の作家たち Ⅱ ニューヴォー・ロマン以後の新しい作家たち Ⅲ 伝統的な作風の作家たち

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ロラン・バルト 内容 『零度のエクリチュール』
- 第 2 回 項目 ナタリー・サロート 内容 『見知らぬ男の肖像』
- 第 3 回 項目 ミッシェル・ビュトール 内容 『心変わり』
- 第 4 回 項目 アラン・ロブ＝グリエ 内容 『新しい小説のために』
- 第 5 回 項目 アラン・ロブ＝グリエ 内容 『嫉妬』
- 第 6 回 項目 クロード・シモン 内容 『フランドルへの道』
- 第 7 回 項目 マルグリット・デュラス 内容 『モデラート・カンタービレ』
- 第 8 回 項目 ル・クレジオ
- 第 9 回 項目 モディアノ
- 第 10 回 項目 亡命作家 内容 クンデラ
- 第 11 回 項目 亡命作家 内容 アゴタ・クリストフ
- 第 12 回 項目 フランソワーズ・サガン
- 第 13 回 項目 フィリップ・トゥーサン
- 第 14 回 項目 タハル・ベン・ジェルーン
- 第 15 回

成績評価方法（総合） レポート 70% 授業参加度 30%

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：その都度適宜指示

| | | | | | |
|------|-----------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | フランス文学演習(3・4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 井上三朗 | | | | |

授業の概要 カール・A・ヴィギアニという人の書いた、アルベール・カミュの『異邦人』にかんする論文を読む。この論文をテキストに用いることで、カミュの『異邦人』の世界をかいま見たい。また文学作品の研究のしかた、論じ方をまなぶことができればと願っている。

授業の一般目標 比較的平易な論文のフランス語を読むことによって、フランス語の読解力を養成することを目指すことは、もちろんであるが、論文を教材にするのであるから、文学作品の分析能力を身に付けることができればと願っている。概要のところでも述べたように、文学研究の際になんらかの参考になれば幸いである。と同時に、思考力、論理を展開する能力がやしなえればと願っている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：論文のフランス語の読解力の向上。 思考・判断の観点：文学作品の分析能力の養成。 関心・意欲の観点：アルベール・カミュの文学世界への関心。

授業の計画(全体) 論文は全体として33頁から成り立つ。1回で1ページ半あまり読み進むことによって、22頁ほど、つまり全体の3分の2程度を読むことを、一応の目標とする。しかし、あまりあせらず、じっくりとフランス語と論文の内容を検討していきたいと考えている。

成績評価方法(総合) 平常点を重視する。授業は受講者に順番にあてて、訳読してもらうので、発表の際の成績がかなり成績評価の比重をしめることになる。定期試験を実施するかどうか、試験の代わりにレポートを課すかどうかは、授業をおこなうなかで、考えていきたい。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：異邦人, アルベール・カミュ, 新潮文庫

メッセージ 授業への積極的な参加を望む。

| | | | | | |
|------|--------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | フランス文学講読(小説) | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 平山豊 | | | | |

授業の概要 自然主義の作家モーパッサンの『女の一生』Une Vie を抜粋テキスト版で読む。

授業の一般目標 文語の時制である単純過去の文章に慣れる。小説の構文や語法に習熟し、読解力をつける。

授業の計画(全体) ヒロインのジャンヌの生い立ちと家族のスケッチに始まり、婚約、新婚旅行、夫ジュリアンの変貌と不倫、ジャンヌのショック等々の有為転変を、分担しながら読み進み、随時、描写や語り方について解説を試みる。

成績評価方法(総合) 定期試験80% 平素の訳読の出来映え 20% の割合で総合評価

教科書・参考書 教科書: 女の一生, 清水正和、ほか, 駿河台出版社

| | | | | | |
|------|-------------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | フランス文学講読(小説)(2年生) | 区分 | 講読 | 学年 | 2年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 井上三朗 | | | | |

授業の概要 これは、フランス語未履修者のための授業である。初級文法の教科書をテキストに用いて、フランス語の読解あるいは会話などに必要な文法事項を学ぶ。

授業の一般目標 読み、書き、話すために必要な文法知識の習得を目指す。

授業の計画(全体) 教科書は全体として12課から成り立つので、1回の授業につき、1課ずつ進むことを目標とする。

成績評価方法(総合) 平常点を重視する。期末試験をおこなうかどうかは未定である。

教科書・参考書 教科書：新12課のフランス語, 土居寛之, 朝日出版社, 1997年 / 参考書：授業中、適宜紹介する。

メッセージ 予習・復習が望まれる。

| | | | | | |
|------|-------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | フランス文学講読(エッセイ・批評) | 区分 | 講読 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 井上三朗 | | | | |

授業の概要 『狭き門』『背徳者』などの小説によって知られる、20世紀フランスの最大の作家のひとりであるアンドレ・ジッドの書いた自伝、『一粒の麦もし死なずば』をテキストに用いる。この作品をじっくり味読・精読することで、文学作品を読むことによるこびを味わいたい。なお、授業では、発音の練習と文法の復習を徹底的におこないたい。

授業の一般目標 自伝というジャンルを知るとともに、文学作品のフランス語の読解力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自伝とは何であるかを学ぶ。 思考・判断の観点：自分の人生の意味を考える。 関心・意欲の観点：他者の生の軌跡に関心を持つ。

授業の計画(全体) 作品は全体として、260頁余りから成るので、もちろん全部を読みとおすことはできない。1回の授業につき、1頁から1頁半読み進むことで、作者の幼年時代・少年時代をかいま見たい。

成績評価方法(総合) 平常点と試験の点数との総合で評価するが、受講者が少人数なので、平常点を重視する。平常点を50%、試験の点数を50%の割合で評価することを考えている。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：一粒の麦もし死なずば、アンドレ・ジッド, 角川文庫, 1971年

メッセージ 授業への積極的・意欲的な参加を希望する。

| | | | | | |
|------|---------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | フランス語演習(会話) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | ジャン＝クロード・ボシール | | | | |

授業の概要 このコースは初級フランス語を総合的にレベルアップさせ、フランス語での基礎的なコミュニケーションに積極的に参加できるような理解力と表現力を習得することを目標にしています。

授業の一般目標 この講座は、フランス語を学ぶ学生のために簡単な挨拶や日常会話を取り入れながら、初級～中級フランス語を習得して伝達力を伸ばすことを目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 漠然とした曖昧な知識ではなくフランス語自体の仕組み、文法を芯から理解することを目標としています。 関心・意欲の観点： フランス語以外のこと(文化、歴史、音楽、雑学)などにも自分から興味を持ち視野を広げ柔軟性のある思考力を養います。

授業の計画(全体) 「基本文型」、「発音」、「重要文法」、「きまり文句」、「会話表現」等をまんべんなく取り入れ、毎回授業には「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、映画等のさまざまな情報を提供します。

成績評価方法(総合) 一回の会話定期考査と平均点(授業態度、出席状況など)を総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書： 自作のプリント

| | | | | | |
|------|---------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | フランス語演習(会話) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | ジャン＝クロード・ボシール | | | | |

授業の概要 このコースは初級フランス語を総合的にレベルアップさせ、フランス語での基礎的なコミュニケーションに積極的に参加できるような理解力と表現力を習得することを目標にしている。

授業の一般目標 この講座は、フランス語を学ぶ学生のために簡単な挨拶や日常会話を取り入れながら、初級～中級フランス語を習得して伝達力を伸ばす。

授業の計画(全体) 「基本文型」、「発音」、「重要文法」、「きまり文句」、「会話表現」等をまんべんなく取り入れ、毎回授業には「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、映画等のさまざまな情報を提供する。

成績評価方法(総合) 一回の会話定期考査と平均点(授業態度、出席状況など)を総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：自作プリント

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | フランス語演習(作文) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 平山豊 | | | | |

授業の概要 フランス語の基本的な文法知識を踏まえ、フランス語特有の成句や熟語を学びながら、動詞を軸としての日本語から自然なフランス語への翻訳を、授業参加者全員で行う。

授業の一般目標 日常生活で使われる平易で自然なフランス語が書けるようになること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：単語や成句表現の習得・日本語の正確な理解 関心・意欲の観点：フランス語の様々な文章表現に触れること 技能・表現の観点：正しい綴り、的確な表現力の習得

授業の計画(全体) 自動詞、他動詞、代名動詞等の動詞の種類別に、また動詞の時制や法を軸に進めていくが、文型や話法についても触れる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文型、自動詞 内容 自動詞を使った様々な表現
- 第 2 回 項目 他動詞構文(1)
- 第 3 回 項目 他動詞構文(2)
- 第 4 回 項目 過去時制 内容 複合過去、半過去の表現
- 第 5 回 項目 代名動詞
- 第 6 回 項目 非人称表現
- 第 7 回 項目 比較の文
- 第 8 回 項目 関係代名詞を使った文
- 第 9 回 項目 単純未来と前未来
- 第 10 回 項目 命令法、不定法
- 第 11 回 項目 疑問副詞、疑問形容詞
- 第 12 回 項目 疑問代名詞
- 第 13 回 項目 受動表現
- 第 14 回 項目 準助動詞 + 不定詞 使役動詞
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 定期試験の成績 70%、日頃の演習での熱意や参加度 30%

教科書・参考書 教科書：初歩のテーマ, 石井精一, 三修社, 2004年 / 参考書：フランス語作文の基礎, 中原俊夫, 白水社, 2004年

| | | | | | |
|------|-------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | フランス語演習(作文) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 平山豊 | | | | |

授業の概要 動詞を軸に、法(mode)、や話法を中心にした仏作文の練習をする。

授業の一般目標 日本語の文を出発点に、直訳のフランス語文に移し変えるのではなく、フランス語の文法規則を踏まえた、自然なフランス語の文を作る練習をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：動詞の法、時制および話法の理解 技能・表現の観点：正確な表現の実現

授業の計画(全体) フランス語で条件法、接続法を使う文の作文、間接話法の文を作る練習をする。次のステップとして或るトピックに基づいた短文を綴って貰う。

成績評価方法(総合) 定期試験70%、平素の授業での練習30%。

教科書・参考書 教科書：中級仏作文, 小林 路易, 白水社, 2003年 / 参考書：フランス語の基礎, 中原, 白水社, 2004年

| | | | | | |
|------|-------------------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | フランス語演習(時事フランス語・フランス事情) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 武本雅嗣 | | | | |

授業の概要 パリの現状を把握するために、刊行されたばかりのパリについて書かれた文献を読んでいく。また、フランスのニュースを見たり読んだりして、現在フランスが抱えている問題について考え、議論していく。

授業の一般目標 フランスの様々な側面を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：パリの現状を把握し、フランスの様々な側面を理解する。 思考・判断の観点：相対的・複眼的な視点を持てるようになる。 態度の観点：毎回予習して来ること。

授業の計画(全体) Sociologie de Paris を読んでいく。また、ビデオやパソコンを使って、現在フランスが抱えている様々な問題を取り上げ、パリおよびフランスについて見識を広げていく。

成績評価方法(総合) レポート：60% 授業態度や授業への参加度：40%

教科書・参考書 教科書：テキストのコピーを配布します。

メッセージ 毎回予習してくること。

| | | | | | |
|------|-------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | フランス語演習(時事フランス語・フランス事情) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 井上三朗 | | | | |

授業の概要 比較的平易なフランス語で書かれたテキストを教科書として用い、最新の社会背景や文化問題など、フランスで起こった様々な時事問題を学ぶ。現代のフランス事情を知り、現代フランスがかかえている問題について考える。

授業の一般目標 時事フランス語の読解力の養成をめざす。初級文法の徹底的な復習もおこなうので、文法的知識の習得も目指す。現代フランス事情への関心を高めることをも目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：時事フランス語の読解力の向上。 思考・判断の観点：異文化に触れることにより、相対的・批判的な視点を持つこと。 関心・意欲の観点：日本人の価値観とは異なった価値観への関心を持つこと。

授業の計画(全体) 教科書は20課から成り、各課には練習問題が付されている。しかし練習問題は省き、本文のみを読み進めることにする。1回の授業につき、1課進むことを目標にし、14課から15課まで読むことにしたい。

成績評価方法(総合) 平常点と試験の点数との総合で評価するが、受講者が少人数なので、平常点に重きを置きたい。平常点を50%、試験の点数を50%の割合で評価したい。

教科書・参考書 教科書：ヴァリエテ・フランセーズ2006, クリスチャン・ボームルー, 朝日出版社, 2006年

メッセージ 毎回の予習が望まれる。

言語文化学科 言語情報論コース

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語学概論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 平野尊識 | | | | |

授業の概要 Hirano. An Introduction to Language and Linguistics. を使って、言語学の様々な分野について科学的にアプローチする。具体的には、人間の言語の特徴、言語能力と言語知識、意味論、言語の普遍性と個別性について考える。音声学と音韻論、統語論については、ユールのテキストを用いて説明する。 / 検索キーワード 言語学、統語論、言語知識、語用論

授業の一般目標 言語学は自然科学的手法を取る。何故自然科学的なのかということ、実際の言語現象を通して理解してもらおう。身近な言語事象を通して、そこにはどのような規則性があるのか、それを発見することによって言語学に興味を持ってもらうのが前期の目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 取扱った内容をその時々授業内で理解できるか。 思考・判断の観点： 問題点を見付けられるか、そしてそれを解決できるか。 関心・意欲の観点： 聴覚的に「言語が存在存在する」ことは疑いない。むしろその言語は、どういう仕組みなのかについて関心を持ってもらいたい。

授業の計画（全体） 人間の言語と動物の言語との相違、言語知識の内在性、歴史言語学、文と単語の関係などについて、具体例を提示しながら説明する。各テーマごとに 2 コマ程度をあてる予定である。

成績評価方法（総合） 定期試験（不定期に中間試験も行う予定） = 80%、宿題 / 授業外レポート = 20%、欠席が多い学生には単位は出せない。

教科書・参考書 参考書： 現代言語学 20 章, ジョージ・ユール, 大修館書店, 1987 年

メッセージ 分からなければ、質問をすること。覚えるよりも考えることに重点を置く。

連絡先・オフィスアワー 人文研究棟 6 1 7、e-mail: takanori@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語学概論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 平野尊識 | | | | |

授業の概要 「ことば」が科学の対象になることを先ず理解してもらおう。具体的に取扱うのは、日本の幾つかの地域を選び、それらの方言のアクセントがお互いにどう異なりどう類似しているかを検討する。そして、それらの相違が決して無秩序なものではないことを確認する。これは、言語の体系(共時態)は過去(通時態)との繋がりを反映しているからである。アクセントでは、鹿児島市、都城市、東京都、京都市を取上げる。また方言全体としては、那覇市、福岡市、山口市も取上げる。/検索キーワード 方言、アクセント、音節、モーラ

授業の一般目標 言語学概論は一年次から受講可能である。従って一番の目標は、受講者に対して言語への興味を喚起することである。従って、受講者にとって身近な方言を講義の材料にする。方言アクセントを通して、「構造」を持った言語を私達が自由に駆使している事実に対して、問題意識を持つように促していきたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：説明を聞いて理解できること。 思考・判断の観点：理解するために自分で考えることができるか、また自分で問題を見付けることができるか。 関心・意欲の観点：身近な現象に興味を持てるか。 技能・表現の観点：理解したこと、考えたことを文章化できること。

授業の計画(全体) テキスト「方言とアクセント」(自家版)に沿って講義を進めていく。先ず方言とは何かについて理論的に検討することから始め、鹿児島市方言、都城方言、京都方言、東京方言のアクセントに関して考察する。各方言については、名詞、動詞、形容詞に絞って母語話者による発音を資料として提示する。

成績評価方法(総合) 定期試験 80%、宿題・授業外レポート 20%。欠席が多いと試験は受けられない。

メッセージ 講義をよく聴くこと。言語学は受身的態度では理解できない。

連絡先・オフィスアワー Office: Jinbun 617, e-mail: takanori@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 歴史言語学 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 乾秀行 | | | | |

授業の概要 ことばは常に変化し続けます。この授業では言語変化の要因とそのメカニズムについて、音、形態、統語、意味、語彙の各レベルから考察します。また、ことばは常に内的要因だけで変化するわけではなく、言語接触による外的要因によっても変化します。系統関係に基づく伝統的な分岐的变化だけでなく、言語接触による収束的变化についても併せて考察します。

授業の一般目標 言語現象を共時的な観点だけでなく、通時的な観点からも考察できるようになる。

授業の計画(全体) 1.音、形態、統語、意味、語彙の各レベルの言語変化について講義します。2.系統論の基礎となる伝統的な方法論およびその問題点について講義します。3.言語連合や接触言語などにみられる収束的变化について講義します。

成績評価方法(総合) 出席点。課題。レポート。

教科書・参考書 教科書：配付資料を用意します。/ 参考書：適宜紹介します。

メッセージ ノートパソコンを使用します。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会言語学 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 乾秀行 | | | | |

授業の概要 どの言語にも辞書には載っていない様々な言語変種が存在します。たとえば「標準語」とよばれているものは、その様々な言語変種のうち、威信のある変種、すなわち、国家がお墨付きを与えた変種と言えます。この授業では、どのような社会的要因が言語運用にどう関わっているかについて、わかりやすいテキストを使って学んでいきます。

授業の一般目標 1 . 社会言語学の基本的な考え方を理解する。 2 . パワーポイントを使ってプレゼンテーションができるようになる。

授業の計画(全体) グループに分かれて、発表形式で授業を行います。発表はパワーポイントを使って行います。

成績評価方法(総合) 出席点。発表。レポート。

教科書・参考書 教科書：社会のなかの言語 現代 社会言語学入門, スザーン ロメイン, 三省堂, 1997 年
メッセージ ノートパソコンを使います。パワーポイントの使い方に関して、事前に特別な準備をする必要はありません。

連絡先・オフィスアワー fl566@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 心理言語学 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 茂呂 雄二 | | | | |

授業の概要 4 月以降に掲示等で発表する。

授業の一般目標 原則、初日に詳しく説明する。なお、初日の 1 時限目は必ず参加することが望ましい。

授業の計画（全体） 原則、初日に詳しく説明する。なお、初日の 1 時限目は必ず参加することが望ましい。

成績評価方法（総合） 出席及びレポート等を総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：4 月以降に掲示等で指示する。 / 参考書：授業中に適宜紹介する。

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 平野 尊識 | | | | |

授業の概要 形態論をテーマに講義を行う。有意味な文を構成するためには単語が一定の規則に従って配列されねばならないように、複雑な単語を形成するためにも、形態素（意味を持った小さな塊）を一定の規則に従って配列する必要がある。このような領域は言語学では形態論という。単語とは何か、単語にはどのような特徴が備わっているかなど基本的なところから、複合語の意味と構造までを取扱う。 / 検索キーワード 単語、複合語、合成語

授業の一般目標 1．単語と形態素 2．複合語を構造的に捉える 3．複合語と合成語 4．日本語以外の言語においてはどうか 5．語構成全般について科学的に捉える能力

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科書を読んで理解できること。 思考・判断の観点：科学的に考察できること。問題点を正しく把握できること。 関心・意欲の観点：日本語の単語構成だけではなく、英語をはじめとするその他の言語の単語構成にまで興味が広がること。 技能・表現の観点：考えた事を第三者に分かるように文章化する。

授業の計画（全体）教科書の内容から見てセメスターを次の4期に分けて進めていく。前半の2期までは、影山の『形態論と意味』、後半ではKatambaのテキストを使う。1．語の基本的特質（第1章）2．語彙意味論（第2章）3．Introduction to word-structure (Ch.2) 4．Types of morpheme (Ch.3)

成績評価方法（総合）学期末試験を中心にする（70％）。授業外レポートと授業への参加状況（30％）。

教科書・参考書 教科書：Morphology, Katamba, Francis, MacMillan, 1993年

メッセージ 予習して出席すること。講義に出て話しを聞き、その時間の中で内容が理解できれば講義の目的は達成できたことになる。

連絡先・オフィスアワー e-mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun 617

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 平野尊識 | | | | |

授業の概要 後期は、セメスターを3期に分けて講義を進める。1. 動詞から名詞へ(影山、第7章) 2. Productivity in word-formation (Katamba, Ch.4) 3. Compound nouns of the type NVn in Japanese: Their formation and relationship to subject/topic. Gengo Kenyu 121: 19-48. / 検索キーワード 複合名詞、語形成、名詞+動詞の連用形

授業の一般目標 複合語がどのような構造から形成されるかを明確にするには、その複合語の構造を把握する必要がある。そしてその構造の背後にどのような一般性、原則が潜んでいるか、それを洞察する能力と体系化する能力を養うことが重要である。そのための一つの練習になればという意図がある。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: テキストを読んで、理解できること。 思考・判断の観点: 科学的に考察できること。 関心・意欲の観点: 日本語についてだけでなく、英語をはじめとするその他の言語の同じような構造にまで関心を広げられるか。 態度の観点: 積極的に授業に参加し、自分自身の見解を述べること。

授業の計画(全体) 授業概要で述べた項目について理解が得られたかどうかを確認しながら、次の項目に進んでいく。講義で使うテキスト、論文を講義前に読んでおくことが前提であり、毎回の講義で内容の理解を図る。語構成と語形成に関して英語、日本語、その他の言語からのデータの分析を行うので、演習形式を取り入れた授業も行う。

成績評価方法(総合) 内容についてのレポートを2回程提出してもらう(30%)。更に学期末試験を行う(70%)。

教科書・参考書 教科書: 形態論と意味, 影山太郎, くろしお出版, 1999年; Morphology, Katamba, Francis, MacMillan, 1993年; Hirano, Takanori. 2002. Compound nouns of the type NVn in Japanese: Their formation and relationship to subject/topic. 『言語研究』121: 19-48(日本言語学会)。

メッセージ 予習をしていくことが前提。内容をその講義の中で理解すること。理解しにくいところは質問すること。

連絡先・オフィスアワー e-mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp, Office: Jinbun 617

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 乾 秀行 | | | | |

授業の概要 世界には様々な言語が話されており、母語である日本語やヨーロッパの主要言語だけを対象に言語の特性を論じてもいつも正しいとは限りません。この授業では、言語類型論関連の主要論文を読みながら、広くいろいろな言語の共時的・通時的言語現象を一つ一つ吟味しながら、考察を加えていきます。前期は「主語」という文法カテゴリーについて考えてみましょう。

授業の一般目標 1. 言語の多様性について理解を深める。 2. 言語の類型化について理解を深める。

授業の計画(全体) グループ毎に発表形式で行います。

成績評価方法(総合) 出席点。テスト。

教科書・参考書 教科書： 配付資料は適宜用意します。

メッセージ ノートパソコンを使用します。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 乾 秀行 | | | | |

授業の概要 世界には様々言語が話されており、母語である日本語やヨーロッパの主要言語だけを対象に言語の特性を論じてもいつも正しいとは限りません。この授業では、言語類型論関連の主要論文を読みながら、いろいろな言語の共時的・通時的言語現象を一つ一つ吟味しながら、考察を加えていきます。後期は「言語類型地理論」について考えてみましょう。

授業の一般目標 1 . 言語の多様性について理解を深める。 2 . 言語の類型化について理解を深める。

授業の計画(全体) グループ毎に発表形式で読んでいきます。

成績評価方法(総合) 出席点。発表。テスト。

教科書・参考書 教科書： 配付資料は適宜用意します。

メッセージ ノートパソコンを使用します。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 角田 太作 | | | | |

授業の概要 日本語を英語など世界の諸言語と比較して、日本語の性質、世界の諸言語の類似する点、相違する点などを考察する。 / 検索キーワード 世界の諸言語、日本語

授業の一般目標 世界の諸言語を幅広く見る視野を身につけること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 世界の諸言語の似ている点と異なる点 2 . 日本語が世界の諸言語の似ている点と異なる点 思考・判断の観点： 日本語や英語などに関する先入観を排除すること。

関心・意欲の観点： 日本語や英語だけでなく、様々な言語に関心を持つこと。 態度の観点： 授業で質問、討論を行うこと。 技能・表現の観点： 自分が考えたことを正確に、簡潔に表現すること。

授業の計画（全体） 予習をしておくこと。授業では、なるべく、教科書にあることの説明に時間をかけないようにして、質問や討論を行いたい。

成績評価方法（総合） 授業外レポートで評価する。

教科書・参考書 教科書： 世界の言語と日本語, 角田太作, くろしお出版, 1991 年

メッセージ 様々な言語に幅広い関心を持って欲しい。似ている点もあり、違う点もある。大変、興味深い。

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|--------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 言語学演習(音声と音韻) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 乾 秀行 | | | | |

授業の概要 言語音は母音と子音に分かれますが、それぞれの母音や子音はどのような音響的な特徴を持っているのでしょうか？また、単語にはアクセントがあり、文にはイントネーションがあります。これらは音響的にはどのようなピッチ曲線を描き、それをヒトはどのように捉えているのでしょうか？この授業では音声分析ソフトを使いながらこのようなことを確かめてみましょう。

授業の一般目標 1. 一般音声学の基本的な用語を理解する。 2. 実験音声学の手法を身につける。 3. サウンドスペクトログラフやピッチ曲線を見ながら分析できるようになる。

授業の計画(全体) グループに分かれて実験を行い、まとまった段階で発表していきます。実験は試行錯誤をくり返すことで徐々に目的も明確になり、精度も上がっていきます。音声分析ソフトに慣れるにはそれなりの時間が必要です。授業時間以外にも実験することになるでしょう。

成績評価方法(総合) 出席点。発表。レポート。

教科書・参考書 教科書：日本語音声学入門, 斎藤 純男【著】, 三省堂, 1997年 / 参考書：音声学概説, ”ピーター・ラディフォギッド著; 竹林滋, 牧野武彦共訳”, 大修館書店, 1999年

メッセージ ノートパソコンを使います。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語学演習（音声と音韻） | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 乾秀行 | | | | |

授業の概要 言語音は母音と子音に分かれますが、それぞれの母音や子音はどのような音響的な特徴を持っているのでしょうか？また、単語にはアクセントがあり、文にはイントネーションがあります。これらは音響的にはどのようなピッチ曲線を描き、それをヒトはどのように捉えているのでしょうか？この授業では音声分析ソフトを使いながらこのようなことを確かめてみましょう。

授業の一般目標 1．一般音声学の基本的な用語を理解する。 2．実験音声学の手法を身につける。 3．サウンドスペクトログラムやピッチ曲線を見ながら分析できるようになる。

授業の計画（全体）グループに分かれて実験を行い、まとまった段階で発表していきます。実験は試行錯誤をくり返すことで徐々に目的も明確になり、精度も上がっていきます。音声分析ソフトに慣れるにはそれなりの時間が必要です。授業時間以外にも実験することになるでしょう。

成績評価方法（総合）出席点。発表。レポート。

教科書・参考書 教科書：日本語音声学入門，斉藤純男，三省堂，1997年 / 参考書：音声学概説，ペーター・ラディフオギッド，大修館書店，1999年

メッセージ ノートパソコンを使います。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 言語学演習(意味と統語) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 乾 秀行 | | | | |

授業の概要 平易な文章で書かれた言語学の入門書を使って、主に母語である日本語で考えていきます。学生主導の討論形式を一部採用しますので、積極的に自分の意見を述べることができます。

授業の一般目標 母語である日本語を題材にして、学生自身が積極的に討論を通じて、ふだん見過ごしている言語現象について考察を深める。

授業の計画(全体) 最初にテキストに沿って、要点を説明します。その後、学生主導でチャットを使ってそのテーマについて全員で討論します。

成績評価方法(総合) 出席点。発言回数。レポート。

教科書・参考書 教科書：よくわかる言語学, 定延利之, アルク, 1999年

メッセージ ノートパソコンを使います。2年生向き。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 言語学演習(意味と統語) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 乾 秀行 | | | | |

授業の概要 平易な文章で書かれた言語学の入門書を使って、主に母語である日本語で考えていきます。学生主導の討論形式を一部採用しますので、積極的に自分の意見を述べることができます。

授業の一般目標 母語である日本語を題材にして、学生自身が積極的に討論を通じて、ふだん見過ごしている言語現象について考察を深める。

授業の計画(全体) 最初にテキストに沿って、要点を説明します。その後、学生主導でチャットを使ってそのテーマについて全員で討論します。

成績評価方法(総合) 出席点。発言回数。レポート。

教科書・参考書 教科書：『よくわかる言語学』, 定延利之, アルク, 1999年

メッセージ ノートパソコンを使います。2年生向き。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 言語学演習(意味と統語) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 和田学 | | | | |

授業の概要 この授業では、韓国語の文法的特徴を学ぶとともに、日本語の文法との比較を行います。用いている資料には韓国語で書かれた教科書を用います。

授業の一般目標 韓国語の文法的特徴を学び、日本語との異同を明らかにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：韓国語で書かれた韓国語の概説書を読むことで、韓国語の文法的な特徴を客観的に理解する。 思考・判断の観点：テキストに書かれてあることを鵜呑みにするのではなく、批判的に読み取り、日本語との対照を絶えず行うことで、韓国語と日本語の対照言語学的方法論を身に着ける。 関心・意欲の観点：通り一遍の理解ではなく、テキストに書かれていないことにも積極的に参加することで、将来に問題点を発展させることができるようにする。

授業の計画(全体) 教科書を読み進み、内容をまとめてレポートする。問題点や、自分の意見も付け加え、授業の中で議論する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方等の説明
- 第 2 回 項目 使役 1 内容 韓国語の使役動詞の構成と、その特徴
- 第 3 回 項目 使役 2 内容 日本語と韓国語の使役の対照
- 第 4 回 項目 受動 1 内容 韓国語の受動文：受動動詞による受動
- 第 5 回 項目 受動 2 内容 韓国語の受動文：ci-ta による受動
- 第 6 回 項目 受動 3 内容 韓国語の受動文：日本語との比較
- 第 7 回 項目 時制とアスペクト 1 内容 韓国語の時制
- 第 8 回 項目 時制とアスペクト 2 内容 韓国語のアスペクト
- 第 9 回 項目 時制とアスペクト 3 内容 日本語と韓国語の時制とアスペクト
- 第 10 回 項目 否定 1 内容 韓国語の否定 an
- 第 11 回 項目 否定 2 内容 韓国語の否定 mos
- 第 12 回 項目 否定 3 内容 韓国語と日本語の否定
- 第 13 回 項目 モダリティ 1 内容 韓国語のモダリティ
- 第 14 回 項目 モダリティ 2 内容 韓国語と日本語のモダリティ
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) レポートを課す。テキストに書かれたことを理解しているか(知識・理解)、問題点を見つけ出し、自分のアイデアを示しているか、(思考・判断)、自分で新たなデータを見つけ出し、発展性のある考えを示しているか(関心・意欲)で判断する。

教科書・参考書 教科書：標準韓国語文法論, 南基心・高永根, Tower Press, 1985 年

メッセージ 韓国語の文献を読むので、韓国語の能力が必要です。

連絡先・オフィスアワー wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 言語学演習(意味と統語) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 和田学 | | | | |

授業の概要 この授業では、韓国語の受動構文に対する文献を読み、韓国語の受動構文の特徴を理解すると共に、日本語との比較を行う。

授業の一般目標 韓国語で書かれた文献を読み韓国語の受動構文の特徴を理解すると共に、内容を批判的に検討する。また、日本語の受動文との比較も行うことにより、両言語の受動文に対する理解を深め、問題の所在を明らかにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テキストの内容を正しく理解し、韓国語の受動文の特徴を知る。

思考・判断の観点：テキストの内容を批判的に検討し、また、絶えず日本語と対照することにより、両言語の異同を明らかにする。 関心・意欲の観点：積極的に問題点を見つけようとすることによって、理解、アイデアを発展させる。

授業の計画(全体) テキストを読んで、まとめ、疑問点、問題点と共に、毎回レポートの形で提出し、これをもとに授業する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方、扱う現象の範囲等の説明
- 第 2 回 項目 概説：接辞受動化 内容 接辞受動化についての概説
- 第 3 回 項目 概説：ci-ta 受動 内容 ci-ta 受動化についての概説
- 第 4 回 項目 接辞受動の種類
- 第 5 回 項目 接辞受動の分類
- 第 6 回 項目 接尾受動に関する先行研究
- 第 7 回 項目 接尾受動と日本語の受動文
- 第 8 回 項目 軽動詞構文の受動化
- 第 9 回 項目 日韓語の軽動詞構文の受動化
- 第 10 回 項目 ci-ta 受動文
- 第 11 回 項目 ci-ta 受動文
- 第 12 回 項目 ci-ta 受動文と日本語の受動文
- 第 13 回 項目 日本語の受動文
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法(総合) テキストの理解、問題点の発見と掘り下げ、また、自分のアイデアの発展などをレポートを通じて評価する。

教科書・参考書 教科書：Wulimal phitong yenkwu, Wum In-Hyey, Hankook Publishing, 1997年

連絡先・オフィスアワー wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|------------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 言語学演習(言語理論)(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 平野尊識 | | | | |

授業の概要 この演習は4年生向けである。従って、学生の卒業論文の作成に資することが目的である。前期は言語学全般について今までの復習、疑問点の整理に重点を置く。学生には疑問点の整理、興味を持った或いは持っている論文の検討などが要求される。

授業の一般目標 前期は、卒論を完成させるために、問題点を発見しそれをどのように解決していくかを学ぶ。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：問題点を理論的に処理する能力 関心・意欲の観点：問題点の発見、解決に向けての積極的取り組み その他の観点：オリジナリティーが見られるか

授業の計画(全体) セメスターを内容に従って4期に分け、実施する。1. 学生に疑問点、興味ある言語現象を対話形式によって提示してもらう。2. その現象について検討する。3. 適切な解答を提示してもらう。4. それ以外の解答はないのか検討する。

成績評価方法(総合) 毎週の演習に基づき、平常点のみによって評価する。その際、提示された問題点は、問題とするに値するか、問題点の分析は理論的に納得できるものか、解答は言語学的に妥当なものであるか、オリジナリティーが見られるかを考慮する。

連絡先・オフィスアワー 人文617研究室、mail-address:takanori@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|------------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 言語学演習(言語理論)(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 平野尊識 | | | | |

授業の概要 この演習は4年生向けである。従って、主たる目的は卒業論文の作成に資することである。後期は、問題点の発見とその解決、その繰り返しとなり、最終的に論文の完成へと導く。主体はあくまでも受講者側であることを再確認しておく。/ 検索キーワード 言語学、音声学、音韻論、形態論、統語論、語用論

授業の一般目標 前期で培った言語学的思考法、問題解決能力を基にして実際に論文を完成させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：何が問題なのかを明らかにできること 思考・判断の観点：問題点を理論的に解明する能力 関心・意欲の観点：一つのテーマに継続して取り組む その他の観点：オリジナリティーが認められるか

授業の計画(全体) セメスターを更に3期に分ける。 1. 論文に値するような問題点の確認 2. 理論的解明 3. 論文化

成績評価方法(総合) 毎回の演習に基づき、平常点のみによって評価する。

| | | | | | |
|------|----------------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 個別言語演習(アメリカ・ヨーロッパ地域) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | PHILLIPSJOHNDAVID | | | | |

授業の概要 「ウェールズ語」 Yn y cwrs hwn canolbwyntir ar iaith lafar y Gymraeg ac edrych yn fras ar rai pynciau cysylltiedig: ei hanes a'i pherthynas ac ieithoedd eraill, ei llenyddiaeth, y gynghanedd, a hwyrach ychydig o ddawnsio a cherddoriaeth. ウェールズ語は西南英国のウェールズ地方の言葉である。ケルト系の言語でありブルトン語やアイルランド語に似ている。授業では、日常ウェールズ語を中心にすが、国と言語の歴史及び比較言語学や定型詩も少し勉強したり、さらに現代および中世紀の文章を読んだりする。

授業の一般目標 ウェールズ語の基礎勉強(初心者向け)を行う。

授業の計画(全体) 「ウェールズ語」 Yn y cwrs hwn canolbwyntir ar iaith lafar y Gymraeg ac edrych yn fras ar rai pynciau cysylltiedig: ei hanes a'i pherthynas ac ieithoedd eraill, ei llenyddiaeth, y gynghanedd, a hwyrach ychydig o ddawnsio a cherddoriaeth. ウェールズ語は西南英国のウェールズ地方の言葉である。ケルト系の言語でありブルトン語やアイルランド語に似ている。授業では、日常ウェールズ語を中心にすが、国と言語の歴史及び比較言語学や定型詩も少し勉強したり、さらに現代および中世紀の文章を読んだりする。

成績評価方法(総合) テストを判断資料とし、総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：毎日ウェールズ語を話そう：「話し言葉」と「書き言葉」のための現代ウェールズ語自習コース入門編, 水谷宏著, 大学書林, 1996年； Geiriadur Gomer i'r ifanc, D. Geraint Lewis, Gomer, 1994年； 文法に関するテキスト 水谷 宏(著)「毎日ウェールズ語を話そう」 大学書林 1995 字引に関するテキスト 「Collins-Spurrell Welsh Dictionary」 Harper Collins 1996 又は D. Geraint Lewis (著)「Geiriadur Gomer i'r ifanc」 Gomer 1994 上記テキストは大学会館内、紀伊国屋書店で購入できます。 / 参考書：参考文献等は講義中に適宜紹介する。

| | | | | | |
|------|----------------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 個別言語演習(アメリカ・ヨーロッパ地域) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | PHILLIPSJOHNDAVID | | | | |

授業の概要 「ウェールズ語」Yn y cwrs hwn canolbwyntir ar iaith lafar y Gymraeg ac edrych fars ar rai pynciau cysylltiedig: ei hanes a'i pherthynas ac ieithoedd eraill, ei llenyddiaeth, y gynghanedd, a hwyrach ychydig o ddawnsio a cherddoriaeth. ウェールズ語は西南英国のウェールズ地方の言葉である。ケルト系の言語でありブルトン語やアイルランド語に似ている。授業では、日常ウェールズ語を中心にするが、国と言語の歴史及び比較言語学や定型詩も少し勉強したり、さらに現代および中世紀の文章を読んだりする。

授業の一般目標 ウェールズ語(中級程度)を勉強する。

授業の計画(全体) 「ウェールズ語」Yn y cwrs hwn canolbwyntir ar iaith lafar y Gymraeg ac edrych fars ar rai pynciau cysylltiedig: ei hanes a'i pherthynas ac ieithoedd eraill, ei llenyddiaeth, y gynghanedd, a hwyrach ychydig o ddawnsio a cherddoriaeth. ウェールズ語は西南英国のウェールズ地方の言葉である。ケルト系の言語でありブルトン語やアイルランド語に似ている。授業では、日常ウェールズ語を中心にするが、国と言語の歴史及び比較言語学や定型詩も少し勉強したり、さらに現代および中世紀の文章を読んだりする。

成績評価方法(総合) テスト及びレポートで判定します。

教科書・参考書 教科書：毎日ウェールズ語を話そう：「話し言葉」と「書き言葉」のための現代ウェールズ語自習コース入門編, 水谷宏著, 大学書林, 1996年； Geiriadur Gomer i'r ifanc, D. Geraint Lewis, Gomer, 1994年； 文法に関するテキスト 水谷 宏(著)「毎日ウェールズ語を話そう」 大学書林 1995 字引に関するテキスト 「Collins-Spurrell Welsh Dictionary」 Harper Collins 1996 又は D. Geraint Lewis (著)「Geiriadur Gomer i'r ifanc」 Gomer 1994 上記テキストは大学会館内、紀伊国屋書店で購入できます。 / 参考書：参考文献等は講義中に適宜紹介します。

| | | | | | |
|------|-------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報処理学概論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | つる岡昭夫 | | | | |

授業の概要 言語情報処理の理論と歴史について、概要を知る。あわせて用語の知識を理解し、身に付ける。 / 検索キーワード コンピュータ 2進法 コード 言語(日本語) 機械処理

授業の一般目標 言語情報処理の知識を身に付け、実際に自分で行えるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： コンピュータについて理解する。また情報処理用語も理解する。
関心・意欲の観点： 言語(日本語) 情報処理への関心。

成績評価方法(総合) 定期期末試験による。第2回目以降毎回出席を取り、8回以上の者のみ受験させる。

教科書・参考書 教科書： なし 必要資料は随時プリントで配布

連絡先・オフィスアワー 電話 内線 5 2 6 7 オフィスアワー 木曜 1 2 . 5 0 ~ 1 4 . 2 0

| | | | | | |
|------|--------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報処理学概論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | つる岡昭夫 | | | | |

授業の概要 言語情報処理の原理と、大量言語処理によって明らかになった日本語の特徴について学ぶ。 /
 検索キーワード コンピュータ 日本語 用語用字調査 単位 単位

授業の一般目標 日本語の処理について、調査の歴史と調査単位について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：大量言語処理の方法と歴史について理解する。調査に当って日本語の調査単位をどうするかについて考える。 関心・意欲の観点：実際の調査を行う。

成績評価方法 (総合) 定期期末試験による。第2回目以降出席をとり(13回)、8回以上のもののみ受験をさせる。

教科書・参考書 教科書：特になし。必要に応じて、プリントを配付する。

連絡先・オフィスアワー 電話(内線)5226 オフィスアワー 木曜12.50~14.20

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 対照言語学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 平野尊識 | | | | |

授業の概要 英語で書かれたテキストを基に、日本語と韓国語の主題構文を比較・対照する。 / 検索キーワード 主題、助詞、韓国語、日本語

授業の一般目標 日本語と韓国語は文法的に見れば類似点が多い。その中でミスマッチが見付かれれば、そしてそれに対して何らかの説明ができれば、それは両言語の比較統語論に大きく寄与することになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テキストの記述を的確に理解すること。 思考・判断の観点：統語的ミスマッチはどのように説明できるか。 技能・表現の観点：考えたことを分かりやすく第三者に伝えること。

授業の計画（全体） テキストを少しずつ読み進んでいく。取扱う範囲からすれば 1 回あたり 5 頁以内。

成績評価方法（総合） 試験 70%、授業外の課題 30%。

教科書・参考書 教科書：Syntactic and semantic interaction in Korean., Na, Younghee, UMI dissertation series, 1986 年； The structure of the Japanese language., Kuno, Susumu, MIT Press, 1973 年

メッセージ 予習と復習が大切。韓国語の知識は必ずしも必要としない。

連絡先・オフィスアワー 人文研究棟 6 1 7 研究室, e-mail: takanori@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報処理学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | つる岡昭夫 | | | | |

授業の概要 言語情報処理の歴史と、これまでに明らかになったことを知り、次いで現状での問題点、これからの課題について学ぶ。 / 検索キーワード 情報処理 日本語 大量言語調査 語彙

授業の一般目標 言語情報処理の現状と今後について学ぶ。またこれまでの大量言語調査の結果明らかになった日本語の特徴を今後の自動処理に生かすことを研究する。

授業の計画(全体) 言語情報処理の理論と歴史 言語情報処理の結果明らかになった日本語の特徴。前期は語彙(自立語)について。

成績評価方法(総合) 定期期末試験による。第2回目以降毎回出席を取り、8回以上の者のみ受験をさせる。試験はノート、プリント等の持参を認める。

教科書・参考書 教科書：なし。必要に応じてプリントを配付する。

連絡先・オフィスアワー 電話(内線)5226 研究室人文404 オフィスアワー 木曜12.50~14.20

| | | | | | |
|------|-------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報処理学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | つる岡昭夫 | | | | |

授業の概要 言語情報処理の理論と歴史。これまでに明らかになったことを知り、ついで現状での問題点、今後の課題について学ぶ。 / 検索キーワード 言語(日本語) 大量言語調査 助詞・助動詞

授業の一般目標 言語情報処理の現状と今後について学ぶ。またこれまでの大量調査の結果明らかになった日本語の特徴を今後の自動処理に生かすことを研究する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語情報処理の理論と歴史。

授業の計画(全体) 言語情報処理に理論と歴史。言語情報処理の結果明らかになった日本語の特徴。後期は助詞・助動詞について。

成績評価方法(総合) 定期期末試験による。第2回目以降毎時出席を取り、8回以上出席の者のみ受験をさせる。試験はノート、プリント等の持込み可。

教科書・参考書 教科書：なし。必要に応じてプリントを配付する

連絡先・オフィスアワー 電話(内線) 5 2 2 6 研究室人文404 オフィスアワー 木曜12・50～14・20

| | | | | | |
|------|-------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報処理学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | PHILLIPSJOHNDAVID | | | | |

授業の概要 This is a course in Machine Translation - making a computer translate from one language into another. Concentrating on the linguistic aspects of the problem, we will look at how to describe English and Japanese grammar in a form which a computer can use, and at how a computer can translate using these descriptions.

授業の一般目標 An understanding of the basic problems and techniques of Machine Translation from a linguist's point of view.

授業の計画(全体) Beginning with a survey of the field and its history, we will go on to look at how a computer can be made to translate one language into another. Concentrating on linguistically-based methods, we will look at how grammar and meaning can be described and represented, and how the meaning can be transferred from one language to another.

成績評価方法(総合) Written examination

教科書・参考書 教科書：自然言語処理の基礎, 吉村賢治著, サイエンス社, 2000年；吉村賢治(著)「自然言語処理の基礎」サイエンス社 2000年 / 参考書：Sizen gengo syori no kiso, Kenzi Yosimura, Saiensushya, 2000年；必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業では英語をよく使う。

| | | | | | |
|------|-------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報処理学特殊講義 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | PHILLIPSJOHNDAVID | | | | |

授業の概要 This continues last term's course on Machine Translation - making a computer translate from one language into another. Concentrating on the linguistic aspects of the problem, we will look at how to describe English and Japanese grammar in a form which a computer can use, and at how a computer can translate using these descriptions.

授業の一般目標 An understanding of the basic problems and techniques of Machine Translation from a linguist's point of view.

授業の計画(全体) In the second term, we will look at some specific linguistic problems in translation, and at how some real machine translation systems work. If there is time, we will look briefly at some alternative, non-linguistic, methods of machine translation.

成績評価方法(総合) Written examination

教科書・参考書 教科書：吉村賢治(著) 「自然言語処理の基礎」 サイエンス社 2000年 / 参考書：Sizen gengo syori no kiso, Kenzi Yosimura, Saiensusya, 2000年

メッセージ 授業では英語をよく使う。

| | | | | | |
|------|------------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報処理学演習(2・3年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | つる岡昭夫 | | | | |

授業の概要 日本語の言語をコンピュータに入力して、さまざまな研究を行う。入力ソフトは EXCELL を使う。また、調査単位は 単位とする。調査単位は 単位とする。 / 検索キーワード 語彙 総索引 単位

授業の一般目標 EXCELLで日本語を入力する。語彙をカウントする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の語彙。

授業の計画(全体) まず、 単位の実験をする。ついで EXCELL を使って日本語を入力する。それを元にして語彙索引および語意表を作成する。日本語のテキストデータは毎時間貸与する(毎回回収)。

成績評価方法(総合) レポートおよび出席点。

教科書・参考書 教科書：なし。必要プリント、テキストデータは配布する。

メッセージ 初回にフロッピーディスク持参のこと。

連絡先・オフィスアワー 電話(内線) 5226 研究室人文404 オフィスアワー木曜12.50~14.50

| | | | | | |
|------|------------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報処理学演習(2・3年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | つる岡昭夫 | | | | |

授業の概要 日本語の言語データをコンピュータに入力し、さまざまな研究を行う。入力ソフトはE X C E Lを使う。また、調査単位には 単位を用いる。/ 検索キーワード 語彙 総索引 単位

授業の一般目標 E X C E Lで日本語のテキストデータを入力する。調査単位は 単位とする。日本語の語彙調査および語彙索引を作成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 単位の理解。

授業の計画(全体) まず調査単位の 単位について学び、実験をする。その後E X C E Lを使って日本語を入力する。語彙索引を作る。また、そのデータによって語彙調査を行う。日本語のデータテキストは毎時間貸与する(毎回回収する)。

成績評価方法(総合) レポートによる。

教科書・参考書 教科書: なし。必要プリント、テキストデータは配布する。

メッセージ 初回にフロッピーディスク持参のこと。

連絡先・オフィスアワー 電話(内線) 5 2 2 6 研究室人文4 0 4 オフィスアワー木曜1 2 . 5 0 ~ 1 4 . 2 0

| | | | | | |
|------|----------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 言語情報処理学演習(4年生) | 区分 | 演習 | 学年 | 4年生 |
| 対象学生 | | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | つる岡昭夫 | | | | |

授業の概要 言語情報処理用語の研究をする。 / 検索キーワード 言語情報処理用語

授業の一般目標 言語情報処理の用語を研究し、記述する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語情報処理用語について 技能・表現の観点：コンピュータの利用技術。

授業の計画(全体) 言語情報処理用語の収集、検討、記述を行う。

成績評価方法(総合) レポート提出。

教科書・参考書 教科書：なし。

連絡先・オフィスアワー 電話(内線)5226 研究室人文404 オフィスアワー木曜12.50~14.20

| | | | | | |
|------|----------------|----|-----|-----|-----|
| 開設科目 | 言語情報処理学演習（４年生） | 区分 | 演習 | 学年 | ４年生 |
| 対象学生 | | 単位 | ２単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | つる岡昭夫 | | | | |

授業の概要 言語情報処理用語の研究をする。 / 検索キーワード 言語情報処理用語

授業の一般目標 言語情報処理用語を研究し、記述する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語情報処理用語について。 技能・表現の観点：コンピュータの利用技術。

授業の計画（全体） 言語情報処理用語の収集、検討、記述。

成績評価方法（総合） レポート提出。

教科書・参考書 教科書：なし

連絡先・オフィスアワー 電話（内線）５２２６ 研究室人文４０４ オフィスアワー 木曜１２．５０～
１４．２０

| | | | | | |
|------|-------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報処理学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | PHILLIPSJOHNDAVID | | | | |

授業の概要 Prolog is a largely declarative programming language based on formal logic. Programming consists of entering data as logical permisses; running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses. Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language. First term-basic Prolog, an introduction for beginners. Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.

授業の一般目標 プロログ、プログラミング、自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。

授業の計画 (全体) Prolog is a largely declarative programming language based on formal logic. Programming consists of entering data as logical permisses; running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses. Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language. First term-basic Prolog, an introduction for beginners. Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.

成績評価方法 (総合) 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。

教科書・参考書 教科書：岡田朋子（著）「Introduction to Prolog Prolog 入門」（授業で配布します。） / 参考書：記号の世界 (コンピュータ入門 ; 5. 楽しいプログラミング ; 2), "中島秀之, 上田和紀著", 岩波書店, 1992 年 ; Prolog 入門, 古川康一著, オーム社, 1986 年 ; Prolog のソフトウェア作法 (岩波コンピュータサイエンス), 黒川利明著, 岩波書店, 1985 年 ; 松田紀之 (著) 「PROLOG を楽しむ」 オーム社 平成 5 年 中島英之・上田和紀 (著) 「楽しいプログラミング II」 岩波新書 1992 古川康一 (著) 「Prolog 入門」 オーム社 1986 黒川利明 (著) 「Prolog のソフトウェア作法」 岩波新書 1989

メッセージ Assessment will be by four programming assignments to be handed in during each term. 授業は殆ど英語で行います。

| | | | | | |
|------|-------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報処理学演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | PHILLIPSJOHNDAVID | | | | |

授業の概要 Prolog is a largely declarative programming language based on formal logic. Programming consists of entering data as logical permisses; running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses. Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language.

授業の一般目標 プロログ、プログラミング、自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。

授業の計画 (全体) Second term: natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.

成績評価方法 (総合) 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。

教科書・参考書 教科書：岡田朋子（著）「Introduction to Prolog Prolog 入門」（授業で配布します。） / 参考書：記号の世界 (コンピュータ入門 ; 5 . 楽しいプログラミング ; 2), ”中島秀之, 上田和紀著”, 岩波書店, 1992 年 ; Prolog 入門, 古川康一著, オーム社, 1986 年 ; Prolog のソフトウェア作法 (岩波コンピュータサイエンス), 黒川利明著, 岩波書店, 1985 年 ; 松田紀之 (著) 「PROLOG を楽しむ」 オーム社 平成 5 年 中島英之・上田和紀 (著) 「楽しいプログラミング II」 岩波新書 1992 古川康一 (著) 「Prolog 入門」 オーム社 1986 黒川利明 (著) 「Prolog のソフトウェア作法」 岩波新書 1989

メッセージ Assessment will be by four programming assignments to be handed in during each term. 授業は殆ど英語で行います。

言語文化学科 各コース共通科目

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 文学概論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 井上三朗 | | | | |

授業の概要 この授業の担当者は、長年来、フランスのカトリック文学の研究に携わってきた。その過程で、宗教と文学、信仰（宗教的な信仰）と愛（人間的な愛）との関係に興味を抱いてきた。愛が信仰とどのようにかわるのかという問題意識から、3つの小説を取り上げる。その3つの小説とは、アンドレ・ジッドの『狭き門』、瀬戸内晴美の『比叡』、レオン・ブロワの『貧しき女』である。これらの作品の読解と分析をこころみること、宗教と文学との接点をさぐる。／検索キーワード 愛、信仰。

授業の一般目標 宗教的な文学の輪郭を把握するとともに、作品の読解と分析をこころみるので、文学作品の研究のしかたに、なんらかの参考になれば、幸いである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教的な文学が何であるか、具体的に知ることができる。 思考・判断の観点：人間的な愛が宗教的な信仰とどのようにかわるのかについて、考えることができる。 関心・意欲の観点：授業での話を聴く中で、興味を持ち、実際に作品を読む意欲を持つことができる。

授業の計画（全体） 概要のところでも述べたように、アンドレ・ジッドの『狭き門』、瀬戸内晴美の『比叡』、レオン・ブロワの『貧しき女』を取り上げる。『狭き門』には、3から4回、『比叡』には7回、『貧しき女』には3回の時間を充てる予定である。なお、時間があまれば、遠藤周作の作品を取り上げることを計画している。

成績評価方法（総合） 試験の点数（80％）と平常点（20％）との総合で評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。／参考書：狭き門, アンドレ・ジッド, 新潮文庫；比叡, 瀬戸内晴美, 新潮文庫, 2002年；貧しき女, レオン・ブロワ, 中央出版社, 1982年

メッセージ 取り上げる作品をできるだけ実際に読んでほしい。

連絡先・オフィスアワー 月曜日 14:30 16:00 . 613 研究室。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 文学概論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 岡光一浩 | | | | |

授業の概要 ヨーロッパの代表的な文学作品の中から、文庫本にも翻訳されている私たちにも馴染みの、ドイツ・フランス、ロシア・デンマークの小説や童話を取り上げる。これらの作品から、文学とはなにか、「文学を読む」とはどういうことか、を学び、人間とはなにか、私たちはどのように生きるべきかを考える。 / 検索キーワード 文学とはなにか。「文学を読む」とは、どうということか。

授業の一般目標 学生は、実際に、何冊かの作品を読み、「文学」とはなにかを学ぶ。そのうえで、これまでの自分の人生を振り返り、さらに、これからの人生を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文学とはなにかを理解できる。 思考・判断の観点：「文学を読む」とは、どうということかを思考することができる。 関心・意欲の観点：ヨーロッパの文学から、人間とはなにか、どのように生きるべきかを考えることができる。 技能・表現の観点：自分の考えをまとめ、表現できる。

授業の計画（全体） 文学とはなにかの理論に則り、ヨーロッパの文学作品を読む。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義への導入 内容 講義の全体的なあらまし 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 項目 文学というもの 内容 「文学を読む」とは、どうということか。
- 第 3 回 項目 グリム 内容 『赤ずきん』 授業外指示 作品を読んでおくこと
- 第 4 回 項目 同上
- 第 5 回 項目 同上
- 第 6 回 項目 アンデルセン 内容 『人魚姫』『赤い靴』『マッチ売りの少女』 授業外指示 作品を読んでおくこと
- 第 7 回 項目 同上
- 第 8 回 項目 同上
- 第 9 回 項目 ゲーテ 内容 『若きヴェルテルの悩み』 授業外指示 作品を読んでおくこと
- 第 10 回 項目 同上
- 第 11 回 項目 同上
- 第 12 回 項目 独、仏、露の作家 内容 未定 (講義の最初に指示) 授業外指示 作品を読んでおくこと
- 第 13 回 項目 同上
- 第 14 回 項目 同上
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席を前提とし、レポートにおいて評価する。

教科書・参考書 教科書：講義レジユメを配布し、それによって講義する。 / 参考書：講義中に、適宜、指示する。

メッセージ 持続して聴講して初めて、講義の面白さが分かります。講義で扱った作品は読みましょう。感想を書いてもらいます。

人文学部 各学科共通科目

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 法学概論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 道廣 泰倫 | | | | |

授業の概要 まず、法とは何であるかという法の基礎理論を学び、次いで法体系の各法である憲法、行政法、刑法、訴訟法、民法、商法、労働法、社会保障法および国際法を概論的に学ぶ。

授業の一般目標 学生諸君が、一般社会人として必要な法的知識と法的なものの考え方を身につけて、法的に対応できる社会人・職業人となることを目標とする。

授業の計画（全体） 授業中にて、説明する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 法と他の社会規範との比較
- 第 2 回 項目 法による社会秩序の維持と正義の実現
- 第 3 回 項目 権利と義務から成る法律関係
- 第 4 回 項目 公法、私法および社会法による法の分類
- 第 5 回 項目 憲法
- 第 6 回 項目 行政法
- 第 7 回 項目 刑法
- 第 8 回 項目 訴訟法
- 第 9 回 項目 民法
- 第 10 回 項目 商法
- 第 11 回 項目 労働法
- 第 12 回 項目 社会保障法
- 第 13 回 項目 国際法
- 第 14 回 項目 法の解釈の方法
- 第 15 回 項目 前期末試験

成績評価方法（総合） 試験の成績に出席を加味する。（全授業の 3 分の 2 以上の出席を要する。）

教科書・参考書 教科書：現代法学（第 2 版）、道廣泰倫、法律文化社、2002 年

| | | | | | |
|------|--------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代法（国際法を含む。） | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 道廣 泰倫 | | | | |

授業の概要 法は古代法から中世法、近代法および現代法へと発展してきているので、まず古代法、中世法および近代法の特徴について学び、次いで、とくに近代法との関係で、現代法の特徴を各法の基本原理をとおして学ぶ。

授業の一般目標 近代法の体系は私法と公法から成っていたが、現代法の体系は、さらに社会法が追加されている。なぜそうなったのかを理解することを目標とする。

授業の計画（全体） 授業中にて説明する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 古代法の特徴
- 第 2 回 項目 中世法の特徴
- 第 3 回 項目 近代法の特徴
- 第 4 回 項目 日本国憲法の基本原理
- 第 5 回 項目 行政法の基本原理
- 第 6 回 項目 刑法の基本原理
- 第 7 回 項目 財産法の基本原理
- 第 8 回 項目 家族法の基本原理
- 第 9 回 項目 商行為法の基本原理
- 第 10 回 項目 会社法の基本原理
- 第 11 回 項目 社会保障法の基本原理
- 第 12 回 項目 訴訟法の基本原理
- 第 13 回 項目 国際法の基本原理
- 第 14 回 項目 現代法の特徴
- 第 15 回 項目 前期末試験

成績評価方法（総合） 試験の成績に出席を加味する。（全授業の 3 分の 2 以上の出席を要する。）

教科書・参考書 教科書：現代法学（第 2 版）、道廣泰倫、法律文化社、2002 年

| | | | | | |
|------|-----|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 政治史 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 瀬瀬厚 | | | | |

授業の概要 主に1931年の満州事変から1945年の日本敗戦までの15年間にわたり続けられたアジア太平洋戦争史を中心に講義を勧める。/ 検索キーワード 戦争責任 過去の克服 歴史とは何か

授業の一般目標 政治史だけでなく、社会史・文化史などにも触れながら、この時代を対象とする歴史認識をどのように形成していくかを考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 講義の概要説明
- 第2回 項目 満州事変への道(1)
- 第3回 項目 満州事変への道(2)
- 第4回 項目 日中戦争の背景(1)
- 第5回 項目 日中戦争の背景(2)
- 第6回 項目 軍部政権と政党政治(1)
- 第7回 項目 軍部政権と政党政治(2)
- 第8回 項目 国家総動員体制の確立
- 第9回 項目 大政翼賛会の成立
- 第10回 項目 日米英戦争の原因(1)
- 第11回 項目 日米英戦争の原因(2)
- 第12回 項目 戦局の展開と帰結
- 第13回 項目 日本の敗戦過程(1)
- 第14回 項目 日本の敗戦過程(2)
- 第15回 項目 全体の総括

成績評価方法(総合) 適時レポートの提出を求める。最終試験は論述試験を課す。

教科書・参考書 教科書：近代日本の政軍関係，瀬瀬厚，大学教育社，1987年；『日本陸軍の総力戦政策』，瀬瀬厚，大学教育出版，1999年；『侵略戦争』，瀬瀬厚，筑摩書房，1999年 / 参考書：日本近代史概説，瀬瀬厚他，弘文堂，2003年；近代日本政軍関係史の研究，瀬瀬厚，岩波書店，2005年

メッセージ 歴史学アプローチからする現代の読み解きを

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.1:00-2:30 TEL/933-5278

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 人文地理学 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 川村 博忠 | | | | |

授業の概要 16世紀中頃日本人がはじめて西洋人と接触して以来、長い鎖国の時代を経て、19世紀後半に門戸を開くまで約300年間における日本人の海外知識の進展過程を世界地理書の著述および世界地図の刊行などを主軸にして考える。/ 検索キーワード 鎖国 坤輿万国全図 新井白石 山村戈助 高橋景保

授業の一般目標 鎖国という情報の閉ざされた環境のもと、ときには封建社会の迫害を受けながらも世界知識の摂取に尽力して近世における世界地理学(興地学)の発展に寄与した近世日本人の知識潮流の系列を理解したい。

授業の計画(全体) 授業中において説明する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 近世以前日本人の世界観
- 第2回 項目 三国世界観からの脱却
- 第3回 項目 朱印船時代の海外知識
- 第4回 項目 長崎で萌芽した續地理学
- 第5回 項目 新井白石の世界地理研究
- 第6回 項目 漢訳西洋知識の受容
- 第7回 項目 経世論の北方への関心の高まり
- 第8回 項目 蘭学の興隆と新しい世界観の勃興
- 第9回 項目 地動説の登場
- 第10回 項目 世界地誌と地図の飛躍的進展
- 第11回 項目 蘭学の公学化と幕府の思想統制
- 第12回 項目 洋学への転換と方図の出現
- 第13回 項目 幕末遣外使節の西洋体験
- 第14回 項目 東洋系世界図の変容と通俗版世界図の流布
- 第15回 項目 明治啓蒙期における地理学

成績評価方法(総合) 期末試験と出席状況によって評価する。出席は特に重視する。

教科書・参考書 教科書: 近世日本の世界像, 川村博忠著, ぺりかん社, 2003年 / 参考書: 参考書に関しては、授業で紹介する。

メッセージ 受講中は私語を慎んで欲しい。受講にはできるだけ「世界地図」を持参されたい。

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 自然地理学 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 貞方 昇 | | | | |

授業の概要 日本列島の現景観が、いかに人間の営みと密接に結びついて作られてきたかを理解することを目指す。すなわち、日本人が縄文時代以来、古代、中世などの歴史時代を経て今日に至るまで、自然の諸条件をどのように利用して、私たちが今日見るような日本の土地 景観を作り上げてきたかを学ぶ。
 / 検索キーワード 日本列島、自然環境、土地環境、景観

授業の一般目標 日本列島の現景観が、以下に人間の営みとともに歴史的に作られてきたかを理解する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに：自然 と土地環境
- 第 2 回 項目 I . 日本列島の 土地環境基盤と 人間生活への意 義 1 . 島孤とし ての特徴 (日本列島の自 然条件 1)
- 第 3 回 項目 2 . 地球環境 変動のもとでの 日本列島 (日本列島の自 然条件 2)
- 第 4 回 項目 II . 新石器時代 の日本列島と人 間生活 1 . 縄文期遺 跡立地と土地環 境
- 第 5 回 項目 2 . 全国各地 の水田遺構と土 地環境
- 第 6 回 項目 III . 古代の土地 環境利用とその 変貌 1 . 古墳群の 立地と土地環境 の変化
- 第 7 回 項目 2 . 条里制土 地割と土地環境 変化 3 . ため池と 環境利用
- 第 8 回 項目 IV . 中世の土地 環境利用とその 変貌 1 . 辺境の開 墾と土地環境変 化
- 第 9 回 項目 2 . 戦国大名 の土地開発と環 境変化
- 第 10 回 項目 V . 近世の土地 環境利用とその 変貌 1 . 大規模河 川改修と土地環 境変化
- 第 11 回 項目 2 . 新田開発 の推移と土地環 境変化
- 第 12 回 項目 3 . 鉱物採取 と土地環境変化
- 第 13 回 項目 VI . 近・現代の 土地環境利用と その変貌 1 . 大規模農 地・宅地造成と 土地環境変化
2 . 大規模土 石 (砂利・陶 土) 採取と土地 環境変化
- 第 14 回 項目 3 . 掘り込み 式港湾と土地環 境変化 4 . 大規模地 形改変の量的評 価と土地環境変 貌の意義
- 第 15 回 項目 まとめ：日本列 島の土地環境と は

成績評価方法 (総合) 授業時の課題、地図作業、期末試験をあわせて評価する。

教科書・参考書 教科書： 授業時にプリント・地図類を配付する。 / 参考書： 土地に刻まれた歴史 (岩波新書) , 古島敏雄, 岩波書店, 1967 年 ; 中国地方における鉄穴流しによる地形環境変貌, 貞方 昇, 溪水社, 1996 年 ; 古代の環境と考古学, 日下雅義編, 古今書院, 1995 年 ; 歴史地理調査ハンドブック, 有菌正一郎他, 古今書院, 2001 年 ; 地形環境と歴史景観, 日下雅義編, 古今書院, 2004 年

連絡先・オフィスアワー sadakata@yamaguchi-u.ac.jp、月曜日 12:00 ~ 13:00

| 開設科目 | 地誌 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
|---|-------|----|------|-----|--------|
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 藤井 宏志 | | | | |
| <p>授業の概要 国際化の進んだ現在、日本は世界中の国々と国際関係をもち、日常的に交流するようになった。偏見なしに豊かな交流を行うには、これらの国々の自然、政治、経済、文化、社会など総合地誌として正確な理解が必要である。ここでは、正確な情報の得にくい途上国の地誌を中心に学ぶ。 / 検索キーワード 総合地誌、地誌情報、国際交流、途上国</p> <p>授業の一般目標 途上国の地誌を学び、正確な情報を理解し、わが国や私達の果たすべき役割を考察する。</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各国の地誌情報を分析し、理解する。 思考・判断の観点：各国の現状と将来について論理的に説明できる。 関心・意欲の観点：途上国について関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点：日常の情報の中で途上国を主体的に考えることができる。</p> <p>授業の計画（全体） 外国地誌の学び方の難しさをパラオ共和国を例にとり学ぶ。その後、アジアの国々、ラテンアメリカの国々、アフリカの国々について学ぶ。</p> <p>授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 地誌入門（1） 内容 外国を理解することの難しさ 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 2 回 項目 地誌入門（2） 内容 パラオ共和国を例とする地誌の学び方（1） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 3 回 項目 地誌入門（3） 内容 パラオ共和国を例とする地誌の学び方（2） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 4 回 項目 アジア 内容 アジアの地誌の特質 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 5 回 項目 フィリピン（1） 内容 フィリピンの地誌（1） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 6 回 項目 フィリピン（2） 内容 フィリピンの地誌（2） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 7 回 項目 タイ 内容 タイの地誌 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 8 回 項目 ラテンアメリカ 内容 ラテンアメリカの特質 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 9 回 項目 日本人移民 内容 ラテンアメリカの日本人移民（1） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 10 回 項目 日本人移民 内容 ラテンアメリカの日本人移民（2） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 11 回 項目 パラグアイ（1） 内容 パラグアイの地誌（1） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 12 回 項目 パラグアイ（2） 内容 パラグアイの地誌（2） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 13 回 項目 アフリカ 内容 アフリカの地誌の特質 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 14 回 項目 エジプト 内容 エジプトの地誌 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 15 回 項目 コートジボワール 内容 コートジボワールの地誌 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>成績評価方法（総合） 出席状況を重視する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：毎時間プリントを配布。 / 参考書：授業中に指示します。</p> <p>メッセージ 各国の人々と各国の地球上の位置が頭に浮かぶように</p> <p>連絡先・オフィスアワー 082 - 878 - 8112</p> | | | | | |

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|-------------|
| 開設科目 | ギリシア語 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 4 単位 | 開設期 | 通年 (前期, 後期) |
| 担当教官 | 筒井 明子 | | | | |

授業の概要 言葉は人間の思考の発露です。「That is Greek to me」と語られる様に、ギリシア語は先ず音読、そして字体の特異さの為にしょっぱなはとっつきにくいと思います。前半は音読できて、ギリシア語の文章を書く訓練を繰り返します。この反復作業によって、文法力が増加します。学生諸君は、一つだけに疑問をしばって、毎回の授業に臨んでください。「一つ一つ、確実に」をモットーに、この作業を一年間を通じてやり遂げて後には、「ギリシア語なんてこんなものか」と思える様になって欲しいと思いますし、その様に指導して行くつもりです。 / 検索キーワード 西洋思想の源流

授業の一般目標 前期 ギリシア語初歩の基礎的な知識を獲得する。 後期 ギリシア語の基礎的な文法力を応用できるようにする。

授業の計画(全体) 前期 ギリシア語の音読、筆記を踏まえて、初級の知識を身につける。最初の内には作文も課す。 授業の進度は適宜変更する。 後期 前半期での基礎的知識の応用力をつけると共に、構文把握力を身につける。 授業の内容、進み方は適宜変更する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 字母・発音・音韻の分類・氣息記号 内容 後期シラバスについては前期授業時にお知らせしま < BR > す。
- 第 2 回 項目 字母・発音・音韻の分類・氣息記号
- 第 3 回 項目 音節・アクセント・句読点・語末音
- 第 4 回 項目 音節・アクセント・句読点・語末音
- 第 5 回 項目 動詞変化・現在直説法・能動相 内容 作文もする
- 第 6 回 項目 名詞変化・第一変化(A - 変化(1)) 内容 作文もする
- 第 7 回 項目 名詞変化(A - 変化(2)) 内容 作文もする
- 第 8 回 項目 未来直説法・能動相 A - 変化(3) 内容 作文もする
- 第 9 回 項目 A - 変化(4) 未完了過去・直説法・能動相 内容 作文もする
- 第 10 回 項目 名詞第二変化形容詞 内容 作文もする
- 第 11 回 項目 前置詞 アオリスト直説法・能動相 内容 作文もする
- 第 12 回 項目 現在完了及び過去完了・直説法・能動相指示代名詞及び強意代名詞 内容 作文もする
- 第 13 回 項目 直説法・能動相・本時称の人称語尾直説法・能動相・副時称の人称語尾
- 第 14 回 項目 「ある」「言う」の現在直説法 疑問代名詞及び不定代名詞
- 第 15 回 項目 中間試験
- 第 16 回 項目 現在・未来過去及び未来直説法・中動相
- 第 17 回 項目 アオリスト、現在完了・過去完了及び未来完了のの通訳法中動相再帰代名詞、相互代名詞及び所有代名詞
- 第 18 回 項目 第 2 アオリスト直接法能動相及び中動相 < BR > 直接受動相・同士の主要部分
- 第 19 回 項目 第 3 変化の名詞一(1) 能相欠動詞、約音動詞(1)
- 第 20 回 項目 第 3 変化の名詞(2) 約音動詞(2)
- 第 21 回 項目 黙音幹動詞の完了諸形・直接法中受動相 < BR > 第 3 変化の形容詞(1)
- 第 22 回 項目 流音幹動詞のアオリスト、未来現在完了、過去完了の直説法能動及び中動相 < BR > 第 3 変化の名詞(3)
- 第 23 回 項目 接続法能動相接続中動及び受動相
- 第 24 回 項目 母音交替条件文
- 第 25 回 項目 約音動詞の接続法不定法(1)
- 第 26 回 項目 不定法(2) 第 3 変化の名詞(4)
- 第 27 回 項目 関係代名詞希球法能動相

第 28 回 項目 希球法中動及び受動相第 3 変化の形容詞(2)

第 29 回 項目 約音動詞の希球法第 3 変化の名詞(5)

第 30 回 項目 年度末試験

成績評価方法(総合) 年間を通して、ギリシア語の基礎的文法力を理解できているか。年間を通して、ギリシア語の基礎的構文把握力が身についているか。作文、訳、試験、テキストの練習問題を訳させ、最終試験の結果を見て判断する。主として平素の努力を重視する。

教科書・参考書 教科書：ギリシア語入門(改訂版), 田中美知太郎、松平千秋(共著), 岩波書店 / 参考書：A Greek-English Lexicon Oxtord in teremediate, , ; 参考書は希望者のみ

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|-------------|
| 開設科目 | ラテン語 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 4 単位 | 開設期 | 通年 (前期, 後期) |
| 担当教官 | 筒井 明子 | | | | |

授業の概要 言葉は人間の思考の発露です。pessimism,optimism の語源はラテン語の p pessimus,optimus です。この様にラテン語は近代後の様々な言語に多大な影響をあたえてきた語学です。西洋思想に関心がある人は是非とも受講してください。テキストは様々な原文が使われており、最初の内は文体の違いに戸惑うかもしれませんが、逆に言えば、このテキストをこなすと、どんな原文にも応用が効くようになっていきます。一年間継続して学習した後にはラテン語の中、上級者程度の力がつきますし、その様に指導して行くつもりです。

授業の一般目標 前期 ラテン語の中級程度の文法力を身につける。後期 普通のラテン語が難なく読め、ラテン語が様々な語学に与えている影響を理解する。中・上級者向けの構文把握力を身につける。

授業の計画(全体) 前期 ラテン語の基礎的文法力を身につける。 授業の進度は適宜変更する。後期 ラテン語の構文を理解できるようにする。応用問題を適宜レポートして課す。 授業の進度は適宜変更する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 字母・発音・音節・アクセント
- 第 2 回 項目 字母・発音・音節・アクセント
- 第 3 回 項目 動詞変化(第一、第二変化動詞)
- 第 4 回 項目 名詞変化(第一変化名詞)
- 第 5 回 項目 名詞変化(第二変化名詞)形容詞変化
- 第 6 回 項目 前置詞動詞変化(第 3、第 4 変化動詞)
- 第 7 回 項目 人称代名詞未完了過去・直説法・能動相
- 第 8 回 項目 名詞変化(第 3 変化名詞(1))未来・直説法・能動相
- 第 9 回 項目 指示代名詞第 3 変化・形容詞変化
- 第 10 回 項目 完了・直説法・能動相名詞変化(第 3 変化名詞(2))
- 第 11 回 項目 関係代名詞過去完了・未来完了・直説法
- 第 12 回 項目 名詞変化(第 3 変化名詞(3)) 疑問文
- 第 13 回 項目 命令法・能動相第 3 変化名詞(4))
- 第 14 回 項目 受動相・直接法・現在・未来完了 過去完了
- 第 15 回 項目 中間試験
- 第 16 回 項目 副詞受動相・完了系時称
- 第 17 回 項目 形容詞と副詞の比較級と最上級
- 第 18 回 項目 名詞変化・第 4 変化名詞形容詞・副詞の不規則比較級・最上級
- 第 19 回 項目 命令法・受動相名詞変化・第 5 名詞変化
- 第 20 回 項目 分詞不規則動詞
- 第 21 回 項目 数詞絶対的奪格
- 第 22 回 項目 不定法(1)不定法(2)
- 第 23 回 項目 接続法・現在非人格動詞及び非人称用表現
- 第 24 回 項目 接続詞の形容詞不定代名詞接続法・未完了過去 Supinum
- 第 25 回 項目 Gerundium Gerundivum
- 第 26 回 項目 接続法・完了・過去完了ギリシア系名詞の変化
- 第 27 回 項目 接続詞と従属文名詞的な目的文
- 第 28 回 項目 副詞的な目的文傾向・結果文
- 第 29 回 項目 間接疑問文比較文
- 第 30 回 項目 年度末試験

成績評価方法(総合) 前期 ラテン語の基礎的变化を身につけて、問題を訳させる。主として平素の努力を重視する。後期 テキストの練習問題を音読して、訳出する。後期末に最終試験を行う。主として平素の努力を重視する。

教科書・参考書 教科書：新ラテン文法, 松平千秋・国松吉之助(共著), 東洋出版 / 参考書：羅和辞典(改訂新版), 田中秀央編, 研究社, 1966年; 羅和辞典 田中秀夫(著) 研究社(希望者のみ)

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|-------------|
| 開設科目 | 書道 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 4 単位 | 開設期 | 通年 (前期, 後期) |
| 担当教官 | 佐貫 陸子 | | | | |

授業の概要 本授業では実用書から芸術書まで応じられる書技を演習し、審美眼を養い、素質教育(一人一人の素質を高める)の有効な一手段として活用出来るようにする。/ 検索キーワード 書く。

授業の一般目標 漢字五体(篆書・隸書・楷書・行書・草書)と仮名の美を学ぶ。特に楷書・行書は指導者レベルまで書写能力を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 書体の変遷と筆法を理解する。 思考・判断の観点: 文字をデフォルメし、運筆のリズムを工夫して自分なりの表現を試みる。 関心・意欲の観点: 1年もしくは半年、1つの古典を追求してみる。 態度の観点: ふだんから創作に役立つ詩文(詩、短歌、俳句、小説、歌詞)を理解しておく。 技能・表現の観点: 行書での部首の書き方を修得し、手本書きに応用する。

授業の計画(全体) 前期は漢字五体の基本を中心に実力を養い、後期は仮名の基本、漢字、仮名交じり書を学び、指導者として、自分で手本が書けるように技能を身につける。後期15週については前期授業中に説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文房四宝、行書の基本事項 内容 後期シラバスについては前期授業時にお知らせします。
- 第 2 回 項目 行書の基本
- 第 3 回 項目 行書(蔵鋒について)
- 第 4 回 項目 行書(呉昌碩から学ぶ)
- 第 5 回 項目 行書(呉昌碩から学ぶ)
- 第 6 回 項目 行書(王羲之)
- 第 7 回 項目 篆書(基本点画) 篆刻(印稿)
- 第 8 回 項目 篆刻(印稿) 行書(空海の書)
- 第 9 回 項目 篆刻(印稿・布字) 行書(空海の書)
- 第 10 回 項目 篆刻(運刀)
- 第 11 回 項目 隸書(基本点画) 篆刻(運刀)
- 第 12 回 項目 草書
- 第 13 回 項目 楷書(背勢)
- 第 14 回 項目 楷書(向勢)
- 第 15 回 項目 楷書(方筆)

教科書・参考書 教科書: 特に指定しない。教材はプリントを配布する。/ 参考書: 講義の中で適宜紹介する。

メッセージ 根気が大切です。上手、下手ではなく、懸命な努力が魅力あるものに変えていくことを考えなおさなくては意味がありません。安易に書いても進歩しません。書を通じて何ものかを掴んでくれることを期待します。通年なので、油断しないで頑張ってください。書道ノートを作成し、毎回の講義内容を記録、整理しておくこと。

連絡先・オフィスアワー 0 8 3 6 - 5 8 - 5 2 3 6

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 博物館概論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 坪郷英彦 | | | | |

授業の概要 学芸員資格を目指す学生のために博物館の歴史、政策、仕事を概説する。市民参加型博物館の意味を理解し、自ら活動するための方向性を把握する。 / 検索キーワード 博物館・学芸員・展示・博物館法・文化財保護法

授業の一般目標 博物館は資料を収集・保管・展示し、一般の人々への利用に供し、調査研究するところと考え、具体的な内容について人文系博物館を中心に示していきます。大は国立の博物館のシステム、小さいところでは市町村立、私立の博物館・資料館のシステムまで様々ありますが、具体的事例を示しながら学芸員の役割について明らかにします。各博物館 や文部科学省のホームページにアクセスしながらより理解を深めたいと思います。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：博物館に関する基本的項目の説明ができる。 思考・判断の観点：法律、制度の基本を理解し行動や判断の基本とすることができる。 関心・意欲の観点：博物館活動の社会的役割を理解し、自らの専門との関連性を認識することができる。 態度の観点：学芸員社会的役割を理解し自らの行動と結びつけることができる。 技能・表現の観点：自らの企画を的確に表現できる。

授業の計画(全体) 次の5つの側面から講義を行う (1) 博物館の歴史、(2) 博物館に関する政策と法律、(3) 博物館の機能、(4) 博物館の仕事、学芸員の仕事、(5) 博物館での企画と展示

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 博物館とは何か 内容 授業全体のガイダンス。博物館の仕事の流れを示す。
- 第 2 回 項目 博物館の法律 内容 博物館法を読む。
- 第 3 回 項目 博物館の歴史 1 内容 ヨーロッパ・アメリカの博物館史 授業外指示 インターネットで博物館の検索を予習として行う。
- 第 4 回 項目 博物館の歴史 2 内容 日本の博物館前史
- 第 5 回 項目 博物館の歴史 3 内容 日本の博物館-明治から現代まで
- 第 6 回 項目 行政の中の博物館 1 内容 社会教育施設として 授業外指示 文部科学省・文化庁のホームページ検索の宿題
- 第 7 回 項目 行政の中の博物館 2 内容 博物館関連予算(国と地方公共団体)
- 第 8 回 項目 文化財保護法と博物館 内容 文化財保護法を読む
- 第 9 回 項目 地域振興と博物館 内容 伝産法、新農業基本法他との関連について
- 第 10 回 項目 学校教育と博物館 内容 小中学校総合科目と学芸員の協力関係について 授業外指示 インターネットでの総合科目事例の検索の宿題
- 第 11 回 項目 展示企画とデザイン 内容 学芸員に必要な企画力について 授業外指示 博物館のホームページデザインの分析宿題
- 第 12 回 項目 博物館における情報管理 内容 情報のデジタル化と資料データの基本的扱い方
- 第 13 回 項目 博物館の事例紹介 内容 北海道開拓記念館・国立民族学博物館・萩博物館他
- 第 14 回 項目 博物館の新しい方向 内容 市民参加型博物館・エコミュージアム
- 第 15 回 項目 全体のまとめ

成績評価方法(総合) 出席を重視する。中間と期末の2回のレポートを予定。この評点と出席によって総合的評価をする。

教科書・参考書 教科書：博物館学概論, 中村たかを編, 源流社, 1996年 / 参考書：テーマに沿ってその都度紹介する。文献コピーを配布する。

メッセージ これからは学芸員に専門的能力とともに企画力、表現力、情報処理能力が求められています。積極的な授業態度を期待します。宿題でインターネット検索を行うので、情報コンセント接続に慣れておくことが望ましい。

連絡先・オフィスアワー Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213 オフィスアワー 木
曜日 12:00~14:00

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 博物館学各論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 渡辺一雄 | | | | |

授業の概要 学芸員資格取得に必要な必修科目のひとつである「博物館資料論」を中心に講義する。「博物館資料論」は、博物館資料の収集・整理保管・展示等に関する知識・技術の習得を図るもので、講義では、併せて、博物館資料としての文化財を取りあげ、文化財保護のしくみやその取り扱いについてもふれる。 / 検索キーワード 学芸員 博物館 文化財

授業の一般目標 博物館資料の取り扱いに関する知識・技術の習得を図る。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 博物館と学芸員 内容 授業のガイダンス 博物館と学芸員に関する復習
- 第 2 回 項目 博物館資料とは 内容 博物館資料の定義と意義
- 第 3 回 項目 収集と整理・保管 内容 資料の収集方針と取得 資料の記録 整理と収蔵
- 第 4 回 項目 保存 内容 展示室・収蔵庫の保存 環境
- 第 5 回 項目 修復 内容 伝統的修復技術と保存科学
- 第 6 回 項目 活用 I 内容 展示の意義と種類
- 第 7 回 項目 活用 II 内容 展示以外の活用
- 第 8 回 項目 調査・研究 内容 博物館における調査研究活動の意義
- 第 9 回 項目 博物館と情報 内容 情報機器・情報環境
- 第 10 回 項目 考古資料 内容 考古資料の特質と取り扱い
- 第 11 回 項目 民俗資料 内容 民俗資料の特質と取り扱い
- 第 12 回 項目 文書 内容 文書資料の特質と取り扱い
- 第 13 回 項目 文化財保護のしくみ I 内容 文化財の種類 文化財保護制度
- 第 14 回 項目 文化財保護のしくみ II 内容 博物館と文化財
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 期末試験および授業態度(出席など)で評価する。

教科書・参考書 教科書：使用しない。毎週、資料を配付する。 / 参考書：授業中に紹介する。

連絡先・オフィスアワー watanabe@baiko.ac.jp

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 図書館概論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 加藤 宏文 | | | | |

授業の概要 新しい「学習指導要領」が示され、「生きる力」としての真の「学力」が、改めて問い直されようとしている。中で、その中核には、「総合的な時間」の設定に代表される「問題解決的学習」への指向が、顕著である。たとえば、環境問題・国際理解・福祉などを、学習者の主体的な活動を通して達成することが求められている。これらは、図書館、とりわけ学校図書館が他館とのネットワークのもと、「司書」の専門性を保証することを抜きには、考えられない。「学校図書館」に「司書」の孕み持つ問題を考え合っていく。 / 検索キーワード 学校図書館・司書

授業の一般目標 「情報化社会」における光と影とを総合的に認識することを前提にして、「教育改革」の混迷の中で、学校経営や教育課程の改変が、学校図書館の本質に、どのような影響を与えようとしているのかを、まず理解する。その上で、「図書館の自由に関する宣言」、「学校図書館法」、「倫理綱領」等を踏まえて、「司書」の捉える具体的な問題点を整理し、学習者が主体的に展望を持つことを求める。

授業の計画(全体) 1「情報化社会」の意義について、考慮する。 2. 学校図書館司書教諭の諸問題について、考察する。 3「図書館の自由に関する宣言」の精神を認識する。 4「情報化社会」におけるプライバシーについて、認識する。 5. 多文化社会の中での「図書館」の意義役割について認識する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「情報化社会」の光と影とを見据える。
- 第 2 回 項目 「教育改革」の中の学校経営を考える。
- 第 3 回 項目 「司書」を通して学校経営を考える。
- 第 4 回 項目 教育過程の変遷と学校図書館との関係を考える。
- 第 5 回 項目 「図書館の自由 < BR > に関する宣言」 < BR > は、「学校図書 < BR > 館法」に何を求め < BR > ているのか。
- 第 6 回 項目 「学校図書館」経営の原点は、どこにあるのか。
- 第 7 回 項目 「学校図書館」経営の実際を考える。
- 第 8 回 項目 「学校図書館」にとって、ネット・ワークとは何か。
- 第 9 回 項目 情報公開とプライバシーとは、どう関わるのか。
- 第 10 回 項目 学校文化の創造拠点として、「学校図書館」は、何をなすべきか。
- 第 11 回 項目 国際化社会に生きる「学校図書館」とは何か。
- 第 12 回 項目 学校で、どのような「司書」になるのか。
- 第 13 回 項目 演習(1)
- 第 14 回 項目 演習(2)
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 教科書：特に使用しない。 / 参考書：講義の中で、随時紹介していく。

メッセージ 随時「理解」と展望との成果を「表現」することを求めつゝ「評価」を重ね、後半3次に亘り、論述を求める。 遅刻者の入室は許可しない。

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 図書館資料論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 加藤 宏文 | | | | |

授業の概要 情報化・国際化社会の「進歩」につれて、私たちは、分量と種類と速さにおいて、未曾有の「情報」(資料)にとり囲まれている。これらを収集・提供する側に立って、図書館には、どのような変革が求められているのか。その組織化を前提として、収集および提供には、どのような問題が生じつつあるのか。「IT革命」の実際を吟味する中で、人と人との関係から考察をする。 / 検索キーワード 資料・コレクション

授業の一般目標 資料(情報)の歴史的なあり方を大観した上で、収集の実際に即してその構築の仕方、評価のあり方を理解する。その上で、提供とのかかわりにおいて、「図書館の自由」は現在、どのような現実に直面しているかをも吟味し、出版・流通界の激変にも対応できる理念と方法とを獲得する。

授業の計画(全体) 1. 図書館にとって「資料」とは何であるのかを認識する。 2 「資料」の類型とその収集の方法について、認識する。 3 「資料」の収集・提供の自由について、認識する。 4 . 特に学校図書館にとっての「資料」の収集提供について考察する。 5 . 出版・流通界の変革の中での「資料」について考察する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館には、どんな仕事があるのか。
- 第 2 回 項目 情報は、どのように記録されてきたのか。
- 第 3 回 項目 資料には、どのような類型があるのか。
- 第 4 回 項目 資料の類型には、どのような特質があるのか。
- 第 5 回 項目 資料には、どのような収集法があるのか。
- 第 6 回 項目 コレクションは、どのように構築されるのか。
- 第 7 回 項目 コレクションには、どのような問題が生起するのか。
- 第 8 回 項目 コレクションは、どのように評価されつづけるのか。
- 第 9 回 項目 収集・提供に、「自由」はどのように関わるのか < BR > か。
- 第 10 回 項目 収集・提供の「自由」は、どのような事例を > 生んできたのか。
- 第 11 回 項目 出版・流通界の変革は、収集・提供にどのような影響を与えているのか。
- 第 12 回 項目 学校図書館は、どのように収集・提供をしているのか。
- 第 13 回 項目 学校図書館は、どのような収集・提供を求め > ているのか。
- 第 14 回 項目 情報化・国際化は、収集と・提供との間に何をもたらしているのか。
- 第 15 回 項目 図書館で、何を使命として務めるのか。

教科書・参考書 教科書：特に使用しない。 / 参考書：講義の中で、随時紹介していく。

メッセージ 随時「理解」と展望との成果を「表現」することを求めつゝ「評価」を重ね、後半、数次に亘り、論述を求める。 遅刻者の入室は、許可しない。

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 生涯学習概論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 北川健 | | | | |

授業の概要 生涯学習体系の論理と意義、その導入、体系化の経緯、進展の現状などを概説する。また生涯学習の公的支援を前提に、それに必要な知識・方法を伝える。あわせて社会教育の基本を教える。/
検索キーワード 生涯学習支援

授業の一般目標 (1)生涯学習の論理と意義を理解する。(2)生涯学習の体系と展開を知る。(3)生涯学習展開の日本的特質をわきまえる。(4)生涯学習支援に必要な基本的知識を備える。(5)社会教育の基本を知り、これに即した判断を培う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生涯学習の基本的な事項について説明できる。思考・判断の観点：生涯学習の理念や体系に即した思考と判断ができる。関心・意欲の観点：生涯学習の支援にみずから取り組むことが出来る。態度の観点：生涯学習の意義を理解し、学習支援の意思と態度を持つ。技能・表現の観点：生涯学習支援の基本に即して能力を発揮できる

授業の計画(全体) 配付資料をテキスト代わりとする。時に実際的な理解のため、OHP 投影写真も用いる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生涯学習論の登場と受容
- 第 2 回 項目 生涯学習の政策的推進
- 第 3 回 項目 生涯学習振興法の特質
- 第 4 回 項目 生涯学習体系の地域的編成
- 第 5 回 項目 大学での生涯学習対応
- 第 6 回 項目 職能上の再教育制度
- 第 7 回 項目 学習機会提供の拡大
- 第 8 回 項目 日本型生涯学習の特質
- 第 9 回 項目 生涯各期の学習傾向と課題
- 第 10 回 項目 学習支援の基本と方法
- 第 11 回 項目 参加体験学習と学習ボランティア
- 第 12 回 項目 社会教育と社会教育法 1
- 第 13 回 項目 社会教育と社会教育法 2
- 第 14 回 項目 生涯学習批判論からの指摘
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 1 毎回小テストを行い、出席を確認するとともに、理解度を把握する。2 期末試験の成績を基本に、1 を参考にして総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：別途指示

メッセージ 「宿題・授業外レポート」は成績評価(全体 100 パーセント)のうち 5 パーセントとして評価する。「授業の態度・授業への参加度」は斟酌条件とする。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 博物館学各論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 北川健 | | | | |

授業の概要 博物館「経営論」の立場から、(1) 教育普及活動、(2) 組織・職員、(3) マネジメント論、(4) 行財政制度、(5) 情報論 … について展述する。それぞれ問題対応・問題克服への先端事例を提示することで、変革期にある博物館をめぐる原理と動向を照出したい。/ 検索キーワード 博物館学 学芸員

授業の一般目標 (1) 博物館「経営論」「情報論」登場の意義を理解する。(2) 博物館の「生涯学習化」の進展について理解する。(3) 博物館の経営形態とその運営のあり方を知る。(4) 外国博物館の社会的基盤についても知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：博物館の経営や情報の基本的事項について知っている。思考・判断の観点：博物館について経営論や情報論と関連づけて考えることができる。関心・意欲の観点：博物館関係の情報や文献に関心を持ち、博物館への問題意識を持つ。態度の観点：展覧会を観覧したり、博物館でのボランティアも体験したりしている。技能・表現の観点：センスある短文やイラスト表現を伴った広報案などが企画できる。

授業の計画(全体) 配付資料をテキスト代わりにして、実際的な認識を図るため、OHP による投影写真を多用する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 科目「博物館経営論」の登場
- 第 2 回 項目 博物館での教育部門の前面化
- 第 3 回 項目 博物館の事業化と学芸員編成
- 第 4 回 項目 市場性導入のマネジメント論
- 第 5 回 項目 企業体博物館に見る経営戦略
- 第 6 回 項目 テーマパークに見る経営戦略
- 第 7 回 項目 アメリカ階層社会と博物館経営
- 第 8 回 項目 行政機構下の公立博物館運営
- 第 9 回 項目 公立館の事業化と行財政制度
- 第 10 回 項目 行政機構と公立財団館の矛盾
- 第 11 回 項目 独立行政法人館と市場化テスト
- 第 12 回 項目 新しい民営化と指定管理者制度
- 第 13 回 項目 博物館の情報と情報化(1)
- 第 14 回 項目 博物館の情報と情報化(2)
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 1 毎回「ワークシート」と称する小テストを行い、出席確認をするとともに理解度を把握する 2 中間時点で課題を出し、作成物の提出を求める場合もありうる。3 期末テストを行い、その成績と 1, 2 を参考にして総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：使用しない / 参考書：別途紹介

メッセージ 授業の参加度については斟酌条件とする。

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 情報機器論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 村田 孝子 | | | | |

授業の概要 本授業では、文系にふさわしいコンピュータの基礎知識を得るとともに、それをどのように活用していったら良いかということ学ぶ。 / 検索キーワード コンピュータの構造、ハードウェア、ソフトウェア、データ表現、文字処理、オペレーティング・システム

授業の一般目標 (1) コンピュータを扱う上で最低限知っておかなくてはならない情報処理概論(文系向きに) (2) 図書館や博物館の中で、どのように役立てていくかを主体的に考えることができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 半年を通じて行わなければならない手順などの手順説明 重要!! 授業外指示 このガイダンス時に出席のなかった者は履修を認めません。
- 第 2 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 ハードウェアについて
- 第 3 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 ハードウェアについて
- 第 4 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 情報の表現方法
- 第 5 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 情報の表現方法
- 第 6 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 文字の表現
- 第 7 回 項目 テスト実施
- 第 8 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 オペレーティング・システム
- 第 9 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 オペレーティング・システム
- 第 10 回 項目 ネットワークの仕組み 内容 インターネットの仕組み
- 第 11 回 項目 ネットワークの仕組み 内容 インターネットの仕組み
- 第 12 回 項目 テストの実施
- 第 13 回 項目 情報メディアについて 内容 図書館・博物館での情報機器の活用
- 第 14 回 項目 情報メディアについて 内容 視聴覚メディアの活用
- 第 15 回 項目 総合テストの実施

教科書・参考書 教科書：Webですべて提供 / 参考書：その都度紹介

メッセージ 情報処理に関する基礎知識という内容ですが、コンピュータの操作に関する内容ではありません。

連絡先・オフィスアワー 授業支援システムの中の「質問」を使用して下さい。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 生涯学習施設経営論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 大森 善一 | | | | |

授業の概要 生涯学習の振興、図書館サービスの充実を図る視点から図書館経営に係る組織、管理運営、予算、事業計画等企画立案ができるよう専門的な知識習得について解説する。

授業の一般目標 図書館司書としての自覚と教養を高め、卒業後、図書館界において活躍できる人材を養成したい。

授業の計画(全体) 図書館政策をまず行政面から解説し、図書館経営にかかわった実務経験に基き人事、組織、予算、事業計画等について解説する。また、図書館の経営とは教育機関としての特性に基づくサービスを果たすための諸条件とは何か。その諸条件の整備から生まれる効果が、どのような効率を地域社会にもたらすかを明らかにしようとする試みが大切である。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館の現状と課題 内容 公共図書館の各年度別の活動実績とこれからの活動方針
- 第 2 回 項目 図書館経営の視点 内容 図書館経営とは何か図書館が教育機関としての専門性
- 第 3 回 項目 図書館と地方自治体 内容 行政組織の中における図書館
- 第 4 回 項目 地方自治体法規と図書館 内容 法令・条例・規則
- 第 5 回 項目 予算の編成と執行 内容 図書館予算の編成方法とその適正な予算執行
- 第 6 回 項目 図書館施設・設備の充実と物品管理 内容 施設の維持、物品の管理図書館資料の除籍
- 第 7 回 項目 図書館資料の収集整理、保存、提供 内容 選書、発注、受入、分類、目録、配架までの手順
- 第 8 回 項目 図書館資料の収集整理、保存、提供 内容 選書、発注、受入、分類、目録、配架までの手順
- 第 9 回 項目 図書館経営における館長の職責 内容 館長の役割と経営方針職員体制の確立
- 第 10 回 項目 職員の研修 内容 専門職としての位置づけ図書館職員の職責 < BR > 図書館ボランティアとのかかわり
- 第 11 回 項目 図書館サービスの評価と計画 内容 図書館サービスの現状分析図書館サービスの計画と実行
- 第 12 回 項目 図書館サービス計画の実行と評価 内容 計画実現のための条件づくり自己学習
- 第 13 回 項目 教育機関施設 内容 図書館、美術館、博物館、民族資料館等行政と地方議会とのかかわり
- 第 14 回 項目 図書館とコンピューター 内容 図書館除法ネットワークの構築
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 期末試験及び出席日数によって評価する。出席が所定の日数に満たない者は不合格とする。

教科書・参考書 教科書：図書館経営論, 竹内紀吉, 東京書籍

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 図書館サービス論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 大森 善一 | | | | |

授業の概要 利用者と直接関わる図書館サービスの意義、その役割と活動状況の認識、資料の選択・収集・整理・提供のシステム等、図書館サービスの充実を図るため、その専門的な知識の習得について解説する。

授業の一般目標 図書館司書としての自覚と教養を高め、卒業後、図書館界において活躍できる人材を養成したい。

授業の計画（全体） 利用者と図書館の接点から解説し、図書館サービスの意義、利用者対象別等、具体的に説明し、図書館の最大の使命である図書館サービスの重要性について解説する。また、図書館に対する社会の要請も時代によって変化し、新しいサービスが生まれる。これら地域社会のニーズによって図書館サービスを充実させることが大切である。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館の現状と課題 内容 公共図書館の各年度別の活動実績とこれからの活動方針
- 第 2 回 項目 図書館サービスの意義 内容 図書館の社会的な機能 図書館サービスの内容と種類
- 第 3 回 項目 図書館サービスと図書館資料 内容 図書館資料の種類 各種資料の特徴とサービス
- 第 4 回 項目 図書館資料の提供準備 内容 資料の選択、収集、整理、保存、提供のシステム
- 第 5 回 項目 図書館資料の提供準備 内容 資料の選択、収集、整理、保存、提供のシステム
- 第 6 回 項目 図書館資料の提供 内容 資料提供の意義 読書案内、予約、リクエスト、レファレンスサービスの重要性
- 第 7 回 項目 貸出と閲覧 内容 貸出の意義 閲覧とは何か 利用環境の整備
- 第 8 回 項目 複写サービスと著作権法 内容 複写サービスの意義 著作権法第 31 条にかかわる問題点
- 第 9 回 項目 利用者対象別と図書館サービス 内容 図書館と生涯学習とのかわり 児童、一般人、高齢者、障害者へのサービス
- 第 10 回 項目 図書館サービスと著作権 内容 貸出と著作権の問題 視聴覚資料と著作権の問題
- 第 11 回 項目 教育、文化活動 内容 広報活動、集会事業
- 第 12 回 項目 図書館の相互協力 内容 図書館間の協力のあり方とその必要性
- 第 13 回 項目 図書館サービスの課題 内容 サービス変化の要因 生涯学習に適応したサービス
- 第 14 回 項目 図書館サービスと職員（司書）の意欲 内容 司書としてのプライド
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 期末試験及び出席日数によって評価する。出席が所定の日数に満たない者は不合格とする。

教科書・参考書 教科書：図書館サービス論, 前園主計編著, 東京書籍

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 情報サービス概説 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 大森 善一 | | | | |

授業の概要 図書館業務推進の中で資料提供、情報サービスは重要な領域として値する。特に図書館における情報サービスの意義、方法、情報源について学習する。またレファレンスサービス、情報検索サービス等について総合的に解説する。

授業の一般目標 図書館司書として自覚と教養を高め、卒業後、図書館界において活躍できる人材を養成したい。

授業の計画(全体) 図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス等についても総合的に解説する。また参考図書を選択収集、検索の知識と資料提供の実際を解説する。レファレンスサービスとは何かを明にし、その業務内容、情報源の種類もあわせて解説する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館の現状と課題 内容 公共図書館の各年度別の活動実績とこれからの活動方針
- 第 2 回 項目 情報サービスの意義 内容 情報サービスの内容とその必要性
- 第 3 回 項目 情報サービスと図書館 内容 情報サービスと図書館とのかかわり
- 第 4 回 項目 情報サービスと図書館 内容 情報の利用 情報ニーズの種類 書誌サービス
- 第 5 回 項目 図書館におけるレファレンスサービス 内容 直接サービスと間接サービス レファレンスサービスの業務内容
- 第 6 回 項目 情報源とレファレンス・コレクション 内容 情報源とその書類 館内・外の情報源レファレンスブックの選択収集
- 第 7 回 項目 レファレンス質問とレファレンスプロセス 内容 レファレンス質問の意義 質問者と応答者のかかわり方 回答状の制約
- 第 8 回 項目 質問の受付と内容の確認 内容 質問受付票への記録 口頭、電話、文書
- 第 9 回 項目 探索方略と質問の分析 内容 探索方略の意義と検討及び方式
- 第 10 回 項目 探索の手順と情報源の入手 内容 探索の一般的な手順 未解決の問題
- 第 11 回 項目 回答の提供と事後処理 内容 回答の適切さ 回答サービス後の事務処理
- 第 12 回 項目 レファレンス質問とその解決資料 内容 レファレンスブックからの情報源の検索 総記、哲学、宗教、歴史、社会科学、自然科学
- 第 13 回 項目 レファレンス質問とその解決資料 内容 工学、技術、産業、芸術、スポーツ、語学、文学
- 第 14 回 項目 図書館間の情報サービス相互利用の活用 内容 図書館間の情報入手により質問者への回答サービスを模索する。
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 期末試験及び出席回数によって評価する。出席が所定の日数に満たない者は不合格とする。

教科書・参考書 教科書：問題解決のためのレファレンスサービス, 長沢雅男, 日本図書館協会

| | | | | | |
|------|--------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | レファレンスサービス演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 松本 敬吉 | | | | |

授業の概要 レファレンスサービスは、図書館利用者の情報要求に応じ、適切な情報ないし情報源を提供、あるいはそれらの入手方法について指導・援助するサービスです。本講では、主要な参考図書やデータベースの実際を解説します。また、附属図書館所蔵のそれらを利用し、参考質問の回答演習を行います。有用なホームページ・データベースの実際も学習し、参考書誌の作成演習も行います。/ 検索キーワード 情報リテラシー、参考業務、参考図書、情報検索、インターネット検索

授業の一般目標 1. 各種レファレンス・ツール(電子情報を含む)を知り、その活用方法を理解する。 2. 参考質問(例題)に回答し、レファレンスツールの理解を深める。 3. 参考書誌を作成する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館のレファレンスサービスについて
- 第 2 回 項目 主要参考図書の解説
- 第 3 回 項目 主要図書館のホームページの実際
- 第 4 回 項目 主要データベースの実際
- 第 5 回 項目 インターネット検索の実際
- 第 6 回 項目 課題演習(レポート作成)
- 第 7 回 項目 課題演習(レポート作成)
- 第 8 回 項目 課題演習(レポート作成)
- 第 9 回 項目 課題演習(レポート作成)
- 第 10 回 項目 課題演習(レポート作成)
- 第 11 回 項目 参考業務の実際
- 第 12 回 項目 課題演習回答の評価
- 第 13 回 項目 課題演習回答の評価
- 第 14 回 項目 レファレンス三題漸
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 成績評価方法 - 定期試験、宿題/授業外レポート

教科書・参考書 教科書: 新版情報源としてのレファレンスブックス, 長澤雅男、石黒祐子共著, 日本図書館協会 / 参考書: 大学生と図書館(第3版), 日本図書館研究会編, 日本図書館研究会; 文科系学生のインターネット検索術, 大串夏身著, 青弓社; 情報と文献の検索 第3版, 長澤雅男, 丸善

メッセージ あなたが興味をもつ主題について、あるいはその主題の周辺について、先人が調査研究を行い、情報を発信しています。それらを把握した上で更に発展させるために情報リテラシーを高めてください。研究の重複をできるだけ避けたいものです。司書資格を取得しても、図書館員になれるチャンスはあまりありません。大学生活は限られています。自分の専門分野を深めるための時間を十分にとられることを希望します。ただ、情報化社会、特に大学においては「情報」に関する知識は必須です。卒業後の人生において、情報リテラシーを身につけておくことは無駄にならないと考えます。

連絡先・オフィスアワー e-mail kmatu@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp TEL 083-972-6952

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 情報検索演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 村田 孝子 | | | | |

授業の概要 コンピュータやネットワーク技術、情報記録媒体の発展は、図書館活動に多大な影響を与えています。また、従来の検索方式に加えて CD-ROM による検索、通信回線利用のオンライン検索、インターネット利用による情報検索と多様化してきています。このような現状の中で、多くの情報からの確かな情報を探し出すテクニックである「情報検索」が最近とみに重要視されてきました。この授業では、「情報を検索する」意味やその手段を学んでいきます。そして、図書館業務の中での「情報検索の役割」がどのような位置にあるのかを学んでいきたいと思っています。/ 検索キーワード 知的活動、情報検索、検索技術、コンピュータ、ネットワーク

授業の一般目標 情報検索では、キーワードの設定が非常に重要です。そのキーワードについての基礎知識と効率的な使い方を学ぶことを目標としています。また、調べるコツのようなものを習得する。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 この授業のガイ < BR > ダンス（授業の < BR > 方針、授業支援 < BR > システムの使い < BR > 方）授業外指示 受講登録を行う < BR > ので、第 1 週目 < BR > に欠席の者は履 < BR > 修できません。
- 第 2 回 項目 情報検索の必要性
- 第 3 回 項目 インターネットでの情報検索
- 第 4 回 項目 情報の分類と種類
- 第 5 回 項目 データベースの基礎知識
- 第 6 回 項目 テスト（第 2 週から第 5 週までの内容）
- 第 7 回 項目 キーワードの概念
- 第 8 回 項目 キーワードの概念
- 第 9 回 項目 検索に要する技術
- 第 10 回 項目 検索に要する技術
- 第 11 回 項目 テスト（第 7 週から第 10 週までの内容）
- 第 12 回 項目 検索結果のまとめ方
- 第 13 回 項目 図書や雑誌の探し方
- 第 14 回 項目 図書や雑誌の探し方
- 第 15 回 項目 総合テスト

成績評価方法（総合） テスト：70% その他レポート等：20% 出席：10%

教科書・参考書 教科書：Web 上で提供 / 参考書：授業内で指示

メッセージ この授業は、単元の区切りごとにテストを行います。情報処理に関する基礎知識を必須としていますので、必ず操作に関する基礎知識をマスターしておいてください。出席管理、小テスト、レポート提出管理等は全てコンピュータで行います。質問や連絡したいことがあったら、授業内で利用する授業支援システムを使用して下さい。

連絡先・オフィスアワー 授業支援システムの「質問」コーナーを使ってください。

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 専門資料論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教官 | 畠中 弘 | | | | |

授業の概要 今日のような変化の激しい社会では、適切で有効な情報を検索する能力は不可欠である。情報資源によって「情報にアクセスし、検索する方法」を知ることが重要になっている。図書館で提供できる情報は、記録された資料に基づく情報である。/ 検索キーワード 情報リテラシーをもつ人のための文献情報活用法

授業の一般目標 図書館で扱う情報資源(資料)やツールが多様化し、それを「使いこなす」ためのスキルや知識も多様化している。必要な情報を必要な形で正確・適切・迅速に提供することにある。学習や問題解決に活用し得るような情報資源をベースにした学習プロセスが、効率的に展開できることを期待したい。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生涯学習と情報リテラシー、そして図書館
- 第 2 回 項目 図書・学術雑誌の定義
- 第 3 回 項目 専門資料の意義、生産、種類、性格
- 第 4 回 項目 人文科学の概念と特性
- 第 5 回 項目 社会科学の概念と特性
- 第 6 回 項目 自然科学の概念と特性
- 第 7 回 項目 工学・技術の概念と特性
- 第 8 回 項目 人文科学情報の種類と特性
- 第 9 回 項目 社会科学情報の種類と特性
- 第 10 回 項目 自然科学情報の種類と特性
- 第 11 回 項目 工学・技術情報の種類と特性
- 第 12 回 項目 人文科学の主要な一次資料と二次資料
- 第 13 回 項目 社会科学の主要な一次資料と二次資料
- 第 14 回 項目 自然科学、工学・技術の主要な一次資料と二次資料
- 第 15 回 項目 専門資料とメディアの多様化

成績評価方法(総合) 成績評価方法 - 宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度、出席

教科書・参考書 教科書：『専門資料論』改訂版(新・図書館学シリーズ; 8) 戸田光昭ほか、樹村 房、2002年10月、1900円 / 参考書：『専門資料論』(新現代図書館学講座; 9), 中森強編著, 東京書籍, 1998年; 『専門資料論』(JLA図書館情報学テキストシリーズ; 8), 三浦逸雄 / 野末俊比古編著, 日本図書館協会, 2005年; 『年刊参考図書解説目録(1990-2006)』, 日外アソシエーツ編集部編, 日外アソシエーツ(紀伊國屋書店)

メッセージ (1) 遅刻・欠席をしないように健康管理に充分留意すること。(2) 出席カードを配付して、出席状況を把握する。(3) 授業内容が広範囲にわたるので、授業中の説明・解説を理解し易くするため予習・復習を実行すること。

備考 集中授業

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 資料組織概説 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 加藤 宏文 | | | | |

授業の概要 情報化・国際化社会の「進歩」につれて、私たちは分量と種類と速さにおいて、未曾有の「情報」にとりまかされている。この混迷の中で、地域や民族の独自性を尊重しつつ、かつグローバルな価値を追求するためには、「情報」にどう対処するか、その具体的なスタンスや方法が、厳しく問われている。図書館における収集と提供の「自由」を活かすための資料の「組織」法の具体を考え合う。 / 検索キーワード 資料・組織

授業の一般目標 資料が「組織」されなければならない理由を理解した上で、その制御の具体的なあり方に触れ、標準化のもたらす長短を考察する。さらに、具体的に各人の主題意識を確認した上で、「組織」の実態に迫りつつ、検索・分類・キーワード・件名などの関係を吟味し、その改善方法を獲得し合う。

授業の計画(全体) 1. 情報化・国際化の中で「資料」とは何なのかを認識する。 2. 「資料」を「組織」することの意義を認識する。 3. 「書誌」による標準化がもたらす限界を認識する。 4. 「主題」によるアクセスへの対応の実際について実践する。 5. 自らの学習・研究生活の中で、「資料」「組織」の方法を改革する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 情報化・国際化社会において、「資料」とは何か。
- 第 2 回 項目 「資料」は、なぜ「組織」されるようになったのか。
- 第 3 回 項目 情報化技術は、「組織」化に何をもたらしたのか。
- 第 4 回 項目 「書誌」を制御する。
- 第 5 回 項目 「制御」の国際標準化は、何をもたらしたのか。
- 第 6 回 項目 「目録」は、どのように改善されてきたのか。
- 第 7 回 項目 情報化・国際化社会の中で、主題意識を確かにする。
- 第 8 回 項目 主題で情報を制御できるのか。
- 第 9 回 項目 情報を分類する。
- 第 10 回 項目 「分類」には、どんな工夫があるのか。
- 第 11 回 項目 主題検索・分類目録・キーワード・件名目録の関係を、吟味する。
- 第 12 回 項目 「シソーラス」は、専門分野をどう整理するのか。
- 第 13 回 項目 「非統制語」観は、どんな問題を提起するのか。
- 第 14 回 項目 データベースをネットワークに生かす。
- 第 15 回 項目 「資料」を「組織」したら、何が可能になるのか。

メッセージ 随時、「理解」と展望との成果を「表現」することを求めつつ、「評価」を重ね、後半数時に亘って、「組織」の実際を工夫することを求める。遅刻者の入室は許可しない。

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|-------------|
| 開設科目 | 資料組織演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 4 単位 | 開設期 | 通年 (前期, 後期) |
| 担当教官 | 松本敬吉 | | | | |

授業の概要 前期に資料目録法演習を、後期に資料分類法演習を行います。資料目録演習法では主として「日本目録規則」に基づいて、各種の図書館資料についてそれぞれの記述・標目・配列を演習します。「書架配架法」や「主題牽引法」(件名目録法、シソーラス)についても解説します。資料分類法演習では「日本十進分類法」に基づいて、分類体系・補助表・分類規程を理解し、分類記号付与作業を演習します。「書架配架法」や「主題牽引法」(件名目録法、シソーラス)についても解説します。/検索キーワード 資料目録法、資料分類法、件名目録法、シソーラス

授業の一般目標 1. 日本目録規則(記述・標目・配列)を理解・修得する。 2. 日本十進分類法を理解し修得する。 3. 主題検索法を理解する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本目録規則
- 第 2 回 項目 記述に関する総則
- 第 3 回 項目 タイトルと責任表示の記述
- 第 4 回 項目 版、資料の特性、出版・頒布、形態等の記述
- 第 5 回 項目 シリーズ、注記、標準番号等の記述
- 第 6 回 項目 標目総則およびタイトル標目
- 第 7 回 項目 著者標目、件名標目、分類標目
- 第 8 回 項目 和書の目録作成演習
- 第 9 回 項目 和書の目録作成演習
- 第 10 回 項目 和書の目録作成演習
- 第 11 回 項目 洋書の目録作成演習
- 第 12 回 項目 逐次刊行物の目録作成演習
- 第 13 回 項目 目録の機械化
- 第 14 回 項目 排列
- 第 15 回 項目 定期試験
- 第 16 回 項目 NDC の構成
- 第 17 回 項目 形式区分
- 第 18 回 項目 地理区分、海洋区分
- 第 19 回 項目 言語区分、言語共通区分、文学共通区分
- 第 20 回 項目 一般分類規定
- 第 21 回 項目 特殊分類規定(人文科学)
- 第 22 回 項目 特殊分類規定(人文科学)
- 第 23 回 項目 特殊分類規定(社会科学)
- 第 24 回 項目 特殊分類規定(社会科学)
- 第 25 回 項目 特殊分類規定(自然科学)
- 第 26 回 項目 特殊分類規定(自然科学、総記)
- 第 27 回 項目 図書館記号法・別置法
- 第 28 回 項目 件名目録法
- 第 29 回 項目 シソーラス
- 第 30 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 定期試験、宿題/授業外レポート

教科書・参考書 教科書: 資料組織演習(新訂版), 吉田憲一著, 日本図書館協会; 日本目録規則(1987年 版改訂2版), 日本図書館協会分類委員会編, 日本図書館協会; 日本十進分類法(新訂9版), 日本図書館

協会分類委員会編, 日本図書館協会 ; 基本件名標目表 (第 4 版), 日本図書館協会件名標目委員会編, 日本図書館協会 ; 「日本目録規則」「日本十進分類法」「基本件名標目表」は図書館の「三種の神器」です。特に「日本十進分類法」講義時に使用しますので必ず入手してください。 / 参考書 : 資料組織法 (第 5 版), 志保田務、高鷲忠美共著, 第一法規 ; 和書目録法入門 (図書館員選書:8), 柴田正美編, 日本図書館協会 ; 英米目録規則 (第 2 版・日本語版), , 日本図書館協会

メッセージ 司書資格を取得しても、図書館員になれるチャンスはあまりありません。大学生活は限られています。自分の専門分野を深めるための時間を十分にとらえることを希望します。ただ、情報社会、特に大学において「情報」に関する知識は必須です。人生において、情報リテラシーを身につけておくことは無駄にならないと考えます。

連絡先・オフィスアワー e-mail kmatu@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp TEL 083-972-6952

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 図書及び図書館史 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 佐々木 鶴代 | | | | |

授業の概要 日本で近代図書館が発生した近代から今日までの図書館の歴史を中心に解説する。必要に応じて西洋の図書館の歴史を適宜入れていく。近代から現代までたどった後に、古代・中世・近世と近代図書館以前の主な文庫の歴史を解説する。図書の歴史についても解説する。 / 検索キーワード 図書館史

授業の一般目標 (1) 日本における近代図書館の歴史を理解する。(2) 歴史をたどることから図書館の理念を探り、現代の図書館がどうあるべきか考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本の公共図書館の歴史について総合的に説明できる。思考・判断の観点：日本の公共図書館の歴史から図書館の理念を探り、現代の図書館がどうあるべきか考察できる。関心・意欲の観点：図書館の歴史に関心を広げる。態度の観点：図書館の歴史について主体的に考える。

授業の計画(全体) 授業15回の中、10回迄を日本の近代から現代までの公共図書館史にあて、試験を入れた後に、古代から近世までの文庫の歴史と図書の歴史にあてる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション、教科書販売(書店が教室で販売) 内容 授業の日課と進め方 授業に臨む態度 成績評価の方法
- 第 2 回 項目 1 . 近代図書館の発生 内容 1 - 1 . 官立図書館 田中不二麻呂 1 - 2 . 自由民権運動と図書館
- 第 3 回 項目 1 . 近代図書館の発生 内容 1 - 3 . 教育会の図書館 1 - 4 . 佐野友三郎、伊藤新一
- 第 4 回 項目 2 . 明治・大正時代の社会状況と図書館 内容 2 - 1 . 地方改良運動と図書館、図書館令、小松原訓令
- 第 5 回 項目 2 . 明治・大正時代の社会状況と図書館 内容 2 - 2 . 大正デモクラシーと図書館
- 第 6 回 項目 3 . 昭和20年までの社会状況と図書館 内容 3 - 1 . 図書館令の改正、中央図書館制度
- 第 7 回 項目 3 . 昭和20年までの社会状況と図書館 内容 3 - 2 . 戦時下の図書館
- 第 8 回 項目 4 . 昭和20年以降の図書館の発展過程 内容 4 - 1 . 占領軍の教育政策と図書館 4 - 2 . 図書館法制定、国立国会図書館
- 第 9 回 項目 4 . 昭和20年以降の図書館の発展過程 内容 4 - 3 『中小都市における公共図書館の運営』から『市民の図書館』へ
- 第10回 項目 5 . 現代の図書館の課題 内容 5 - 1 . 生涯学習体系における図書館 5 - 2 . 高度情報化社会における図書館 5 - 3 . 自己判断、自己責任を支える図書館
- 第11回 項目 6 . 授業内試験 内容 1 . 近代図書館の発生から5 . 現代の図書館の課題までの範囲
- 第12回 項目 7 . 古代の文庫の歴史 内容 7 - 1 . 古代の図書の伝来 7 - 2 . 古代の文庫の歴史
- 第13回 項目 8 . 中世・近世の文庫の歴史 内容 8 - 1 . 印刷術の発達 8 - 2 . 中世・近世の文庫の歴史
- 第14回 項目 9 . 主要な世界の図書館 内容 9 - 1 . アレキサンドリアの図書館 9 - 2 . その他
- 第15回 項目 10 . まとめ 内容 10 - 1 . まとめ 10 - 2 . レポートの説明

成績評価方法(総合) ・ 毎回、A5用紙又はB6用紙に授業に関する事項について記述し、提出する。 ・ 授業時間内(予定としては第11回目)に記述式試験をする ・ レポートを提出する。以上を総合的に評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：『図書及び図書館史』(新現代図書館学講座13)、北嶋武彦編著、東京書籍、1998年 / 参考書：『図書及び図書館史』(JLA図書館情報学テキストシリーズ12)、小黒浩司編著、日本図書館協会、2000年；『図書館史 - 近代日本編』(新編図書館学教育資料集成7)、小川徹、山口源治郎編著、教育史料出版会、1998年

メッセージ 図書館の歴史を図書館思想の変遷に視点を当てて、なぜ図書館が必要とされてきたかを考えてみると、これからの図書館のあり方が見えてきます。固定観念にとらわれず視野を広く持って、図書館史をみて下さい。

| | | | | | |
|------|------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 資料特論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教官 | 北川 健 | | | | |

授業の概要 図書館など公的な資料保存施設での近世文献資料の取扱い業務を前提に、書誌学や古文書学の初歩を学ぶとともに、主として和本の読み方や軸物資料の扱い方の基本を教える。読み方は変体仮名を主体に『女(おんな)大学』を読み始められる程度までを目標とする。

授業の一般目標 1 近世文献資料の公的保存施設の役割を理解する。 2 近世文献資料にかかわる書誌学の初歩知識をもつ。 3 近世文献資料にかかわる古文書学の初歩知識をもつ。 4 近世文献資料の読み方について初歩的な練習をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 和本や古文書の基本的な事項について説明できる。 思考・判断の観点： 和本や古文書について基本的な扱い方があることをわかまえる。 関心・意欲の観点： 近世文献資料の内容を少しでも理解しようと初歩的にも取り組むことができる。 態度の観点： 近世文献資料の意義を理解し、これらを大切に扱おうとする態度をもつ。 技能・表現の観点： 変体仮名の基礎的な読み方ができる。

授業の計画(全体) 配付資料をテキスト代わりとする。時に実際的な理解のため、OHP 投影写真や VTR も用いる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 近世文献資料保存施設の法的根拠と機能
- 第 2 回 項目 近世文献資料取扱い業務の実際
- 第 3 回 項目 書誌学から見た和装本の体裁と様式(1)
- 第 4 回 項目 書誌学から見た和装本の体裁と様式(2)
- 第 5 回 項目 古文書学による古文書の見方の基本
- 第 6 回 項目 変体仮名の字源と読み方の基本(1)
- 第 7 回 項目 変体仮名による韻律文の読み方(1)
- 第 8 回 項目 変体仮名による韻律文の読み方(2)
- 第 9 回 項目 変体仮名による韻律文の読み方(3)
- 第 10 回 項目 御家流による草書体漢字の読み方
- 第 11 回 項目 近世の女性書簡(候文)の読み方(1)
- 第 12 回 項目 近世の女性書簡(候文)の読み方(2)
- 第 13 回 項目 貝原益軒『女大学』の一部を読む
- 第 14 回 項目 近世の歴史的用語と用字の読み方
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) (1) 毎回小テストを行い、出席を確認するとともに、理解度を把握する。(2) 期末試験の成績を基本に(1)を参考にして総合的に評価する。 評価割合備考： 期末試験は 100 ~ 95%、小テストは場合により 5%、出席は小テスト成績に含む。

教科書・参考書 参考書： 別途指示。

メッセージ 「小テスト・授業内レポート」及び「宿題・授業外レポート」の成績評価(全体 100パーセント)の割合として各 5パーセントとして考えます。 授業態度・授業への参加度は斟酌条件とします。